

宮崎市埋蔵文化財調査報告書 第83集

SIMOINOHARU

# 下猪ノ原遺跡第二地区

県営農地保全整備事業船引工区にかかる埋蔵文化財調査報告書

2011

宮崎市教育委員会



下猪ノ原遺跡第二地区 空中写真



1号土器埋設遺構出土状況

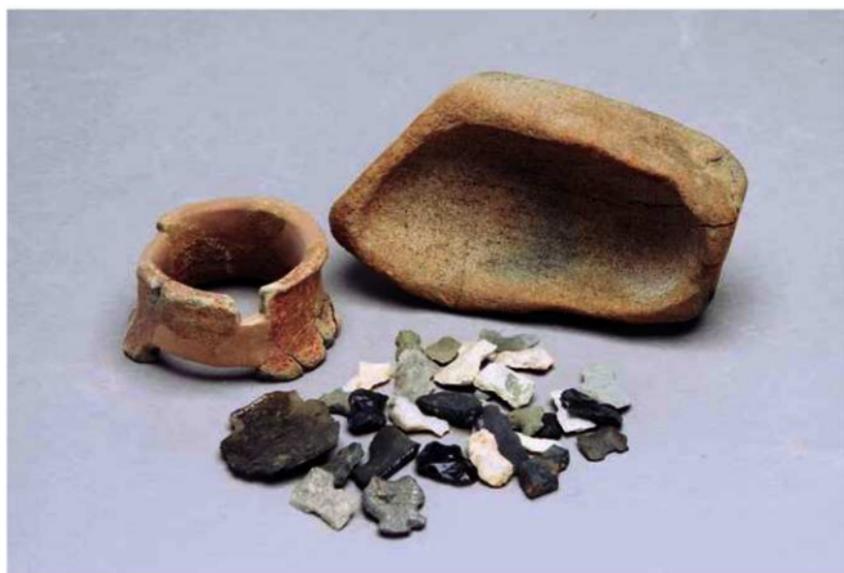


土器埋設遺構出土土器

巻頭カラー2



3号石器埋納遺構出土石器



石製品・異形石器・耳栓

巻頭カラー3



SC-29 土層断面

SC-29 完掘



SC-29 ブリッジ

# 序

本書は宮崎市清武町船引で県営農地保全整備事業に伴い平成15・16年度に発掘調査を行った下猪ノ原遺跡第二地区の発掘調査報告書です。

この発掘調査は、旧清武町教育委員会によって実施され、合併後は宮崎市教育委員会に引き継がれて、本発掘調査報告書の刊行となりました。

本遺跡からは縄文時代早期の埋められたと推測される完形の土器とともに異形石器なども数多く発見され、当時の精神文化を考える上で重要な資料を得ることができました。

本遺跡の調査成果が、全国的に注目される南九州の初期縄文文化の研究に役立つとともに学校教育又は生涯学習の資料として活用され、文化財を保護する意識向上に向かえば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査を実施するに当たり、多大なご協力をいただきました船引土地改良区をはじめとする地元の皆様ならびに関係各局に対し、心より厚く御礼申し上げます。

平成23年3月

宮崎市教育委員会

教育長 二見 俊一

## 例 言

1. 本書は県営農地保全整備事業（船引工区）に伴い、平成16年度に発掘調査の行われた下猪ノ原遺跡第二地区の発掘調査報告書である。
2. 現場における測量・実測作業は秋成雅博・草野美香及び実測補助員が行った。
3. 遺物の整理並びに報告書作成業務については秋成・佐伯美佐子・船石涼代・山下啓子及び整理事業員が平成22年度に宮崎市きよたけ歴史館内埋蔵文化財センターで行った。
4. 本書で使用した写真について現場における撮影は秋成が行い、空中写真については株式会社サーベイに委託した。また、遺物撮影については秋成が宮崎市きよたけ歴史館内埋蔵文化財センターで行った。
5. 本書で使用した出土炭化物の放射性炭素年代測定及び樹種同定分析については南古環境研究所に委託した。尚、掲載している放射性炭素年代測定については加速器質量分析法による補正<sup>14</sup>C年代である。
6. 石器実測図の作成については一部を民間会社（九州文化財研究所）に委託し、監修は秋成が行った。
7. 本書で使用した黒曜石製遺物の産地推定については明治大学文化財研究施設に分析を依頼した。
8. 本書で使用した土層及び土器の色調等は「新版 標準土色帖（1997年後期版）」の土色に準拠した。
9. 本書に使用した方位は磁北と座標北がある。座標北を用いる場合にはG.Nと表示する。またレベルは海拔絶対高である。
10. 本書で使用した記号は以下のとおりである。  
SA…竪穴住居 SB…掘立柱建物 SC…土坑・竅穴・陥し穴状遺構 SE…溝状遺構 SF…集石遺構  
SR…礫群  
※土器埋設遺構及び石器埋納遺構については調査時にSZの記号を使用していたが、本報告に当たってSZ-1を1号土器埋設遺構、SZ-2を2号土器埋設遺構、SZ-3を3号石器埋納遺構としている。  
なお、出土遺物の注記については調査時の記号をそのまま使用している。
11. 本書の作成にあたり、以下の方々から貴重なご指導とご助言を頂きました。記して感謝いたします。（敬称略）  
菅付和樹・松本茂・今塩屋毅行（宮崎県埋蔵文化財センター）、藤木聡（宮崎県西都原考古博物館）、  
栗畑光博・栗山葉子・山下大輔（都城市教育委員会）、岩永哲夫（宮崎考古学会長）
12. 本書の執筆・編集は秋成が行った。なお、縄文土器の所見については金丸武司・今村結記の協力を得た。
13. 出土遺物やその他の諸記録は宮崎市きよたけ歴史館内埋蔵文化財センターに保管している。

# 目 次

第1章 はじめに	1
第1節 調査の経過	1
1 調査に至る経緯	
2 調査組織	
第2節 遺跡の環境	2
1 立地と環境	
第3節 調査の概要と基本層序	5
1 調査方法	
2 調査日誌抄録	
3 基本層序	
第2章 旧石器時代の調査	8
第1節 遺構・遺物の分布状況	8
第2節 遺構について	11
1 礫群	
2 土坑	
第3節 遺物包含層出土石器について	11
1 第Ⅰ文化層の石器	
2 第Ⅱ文化層の石器	
第3章 縄文時代早期の調査	27
第1節 遺構・遺物の分布状況	27
第2節 遺構について	27
1 土器埋設遺構 (SZ-1・2)と石器埋納遺構 (SZ-3)	
2 集石遺構	
3 竪穴	
4 陥し穴状遺構	
5 土坑	
第3節 遺物包含層出土遺物について	51
1 縄文土器	
2 石器	
第4章 アカホヤ火山灰層上面の調査	142
第1節 弥生時代の遺構と遺物について	142
1 竪穴住居跡	
2 掘立柱建物跡	
第2節 古代以降の遺構について	142
第3節 3層出土遺物について	142

第5章 自然化学分析	147
------------	-----

Ⅰ. 放射性炭素年代測定 (株式会社 古環境研究所)	147
Ⅱ. 樹種同定 (株式会社 古環境研究所)	149
Ⅲ. 黒曜石製遺物の原産地推定 (明治大学文化財研究施設)	150

第6章 まとめ	154
---------	-----

## 調査抄録

## 挿 図 目 次

第1図 遺跡位置図 (S=1/25000)	3
第2図 遺跡周辺地形図 (S=1/2000)	4
第3図 基本土層図 (S=1/30)	6
第4図 調査区削平状況及び基本土層位置図 (S=1/400)	7
第5図 旧石器時代遺物包含層出土石器分布図 (S=1/400)	8
第6図 旧石器時代遺構及び遺物分布図 (S=1/400)	9
第7図 旧石器時代遺物包含層出土礫分布図 (S=1/400)	10
第8図 旧石器時代礫群実測図 (S=1/30)	12
第9図 SR-4及び旧石器時代遺物包含層出土石器実測図① (S=1/2・2/3)	13
第10図 旧石器時代遺物包含層出土石器実測図② (S=2/3)	14
第11図 旧石器時代遺物包含層出土石器実測図③ (S=2/3)	15
第12図 旧石器時代遺物包含層出土石器実測図④ (S=2/3)	16
第13図 旧石器時代遺物包含層出土石器実測図⑤ (S=2/3)	17
第14図 SC-32 (S=1/40) 及び旧石器時代遺物包含層出土石器実測図⑥ (S=2/3)	18
第15図 縄文時代早期遺構配置図 (S=1/400)	28
第16図 土器埋設遺構・石器埋納遺構・塞ノ神式土器・耳栓・土製品・異形石器・石製品分布図 (S=1/400)	29
第17図 1号土器埋設遺構出土状況実測図 (S=1/10)	30
第18図 1号土器埋設遺構出土土器実測図 (S=1/3)	30
第19図 2号土器埋設遺構出土状況実測図 (S=1/10)	31
第20図 2号土器埋設遺構出土土器実測図 (S=1/3)	31
第21図 3号石器埋納遺構出土状況実測図 (S=1/5)	31
第22図 3号石器埋納遺構出土土器実測図 (S=2/3)	31
第23図 縄文時代早期遺物包含層出土礫 (散石) 分布図 (S=1/400)	32
第24図 縄文時代早期集石遺構実測図① (S=1/30)	34
第25図 縄文時代早期集石遺構実測図② (S=1/30)	35
第26図 縄文時代早期集石遺構実測図③ (S=1/30)	36
第27図 縄文時代早期集石遺構実測図④ (S=1/30)	37
第28図 縄文時代早期集石遺構実測図⑤ (S=1/30)	38
第29図 縄文時代早期集石遺構内出土遺物実測図① (土器S=1/3・石器S=2/3)	38
第30図 縄文時代早期集石遺構内出土遺物実測図② (土器S=1/3・石器S=1/2・2/3)	39

第31回	縄文時代早期集石遺構内出土遺物実測図③ (土器S=1/3・石器S=1/2)	40
第32回	縄文時代早期炉穴実測図① (S=1/40)	41
第33回	縄文時代早期炉穴実測図② (S=1/40)	42
第34回	縄文時代早期炉穴実測図③ (S=1/40)	43
第35回	縄文時代早期炉穴内出土遺物実測図 (土器S=1/3・石器S=2/3)	43
第36回	縄文時代早期陥し穴状遺構実測図 (S=1/40)	44
第37回	縄文時代早期土坑実測図① (S=1/30)	45
第38回	縄文時代早期土坑実測図② (S=1/30)	46
第39回	縄文時代早期土坑内出土遺物実測図 (S=1/3)	46
第40回	縄文時代早期遺物包含層出土土器(塞ノ神式土器以外) 分布図 (S=1/400)	48
第41回	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図① (S=1/3)	49
第42回	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図② (S=1/3)	50
第43回	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図③ (S=1/3)	51
第44回	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図④ (S=1/3)	52
第45回	縄文時代早期遺物包含層出土土器(塞ノ神式土器) 分布図 (S=1/400)	53
第46回	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑤ (S=1/3)	54
第47回	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑥ (S=1/3)	55
第48回	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑦ (S=1/3)	56
第49回	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑧ (S=1/3)	57
第50回	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑨ (S=1/3)	58
第51回	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑩ (S=1/3)	59
第52回	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑪ (S=1/3)	60
第53回	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑫ (S=1/3)	61
第54回	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑬ (S=1/3)	62
第55回	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑭ (S=1/3)	63
第56回	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑮ (S=1/3)	64
第57回	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑯ (S=1/3)	65
第58回	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑰ (S=1/3)	66
第59回	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑱ (S=1/3)	67
第60回	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑲ (S=1/3)	68
第61回	遺物No.514・515出土状況実測図 (S=1/10)	68
第62回	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑳ (S=1/3)	69
第63回	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図㉑ (S=1/3)	70
第64回	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図㉒ (S=1/3)	71
第65回	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図㉓ (S=1/3)	72
第66回	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図㉔ (S=1/3)	73
第67回	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図㉕ (S=1/3)	74
第68回	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図㉖ (S=1/3)	75
第69回	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図㉗ (S=1/3)	76
第70回	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図㉘ (S=1/3)	77
第71回	縄文時代早期遺物包含層出土土器及び土製品実測図㉙ (S=1/3・1/2)	78
第72回	縄文時代早期遺物包含層出土主要石器分布図(器種別: S=1/400)	94
第73回	縄文時代早期遺物包含層出土主要剥片石器分布図(石材別: S=1/400)	95
第74回	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図① (S=2/3)	96
第75回	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図② (S=2/3)	97
第76回	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図③ (S=2/3)	98
第77回	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図④ (S=2/3)	99
第78回	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑤ (S=2/3・1/2)	100
第79回	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑥ (S=2/3)	101

第80図	縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑦ (S=2/3) .....	102
第81図	縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑧ (S=2/3) .....	103
第82図	縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑨ (S=2/3) .....	104
第83図	縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑩ (S=1/2・2/3) .....	105
第84図	縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑪ (S=1/2) .....	106
第85図	縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑫ (S=1/2) .....	107
第86図	3層出土石器実測図 (S=2/3) .....	142
第87図	アカホヤ火山灰層上面遺構配置図 (S=1/400) 及び溝状遺構土層断面図 (S=1/20) .....	143
第88図	SA-2 (S=1/40) 及びSA-2出土遺物実測図 (S=1/2・2/3) .....	144
第89図	SB-1 実測図 (S=1/40) .....	145

## 目 次

第1表	船引地区遺跡群の発掘調査概要一覧表 .....	2
第2表	旧石器時代遺物包含層出土石器計測分類表 .....	20
第3表	集石遺構計測表 .....	33
第4表	縄文時代早期遺構内出土遺物一覧表 .....	47
第5表	縄文時代早期遺物包含層出土石器観察表① .....	79
第6表	縄文時代早期遺物包含層出土石器観察表② .....	80
第7表	縄文時代早期遺物包含層出土石器観察表③ .....	81
第8表	縄文時代早期遺物包含層出土石器観察表④ .....	82
第9表	縄文時代早期遺物包含層出土石器観察表⑤ .....	83
第10表	縄文時代早期遺物包含層出土石器観察表⑥ .....	84
第11表	縄文時代早期遺物包含層出土石器観察表⑦ .....	85
第12表	縄文時代早期遺物包含層出土石器観察表⑧ .....	86
第13表	縄文時代早期遺物包含層出土石器観察表⑨ .....	87
第14表	縄文時代早期遺物包含層出土石器観察表⑩ .....	88
第15表	縄文時代早期遺物包含層出土石器観察表⑪ .....	89
第16表	縄文時代早期遺物包含層出土石器観察表⑫ .....	90
第17表	縄文時代早期遺物包含層出土石器観察表⑬ .....	91
第18表	縄文時代早期遺物包含層出土石器計測分類表① .....	108
第19表	縄文時代早期遺物包含層出土石器計測分類表② .....	109
第20表	縄文時代早期遺物包含層出土石器計測分類表③ .....	110
第21表	縄文時代早期遺物包含層出土石器計測分類表④ .....	111
第22表	縄文時代早期遺物包含層出土石器計測分類表⑤ .....	112
第23表	縄文時代早期遺物包含層出土石器計測分類表⑥ .....	113
第24表	隠岐・九州地方の黒曜石原産地の区分 .....	152
第25表	隠岐・九州地方における黒曜石の測定値(強度比) .....	153
第26表	判別分析における群間距離(マハラノビス距離) .....	153
第27表	下猪ノ原遺跡第二地区出土黒曜石製遺物の原産地推定結果 .....	153

# 図版目次

巻頭カラー1	下猪ノ原遺跡第二地区 空中写真	
巻頭カラー2	1号土器埋設遺構出土状況(上段) / 土器埋設遺構出土土器(下段)	
巻頭カラー3	3号土器埋納遺構出土土器(上段) / 石製品・異形石器・耳栓(下段)	
巻頭カラー4	SC-29完掘(左上) / 土層断面(右上) / ブリッジ(下段)	
写真図版1	基本土層	6
写真図版2	旧石器時代遺構①	21
写真図版3	旧石器時代遺構②	22
写真図版4	旧石器時代遺物包含層出土土器①	23
写真図版5	旧石器時代遺物包含層出土土器②	24
写真図版6	旧石器時代遺物包含層出土土器③	25
写真図版7	旧石器時代遺物包含層出土土器④	26
写真図版8	縄文時代早期遺構①	114
写真図版9	縄文時代早期遺構②	115
写真図版10	縄文時代早期遺構③	116
写真図版11	縄文時代早期遺構④	117
写真図版12	縄文時代早期遺構⑤	118
写真図版13	縄文時代早期遺構⑥	119
写真図版14	縄文時代早期遺構⑦	120
写真図版15	縄文時代早期遺構内出土遺物①	121
写真図版16	縄文時代早期遺構内出土遺物②	122
写真図版17	縄文時代早期遺物包含層出土土器①	122
写真図版18	縄文時代早期遺物包含層出土土器②	123
写真図版19	縄文時代早期遺物包含層出土土器③	124
写真図版20	土器埋設遺構出土土器・耳栓・石製品	124
写真図版21	縄文時代早期遺物包含層出土土器④	125
写真図版22	縄文時代早期遺物包含層出土土器⑤	126
写真図版23	縄文時代早期遺物包含層出土土器⑥	127
写真図版24	縄文時代早期遺物包含層出土土器⑦	128
写真図版25	縄文時代早期遺物包含層出土土器⑧	129
写真図版26	縄文時代早期遺物包含層出土土器⑨	130
写真図版27	縄文時代早期遺物包含層出土土器⑩	131
写真図版28	縄文時代早期遺物包含層出土土器⑪	132
写真図版29	縄文時代早期遺物包含層出土土器⑫	133
写真図版30	縄文時代早期遺物包含層出土土器⑬	134
写真図版31	縄文時代早期遺物包含層出土土器⑭	135
写真図版32	縄文時代早期遺物包含層出土土器①	136
写真図版33	縄文時代早期遺物包含層出土土器②	137
写真図版34	縄文時代早期遺物包含層出土土器③	138
写真図版35	縄文時代早期遺物包含層出土土器④	139
写真図版36	縄文時代早期遺物包含層出土土器⑤	140
写真図版37	縄文時代早期遺物包含層出土土器⑥	141
写真図版38	SA-2出土遺物及び3層出土遺物	145
写真図版39	アカホヤ火山灰層上面検出遺構	146



# 第1章 はじめに

## 第1節 調査の経過

### 1. 調査に至る経緯

平成7年度から実施されている県営農地保全整備事業（船引工区）において、平成16年度事業区に下猪ノ原遺跡の一部が含まれることが確認された。遺跡の取扱いについて、宮崎県教育委員会、宮崎県中部農林振興局、船引地区土地改良区、清武町教育委員会等関係各局で協議を行った。

その結果、やむを得ず削平などにより、遺跡の現状保存が困難な事業区については宮崎県中部農林振興局の委託を受け、清武町教育委員会が発掘調査を実施することとなった。調査期間は平成16年4月26日から平成17年2月4日で調査面積は約1200㎡である。

### 2. 調査組織

調査（平成16年度）

調査主体 旧清武町教育委員会

事務局

教 育 長	湯 地 敏 郎
教 育 次 長	鐘 和 俊
社 会 教 育 課 長	松 元 一 夫 (平成16年度)
社 会 教 育 課 文 化 係 長	伊 東 但

調査員

主 任	井 田 篤
主 事	秋 成 雅 博 (調査担当)
嘱 託	若 杉 知 和
嘱 託	草 野 美 香 (調査担当)

整理作業（平成22年度）

調査主体 宮崎市教育委員会

事務局

教 育 長	田 原 健 二 (~平成22年10月)
	二 見 俊 一 (平成22年11月~)
教 育 局 長	蛭 原 茂
文 化 財 課 長	田 村 泰 彦
補 佐 兼 文 化 財 管 理 係 長	米 良 明 信
埋 蔵 文 化 財 係 長	富 永 英 典

調査員

主 任 技 師	秋 成 雅 博 (整理作業・報告書担当)
嘱 託	船 石 涼 代 (整理作業・報告書担当)
嘱 託	佐 伯 美 佐 子 (整理作業・報告書担当)
嘱 託	山 下 啓 子 (整理作業・報告書担当)

## 第2節 遺跡の環境

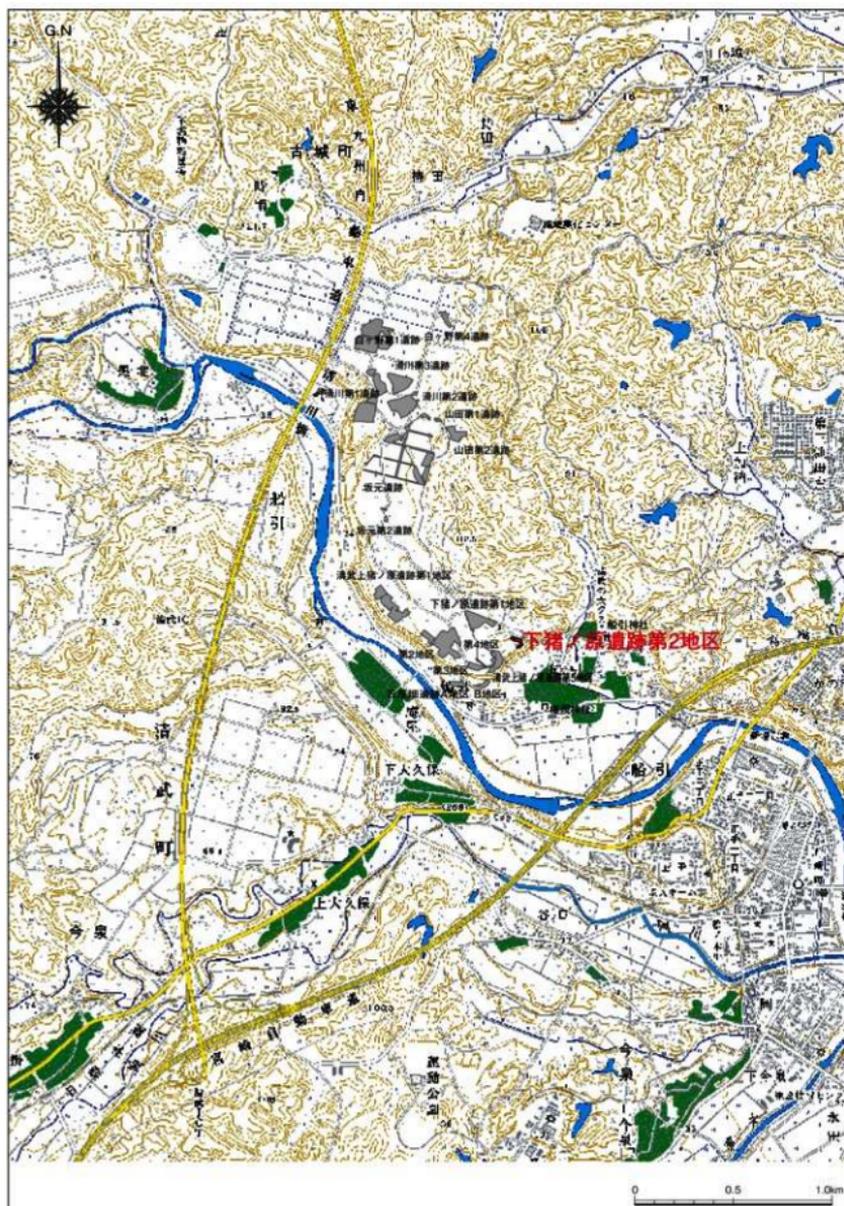
### 1. 立地と環境（第1・2図）

宮崎市清武町は宮崎平野の南西部に位置している。本遺跡は田清武町の北西部の船引地区に所在し、町内を北西から東へ流れる清武川左岸のシラス台地の南東端部（標高60～63m）に立地する。このシラス台地の中腹には湧水地点が多く存在しており、遺跡が立地するには良い条件であったと考えられ、台地上には数多くの遺跡が存在する。

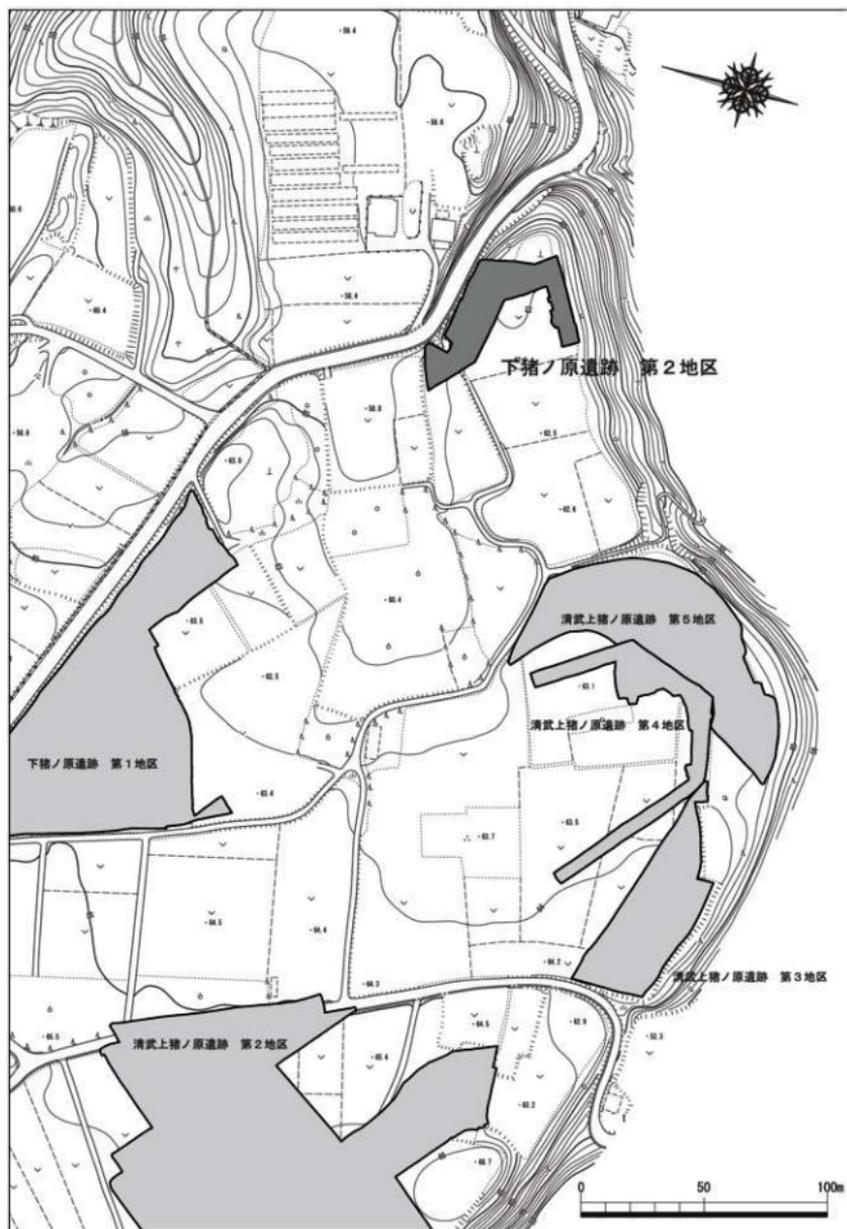
下猪ノ原遺跡の周辺では県営農地保全整備事業（時屋工区・船引工区）や東九州自動車道建設に伴い発掘調査が行われ、現在その調査件数は18遺跡26調査区域に及び、旧石器時代から近世までの様々な遺構・遺物が確認されている。その中でも縄文時代早期の遺構・遺物の調査成果は突出しており、五反畑遺跡A地区を除く全ての遺跡で縄文時代早期の遺構・遺物が検出されている。表1に各調査区域の概要を示す。

第1表 船引地区遺跡群の発掘調査概要一覧表

No	遺跡名	調査面積 (㎡)	主な時代（特徴的な遺構・遺物）	調査機関
1	上の原第1遺跡	4800	縄文早期・縄文（中期～晩期：石刀）・古墳時代（竪穴住居跡・土器埋設遺構など）	宮崎県埋蔵文化財センター
2	上の原第1遺跡（B地区）	2100	旧石器・縄文早期（磨製石鏃）・縄文晩期・弥生時代（磨製石剣）・古墳時代	宮崎県埋蔵文化財センター
3	上の原第2遺跡	45500	縄文早期・縄文（中期～後期：竪穴住居跡など）・近世（墓など）	宮崎県埋蔵文化財センター
4	上の原第3遺跡	15500	縄文早期・古墳時代（竪穴住居跡など）	宮崎県埋蔵文化財センター
5	上の原第4遺跡	3400	弥生時代・古墳時代	宮崎県埋蔵文化財センター
6	白々野第3遺跡（B区）	25000	縄文早期・弥生時代・古代	宮崎県埋蔵文化財センター
7	白々野遺跡（A地区）	300	縄文時代・近世	宮崎県埋蔵文化財センター
8	白々野第2・3遺跡	18000	旧石器・縄文草創期（獅子堂型石斧など）・縄文早期・縄文（前期～晩期：竪穴住居跡）・古代（竪穴住居跡）・近世	宮崎県埋蔵文化財センター
9	白々野第1遺跡	17200	旧石器・縄文（早期～晩期）・弥生時代	清武町教育委員会
10	白々野第4遺跡	1900	縄文早期（垂飾・輪軸など）	清武町教育委員会
11	滑川第1遺跡	17620	縄文（草創期～早期：直径2mを超える集石遺構）・縄文（前期～晩期：滑石が混入した骨組土器・蛇紋岩製石斧・825gの都鳥産黒曜石製の石核など）・弥生時代・古墳時代	清武町教育委員会
12	滑川第2遺跡	10420	旧石器・縄文早期（1250gの都鳥産黒曜石製の石核など）・縄文（前期～晩期）・弥生時代（管玉など）・古代	清武町教育委員会
13	滑川第3遺跡	6940	旧石器・縄文早期・縄文（前期～晩期）・弥生時代	清武町教育委員会
14	山田第1遺跡	7700	旧石器・縄文（草創期～早期）・弥生時代・古墳時代（竪穴住居跡など）	清武町教育委員会
15	山田第2遺跡	4300	縄文早期・弥生時代・古代	清武町教育委員会
16	坂元遺跡	9000	旧石器・縄文早期（土器埋設遺構など）・弥生時代	清武町教育委員会
17	坂元第2遺跡	530	旧石器・縄文早期	清武町教育委員会
18	下猪ノ原遺跡第1地区	7000	旧石器（角錐状石器及び瀬戸内技法関連の複合資料）・縄文早期（球状耳飾）・弥生時代（木棺墓・土槨墓）・古代	清武町教育委員会
19	下猪ノ原遺跡第2地区	1200	旧石器・縄文早期（環状遺構・土器埋設遺構・石器埋納遺構など）・弥生時代・古代	清武町教育委員会
20	清武上猪ノ原遺跡第1地区	14000	縄文草創期（集石など）・縄文早期（土器埋設遺構・完形の耳輪など）・弥生時代（竪穴住居跡）・古代（黒色土器）	清武町教育委員会
21	清武上猪ノ原遺跡第2地区	15200	旧石器・縄文草創期（尖頭器・集石など）・縄文早期（土器埋設遺構など）	清武町教育委員会
22	清武上猪ノ原遺跡第3地区	2000	縄文早期（石斧埋納遺構など）・縄文晩期・中世	清武町教育委員会
23	清武上猪ノ原遺跡第4地区	1300	旧石器（磨石刀核の複合資料）・縄文草創期・縄文早期（竪穴状遺構・土器埋設遺構・球状石斧など）・古代	清武町教育委員会
24	清武上猪ノ原遺跡第5地区	3700	旧石器（楔谷型ナイフ形石器の複合資料）・縄文草創期（竪穴住居跡・矢柄筒形器・尖頭器など）・縄文早期（直径4mを超える集石など）・縄文（前期～後期）・古代・中世	清武町教育委員会
25	五反畑遺跡A地区	1370	縄文晩期・古代（土坑墓・黒書土器・緑釉陶器・黒色土器・長沙窯系水差など）	清武町教育委員会
26	五反畑遺跡B地区	1110	旧石器・縄文早期（局部磨製尖頭器・石器埋納遺構など）・弥生時代・古墳時代（木棺墓・石棺墓・珠文鏡など）	清武町教育委員会



第1図 遺跡位置図 (S=1/25000)



第2図 遺跡周辺地形図 (S=1/2000)

## 第3節 調査の概要と基本層序

### 1. 調査方法

当遺跡の調査前は畑地であった。調査区下の斜面中に防空壕跡が存在しており、重機によって表土（耕作土：基本層序1層）を掘削した場合に、調査区自体の崩落の危険性が考えられたことから表土剥ぎの作業は人力で行うこととなった。

なお、今回は調査区の北側と南側の境界線がはっきりと定まらないまま調査に入ることとなったため、確実に工事区域に該当する調査区の中央部から調査を開始することとなった。調査区中央部の表土剥ぎを行い、広く露出した縄文時代早期遺物包含層（基本層序5～8層）の上面で等高線を記録し、縄文前期以降の遺構検出を行った。しかし遺構は検出されなかったため、遺物を多量に含む包含層をジョレンヤネジリ鎌を使用して掘削作業に取り掛かった。

掘削作業を開始してまもなく調査区内の境界が確定し、調査区内の全ての耕作土を除去したところ、調査区の北側ではアカホヤ火山灰層上位の黒色シルト質ローム層（基本層序2層：クロボク）～鬼界アカホヤ火山灰層（基本層序4層）が確認され、また南側でも暗褐色砂質ローム層（基本層序3層：二次堆積のアカホヤ火山灰）～基本層序の4層が確認されたので、その上面で一旦精査を行い、遺構・遺物の検出に動めた。2層中では遺構は検出できなかったが、3～4層にかけて溝状遺構5条、竪穴住居跡1棟、掘立柱建物跡1棟、柱穴10数基が検出された。また3層中での遺構検出時に弥生土器片、土師器片、陶磁器片、磨製石鏃の破片などが少量出土している。なお、削平を受けていた調査区中央部付近では縄文前期以降の遺構等を検出することができなかった。

調査区内の耕作土を完全に除去した後に地山である基本層序の露出状況を観察すると、本調査区はもともと北東側から南西側に緩やかに下る斜面であったと推測できる。

こうして縄文早期の遺物包含層の掘削作業を進めながら、なるべく優先的にアカホヤ火山灰層上面の調査を行うこととなった。アカホヤ火山灰層上面の調査が終了した後は、アカホヤ火山灰層を除去し、鬼界カルデラ噴火直前の当遺跡の地形を把握するため、5層上面での等高線の記録作業を行った。等高線の記録作業後は調査区中央部分と同様に縄文早期の遺物包含層の掘削を行い、多量の遺物と土器埋設遺構2基、石器埋納遺構1基、集石遺構25基、竪穴10基（燃焼部を数える）、陥し穴状遺構2基、土坑8基を検出した。

縄文早期の調査が終了した箇所では随時旧石器時代の遺物包含層の確認作業を行った。旧石器時代の遺物包含層である9～12層までの掘削深度が深くない調査区の東部はほぼ全面旧石器時代の調査を行うことができたが、西側は部分的な掘削にとどまった。最終的に本調査区における旧石器時代の総調査面積は約1000㎡に及んだ。

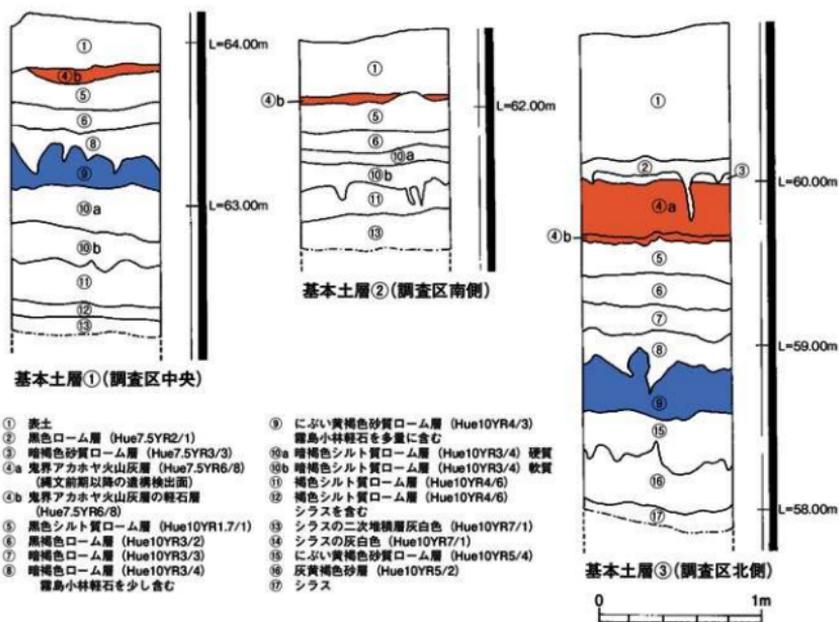
旧石器時代の遺物包含層の掘削作業中に地震により発生した液状化現象の痕跡（古環境研究所杉山真二氏のご教授による）が無数に確認された。この液状化現象の痕跡は基本層序9層より上の層では確認されなかったため、9層が形成される頃に起きた地震の痕跡であることが推測される。

なお、個別の遺構実測図は遺構のサイズに合わせて1/10又は1/20で作成した。溝状遺構や調査区全体の遺構配置図等の作成については光波測量機及びデータコレクターを使用して、現地の公共座標を記録し、宮崎市きよたけ歴史館内埋蔵文化財センターでIntelli CADを使用してデジタルデータとして整理保管している。また遺物の出土地点の記録についても同様である。

写真撮影については6×9版モノクロ・リバーサルフィルム、35mmモノクロ・リバーサルフィルムを併用した。

### 2. 調査日誌抄録

- H16.04.26 表土の剥ぎ取り開始
- 04.28 部分的に縄文時代早期の遺物包含層の掘削を開始
- 05.07 遺物№514・515出土
- 05.31 全調査区の表土の剥ぎ取り終了
- 06.01 アカホヤ火山灰層上面の遺構を検出
- 07.05 部分的に旧石器時代の遺物包含層の掘削を開始
- 07.12 アカホヤ火山灰層上面の遺構の調査終了
- 07.24 きよたけ歴史館「古代体験講座」による小中学生の体験発掘の実施
- 07.28 1号土器埋設遺構検出



第3図 基本土層図 (S=1/30)



基本土層① (調査区中央)

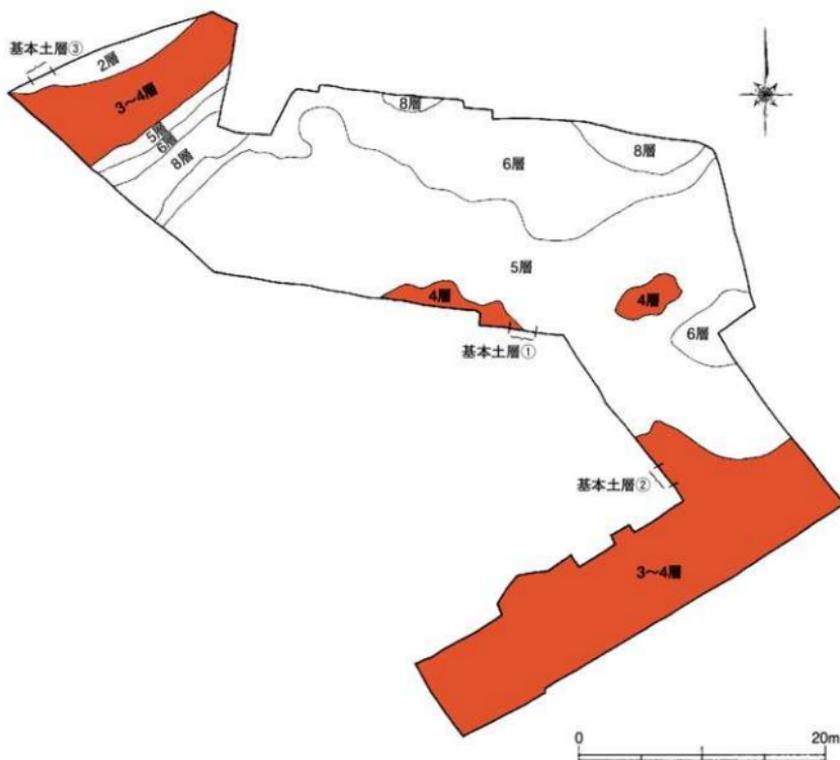


基本土層② (調査区南側)



基本土層③ (調査区北側)

写真図版1 基本土層



第4図 調査区削平状況及び基本土層位置図 (S=1/400)

- H16.08.24 2号土器埋設遺構検出  
 09.17 3号土器埋納遺構検出  
 10.16 きよたけ歴史館「きよたけの歴史講座」による現場見学会の実施  
 H17.01.11 旧石器時代の土坑 (SC-32) の検出  
 02.04 調査終了

### 3. 基本層序 (第3図・写真図版1)

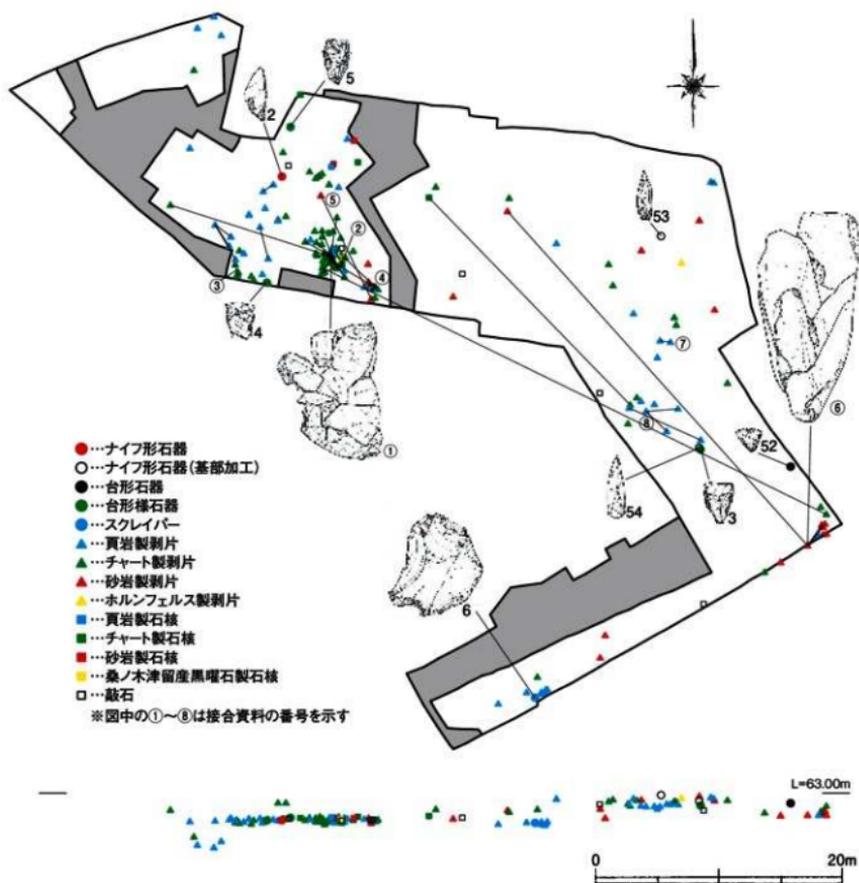
当遺跡の土層の堆積状況は、調査区内の各地点で大きく異なっており、特に基本層序8・9層の堆積については確認されないところもあった。当台地上の他の遺跡と同じような土層の堆積状況が確認されたのは調査区中央付近 (基本土層①の地点) だけである。

調査区南側 (基本土層②の地点) ではアカホヤ火山灰層からシラスまでの土層の堆積が1mの厚さもないような状況であった。また調査区の北側 (基本土層③の地点) では基本層序6層の下に霧島小林軽石層を含まない硬質の暗褐色ローム層や9層の下に霧島小林軽石とシラスが混在するような硬質のにぶい黄褐色砂質ローム層 (旧石器時代の遺物が混入する)、その下にはシラスのブロックが多く混入する硬質の灰黄褐色砂層、そしてシラスへといたる状況であり、シラスの二次堆積層が存在しなかった。このように調査区の北側は谷部にかかる地形だったためか、他の地点とは全く異なる土層の堆積状況であった。

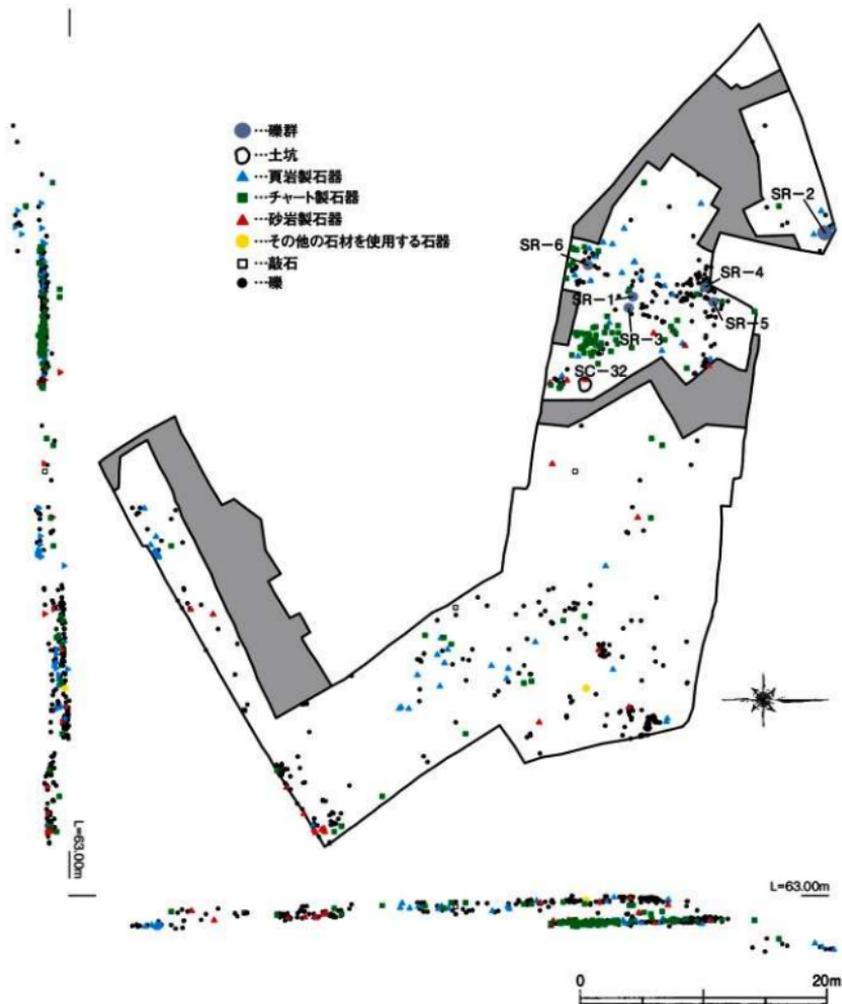
## 第2章 旧石器時代の調査

### 第1節 遺構・遺物の分布状況

旧石器時代の調査は縄文早期の調査終了後、調査区の東側は土層の堆積状況が良くなかったため、ほぼ全面を人力によって掘り下げ、遺構・遺物の検出に努めることができた。調査区の西側については土層の堆積状況が良好であり、旧石器時代の遺物包含層である基本土層の11～12層までの掘削作業に時間がかかることが予想されたため、小規模なトレンチを設定し、遺構・遺物が検出されたトレンチを拡張していく形で調査を進めていくこととなった。



第5図 旧石器時代遺物包含層出土石器分布図 (S=1/400)



第6図 旧石器時代遺構及び遺物分布図 (S=1/400)

このような調査の結果、最終的に検出された遺構は構成される礫にまとまりのある礫群が6基 (SR-1～6) と土坑1基 (SC-32) である。これらは全て調査区の西側で検出されている。しかし、土坑は10層から、まとまりのある礫群は11層下部～12層にかけてと調査区北側の15層中から検出されており、礫群は土坑に比べ明らかに下層から検出されたため、礫群と土坑には時期差が存在するものと調査中に想定されていた。

一方、遺物は9～12層にかけて石器196点 (9～10層：37点、11～12層：159点)、礫445点 (9～10層：106点、11～12層：339点) が出土したが、それらのほとんどが11～12層にかけて出土し、製品類も台形礫石器を中心とするものと認識していたため、調査中は遺構には時期差がある可能性が考えられたものの、遺物には時期差が見られな



第7図 旧石器時代遺物包含層出土礫分布図 (S=1/400)

いという奇妙な状況が考えられていた。

本年度、整理作業に取り掛かり、遺物の洗浄後、全ての遺物を観察すると基本層序6～8層から縦長剥片を素材とした基部加工のナイフ形石器が2点含まれており、前述の台形様石器とは違う様相の石器群が含まれていることが判った。さらに、遺構と遺物の分布図を作成し、遺物の垂直分布を確認すると調査区の西側付近から出土した石器や礫と調査区の東側付近から出土した一部の石器や礫とは明らかにレベル差を持って出土していることが判明し、本調査区においては9～10層を中心とする石器群と11～12層を中心とする石器群の2枚の文化層が存在するということが明らかになった。

このような遺物の分布状況からまとまりのある礫群6基については調査区西側の石器群を中心とする11～12層の石器群（第Ⅰ文化層）に伴うものであり、土坑は調査区東側付近の一部の石器群（第Ⅱ文化層）に伴うものであると想定することができる。なお、第Ⅱ文化層の遺物については縄文早期の遺物包含層に一部は混在している可能性はあるが、詳細な検討はできなかった。

## 第2節 遺構について

### 1. 礫群 (第8図)

本調査区において礫が密集する礫群(図化したもの)6基は、前述のとおり検出層位は11層下部～12層にかけてと15層中から検出されている。いずれも構成礫は砂岩礫で掘り込みは検出されなかったが、SR-4に関しては検出された礫のプランが円形を呈し、断面形状がわずかにくぼむところから掘り込みがあった可能性を窺うことはできる。以下に各礫群を個別に報告する。

SR-1は構成礫の範囲は1.08m×0.78mを測り、総数は50点、総重量は13kgを量り、断面の状況はほぼ水平堆積である。礫の接合を試みたところ、本礫群内で2点の礫が接合し、さらに調査区に散らばる礫3点とSR-3の構成礫3点とも接合した。

SR-2は調査区の北西部の基本層序16層中から検出された。構成礫の範囲は4.05m×1.64mを測り、総数は64個、総重量は12.8kgを量る。礫の接合を試みたところ、本礫群内で13点の礫が接合し、さらに調査区内に散らばる礫4点と接合した。本礫群内からは図化しなかったが、頁岩製の剥片が1点出土している。

SR-3はSR-1の約1m東側で検出されている。構成礫の範囲は1.07m×0.98mを測り、総数は20点、総重量は7.1kgを量る。礫の接合を試みたところ、本礫群内で3点の礫が接合し、さらに調査区に散らばる礫3点とSR-6の構成礫1点と前述のとおりSR-1の構成礫3点と接合している。

SR-4はSR-1の約5.5m北側で検出されている。構成礫の範囲は0.59m×0.45mと他の礫群と比べて小規模であるが礫は密接している。構成礫の総数は24個で総重量は23.4kgを量り、断面の形状は前述のとおり皿状を呈しており、視覚的には確認できなかったものの掘り込みがあった可能性が窺える。大振りの礫で構成されている点も特徴的である。礫の接合を試みたところ、本礫群内で3点の礫が接合し、調査区内に散らばる礫9点とSR-5の構成礫1点とも接合した。本礫群内からは砂岩製の敲石(第9図1)が1点出土している。

SR-5はSR-4の約1m北東側で検出されている。構成礫の範囲は1.11m×0.47mを測り、総数は25個、総重量は4.4kgを量る。小規模な礫で構成され、西側に礫が密集している。礫の接合を試みたところ、本礫群内で3点、調査区に散らばる礫2点と前述のとおりSR-4の構成礫1点と接合している。

SR-6はSR-1の約4m南西側で検出されている。構成礫の範囲は1.24m×0.95mを測り、総数は44個、総重量は8kgを量る。礫の接合を試みたところ、本礫群内で6点の礫が接合し、さらに調査区に散らばる礫6点と前述のとおりSR-6の構成礫1点と接合している。

### 2. 土坑 (第14図)

SC-32は10層上面で不整形の褐色のプランが確認された。南側を2分の1掘り下げたが、埋土と地山の境が不明瞭であったため、西側の壁を断ち割るようにトレンチを設定して土層断面を観察したところ、立ち上がりか確認されたので、遺構として認定した。埋土の堆積状況は自然堆積である。平面プランは1.11m×1.04mの不整形プランを呈し、検出面からの深さは0.38mを測る。遺物等の混入は見られなかった。

## 第3節 遺物包含層出土石器について

### 1. 第I文化層の石器 (第9～14図)

#### ナイフ形石器 (2)

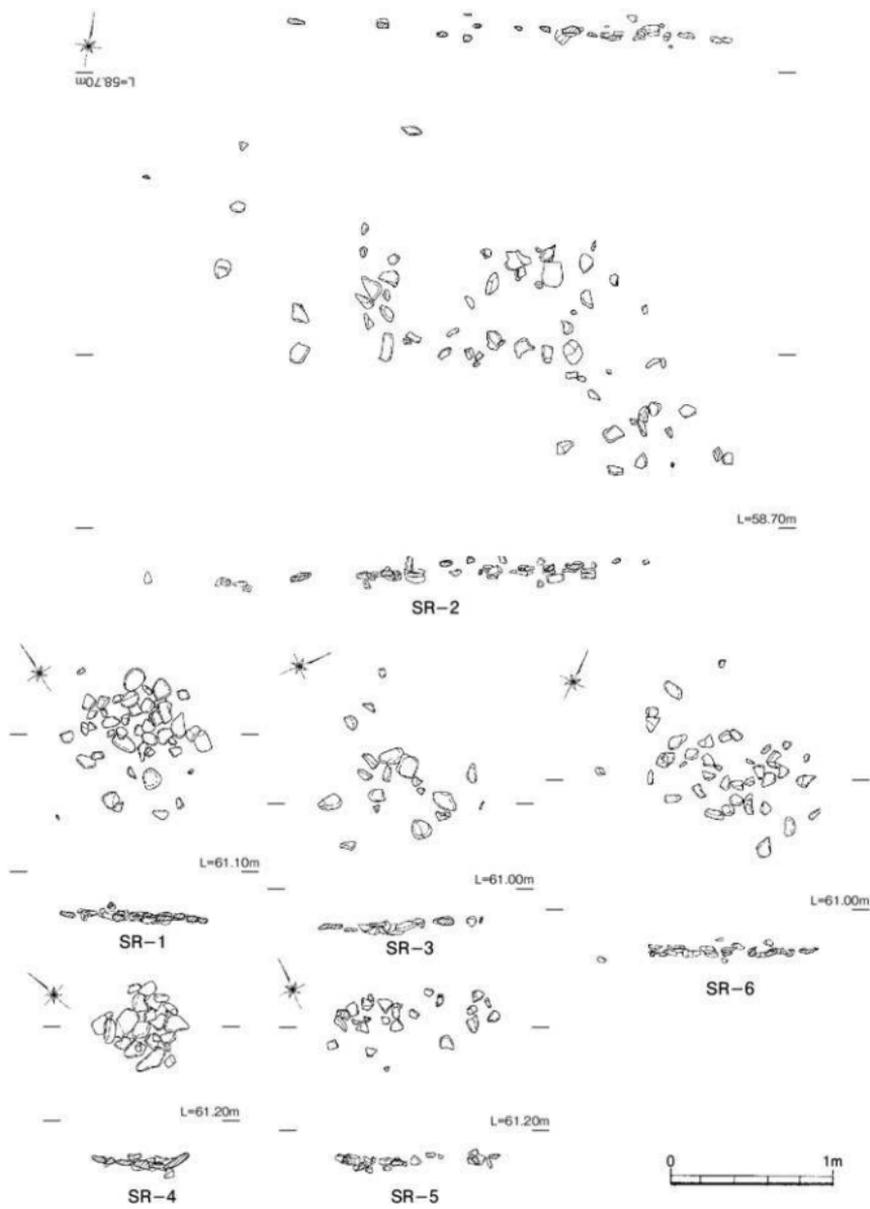
頁岩製の剥片の下端部が節理によって折れ、その節理面に刃潰し加工を施す小型のナイフ形石器である。基部の切り出し状を呈している。

#### 台形縁石器 (3～5)

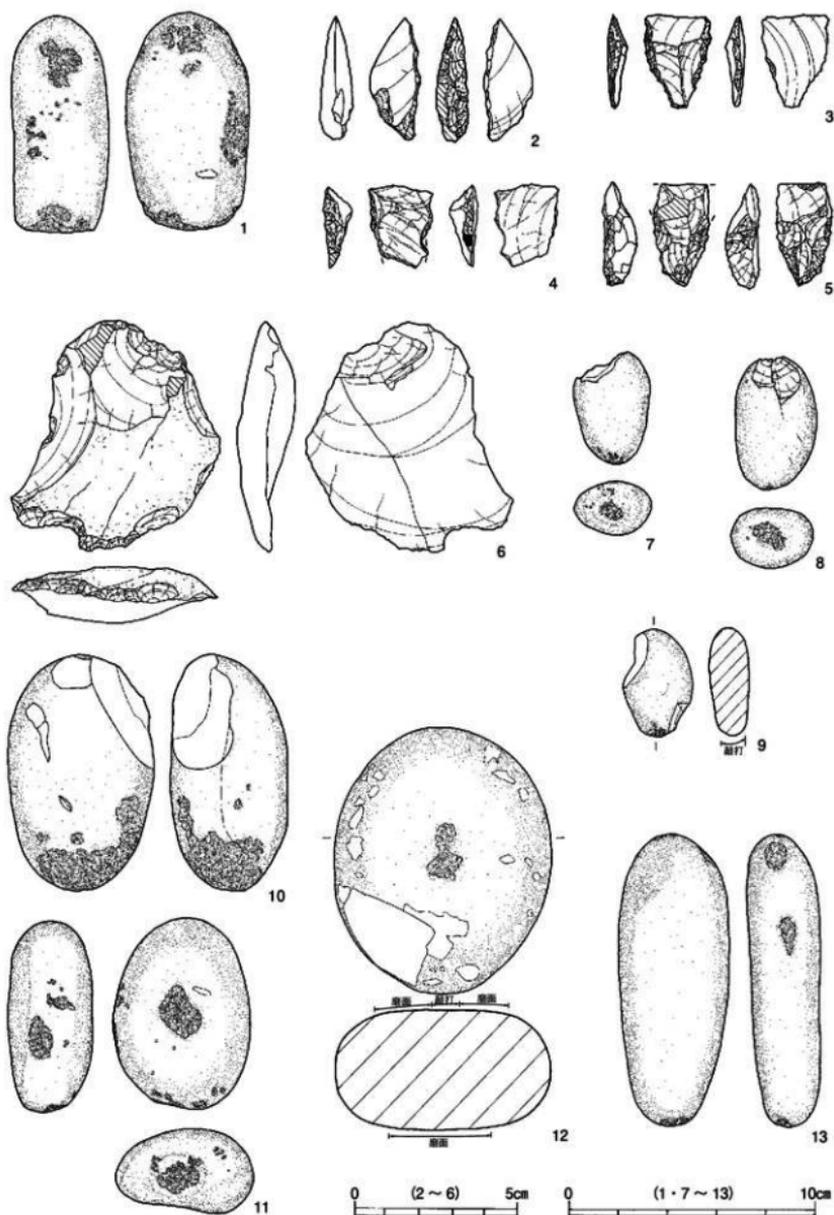
3は頁岩製、4・5はチャート製である。幅広い剥片の上部と下部に刃潰し加工を施し、素材剥片の側縁部を刃部にする。5は主要剥離面に平坦な調整剥離が確認される。

#### スクレイパー (6)

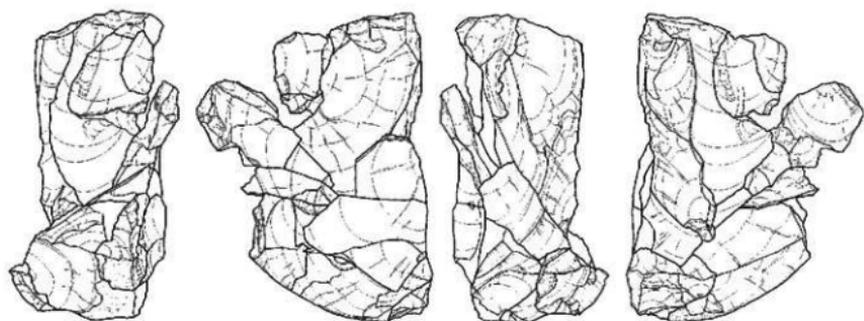
頁岩製の不定形な剥片を素材とする。素材剥片の下端部に主要剥離面側から調整を施して、刃部を作る。



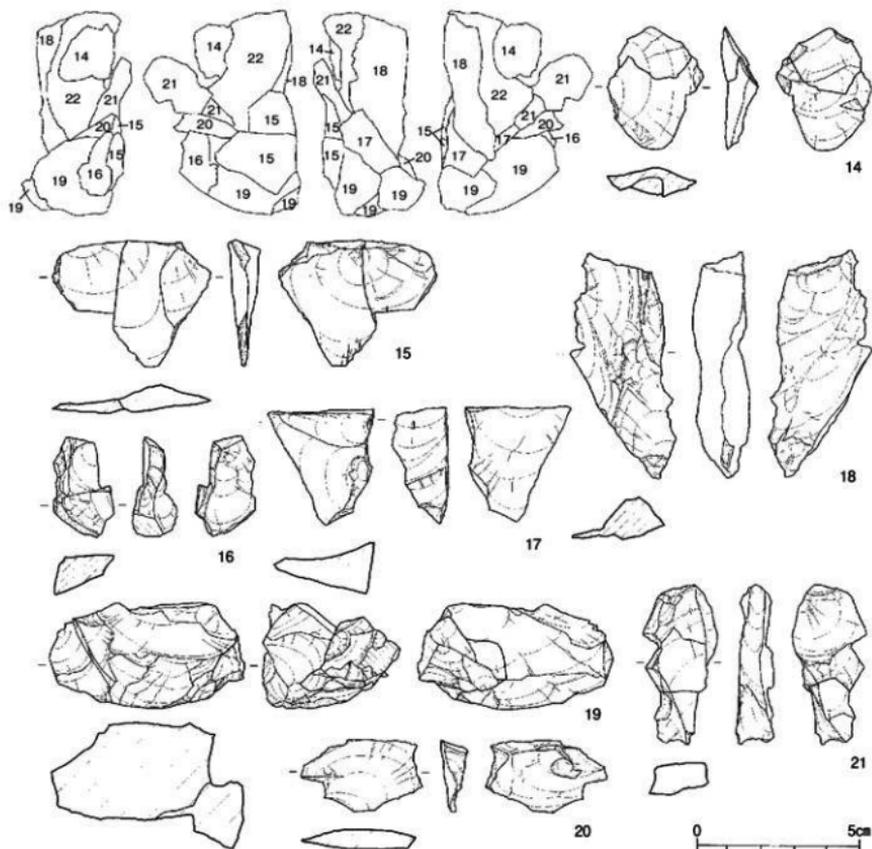
第8図 旧石器時代礫群実測図 (S=1/30)



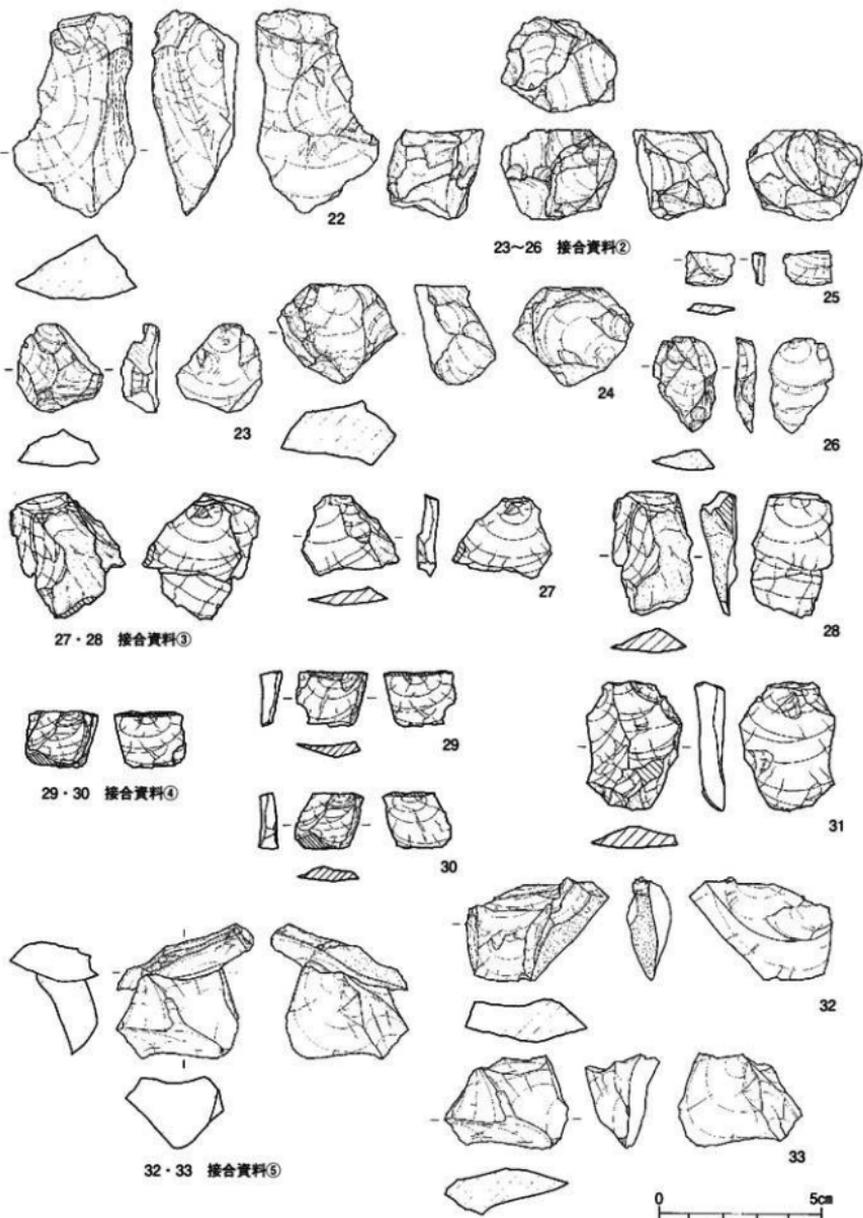
第9図 SR-4及び旧石器時代遺物包含層出土石器実測図① (S=1/2・2/3)



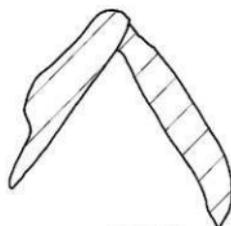
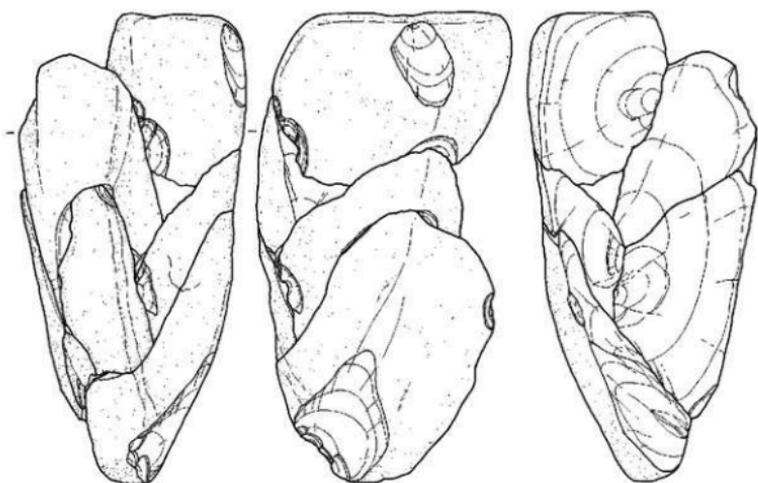
14~22 接合資料①



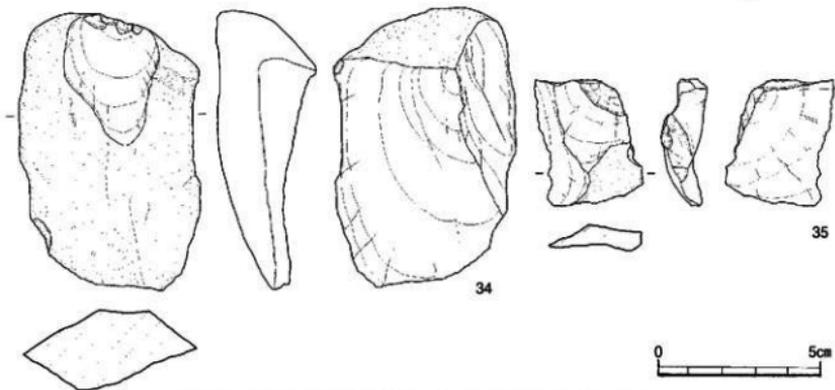
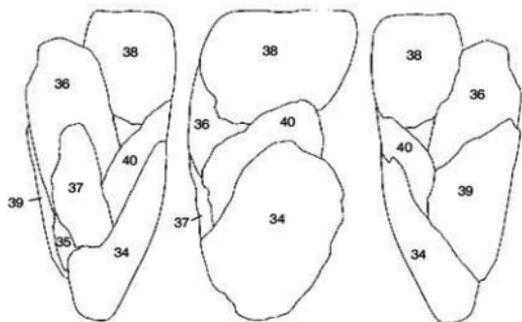
第10図 旧石器時代遺物包含層出土石器実測図② (S=2/3)



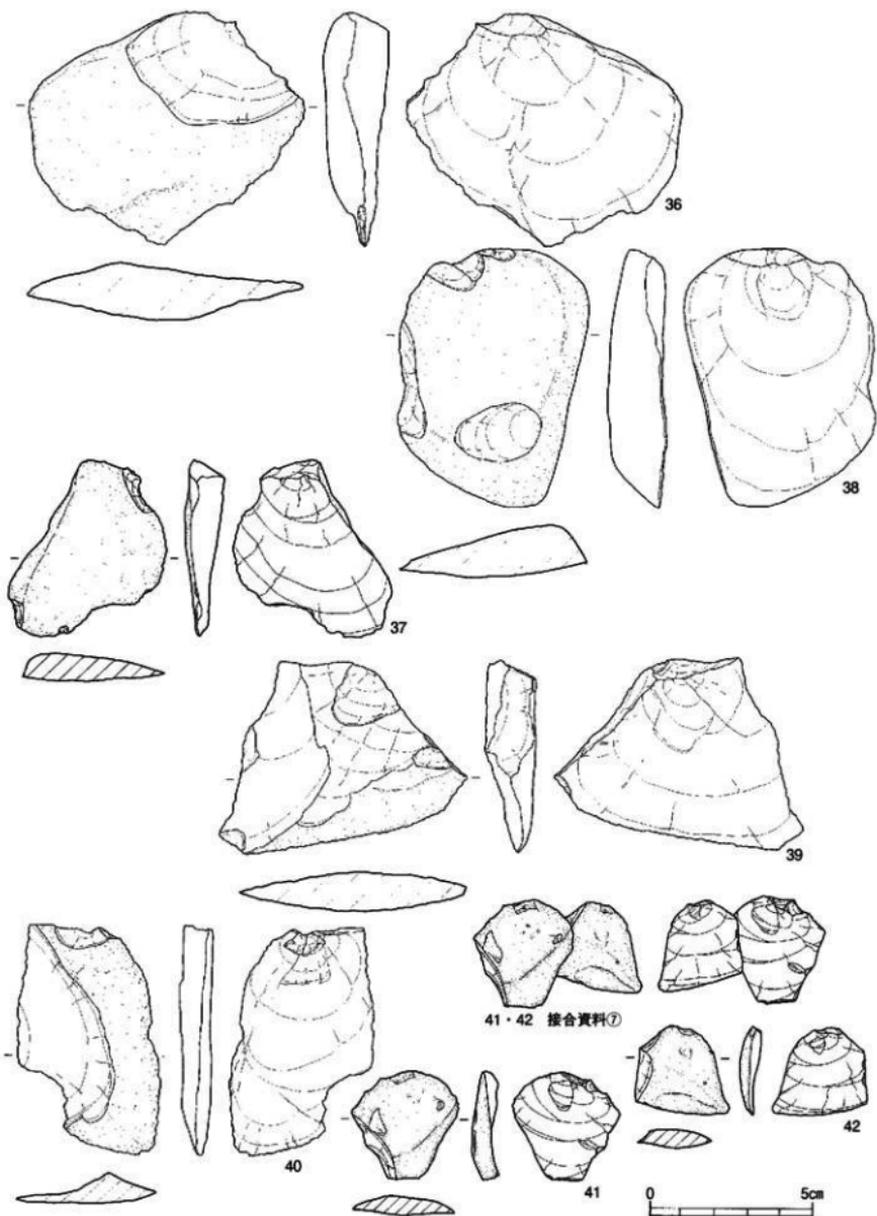
第11圖 旧石器時代遺物包含層出土石器実測図③ (S=2/3)



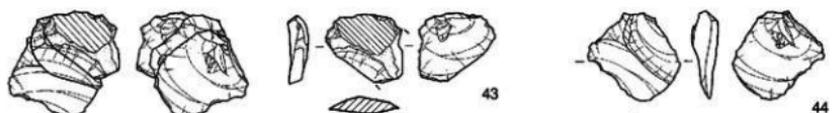
34~40 接合資料⑥



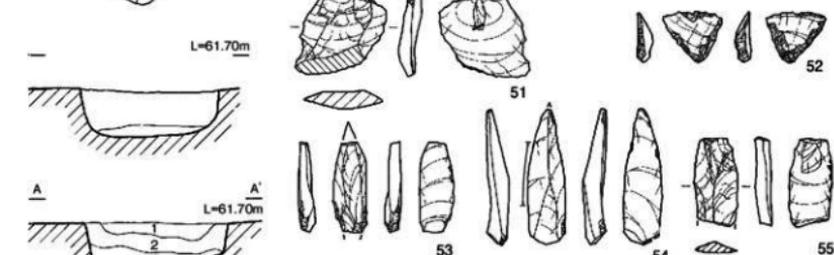
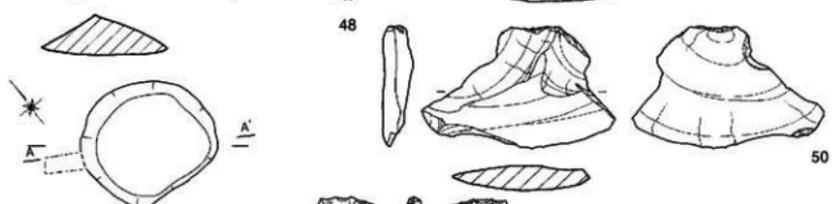
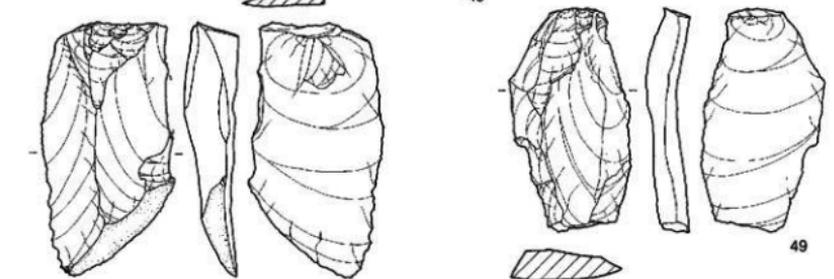
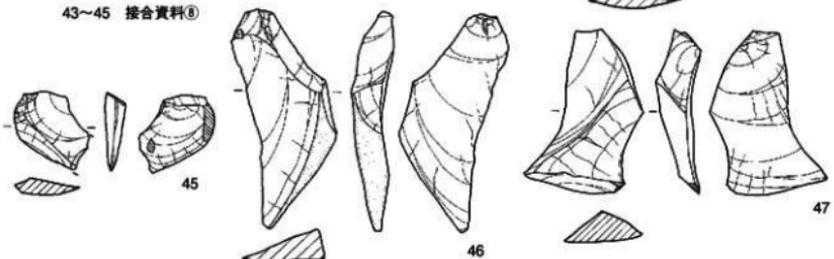
第12図 旧石器時代遺物包含層出土石器実測図④ (S=2/3)



第13図 旧石器時代遺物包含層出土石器実測図⑤ (S=2/3)



43~45 接合資料⑧



- 1 褐色砂質ローム層 (Hue7.5YR4/4)
- 2 黒褐色シルト質ローム層 (Hue7.5YR3/2)
- 3 褐色シルト質ローム層 (Hue7.5YR4/2)

SC-32

0 1m

0 5cm

第14図 SC-32 (S=1/40) 及び旧石器時代遺物包含層出土石器実測図⑧ (S=2/3)

### 敲石 (7～13)

8はチャート製でそれ以外は全て砂岩製である。敲打痕が端部に観察されるもの(7～10・13)と平坦面に観察されるもの(12)、端部にも平坦面にも敲打の痕跡が確認されるもの(11)の3種類に分類される。12は平坦面に敲打痕だけでなく磨痕も確認される。

#### チャート製石器 (接合資料①～④・31)

接合資料①は剥片8点と石核1点の接合資料である。剥離工程は大きく二つに分かれる。接合している資料の剥ぎ取り順は15→19(石核)→数枚の剥片剥離→17+21→14→18→22、そして20→16→19に至る。17と21は別々に図化したものの同じ剥片の可能性が考えられる。

接合資料②は剥片3点と石核1点の接合資料である。接合している資料の剥ぎ取り順は26と24の前後関係は不明だが、25→26、23→24(残核)となる。

接合資料③は剥片2点の接合資料である。剥ぎ取りの順序は28→27である。

接合資料④は剥片2点の接合資料である。剥ぎ取りの順序は30→29である。

31は不整形な縦長剥片である。

#### 砂岩製石器 (接合資料⑤・⑥)

接合資料⑤は剥片2点の接合資料である。剥ぎ取りの順序は32→33である。

接合資料⑥は剥片7点の接合資料である。7点とも自然面を有する自然面を除去するために作出された剥片であろう。接合している剥片の剥ぎ取り順は1枚の剥片剥離→34→37→40→36→38→1枚の剥片剥離→35→39となる。

#### 頁岩製石器 (接合資料⑦・⑧・46～49)

接合資料⑦は剥片2点の接合資料である。両者共に自然面を有する。剥ぎ取りの順序は41→42である。自然面を除去するための剥片であろう。

接合資料⑧は剥片3点の接合資料である。剥ぎ取りの順序は43→44→45である。

46～49は縦長剥片である。46・48は自然面をわずかに有する。

#### その他の石材 (50・51)

50はホルンフェルス性の横長剥片である。51はチャート製の寸詰まりの剥片である。

## 2. 第Ⅱ文化層の石器 (第14図)

### 台形石器 (52)

チャート製の不整形な剥片を素材とした台形石器である。剥片の下端部を刃部としている。背面右側縁を折断し、その折断面より主要剥離面側に調整を施している。また背面左側縁には背面側に調整を施した後、主要剥離面側に調整を施して、全体の形状を逆三角形に整えている。本資料は31と色調が似ており、同一母岩の可能性も考えられる。そのため、第Ⅰ文化層に帰属する資料であるかもしれないが、出土層位が10層中であることから第Ⅰ文化層の台形石器とは素材剥片や規模などが異なることから第Ⅱ文化層の資料として報告を行う。

### ナイフ形石器 (53・54)

細見の縦長剥片を素材として、基部や先端部付近に刃潰し加工を施すものである。両者共に頁岩を使用しているが、第Ⅰ文化層のナイフ形石器や台形石器に使用された頁岩とは色調が異なるものである。54は背面左側縁に微細剥離が確認される。両者とも縄文時代早期の遺物包含層である6層と8層から出土している。

### 縦長剥片 (55)

流紋岩製の細見の縦長剥片である。前述のナイフ形石器の素材剥片として考えられる資料である。この資料も縄文早期の遺物包含層から出土している。

第Ⅱ文化層に帰属する資料は9～10層より出土した資料のほかにも縄文早期の遺物包含層中にも存在している可能性は高いが、今回は十分な検討ができなかったため第Ⅰ文化層と明確に異なる様相の石器資料に限定して報告を行うこととなった。

第2表 旧石器時代遺物包含層出土石器計測分類表

遺物No.	整理No.	器種	層位	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備考
1	1134	敲石	SR4	砂岩	8.9	5	3.9	257.6	
2	34	ナイフ形石器	11	頁岩	3.7	1.5	1	3.7	
3	35	台形礫石器	11	頁岩	2.8	2	0.6	2.7	
4	1163	台形礫石器	11	チャート	(2.5)	1.95	0.8	(3.1)	基部欠損
5	1164	台形礫石器	11	チャート	3.1	(2.2)	1	(4.6)	先端部欠損
6	1153	スクレイパー	11	頁岩	7.1	6.3	1.7	56.8	
7	1129	敲石	11	砂岩	4.55	3.1	2.2	36.8	
8	1126	敲石	11	砂岩	5.4	3.35	2.5	61.6	
9	1131	敲石	11	砂岩	4.4	2.85	1.95	25.5	
10	1133	敲石	11	砂岩	9.7	5.9	4.8	347.4	
11	1132	敲石	11	砂岩	7.8	5.6	3.5	203.3	
12	1130	敲石	10	砂岩	10.9	8.8	4.9	639.3	
13	1128	敲石	11	砂岩	11.9	4.55	3	246.5	
14	381	剥片	11	チャート	3.7	2.8	1.1	6.5	接合資料①
15	384	剥片	11	チャート	3.9	4.8	1	10.2	接合資料①
16	379	剥片	11	チャート	3.1	1.8	1.3	5.4	接合資料①
17	383	剥片	11	チャート	3.5	3.2	1.7	13.7	接合資料①
18	385	剥片	11	チャート	6.8	3.2	1.7	26.1	接合資料①
19	378	石核	11	チャート	3.2	5.9	4.2	82.7	接合資料①
20	382	剥片	11	チャート	2.2	3.7	0.8	5.1	接合資料①
21	386	剥片	11	チャート	4.9	2.4	1.2	9.7	接合資料①
22	380	剥片	11	チャート	6.3	3.7	2.7	46.2	接合資料①
23	369	剥片	11	チャート	2.7	2.6	1.2	6.8	接合資料②
24	366	石核	11	チャート	3	3.7	2.5	20.4	接合資料②
25	368	剥片	11	チャート	1.05	1.5	0.4	0.6	接合資料②
26	367	剥片	11	チャート	2.9	1.9	0.65	3	接合資料②
27	1145	剥片	11	チャート	2.55	3	0.6	3.4	接合資料③
28	1144	剥片	11	チャート	3.8	2.5	1.1	7.8	接合資料③
29	1150	剥片	11	チャート	1.7	2.2	0.65	1.6	接合資料④
30	1151	剥片	11	チャート	1.7	2.05	0.6	2.1	接合資料④
31	1140	剥片	11	チャート	3.95	3.9	0.95	8.9	
32	364	剥片	11	砂岩	3.2	4.4	1.3	14.2	接合資料⑤
33	363	剥片	11	砂岩	2.8	3.7	1.4	16.4	接合資料⑤
34	371	剥片	11	砂岩	8.55	5.5	3	113.5	接合資料⑥
35	376	剥片	11	砂岩	3.85	3.45	1.4	11.5	接合資料⑥
36	374	剥片	11	砂岩	7.2	9	2	89.5	接合資料⑥
37	1156	剥片	11	砂岩	5.4	4.85	1.25	22.8	接合資料⑥
38	373	剥片	11	砂岩	7.9	5.95	1.85	88.7	接合資料⑥
39	375	剥片	11	砂岩	5.9	7.5	1.6	52.5	接合資料⑥
40	372	剥片	11	砂岩	7	4.4	1	22.8	接合資料⑥
41	1147	剥片	11	頁岩	3.35	3.25	0.8	11.9	接合資料⑦
42	1148	剥片	11	頁岩	2.7	2.9	0.65	4.6	接合資料⑦
43	1161	剥片	11	頁岩	2.1	(2.3)	0.6	(2.8)	接合資料⑧ 右半部欠損
44	1159	剥片	11	頁岩	2.7	2.85	0.8	3.1	接合資料⑧
45	1160	剥片	11	頁岩	(2.4)	(2.35)	0.65	(2.7)	接合資料⑧ 右側面欠損
46	1139	剥片	11	頁岩	6.7	3.3	1.2	15.1	
47	1141	剥片	11	頁岩	5.05	3.6	1.35	12.5	
48	1162	剥片	10	頁岩	7.8	(4.1)	1.6	(42.8)	右側面欠損
49	1152	剥片	11	頁岩	6.85	3.7	1.3	27.5	
50	1135	剥片	11	ホルンフェルス	3.75	5.9	0.9	15.1	
51	1127	剥片	11	チャート	2.5	2.7	0.8	3.9	
52	1167	台形石器	10	チャート	1.55	1.8	0.45	0.8	
53	1157	ナイフ形石器	6	頁岩	(2.75)	1.05	0.5	(1.5)	先端・基部欠損
54	1155	ナイフ形石器	8	頁岩	(4.15)	1.15	0.7	(2.4)	先端・基部欠損
55	1154	縦長剥片	6	流紋岩	(2.7)	1.3	0.5	(1.6)	基部欠損

( )の値は残存値を示す



旧石器出土状況 (SR-1付近)



SR-1



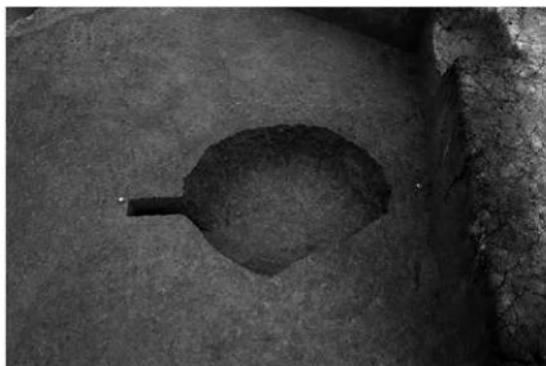
SR-4



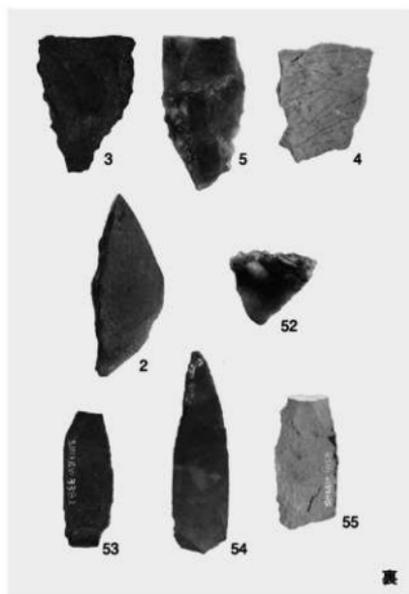
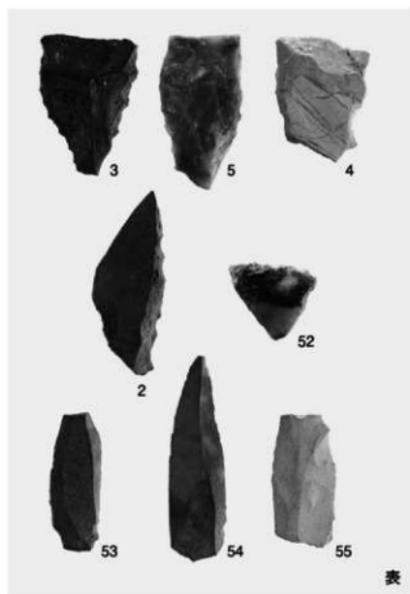
SR-6



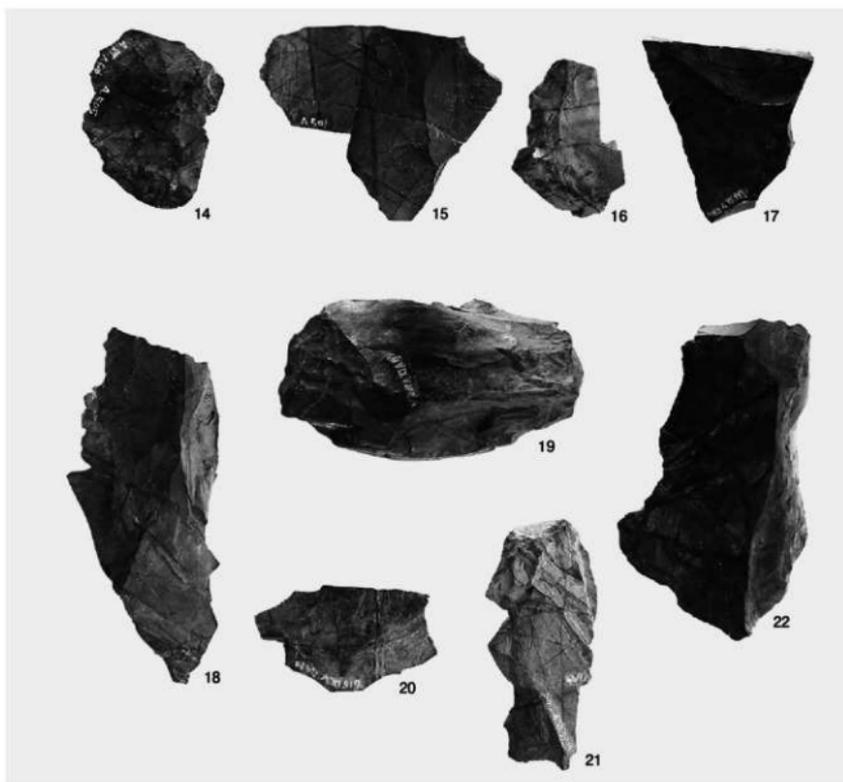
SC-32 土層断面



SC-32 完掘



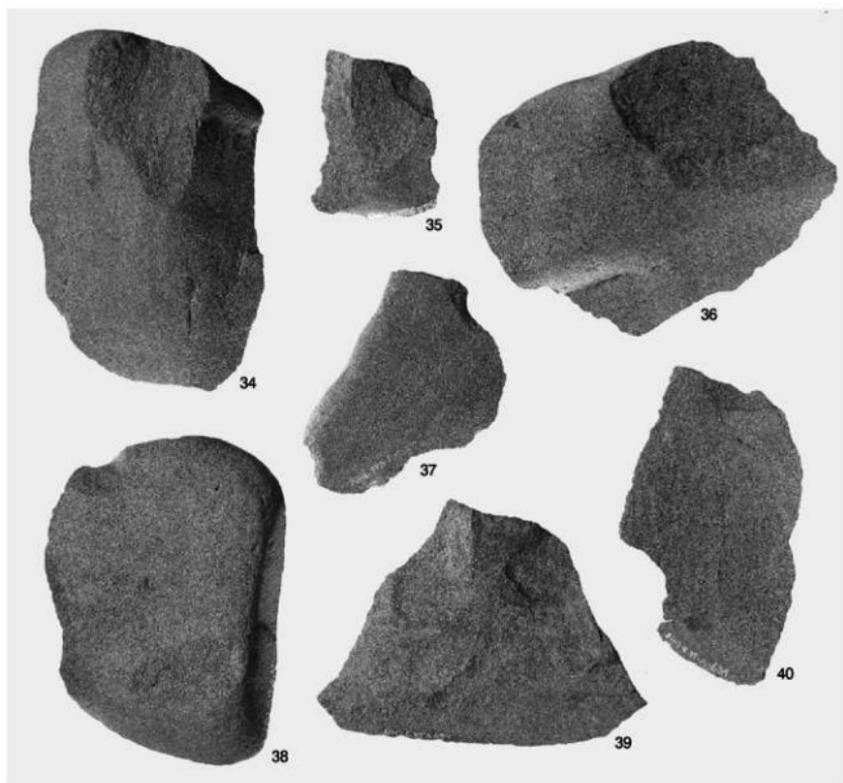
写真図版4 旧石器時代遺物包含層出土石器①



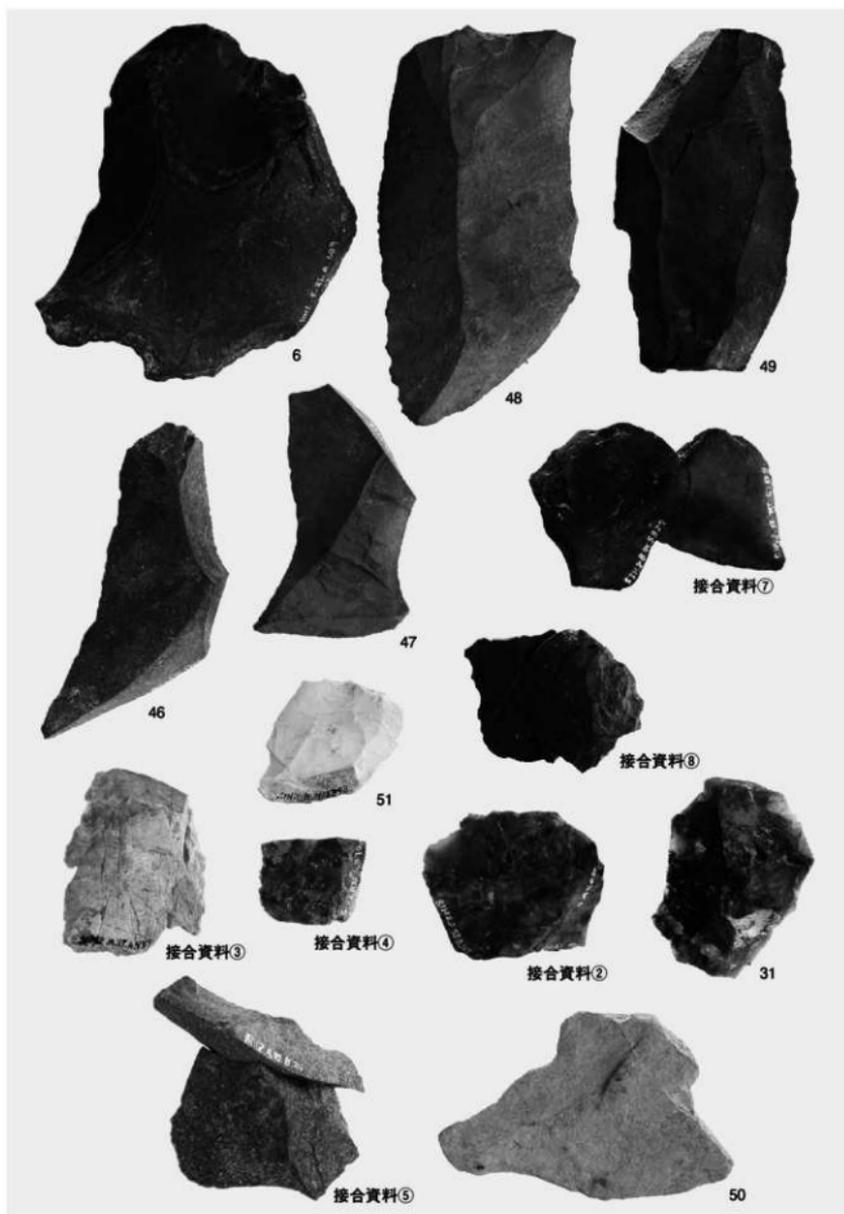
写真図版5 旧石器時代遺物包含層出土石器②



接合資料⑤



写真図版6 旧石器時代遺物包含層出土石器③



写真図版7 旧石器時代遺物包含層出土石器④

## 第3章 縄文時代早期の調査

### 第1節 遺構・遺物の分布状況

前述のとおり、本調査区はもともと北東から南西に下る緩斜面であったと考えられる。当時の地形で高所であったところに土器埋設遺構、石器埋納遺構が検出され、低所に位置するところにその他の遺構が検出されており、その付近には遺物が密集している状況が窺えた。削平状況の影響も多少はあることと思うが、土器埋設遺構の周辺には遺物があまり出土していない。

土器埋設遺構から出土した土器は塞ノ神式土器である。そこで特に塞ノ神式土器の分布状況を見てみると調査区の南部については大きな削平を受けていたり、未掘の部分があったりしたため、遺物の分布があまり顕著ではないが、そのような状況であっても比較的多くの塞ノ神式土器が出土している。調査区の北西部については削平を受けている部分にのみ遺物が出土していないような状況で多量の塞ノ神式土器が出土しており、多くの接合資料が存在している。さらに塞ノ神式土器の分布が密集する中に耳栓や土製品、異形石器、石製品なども出土している。土器埋設遺構よりも編年上古いと考えられている前平式土器～押型文土器等の分布状況を見てみると、調査区全体に分布が見受けられるが、特に密集する箇所はない。

本調査区における土器埋設遺構と塞ノ神式土器片の出土状況は、鹿児島県上野原遺跡で確認された遺物の環状遺棄遺構と同様のものと考えられる。

### 第2節 遺構について

#### 1. 土器埋設遺構 (SZ-1・2) と石器埋納遺構 (SZ-3)

##### 1号土器埋設遺構 (SZ-1) と出土遺物

1号土器埋設遺構は遺物の環状遺棄遺構の内側で検出された。基本層序5層の中心にて塞ノ神式土器の深鉢の口縁部が半周するかのような状況が確認されたため、その周囲を慎重に掘り進めると一部口縁部は欠損しているもののほぼ完全な状態で土器が自立しているような状況が想定され、土器埋設遺構の可能性が高いと考えた。そのため慎重に周囲を掘り進め、頸部までがほぼ完全に検出された段階で一度掘り込みを確認するために精査を行ったが、プランを確認することはできなかった。

土器を残したままの状態での土器の周りの土を半分除去し、土層断面での掘り込みの確認を試みようと考えたが、土器自体のひび割れが著しい状況であったため、土器の中に入っている土を除去し、上方からの写真撮影を行うこととなった。写真撮影後、土器の出土状況を実測し、土器のスタンプを残しながら土器の取り上げを行った。

胴下半部付近から下の部位のスタンプを残したままの状態でもう一度掘り込みの精査を行ったが掘り込みのプランは確認できなかった。最終的には土器のスタンプを断ち割るようにトレンチを設定して土層確認を行ったところ、基本層序8～9層を分断するかのような土層の堆積状況が確認されたため、掘り込みは存在したものと考えている。しかし、9層はもともとクラックが多く確認される層であることは指摘しておく。

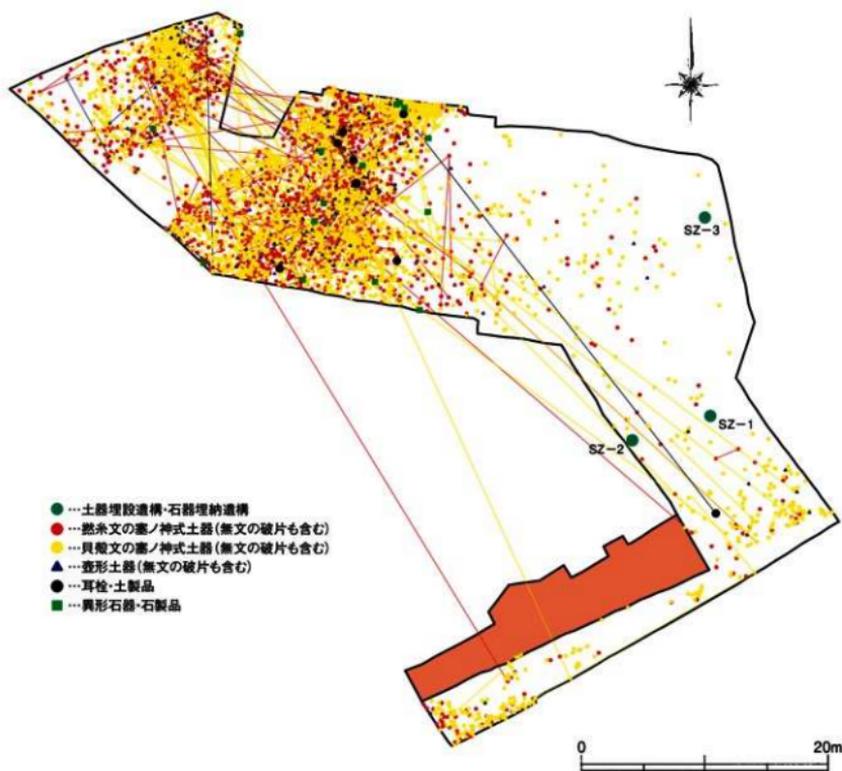
1はほぼ完存する塞ノ神式土器の深鉢である。口径27.8cm、底径13.2cm、器高29.5cmを測る。口縁部はわずかに波状を呈し、端部には刻みを施している。焼成は良好で、外面には縦位に撫糸文を施した後、横位に沈線文を施している。熱を受けていたためか、胴下半部の風化は著しく、文様が不明瞭になっている部分もある。また外面には炭化物が付着しており、その炭化物を放射性炭素年代測定法にかけたところ、7740±40BPという年代が得られた。

##### 2号土器埋設遺構 (SZ-2) と出土遺物

1号土器埋設遺構の西南約6mの位置で検出された。表土を削いで遺構検出の精査を行ったところ、基本層序5層の下部が残存している状況であり、土器の胴部付近が一周する様な状況が見受けられたため、1号土器埋設遺構と同じような状況を想定して調査を行うこととした。

土器の周りを深さ3cmほど慎重に掘り下げたところ、土器の西南側に同一個体の破片が数点散らばっている様子が確認された。それらの土器の位置などを記録し、さらに掘り込みを確認するために精査を行ったが、プランを確認することはできなかった。その後、土器の中に溜まっている土を除去したところ、土器の内側にも同一個体の口縁部片などが入り込んでいる状況が確認された。接合作業の結果、これらの破片はほとんど接合し、円面上では1点の完形品に復元できる深鉢となった。つまり、2号土器埋設遺構は胴部から底部しか残存していなかったが、打ち欠いた





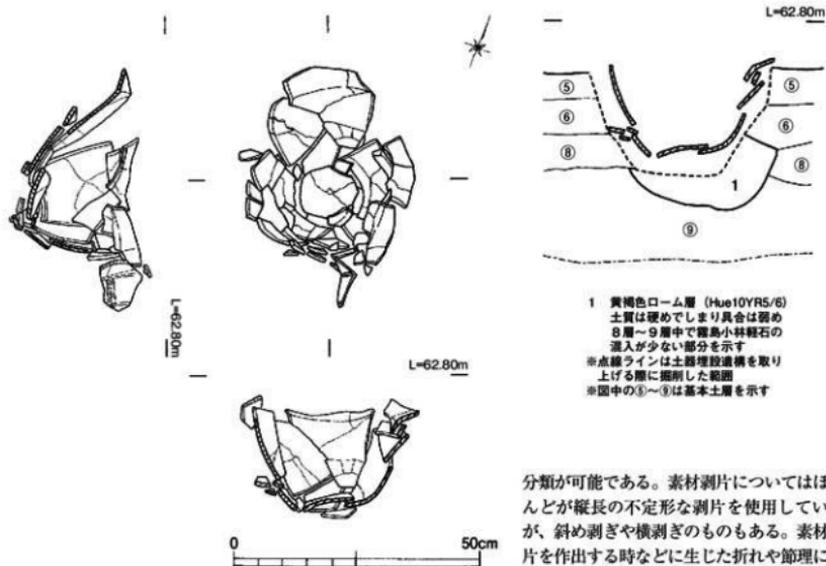
第16図 土器埋設遺構・石器埋納遺構・塞ノ神式土器・耳栓・土製品・異形石器・石製品分布図 (S=1/400)

されたことから縄文早期の遺構として認識することとなった。

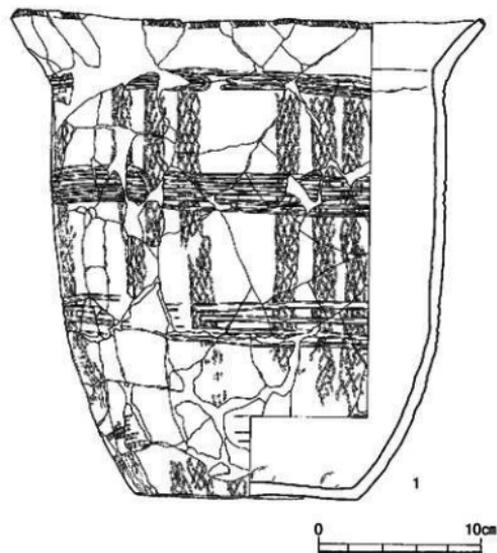
遺物が露出している状況のままに精査を行い、掘り込みを確認したがプランは確認できなかったため、遺物の出土状況を写真撮影と実測によって記録した。その後、遺物が出土した付近にトレンチを設定して掘り込みの土層観察を行うこととした。しかし、トレンチの土層断面では明確に掘り込みを示すような土層の堆積状況を確認することはできなかった。

3～18は異形石器で16点出土している。共通する特徴としては規模が1.3cm～2.2cmと小さな石器であること、ノッチ状の加工が入ること、表面の色調に特徴がみられることが挙げられる。16点の石器の表面の色調の内訳としては白色が8点(3～10)、黒色が4点(11～14)、灰黄色が4点(15～18)となっているが、灰黄色を呈する4点は安山岩製であり、この石器を製作した当初は黒色だった可能性が高いと考えられ、もともとは白色8点(石材内訳:玉髓5点・白色のチャート3点)、黒色8点(石材内訳:頁岩2点・黒色のチャート2点・安山岩4点)のセット関係だったものと推測される。本遺構の石器の器種認定に当たっては該当器種として抉入石器、糸巻き型石器、異形石器などが考えられたが、遺物包含層中の異形石器(稜縁が磨れて、磨滅しているもの)と平面形が似ているものがあること、トロトロ石器と平面形が似ているものがあること、抉りの加工の仕方にばらつきがあることから、本報告書では異形石器として報告することとした。

16点を形状で分類すると、側縁部の抉りの上下で幅がちがうもの(3・5・6・13・14)や、ほぼ同じもの(4・7～10・12)、上下の端部付近にも加工を施してわずかな抉りを作っているもの(11・15・18)が見られるものに



第17図 1号土器埋設遺構出土状況実測図 (S=1/10)



第18図 1号土器埋設遺構出土土器実測図 (S=1/3)

分割が可能である。素材割片についてはほとんどが縦長の不定形な割片を使用しているが、斜め割ぎや横割ぎのものもある。素材割片を作出する時などに生じた折れや節理による割れ面などからも加工を施している。

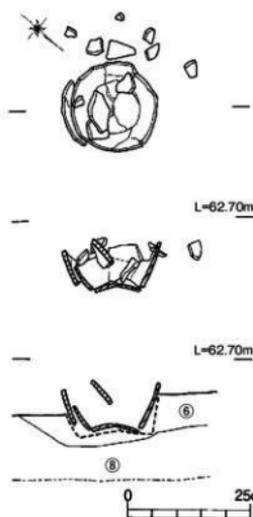
## 2. 集石遺構

集石遺構は調査区の東南部以外の区域で25基検出された。そのほとんどが調査区の北側中央部と南東部に集中しており、遺物が集中する区域から検出されたものが多い。第23図からも集石遺構の密度と遺物包含層中の焼礫の密度は比例することが見てとれる。また集石遺構は掘り込みを持つものと持たないものに大別される。以下に両者の調査方法を記載するが、検出状況などにより調査方法の全ての工程を経ないものがある。

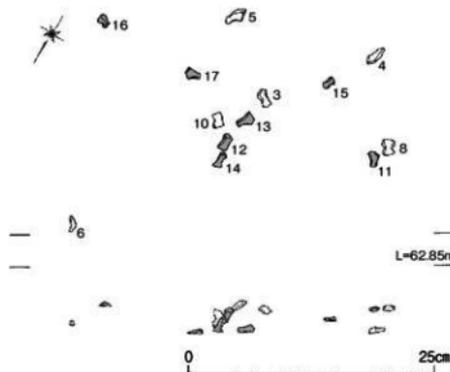
また、特徴的な集石遺構については後述するが、礫の数量や重量、掘り込みの形状や法量、出土遺物などの詳細は第3・4表を参照していただきたい。なお、本調査区の集石遺構は基本層序5～7層にかけて検出されている。

### 掘り込みを持つ集石遺構の調査方法

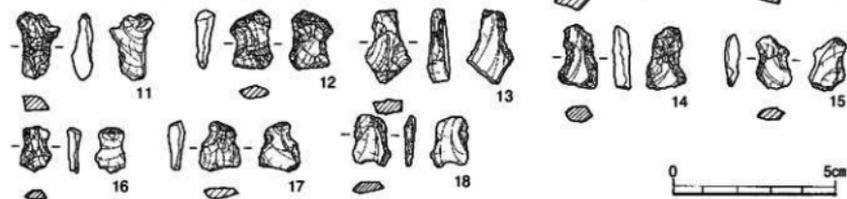
縄文早期の遺物包含層である基本層序5～6層を掘り下げている途中で焼礫が母岩に密集する箇所を精査することによって掘り込みのプランが検出されることにより発見される。焼礫の発見によって検出されるために、検出



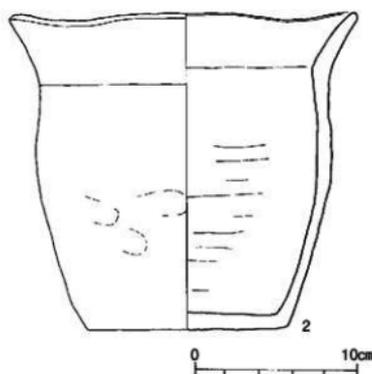
第19図 2号土器埋設遺構出土状況実測図 (S=1/10)



第21図 3号石器埋納遺構出土状況実測図 (S=1/5)

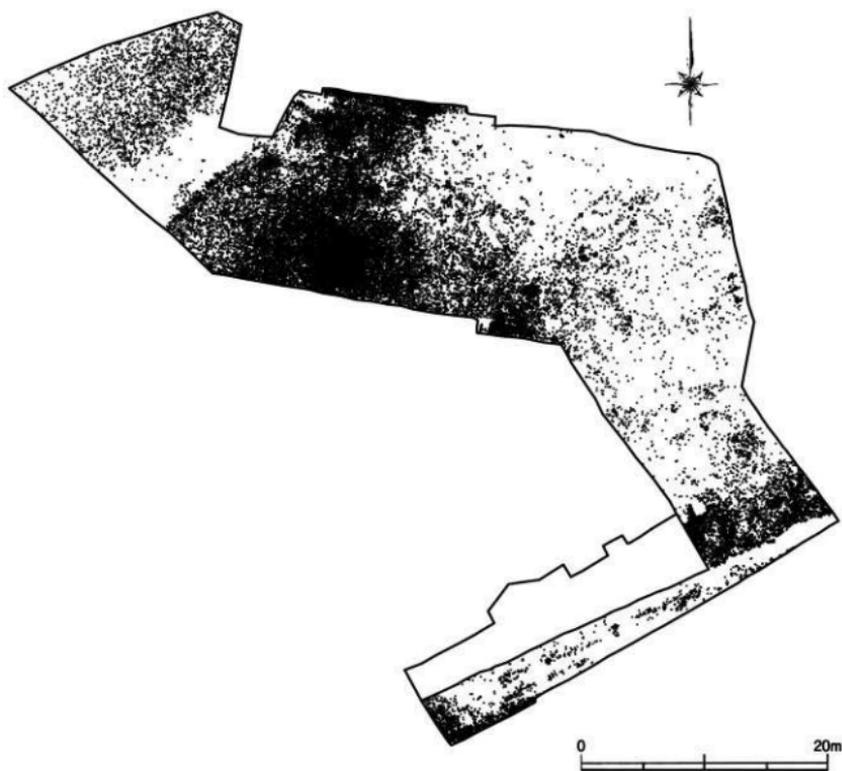


第22図 3号石器埋納遺構出土石器実測図 (S=2/3)



第20図 2号土器埋設遺構出土土器実測図 (S=1/3)

\*点線ラインは土器埋設遺構を取り上げる際に掘削した範囲  
 \*図中の⑥~⑧は基本土層を示す



第23図 縄文時代早期遺物包含層出土礫（散石）分布図（S=1/400）

時にはすでに掘り込みの一部を削平してしまっている可能性は考えられる。掘り込みを持つ集石遺構は本調査区において21基検出されている。

集石遺構の掘り込みの平面プランが明確に検出された段階で土層観察用のあぜを設定し、遺構埋土を除去し掘り込み内部の礫の検出を行う。この時に内部礫が少ない集石遺構については土層断面図を作成するが、内部礫が多く、土層が観察しにくいものについては土層観察用のあぜを取り除いて内部礫のつまっている状況がはっきりと見えるように礫の検出に努めることとした。

礫の検出が終了した段階で上面からの写真撮影を行い、礫の平断面見通し図の作成を行う。見通し図にかかる礫を残した状態で内部礫のつまり方がわかるように内部礫の横方向からの写真撮影を行い、礫の見通し図を作成する。礫の実測が終了したら、底石の検出を試みる。もし底石が検出された場合は底石の写真撮影と平断面見通し図を作成する。底石の記録作業が終わったら、掘り込みの埋土を全て除去して掘り込みの写真撮影と平断面見通し図を作成する。集石遺構の3種類（底石がない場合は2種類）の実測図が全て完成したら、トータルステーションで掘り込みの位置を記録し調査終了となる。

#### 掘り込みを持たない集石遺構の調査方法

掘り込みを持たない集石遺構は、縄文早期の遺物包含層である基本層序5～6層を掘り下げている途中で焼礫が密集するが、その周囲を精査しても掘り込みのプランが確認できなかったものであり、4基検出されている。

第3表 集石遺構計測表

番号	横出層	<sup>14</sup> C年代 (年BP)	使用磔				掘込み				底石	
			礎分布範囲 <長軸×短軸> (m)	総礎数 (個)	総重量 (kg)	礎1個 あたりの 重 (kg)	有無	断面形状	長軸×短軸 (m)	深さ (m)	有無	重量 (kg)
SI-1	6層上位		0.98 × 0.87	69	12.9	0.19	有	圓状	0.93 × 0.9	0.2	無	
SI-6	6層上位		1.87 × 0.94	157	8.1	0.05	無				無	
SI-7	6層上位		2 × 1.41	135	10.4	0.08	有	圓状	1.06 × 0.72	0.13	無	
SI-9	6層上位		0.58 × 0.48	33	5.1	0.15	無				無	
SI-10	6層上位	7770±50	1.42 × 1.23	245	17.11	0.07	有	圓状	1.5 × 1.35	0.19	無	
SI-11	5層上位	8980±50	2 × 1.7	2015	234.4	0.12	有	圓状	1.94 × 1.83	0.38	有	23.3
SI-12	6層下位	8580±50	1.62 × 1.12	120	9.7	0.08	有	圓状	1.36 × 1.25	2	無	
SI-13-14		8450±50	2.46 × 2.11	1205	104.7	0.09	有	圓状	2.28 × 2.03	0.23	有	34.4
SI-15	5層下位	8750±50	2.2 × 1.83	509	135.5	0.27	有	圓状	2.08 × 1.88	0.27	無	
SI-16	5層下位	7710±50	0.88 × 0.87	117	11.7	0.1	有	圓状	0.8 × 0.7	0.11	無	
SI-17	6層上位		0.69 × 0.58	74	11	0.15	有	圓状	0.74 × 0.64	0.11	無	
SI-18			1.2 × 0.72	34	17.5	0.51	有	圓状	0.69 × 0.6	0.19	無	
SI-19		9260±50	1.14 × 0.76	88	79	0.9	有	圓状	1.47 × 1.05	0.23	無	
SI-20	6層中位	7520±50	0.57 × 0.49	44	1.3	0.03	有	圓状	0.8 × 0.66	0.12	無	
SI-21	6層中位	8610±50	1.22 × 1.14	265	15.7	0.06	有	圓状	0.79 × 0.55	0.12	無	
SI-22	6層中位		1.29 × 1.16	86	10	0.12	無				無	
SI-23	6層上位	7390±50	0.83 × 0.72	136	6.6	0.05	有	ボウル状	0.92 × 0.91	0.32	無	
SI-24	6層中位		0.64 × 0.53	49	6.5	0.13	無				無	
SI-25			0.59 × 0.5	28	11	0.39	有	圓状	0.56 × 0.5	0.12	無	
SI-26		8510±50	2.13 × 2.03	1475	110.1	0.07	有	圓状	1.9 × 1.76	0.36	有	36.7
SI-27			1.72 × 1	470	31.9	0.07	有	ボウル状	1.32 × 1.2	0.23	無	
SI-29		8410±50	1.3 × 0.66	281	42.72	0.15	有	ボウル状	1.04 × 0.75	0.33	無	
SI-30	6層下位		0.64 × 0.5	61	17.2	0.28	有	ボウル状	0.8 × 0.67	0.29	無	
SI-31	6層上位		1.11 × 0.94	157	16.3	0.1	有	ボウル状	0.97 × 0.95	0.4	無	
SI-32	6層上位	7930±50	1.01 × 0.73	73	9.4	0.13	有	圓状	1.04 × 0.75	0.16	無	

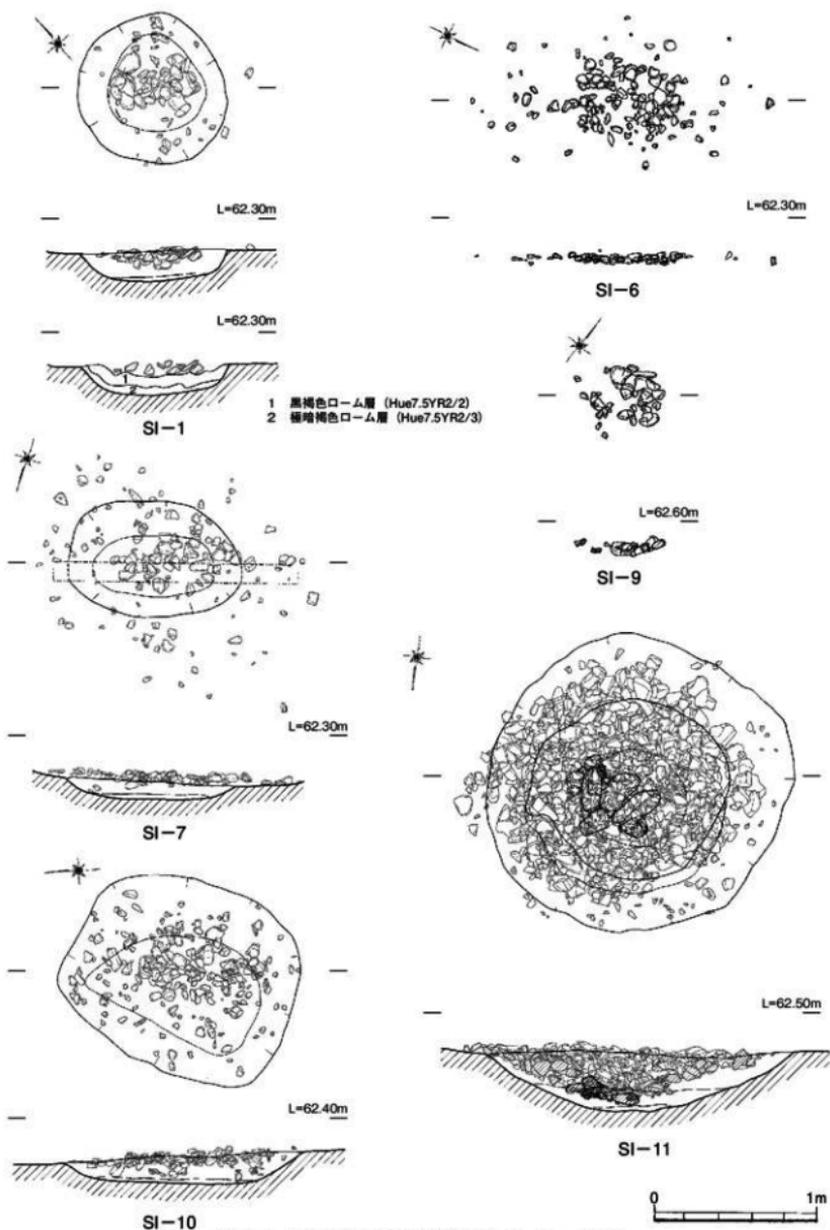
しかし、密集する磔の断面形状を観察すると真ん中付近がくぼむようなもの（SI-9・22）もあり、もともと掘り込みは存在したものの、調査時に検出できなかった可能性があるものもこれに含まれている。

調査の手順としては焼磔の密集する範囲の磔を検出し、写真撮影を行う。次に磔の平面見通し図を作成し、磔をすべて取り上げた後にもう一度掘り込み確認のための精査を行う。この精査でも掘り込みが確認されなかった場合は、磔を実測した基準線に沿ってトレンチを設定し、土層断面での掘り込みの確認を再度行う。掘り込みの痕跡が確認できなかったら実測の基準点をトータルステーションで記録し、調査終了となる。

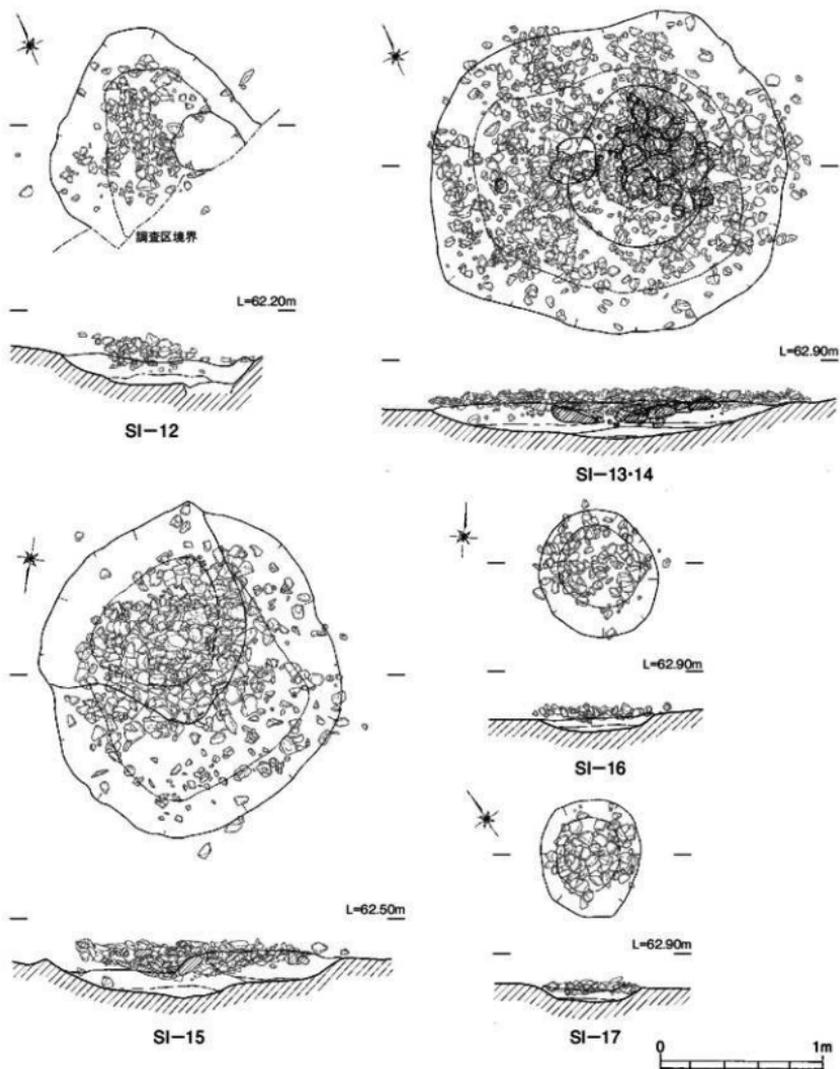
SI-11は本調査区で検出されたものの中で一番規模の大きいものである。掘り込みの床面には大振りの磔7点とその磔の間などに小磔が85点挟まっているような状況の底石が検出された。構成磔を除去していく際に出土した炭化物を放射性炭素年代測定法によって分析したところ8980±50BPの年代が得られた。

SI-13・14は検出した際に磔の集中する箇所が2つあると見えたため、当初2基の集石遺構が切りあっているものと想定されたが、結局不整形円形の掘り込みを持った1基の集石遺構であるということがわかった。掘り込みの床面には大振りの磔18点が皿状に敷かれ、その隙間などに小磔47点が挟まっているような状況の底石が検出された。構成磔を除去していく際に出土した炭化物を放射性炭素年代測定法によって分析したところ8450±50BPの年代が得られた。

SI-18は近世～近代の溝状遺構によって削平を受けているため上部構造がわからなくなっている。集石遺構の計測表では上部構造が不明瞭だったために「底石無」と記載されているが、実際は底石部分しか残存していないような状況の集石遺構の可能性も考えられる。なお、SI-12・19・25・30・31についても本遺構と同様に削平を受けているために、上部構造が不明瞭となっている。



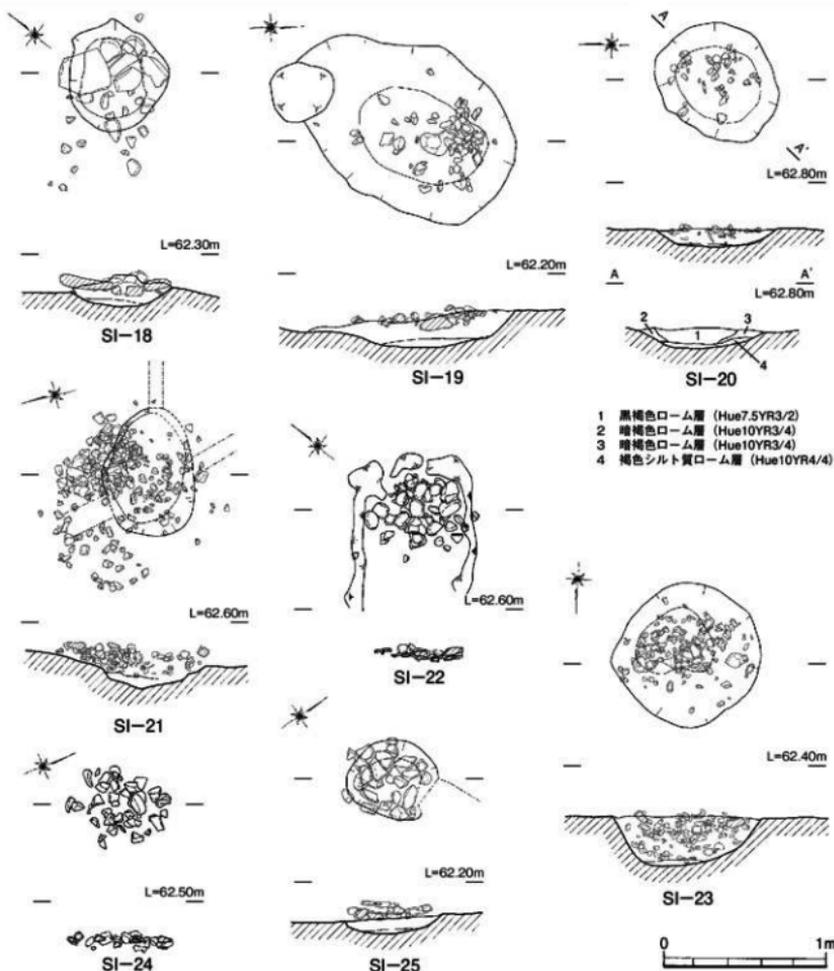
第24図 縄文時代早期集石遺構実測図① (S=1/30)



第25図 縄文時代早期集石遺構実測図② (S=1/30)

SI-23は掘り込みがボウル状でやや深く礫もあまり密集していない。特に多くの遺物が混入している点は他の集石遺構と比べると異質であり、集石遺構以外の遺構の可能性も考えられる。埋土中から出土した炭化物を放射性炭素年代測定法によって分析したところ7390±50BPの年代が得られた。

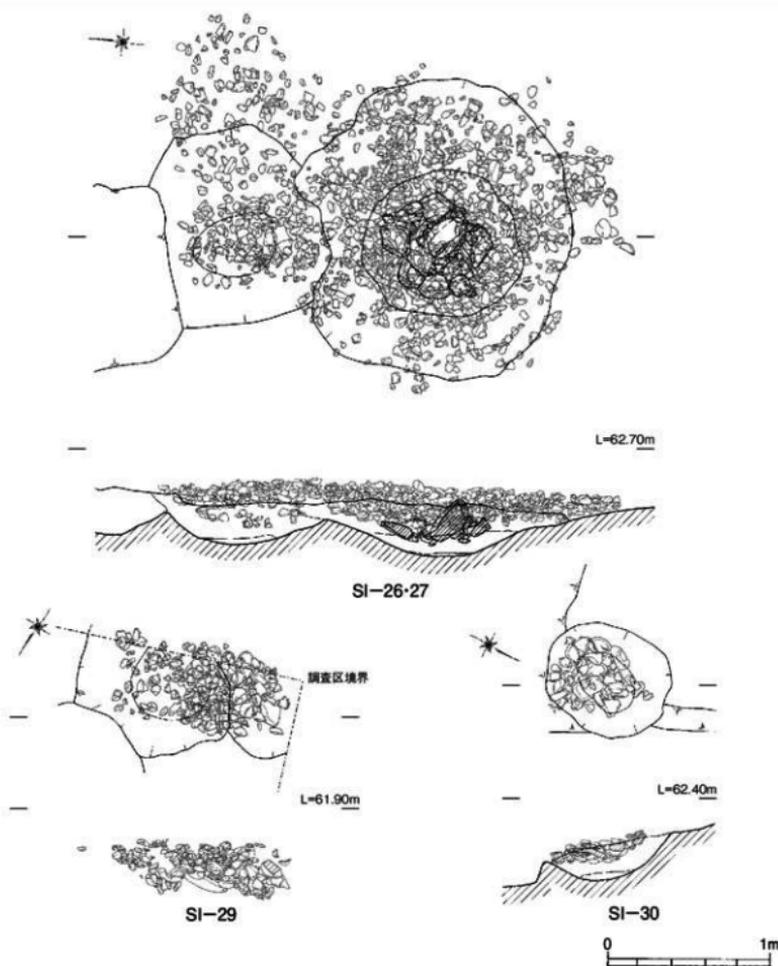
SI-26・27は2基の集石遺構として報告を行っているが、平面図を見ると円形に礫がまとまる箇所が3つあるよ



第26図 縄文時代早期集石遺構実測図③ (S=1/30)

うにも見えるため3基の集石遺構が切りあっている可能性も考えられる。SI-26・27の新旧関係は構成礫の重なり方を確認すると、SI-26がSI-27を切っている状況が窺える。SI-26の掘り込みの床面には9個の大振りの礫が円形に並べられ、その内側や隙間に小礫42点が挟まっているような底石が検出された。埋土中から出土した炭化物を放射性炭素年代測定法によって分析したところ8510±50BPの年代が得られた。

SI-29はSC-29の調査中に検出された。精査の結果SC-29を切っていることが判明している。南側が調査区境界にかかっていたため、完全に検出することができなかった。構成礫を除去していく際に出土した炭化物を放射性炭素年代測定法によって分析したところ8410±50BPの年代が得られた。

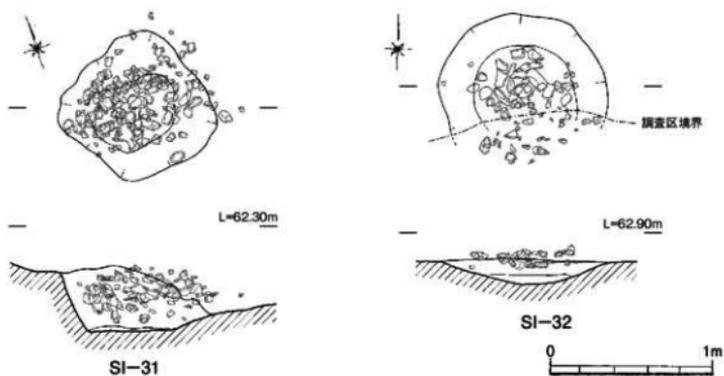


第27図 縄文時代早期集石遺構実測図④ (S=1/30)

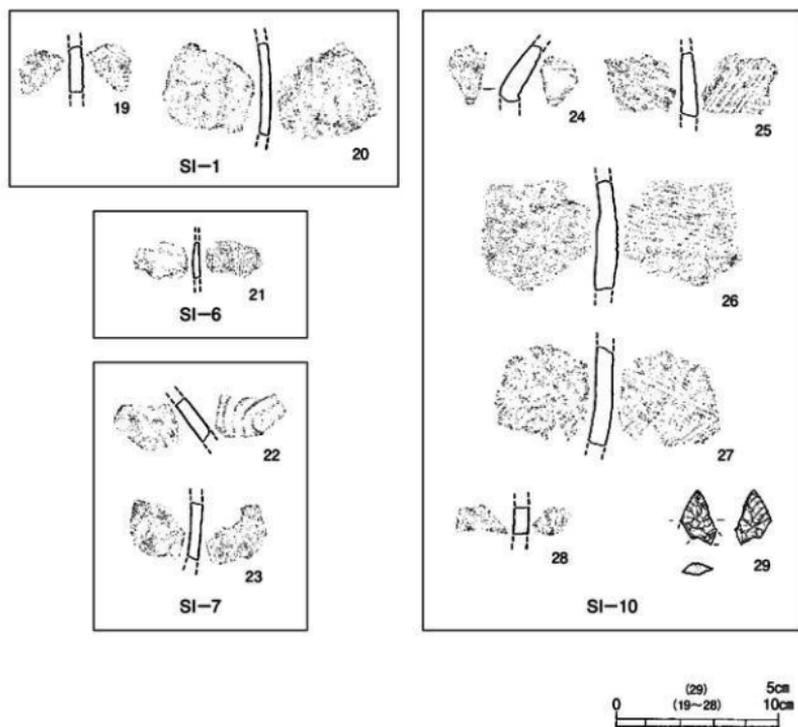
### 3. 炉穴

炉穴は調査区の北東部に2基と南部に4基（共に掘り込みを数える）検出された。燃焼部が複数あるものや単独のものがある。本調査区ではブリッジが残存している珍しい炉穴が2基も検出されている。炉穴の検出層位は6層の下部から8層にかけて検出されている。以下に各炉穴についての報告を行うが、出土遺物については第4表を参照していただきたい。

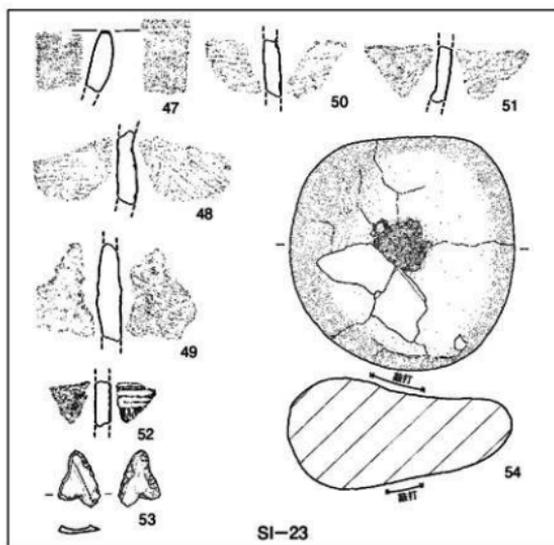
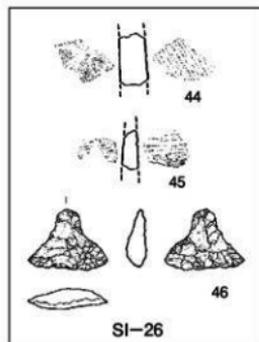
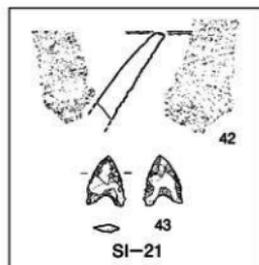
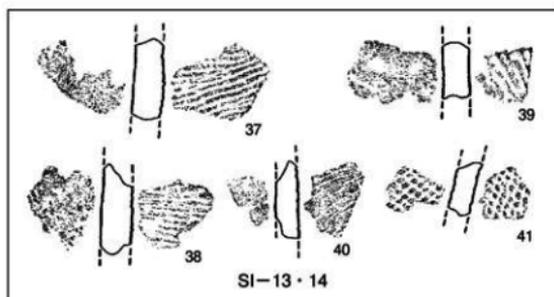
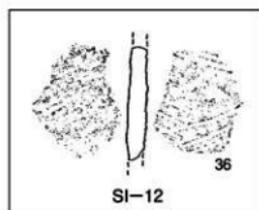
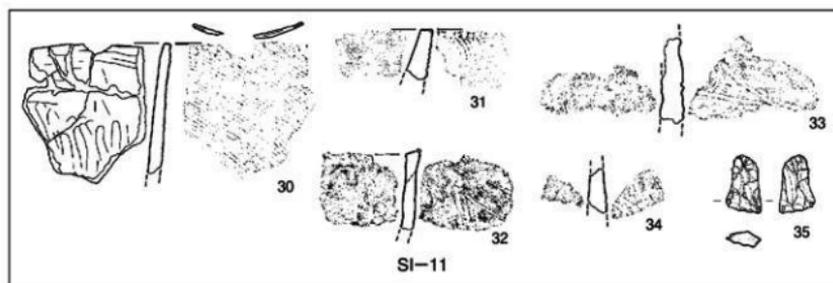
SC-4は平面形がY字のようなプランで床面に4箇所焼土が確認された。東側の掘り込み部には扁平な砂岩礫が床面からやや浮いた状態で出土している。燃焼部は足場に比べてやや下がっている。もともと北側に単独で作られ



第28図 縄文時代早期集石遺構実測図⑤ (S=1/30)



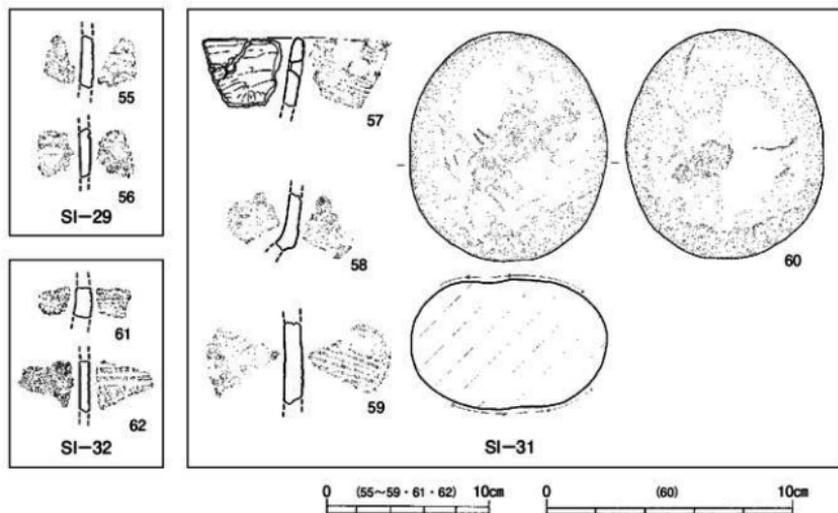
第29図 縄文時代早期集石遺構内出土物実測図① (土器 S=1/3・石器 S=2/3)



(35・43・46・53) 5cm  
 (35・43・46・53以外) 10cm

0 (54) 10cm

第30図 縄文時代早期集石遺構内出土遺物実測図② (土器 S=1/3・石器 S=1/2・2/3)



第31図 縄文時代早期集石遺構内出土遺物実測図③ (土器 S=1/3・石器 S=1/2)

たものが東側と南側に拡張されたものと考えられる。各掘り込みの規模は2～2.3m×1m程度で、検出面からの深さは0.7～0.95mを測る。埋土中より前平式土器片・別府原式土器片と共に磨製石鏃が出土している点は注目される。埋土中の炭化物を放射性炭素年代測定法によって分析したところ9170±40BPの年代が得られた。

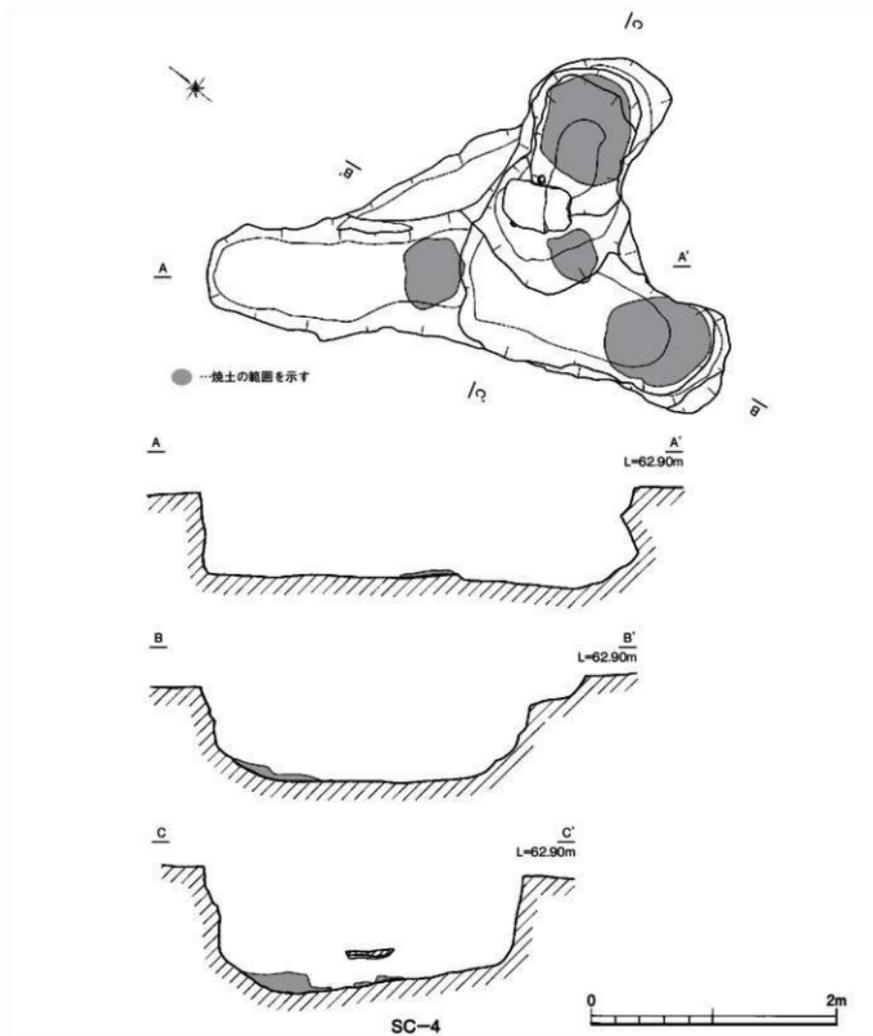
SC-22はSC-4の北側に位置する。平面形は北側がやや膨れている1.55m×0.58mの不整長楕円形を呈し、検出面からの深さは0.28mを測る。床面には焼土が見られなかったが、埋土中に焼土や炭化物が多く混入していたため、炉穴と判断した。

SC-26・27は当初は円形の土坑と長方形の土坑と2基の土坑があるものと認識していた。検出写真撮影後、堀下げを行ったところ、二つの穴がつながってその壁面に焼土が確認されたことからブリッジの残存する炉穴として認識することができた。南側は調査区の境界にかかるためはっきりとしないが、規模は2.56+a m×0.95mで検出面からの深さは0.49mを測る。床面には焼土は確認されなかった。埋土中の炭化物を放射性炭素年代測定法によって分析したところ9210±40BPの年代が得られた。

SC-29は前述のとおり南側をSI-29に切られて検出された。南北方向に設定された炉穴の北側の端部付近から斜面を登るように北西方向へと燃焼部を拡張している様子が平面形状から窺うことができる。北西方向に拡張された部分のブリッジは残存していた。床面からは焼土が検出されなかったが、埋土中に多量の焼土塊や炭化物粒の混入が見られたことや土坑の形状から炉穴と判断した。規模は南側の掘り込みが1.88m×0.99mで深さは0.64mを測る。北西方向の掘り込みは1.72m×0.69mで検出面からの深さは0.59mを測る。埋土中の炭化物を放射性炭素年代測定法によって分析したところ9180±40BPの年代が得られた。

SC-33はYの字のような平面プランを呈するが、南側は調査区の境界にかかるためはっきりとしない。調査区の境界にかかる部分の床面からは焼土が検出されている。埋土中からは焼土や炭化物が多く含まれており、斜面を登るように北西側と北東側に燃焼部を拡張した炉穴であると考えられるが、拡張部の床面からは焼土は検出されなかった。規模は北西部が1.37m×0.63mで深さは0.35m、北東部が0.92m×0.62mで検出面からの深さは0.18m、焼土が確認された部分は1.2+a m×0.82mで深さは調査区境界にかかる土層観察から0.69mを測り、基本層序6層中より掘り込まれていたことがわかる。埋土中の炭化物を放射性炭素年代測定法によって分析したところ9140±40BPの年代が得られた。

SC-34は南側が調査区境界にかかって全体の形状はほとんどわからないが、床面に焼土が検出され、埋土中にも多くの焼土と炭化物が含まれていたことから、炉穴の煙道部であると考えられる。現状では0.45m×0.85mで検出面



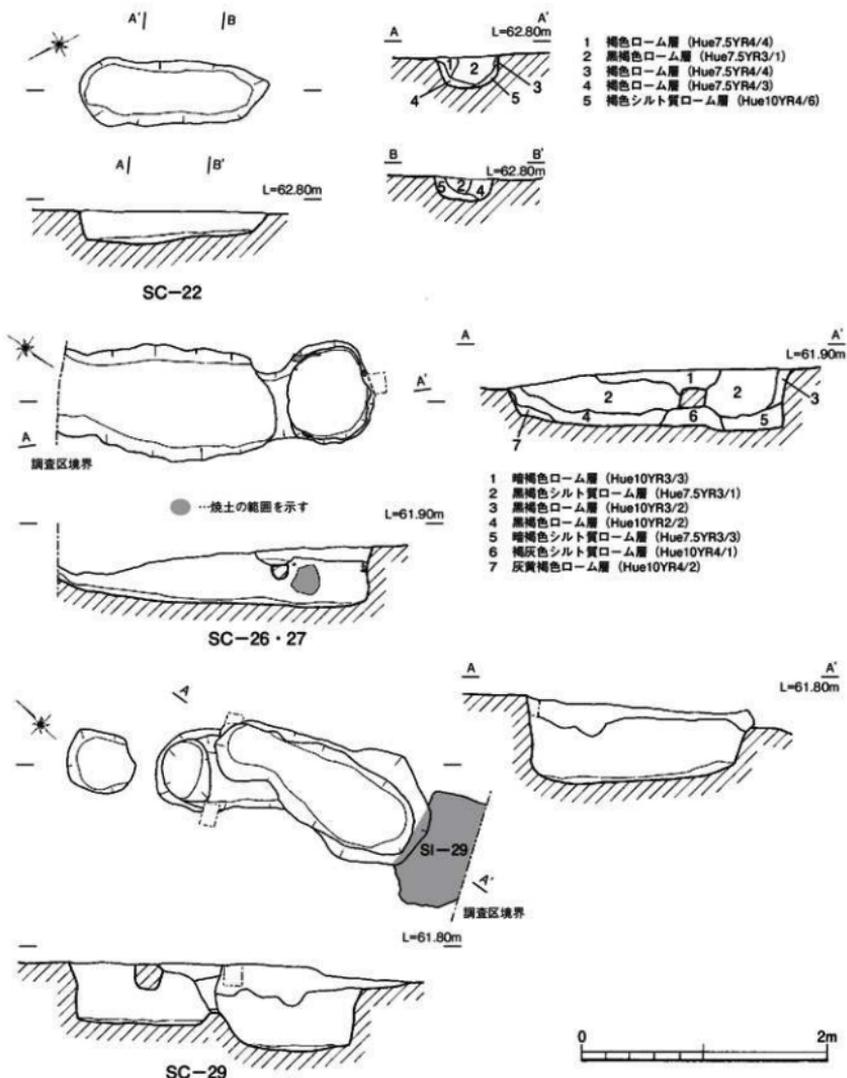
第32図 縄文時代早期炉穴実測図① (S=1/40)

からの深さは0.76mを測る。

#### 4. 陥し穴状遺構

陥し穴状遺構は調査区の北部から北西部にかけて2基検出された。

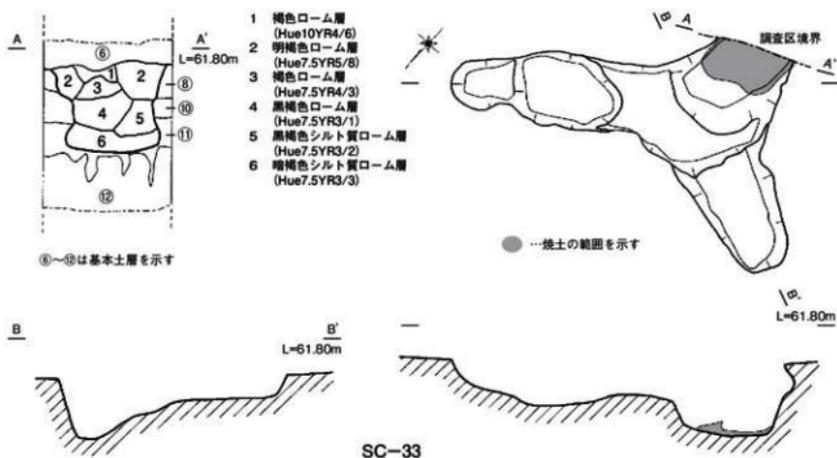
SC-16は基本層序6層の下部にて検出した。検出面での規模は2.04m×1.26mで深さは1.72mを測る。本遺構の壁



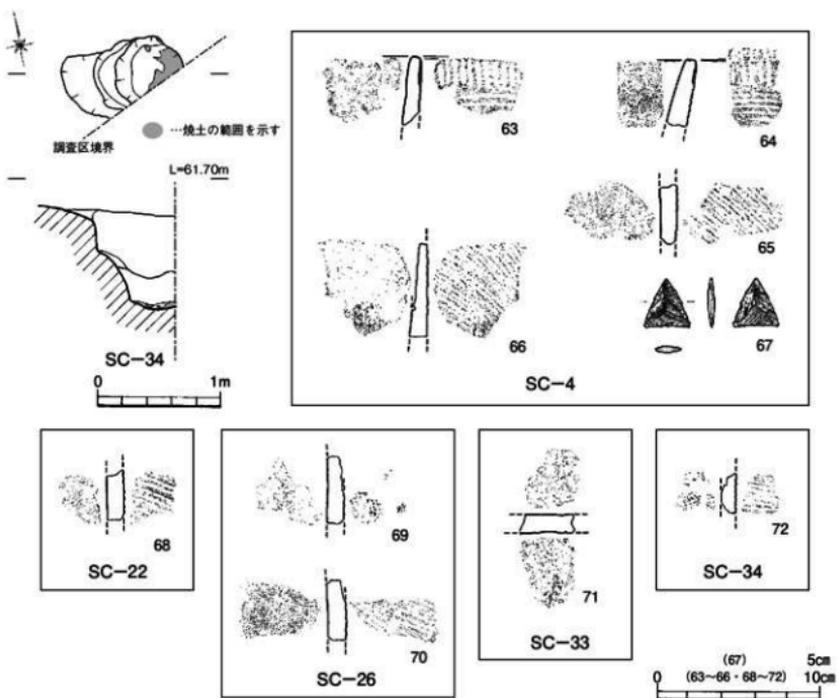
第33図 縄文時代早期炉穴実測図② (S=1/40)

面の北側と南側に一箇所ずつ階段状に掘り込んでいる部分が確認された。また床面には逆茂木の痕跡と考えられる小穴が2基検出されている。

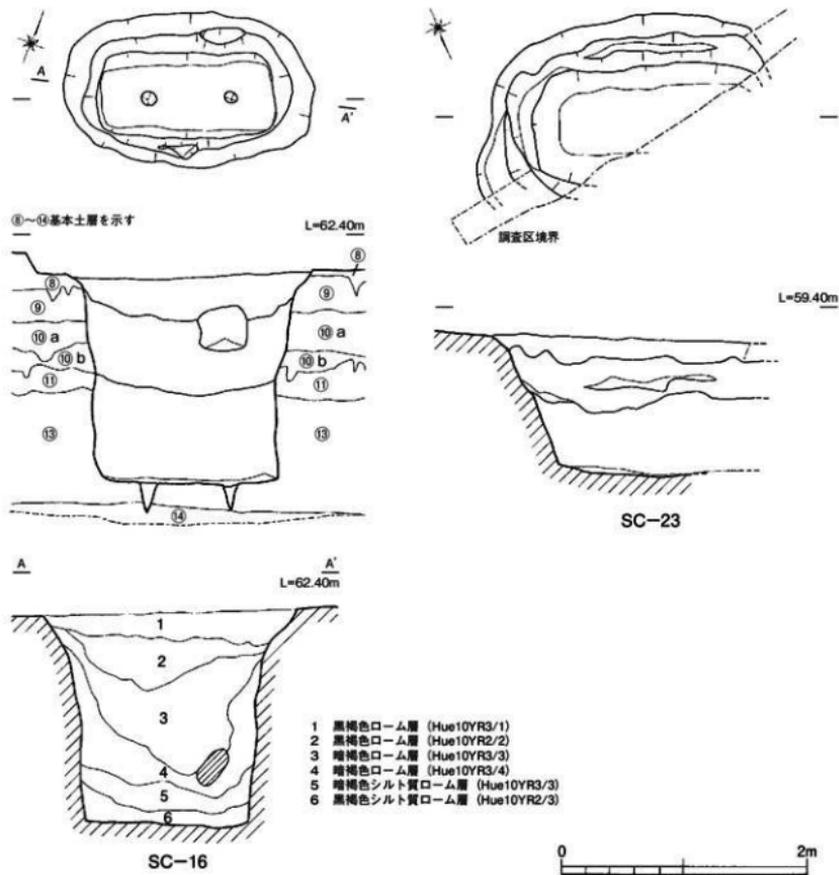
SC-23はSC-16より約24m北西側の調査区の境界線にかかる位置で検出された。まず基本層序6層の下部あたりで黒褐色のシミ状の痕跡を確認したが、平面プランがはっきりしなかったため調査区の境界線に近いトレンチを設定



第34図 縄文時代早期炉穴実測図③ (S=1/40)



第35図 縄文時代早期炉穴内出土遺物実測図 (土器 S=1/3・石器 2/3)



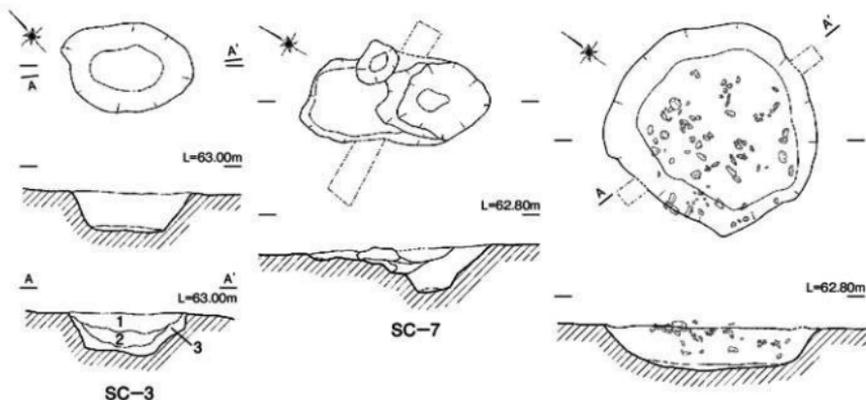
第36図 縄文時代早期陥し穴状遺構実測図 (S=1/40)

し、部分的に掘り下げを行い8層付近にかかるところでプランをはっきりと確認することができた。本遺構の北西部は調査区の外側に及ぶため規模ははっきりとしないが、 $21 + \alpha \text{m} \times 1.35 + \alpha \text{m}$ で検出面からの深さは1.11mを測る。遺物は出土していない。床面には逆茂木の痕跡と考えられるような小穴は検出されなかったが、上場が広く壁面は斜めに下がって、下場が狭くなる形状や規模から陥し穴状遺構と判断をした。

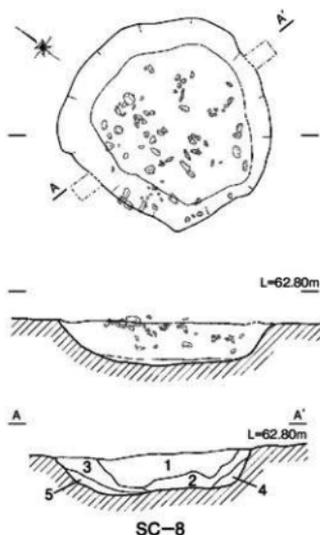
## 5. 土坑

土坑は調査区の中央から東側で8基検出されている。検出された層位や規模、埋土状況など様々である。なお、出土物については第4表を参照していただきたい。

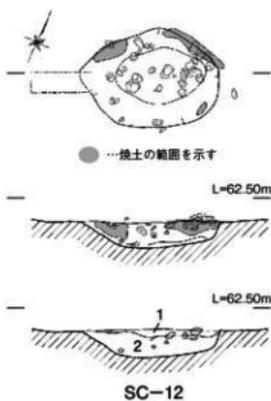
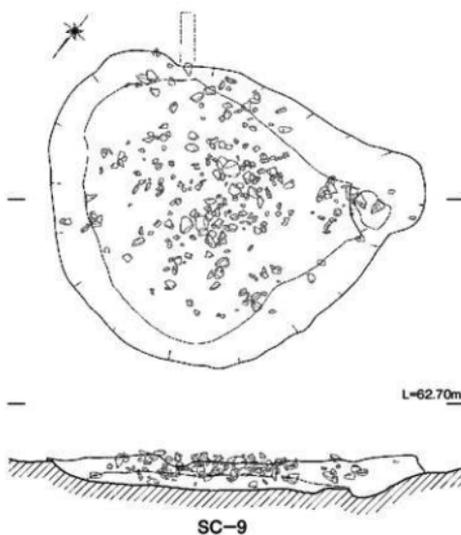
SC-3は基本層序6層上～中部で検出された。平面プランは $\pm 0.85 \text{m} \times 0.57 \text{m}$ の不整楕円形プランで、検出面からの深さは0.25mを測る。埋土中には炭化物を多く含んでいた。



- 1 黒色ローム層 (Hue7.5YR1.7/1)
- 2 黒褐色ローム層 (Hue10YR2/2)
- 3 暗褐色砂質ローム層 (Hue10YR3/3)



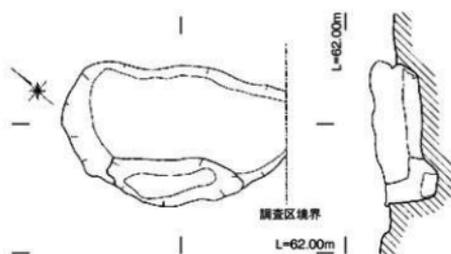
- 1 褐色ローム層 (Hue10YR4/6)
- 2 黄褐色ローム層 (Hue10YR5/6)
- 3 褐色ローム層 (Hue10YR4/6)
- 4 黄褐色ローム層 (Hue10YR5/6)
- 5 黄褐色ローム層 (Hue10YR5/8)



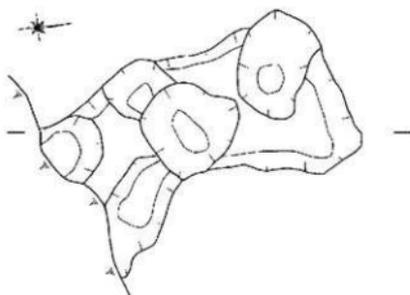
- 1 にぶい赤褐色ローム層 (Hue5YR4/4)
- 2 暗褐色ローム層 (Hue7.5YR3/4)



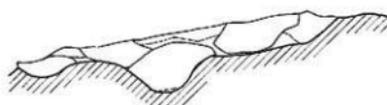
第37図 縄文時代早期土坑実測図① (S=1/30)



SC-21

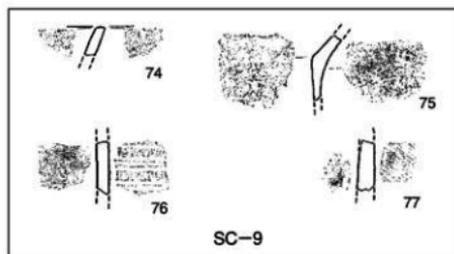


L=62.50m



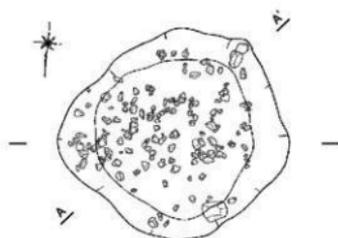
SC-30

第38図 縄文時代早期土坑実測図② (S=1/30)

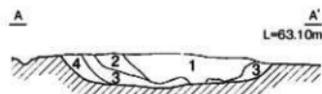


SC-9

第39図 縄文時代早期土坑内出土遺物実測図 (S=1/3)

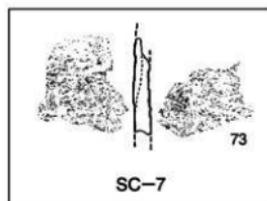


L=63.10m

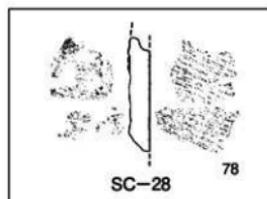


SC-28

- 1 暗褐色砂質口-△層 (Hue10YR3/3)
- 2 暗褐色砂質口-△層 (Hue10YR3/4)
- 3 褐色砂質口-△層 (Hue10YR4/6)
- 4 黄褐色砂質口-△層 (Hue10YR5/6)



SC-7



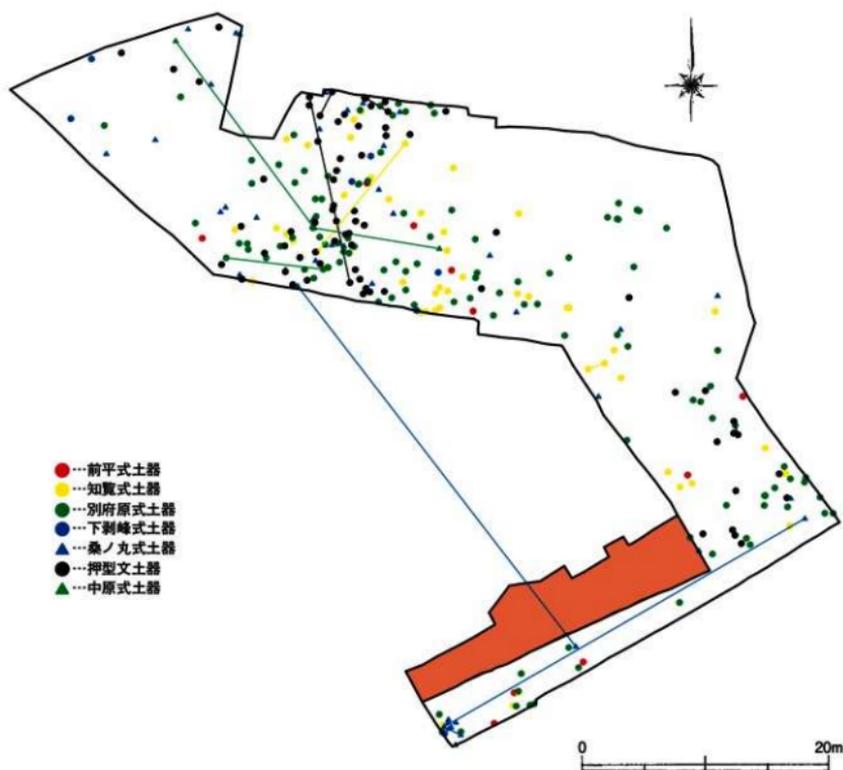
SC-28



第4表 縄文時代早期遺構内出土遺物一覽表

遺構番号	遺構分類	出土遺物 (カッコ内の番号は遺物の掲載番号を示す)	
SI-1	集石遺構	燧石1点(19) 塞A式6点(20)	
SI-6		塞A式5点(21) 姫OB剥・砕3点 頁割・片2点	
SI-7		塞A式2点(23) 塞B式3点 壺1点(22) チャ割・砕1点 姫OB剥・砕3点 頁割・砕1点	
SI-9		塞A式1点 チャ割・砕1点 頁割・砕1点 砂岩製石1点	
SI-10		塞A式11点(24・28) 塞B式9点(25~27) チャ鏝1点(石鏝11類) チャ割・砕5点 姫OB鏝1点(石鏝9類) 姫OB剥・砕14点 桑OB鏝(29) 桑OB剥・砕1点	
SI-11		別式1点(30) 押文1点 塞A式2点(31・34) 塞B式2点(32・33) チャ石鏝(未製品:35) チャ割・砕2点 姫OB剥・砕1点 頁割・砕1点	
SI-12		塞A式11点 塞B式1点(36) 壺7点 姫OB剥・砕2点 頁割・砕1点	
SI-13		別式1点(39) 押文5点(37・38・41) 塞B式4点(40) 姫OB剥・砕10点	
SI-15		塞B式3点 チャ鏝1点(石鏝4類) チャ割・砕4点 姫OB剥・砕1点	
SI-16		不明土器片1点 チャ割・砕4点 姫OB剥・砕2点 姫OB石核1点 桑OB剥・砕2点	
SI-20		頁割・砕1点	
SI-21		塞B式2点(42) チャ割・砕1点 姫OB鏝1点(石鏝9類:43) 姫OB剥・砕1点 頁割・砕1点	
SI-22		塞B式1点 不明土器片1点 姫OB鏝1点(欠損品) 姫OB剥・砕7点	
SI-23		燧石1点 塞A式3点(47・52) 塞B式17点(48~51) チャ鏝1点 姫OB鏝1点(石鏝9類:53) 姫OB剥・砕10点 安岩割・砕1点 砂岩製燧石(54)	
SI-26		塞A式1点 壺3点 チャ割・砕2点 チャ鏝1点 姫OB剥・砕3点	
SI-29		塞B式3点(55・56) 不明土器片3点 チャ鏝1点	
SI-31		別式3点(57・59) 下剥式1点(58) 塞B式1点 砂岩製燧石(60)	
SI-32		塞A式1点(62) 塞B式2点(61) 壺1点 チャ鏝1点 姫OB剥・砕14点 桑OB剥・砕1点 頁割・砕1点 砂割・砕1点 石英剥片1点	
SC-4		伊穴	前式2点(63・64) 別式8点(65・66) 不明土器片8点 磨製石鏝1点(67) チャ割・砕11点 桑OB剥・砕1点 頁割・砕4点 砂割・砕1点
SC-22			別式1点(68)
SC-26			別式3点(69・70) 頁割・砕3点
SC-29			不明土器片1点
SC-33			塞B式?1点(71)
SC-34			別式2点(72)
SC-16		竈穴	不明土器片1点 チャ割・砕1点
SC-7		土坑	塞A式1点(73)
SC-9			別式1点(77) 押文(74) 塞A式17点(75・76) 壺4点 不明土器片4点 チャ割・砕1点 頁割・砕1点
SC-12			姫OB剥・砕3点 桑OB剥・砕2点
SC-21			別式1点 姫OB剥・砕1点
SC-28			別式3点(78) 姫OB剥・砕1点
SC-30			塞B式1点 姫OB剥・砕2点

※塞A式→(塞ノ神A式土器片)、塞B式→(塞ノ神B式土器片)、壺→(壺型土器片)、前式→(前平式土器片)  
 下剥式→(下剥峰式土器片)、桑式→(桑ノ丸式土器片)、別式→(別存原式土器片)、押文→(押型文土器片)  
 姫OB鏝→(姫島産黒曜石製石鏝)、姫OB剥・砕→(姫島産黒曜石製剥片・砕片)  
 姫OB石核→(姫島産黒曜石製石核)  
 桑OB鏝→(桑ノ木津留産黒曜石製石鏝)、桑OB剥・砕→(桑ノ木津留産黒曜石製剥片・砕片)  
 チャ鏝→(チャート製石鏝)、チャ割・砕→(チャート製剥片・砕片)、チャ鏝→(チャート原鏝)  
 安岩→(安山岩製剥片・砕片)、頁割・砕→(頁岩製剥片・砕片)、砂割・砕→(砂岩製剥片・砕片)



第40図 縄文時代早期遺物包含層出土土器（塞ノ神式土器以外）分布図（S=1/400）

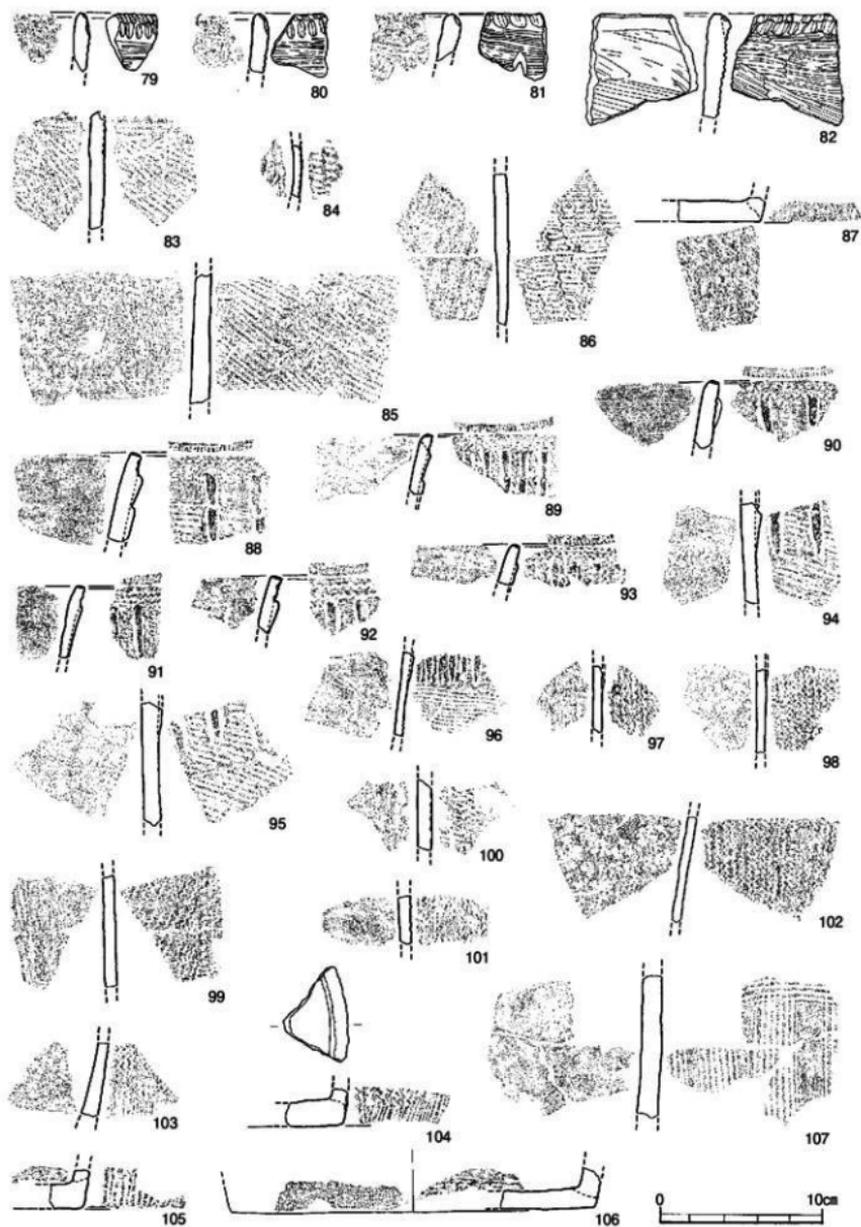
SC-7は基本層序8層上部にて検出された。平面プランは1.11m×0.62mの不整楕円形で、南側を一段深く掘り込んでおり、検出面からの深さはその最深部で0.26m、北側の浅い部分では0.06mを測る。また東側には柱穴状の堀込みが確認されている。

SC-8は基本層序8層上部にて礫が密集し、不明瞭ながら暗褐色のシミ状の痕跡が見られることから検出された。平面プランは1.26m×1.2mの不整円形で、検出面からの深さは0.26mを測る。埋土中から礫94点が出土した。礫の総重量は9kgを量る。

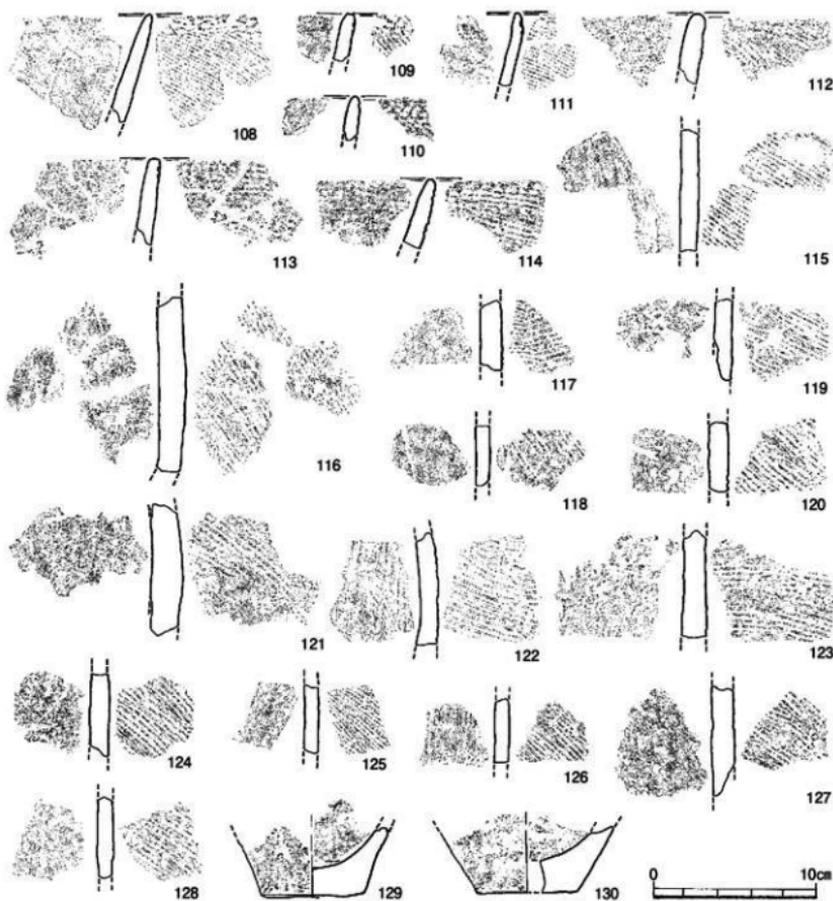
SC-9は基本層序8層上部にて礫や遺物が密集し、不明瞭ながら暗褐色のシミ状の痕跡が見られることから検出された。平面プランは2.3m×1.85mの不整楕円形で、検出面からの深さは0.26mを測る。埋土中から礫247点と多く出土したが、遺構埋土が不明瞭であったことと、集石遺構のように礫が密に詰まるような印象を受けなかったので土坑として報告する。礫の総重量は12kgを量る。

SC-12は基本層序5層中～下部で検出された。平面プランは0.86m×0.6mの不整楕円形で、検出面からの深さは0.15mを測る。埋土中には礫37点と焼土粒と炭化物粒を多く含む。壁面には焼土が検出されている。検出面を考慮すると深さが浅いため、竈穴の燃焼部とは考えられない。屋外炉の可能性も考えられる。

SC-21は調査区南部の近現代の溝状遺構の床面（基本層序8層下部）で検出された。南側が調査区境界にかかるためはっきりしないが、平面プランは1.37m×0.86mの不整楕円形で、床面は西側を一段深く掘り下げており、検出面からの深さはその最深部で0.31m、東側では0.17mを測る。



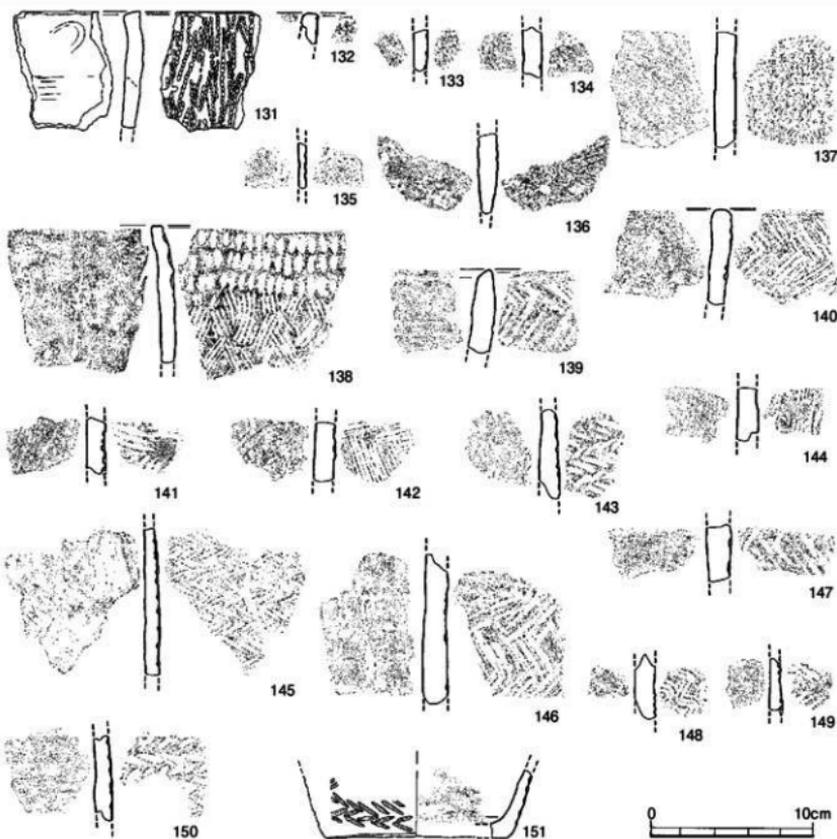
第41図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図① (S=1/3)



第42図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図② (S=1/3)

SC-28は基本層序8層上部にて礫の集中と暗褐色の不整形形のブランを検出した。平面ブランは1.41m×1.3mの不整形形で、検出面からの深さは0.117mを測る。埋土中には礫が168点と多く出土した。SC-9と異なり遺構埋土は視覚的に明瞭であったが、やはり集石遺構のように礫が密に詰まるような印象を受けなかったので土坑として報告する。礫の総重量は8.2kgを量る。

SC-30は6層の下部で検出された。南側が近現代の溝状遺構に切られており、全体の形状ははっきりしないが、平面プランは1.62m×1mの真ん中付近が狭まる不整形形で、床面には複数の柱穴状の凹みが確認されており、検出面からの深さはその最深部で0.35mを測る。



第43図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図③ (S=1/3)

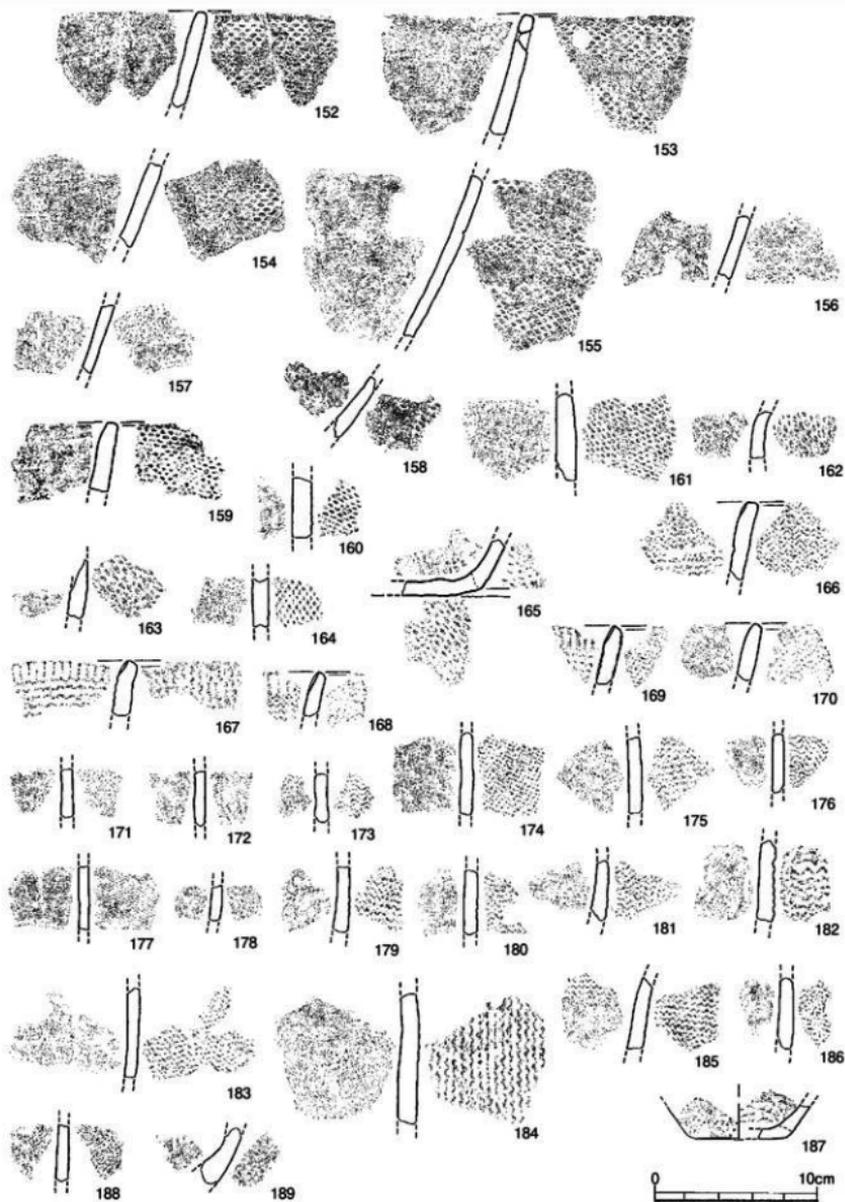
### 第3節 遺物包含層出土遺物について

#### 1. 縄文土器

縄文土器は基本層序5～8層にかけて5800点以上出土しており、294組の接合資料が確認された。縄文草創期から早期の後葉までの幅広い時期の土器が出土しているが、主体を占めるのは前述のとおり壱ノ神式土器である。以下に遺物包含層から出土した土器を既存の分類に当てはめて紹介を行う。なお、破片資料ばかりであるため、分類に当たっては文様や調整技法を観察して分類を行った。無文の資料については有文の土器の破片を観察して胎土等を検討した上で1cm四方以上の全ての破片資料を分類している。掲載した図面資料の個別の詳細等は土器観察表を作成しているのでそちらを参照していただきたい。

#### 前平式土器 (79～87)

全体の器形は円筒形や角筒形で口縁部は平坦面を有する。口唇部外面には工具で二段や一段の刺突文やキザミを施し、外面には横位や斜位の深い貝殻条痕を施す。内面の調整はナデや条痕の後にナデ調整を行っている。全部で10



第44図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図④ (S=1/3)



第45図 縄文時代早期遺物包含層出土土器（塞ノ神式土器）分布図（S=1/400）

点出土しているが、接合資料は確認されなかった。

79～83は口縁部片で81には縦長の穿孔が見られる。84～86は胴部片、87は角筒形の底部片である。

#### 加栗山式土器（88～106）

全体の器形は円筒形や角筒形を呈し、口唇部にはキザミ、口縁部外面には横位の貝殻刺突文、口縁部下に楔形突帯を1条から2条巡らす。外面の調整は貝殻条痕や貝殻条痕の後に貝殻刺突文を施すもの、貝殻刺突文だけが顕著なものなどが見られる。底部付近の外面の調整は貝殻刺突文とキザミが見られる。内面の調整はナデである。全部で47点出土しており、3組の接合資料が確認された。

88～93は口縁部片である。94～103は胴部片で、99・100は角筒形である。104～106は底部片で、106の底径は22cmを測る。

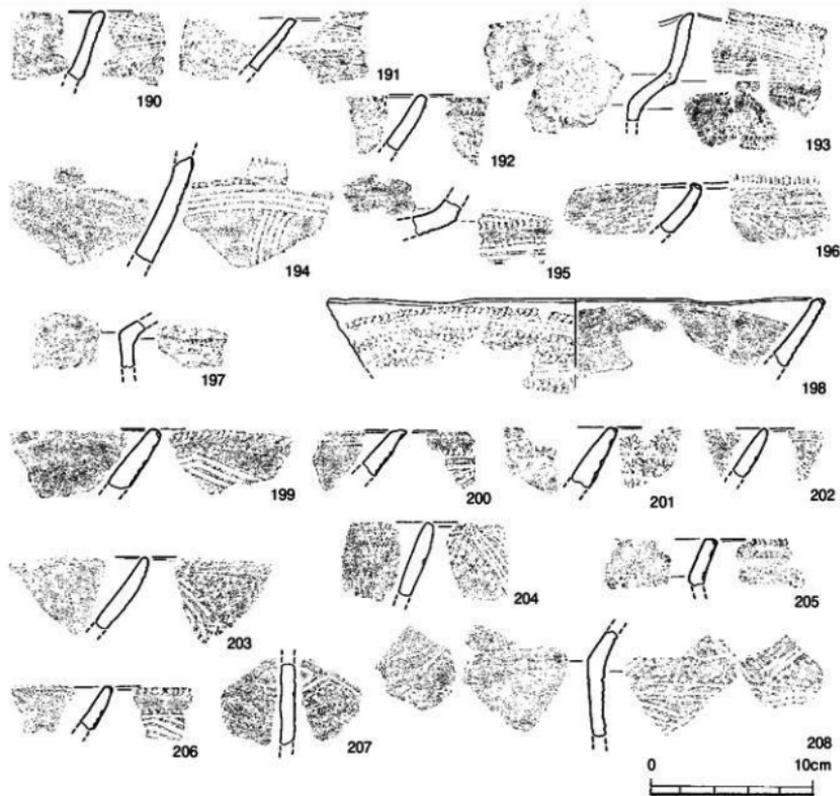
#### 中原式土器（107）

全体の器形は円筒形で外面には縦位と横位の条線文を施す。内面の調整はナデ調整である。全部で30点出土しており、1組の接合資料が確認された。

107は胴部片で胎土に白色粒（石英？）が多く含まれていることが特徴的である。

#### 別府原式土器（108～130）

全体の器形は外側に開いた円筒形で、底部は窄まっている。口縁部には貝殻や工具による押しきり文や刺突文を施し、胴部外面には横位や斜位の浅い条痕文を施している。底部付近には条痕文は見られず、ナデ調整となっている。内面



第46図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑤ (S=1/3)

の調整は丁寧なナデ調整かミガキ調整である。全部で118点出土しており、3組の接合資料が確認された。

108～114は口縁部片である。115～128は胴部片で、129・130は底部片で、129の底径は6.4cm、130の底径は6cmを測る。

#### 下剥峰式土器 (131～137)

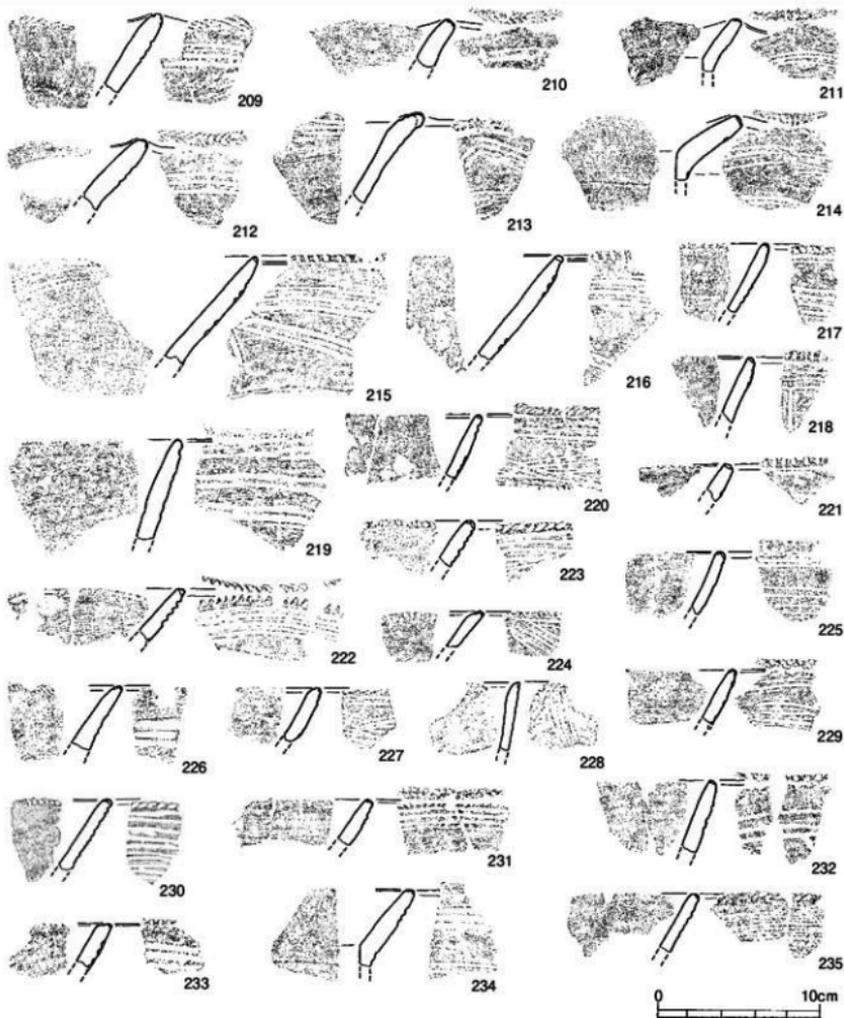
全体の器形はバケツ状を呈する。口縁部は直行またはやや内湾する。外面の調整は貝殻や工具による刺突文である。内面の調整はナデ調整である。全部で7点出土しているが、接合資料が確認されなかった。

131・132は口縁部片である。133～137は胴部片である。131・133・134・136はクシ状工具による刺突文が施されている。133・136は胎土に白色粒(石英?)が多く含まれていることが特徴的である。

#### 桑ノ丸式土器 (138～151)

全体の器形はバケツ状を呈する。口縁部は直行またはやや内湾する。外面の調整は短い貝殻条痕や沈線によって羽状文や流水文を施している。内面の調整はナデ調整やミガキ調整である。全部で43点出土しており、2組の接合資料が確認された。

138～140は口縁部片である。138は口縁部下に3段の刺突文を施しており特徴的である。141～150は胴部片で、151は底部片で、底径は11cmを測る。

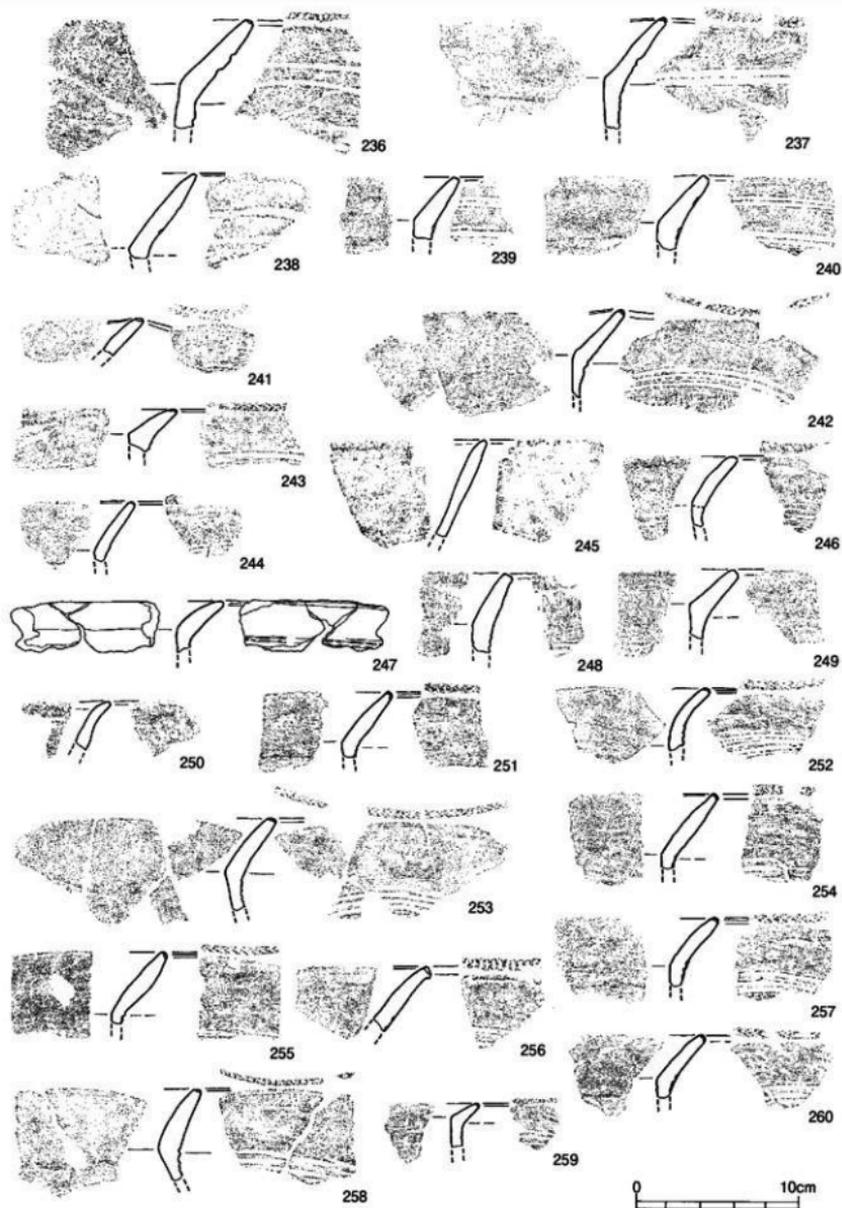


第47図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑥ (S=1/3)

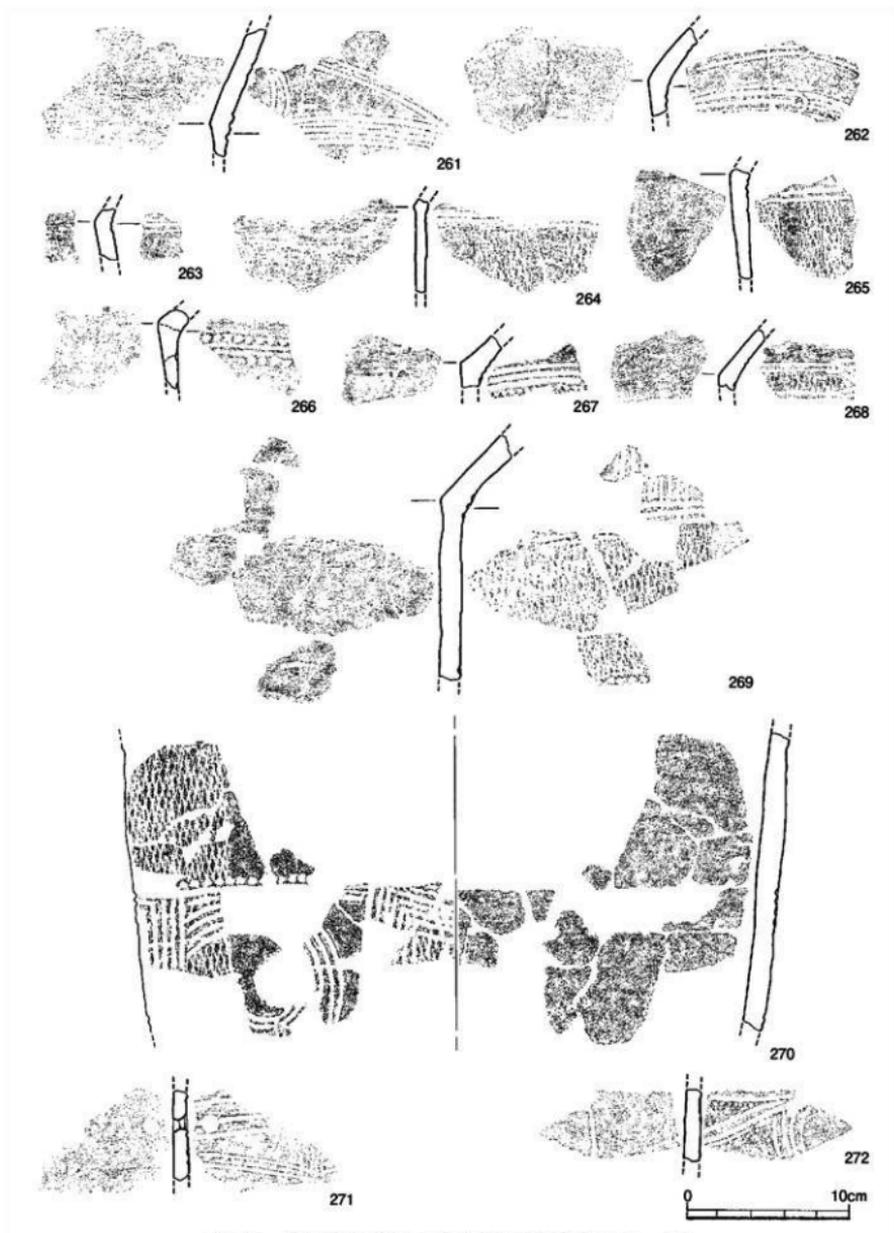
押型文土器 (152～189)

外面に彫刻を施した棒などを回転させて、内外面に山形や楕円形などの文様を施す土器である。全体の器形は直行する口縁部に尖がるような底部を持つものや外反する口縁部に平底の器形を呈するものなどがみられ、複数のタイプの押型文土器が出土していることがわかる。全部で73点出土しており、5組の接合資料が確認された。

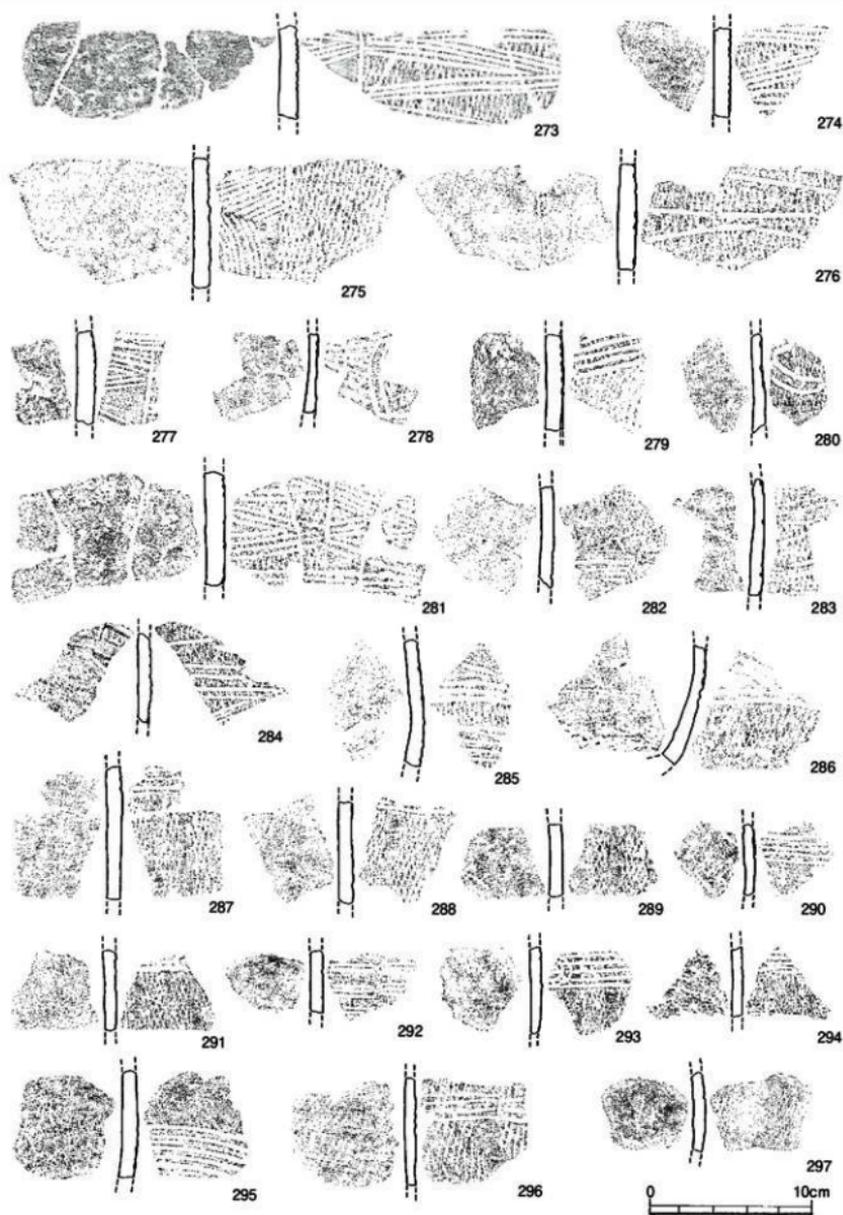
152～165は楕円形の押型文を施文するものである。152～158はおそらく同一個体のもので外面に小粒な楕円形の押型文を帯状に施文している。しかし部分的には押型文を施文後、その一部をナデ消して帯状施文のような状況を



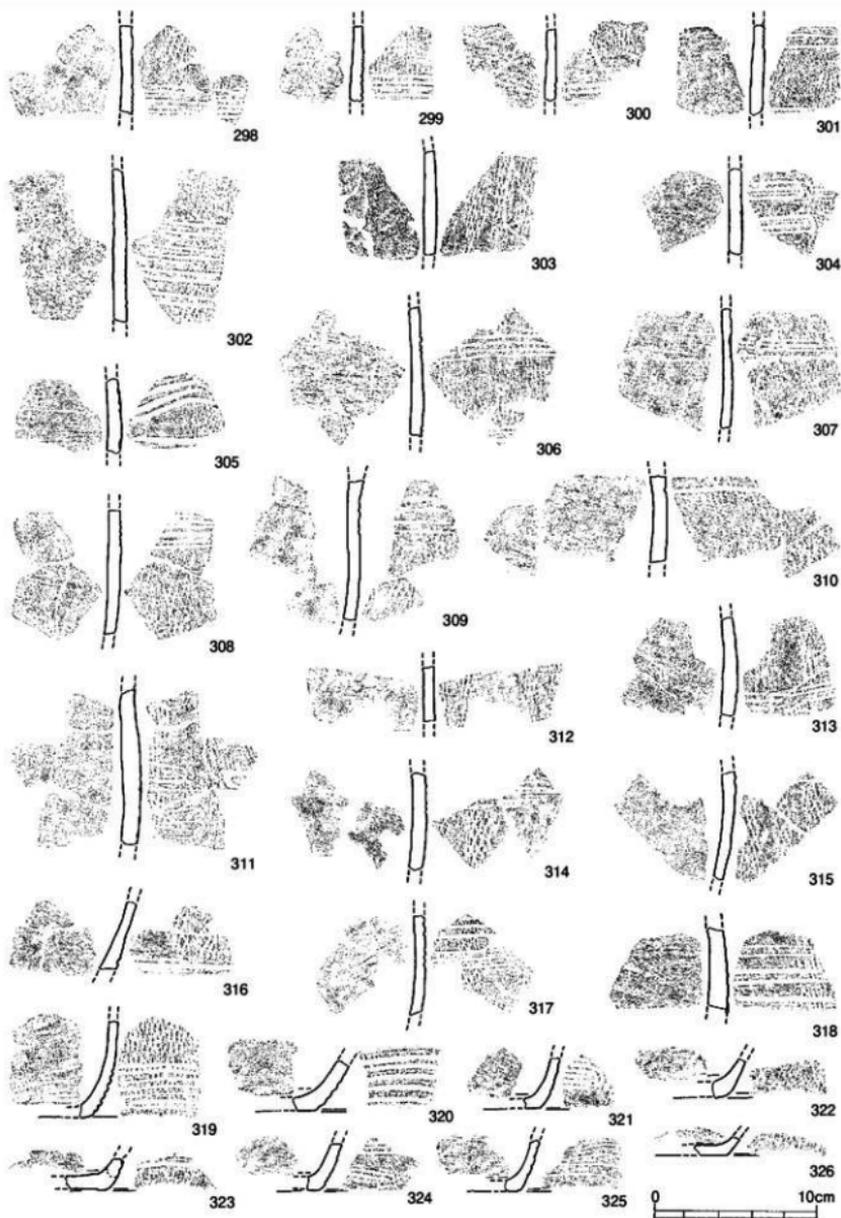
第48図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑦ (S=1/3)



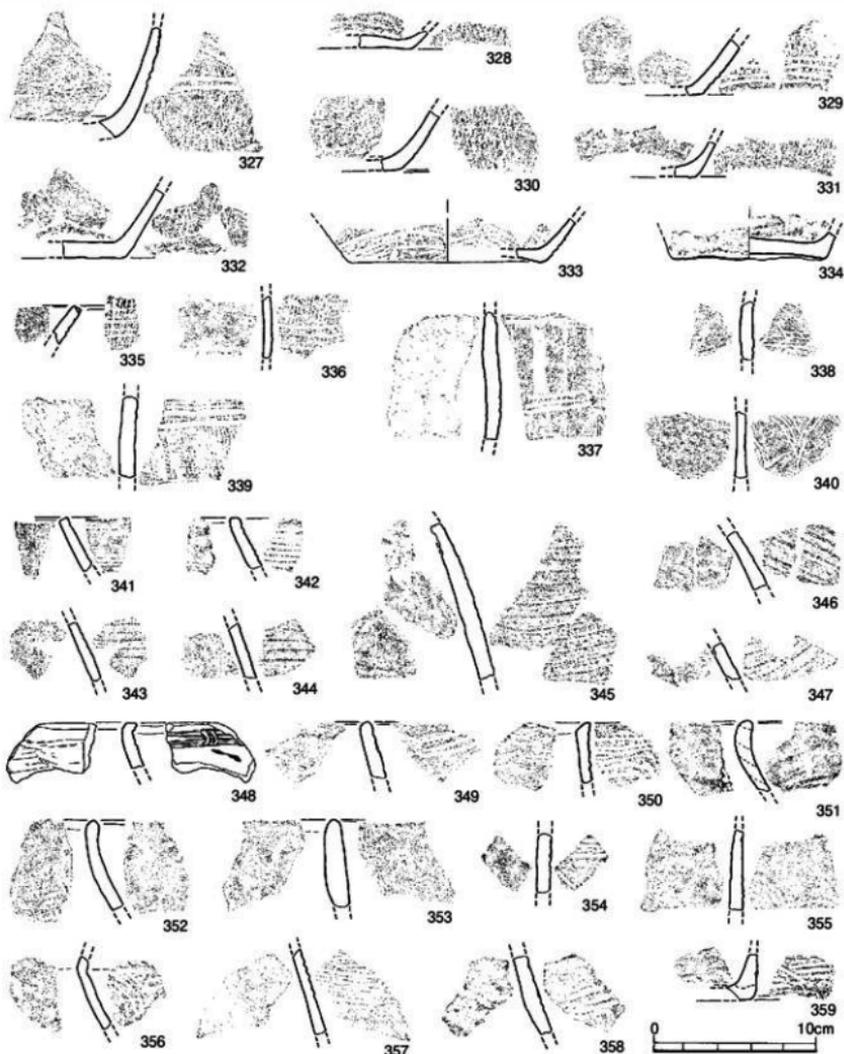
第49図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑧ (S=1/3)



第50図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑨ (S=1/3)



第51図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑩ (S=1/3)

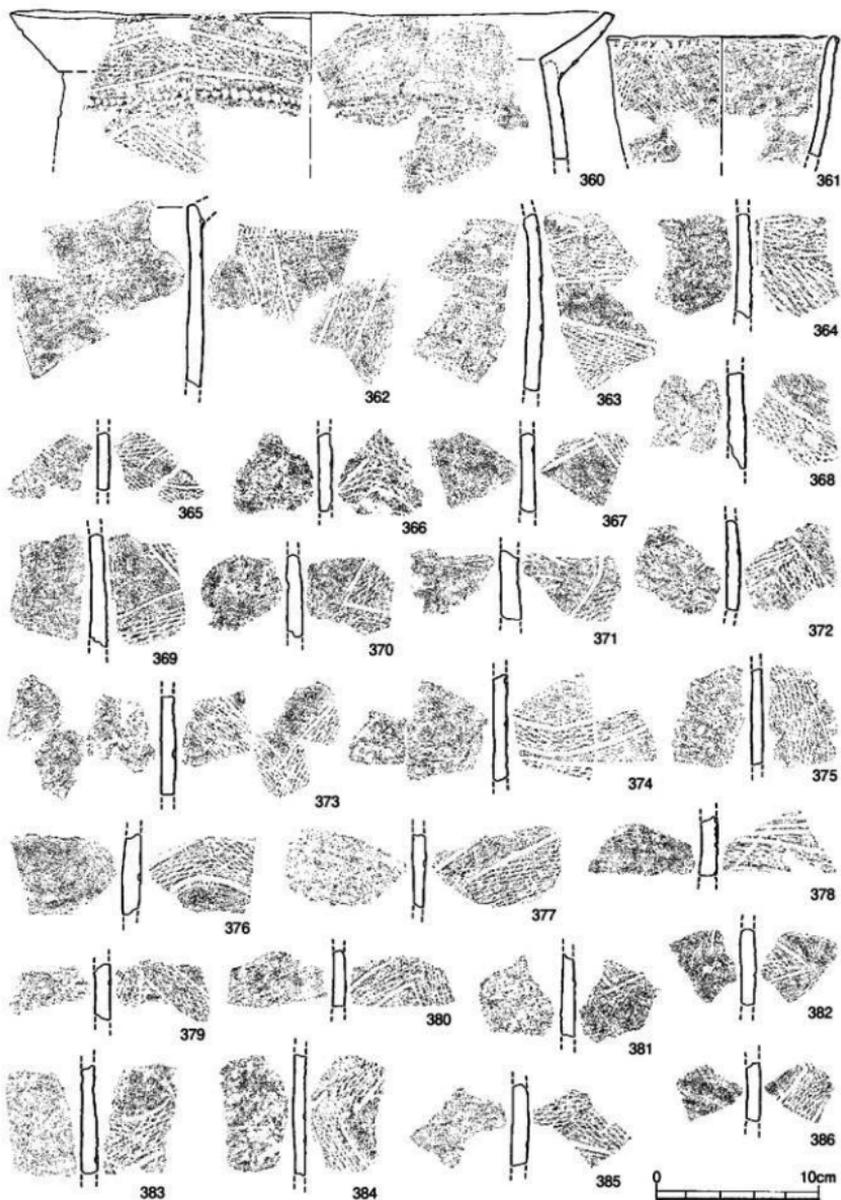


第52図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図① (S=1/3)

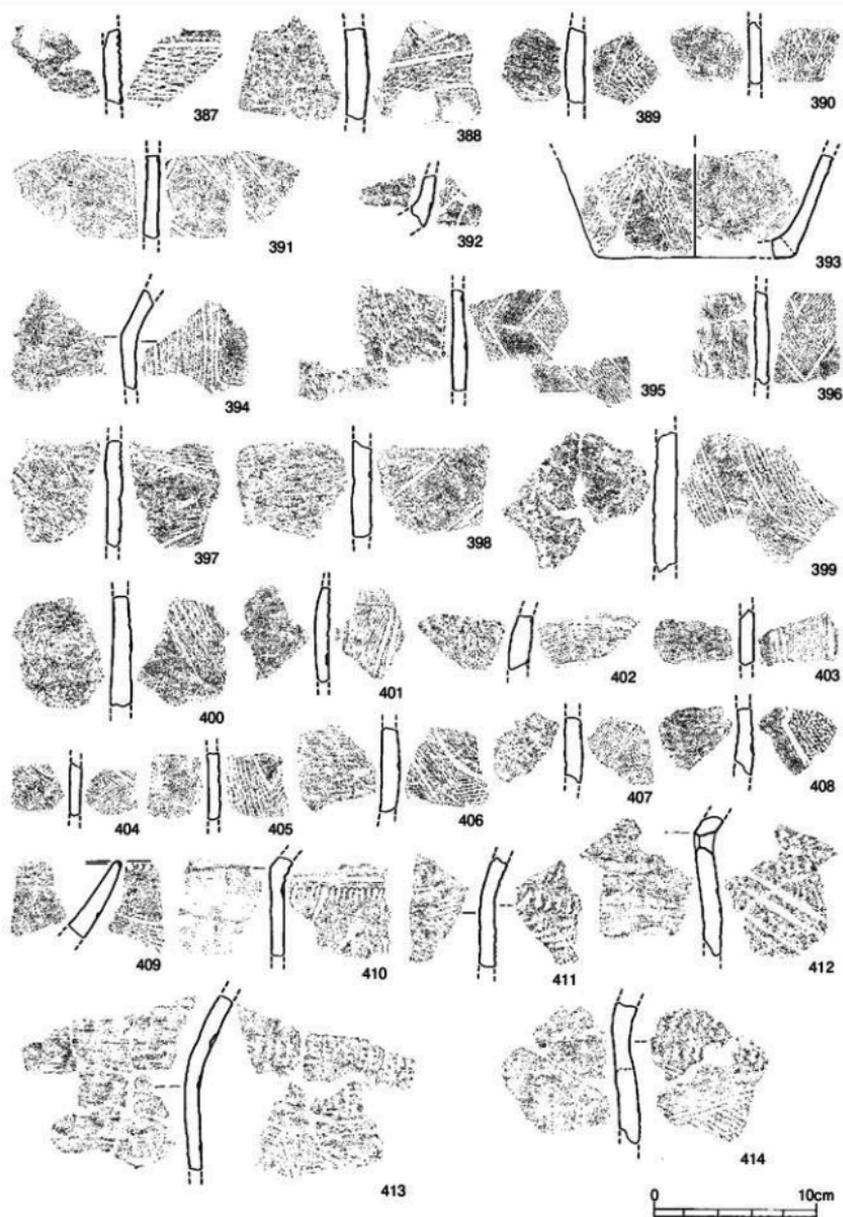
作り出しているところもある。152・153は口縁部片で、153には円形の穿孔が確認される。154～157は胴部片であり、内面の調整はナデである。158は尖底を予想させるような底部付近の破片である。

159は直口する口縁部片である。160～164は胴部片で小粒の楕円形の押型文が縦位や斜位方向に施文されている。165は平底の底部片で底面にも押型文が施文されている。

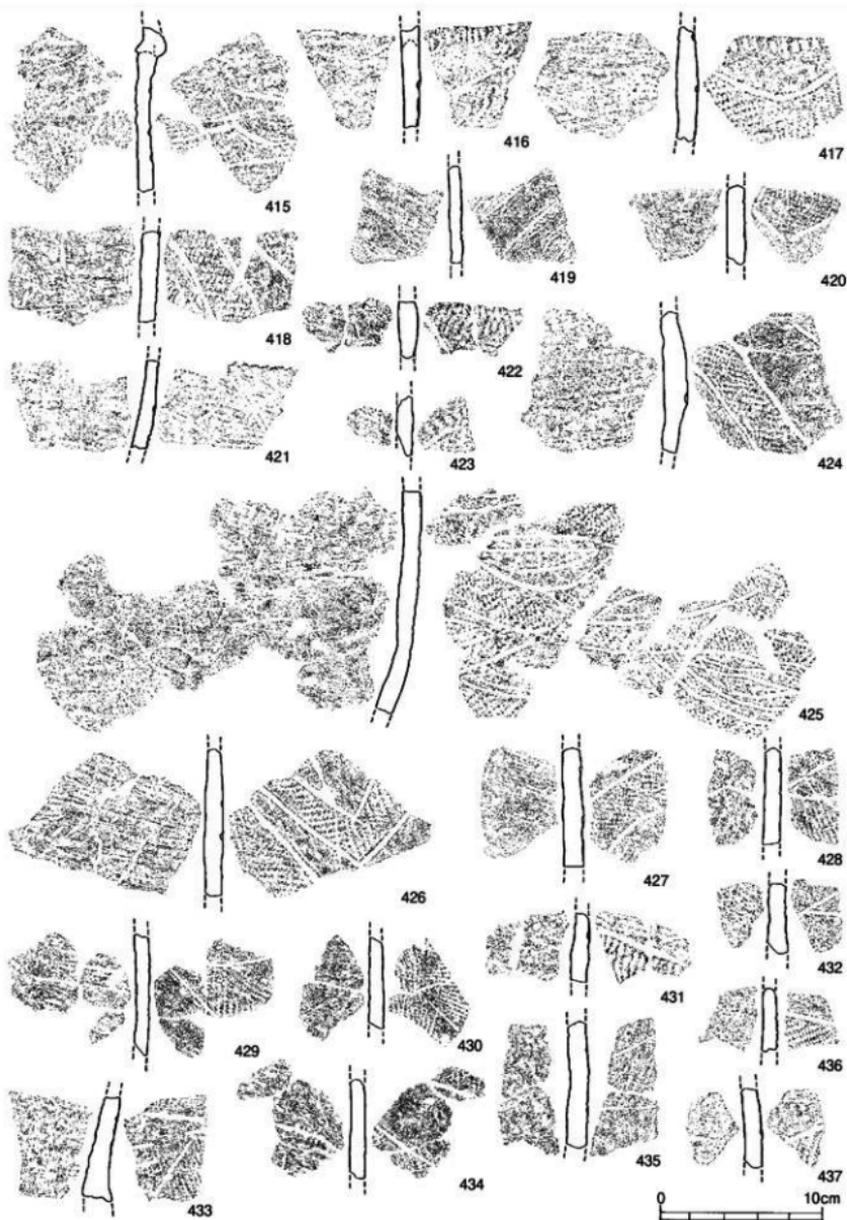
166～187は山形の押型文を施文するものである。166～170は直口またはやや外反する口縁部片で、170以外には



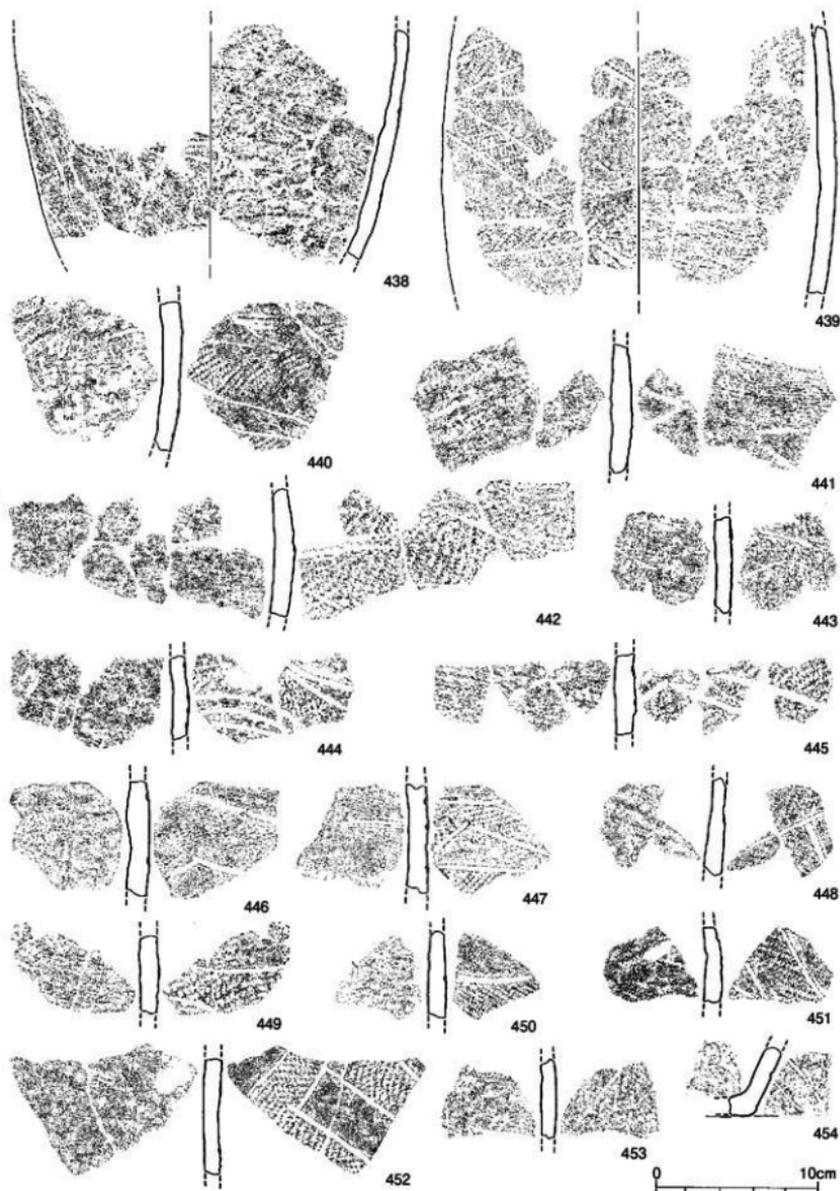
第53図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑫ (S=1/3)



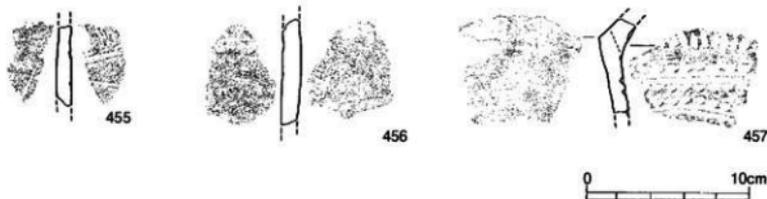
第54図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図<sup>19</sup> (S=1/3)



第55図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑬ (S=1/3)



第56図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図<sup>15)</sup> (S=1/3)



第57図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑥ (S=1/3)

内面に原体条痕が施されている。167は縦位に押型文が施文されているが、その他は横位である。171～186は胴部片である。横位・縦位・斜位に押型文が施文されている。171・172・177・178の文様は特に細かい。187は平底の底部片で、底径は5.8cmを測る。

188・189は短柱回転文を施したもので188は胴部片、189は底部付近の破片である。

#### 微隆帯を持つ塞ノ神式土器 (190～208)

口縁部が「く」の字に開くラッパ型の器形であり、二重口縁を呈するものも見られる。外面にはキザミの入った微隆帯を巡らせて、その他に沈線文・連点文などが確認される。口唇部にはキザミが施されている。全部で76点出土しており、5組の接合資料が確認された。190～196・198～206は口縁部片で198の口径は29.8cmを測る。207は胴部片、197・208は頸部片である。

#### 縦位の燃糸文を持つ塞ノ神式土器 (209～340)

口縁部が「く」の字に開くラッパ型の器形であり、底部は平底を呈するものである。口唇部にはキザミが施されており、その下に沈線文を施すものもある。頸部外面には横位の沈線文が施文されている。胴部には縦位の燃糸文が施されており、数条の文様帯を持つものやほぼ全面に施文されているものなどがある。また燃糸文を切るように太目の沈線文を施しているものもある。底部の立ち上がり付近にも横位の沈線文が施されている。内面の調整はナデ調整である。後述する区画内に燃糸文を施する塞ノ神式土器と合わせて全部で2325点出土しており、99組の接合資料が確認された。

209～260は口縁部片で209～241には横位・縦位・斜位の沈線文が施されている。242～260は口唇部のキザミ以外は施文されていない。261～269は頸部片で、266・267には刺突文や連点文が施文されている。270～318は胴部片である。269・270は同一個体であり、口縁部には縦位の沈線文、頸部に横位の沈線文を巡らせ、その下に縦位の網目燃糸文を全面に施し、連点文や沈線文で下半部に文様を施している。271は円形の穿孔が確認される。272～286は269・270と同様に縦位の網目燃糸文を施した後、連点文や斜位の沈線文を施文している。287～318は縦位方向の網目燃糸文数条をひとまとまりとして文様帯を作り出しており、無文の部分も見られる。319～334は底部片である。319は全面に網目燃糸文を施すもので、333の底径は11.6cm、334の底径は9.8cmを測る。

335～340は網目ではない燃糸文を施すものや細めの沈線文を施文するものである。

#### 壺型土器 (341～359)

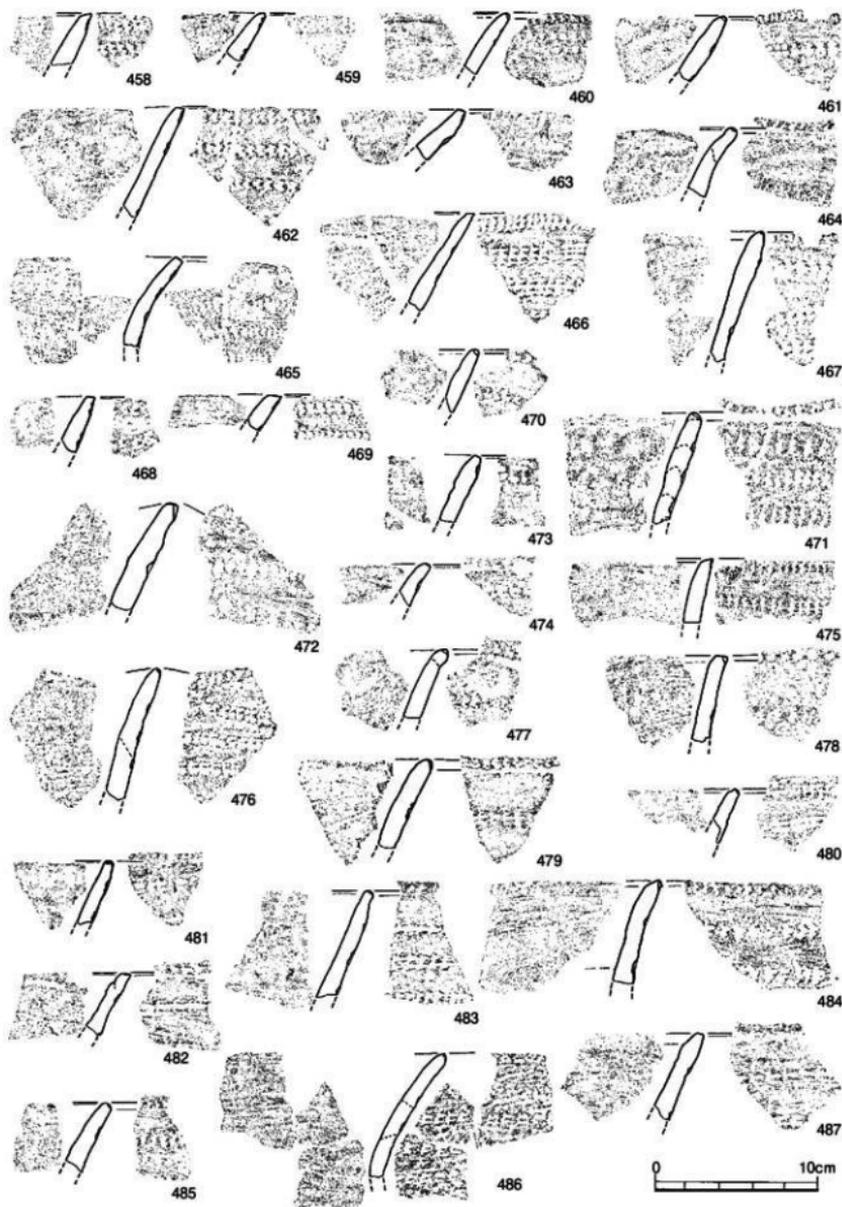
塞ノ神式土器のうち壺型を呈する土器で、外面の施文方法に沈線文や微隆帯がみられる。全て無頸壺である。全部で159点出土しており、14組の接合資料が確認された。

341～347は微隆帯を有するもので、341・342は口縁部片で、343～347は胴部片である。348～350・354～359は横位の沈線文を施文するものである。348～353は口縁部片で、354～358は胴部片である。355・356には重弧文がみられる。359は底部片である。

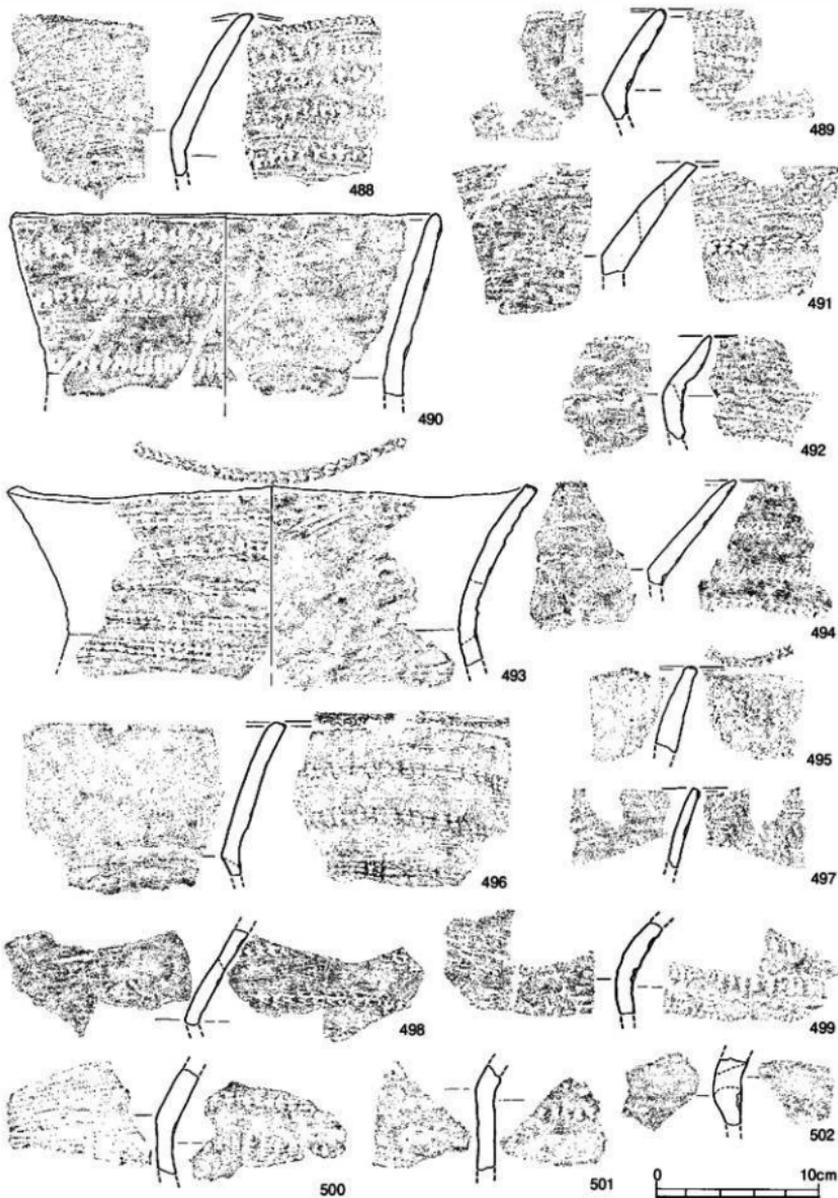
#### 沈線文の区画内に燃糸文を施す塞ノ神式土器 (360～408)

前述の塞ノ神式土器と器形はほとんど同じだが、一部に直口する口唇部を持ち、円筒形のような形のものも見られる。外面の文様は燃糸文によって幾何学的な文様帯を作り出してそれを沈線によって囲むことで、幾何学的な枠中に燃糸文が施されているように見せているものである。

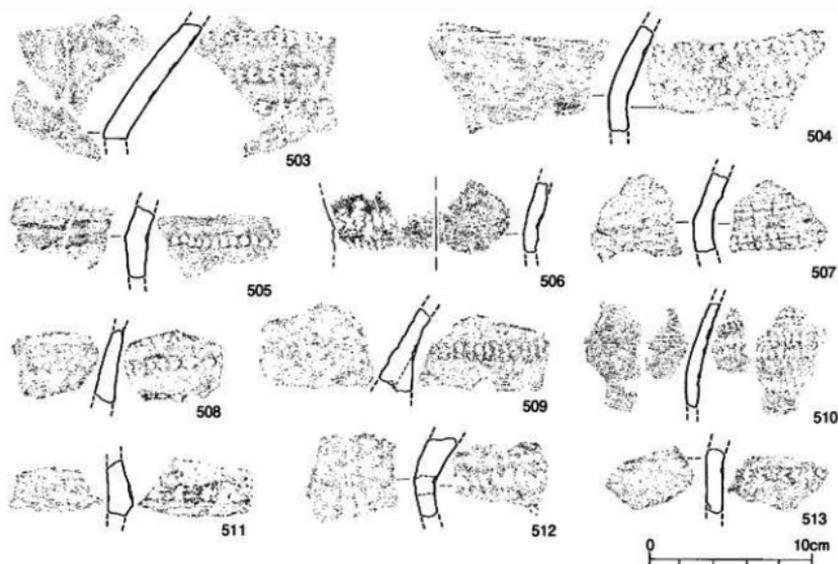
360～393は網目状の燃糸文を施す資料である。360・361は口縁部片であり、いずれも口唇部にはキザミが施されている。360は頸部付近に横位の刺突文を挟んで口縁部及び胴部にも文様が施されており、口径は35.5cmを測る。361は口縁部片で、口径は13.4cmを測る。362～392は胴部片で、393は底部片で底径は11.2cmを測る。394～408は網目状ではない燃糸文を施す資料である。394は頸部片、そのほかは胴部片である。



第58図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑰ (S=1/3)



第59図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図<sup>16</sup> (S=1/3)



第60図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑯ (S=1/3)

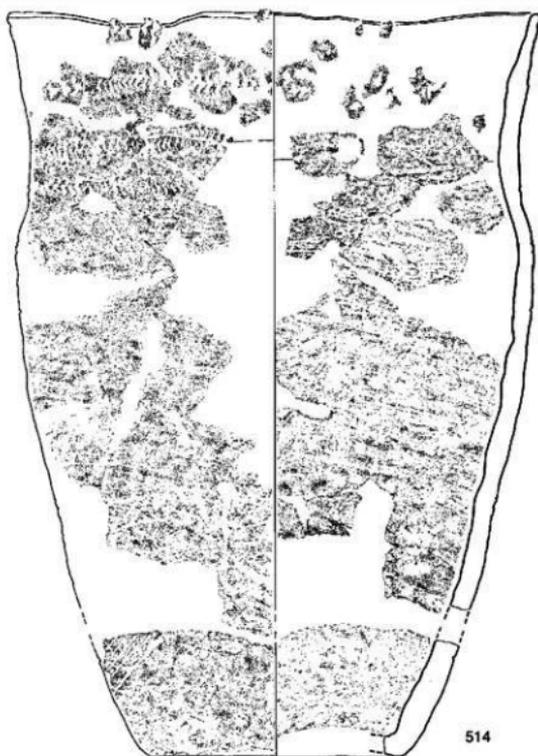


第61図 遺物No.514・515出土状況実測図 (S=1/10)

横位の貝殻刺突文と沈線文の区画内に縄文等を施す塞ノ神式土器 (409～457)

前述した2つの塞ノ神式土器と全体の器形はあまり変わらないが頸部の屈曲はやや弱い印象を受ける。頸部付近より上の部位に横位の貝殻連続刺突文を施し、それより下の部分には縄文等を施して、それを沈線によって囲むことで幾何学的な枠中に縄文が施されているように見せているものである。口縁部片だけの資料だと後述する沈線文や条痕文等を施すものとは判別できない。それらと合わせて全部で2855点出土しており、160組の接合資料が確認された。

409は口縁部片であるが、貝殻刺突文は施されていない。410～417は頸～胴部片で、上部には貝殻連続刺突文が確認される。410は頸部の屈曲より下の部分に横位の爪形の連続刺突文が確認される。412は欠損しているが円形の穿孔が確認される。418～453は胴部片である。425・444は曲線によって文様帯を作り出している部分も見られる。454は底部片である。



514



515

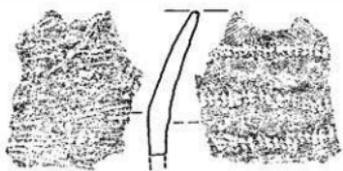
0 10cm

第62図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図㊸ (S=1/3)

455・456は沈線の区画内に短枝回転文が施文されている。457は頸部片であるが、口縁部には横位の爪形の連続刺突文、頸部より下には沈線文と刺突文が施文されている。



516



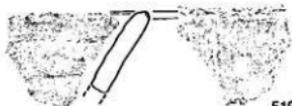
517



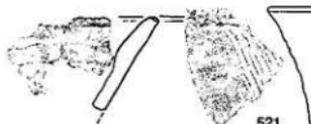
518



520



519



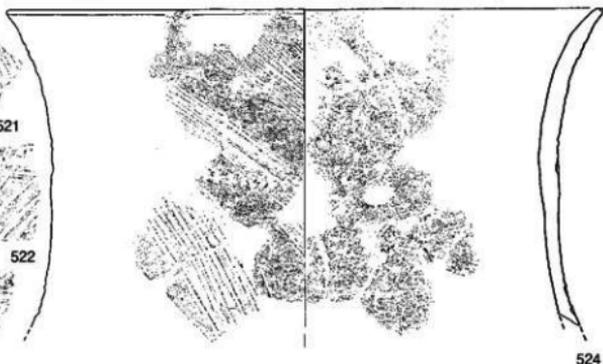
521



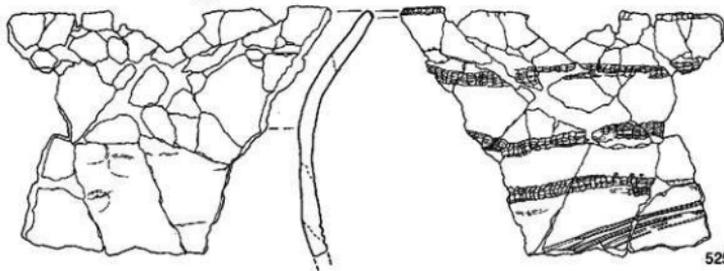
522



523



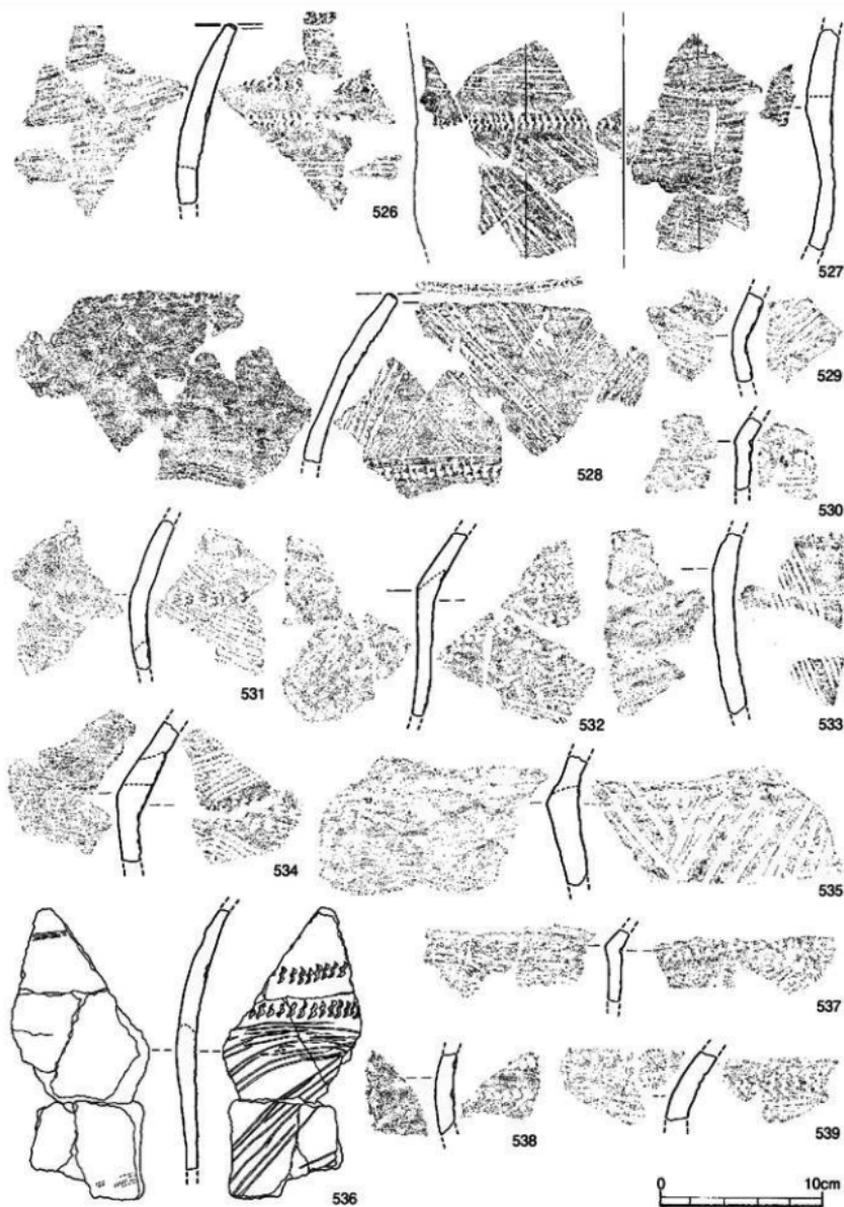
524



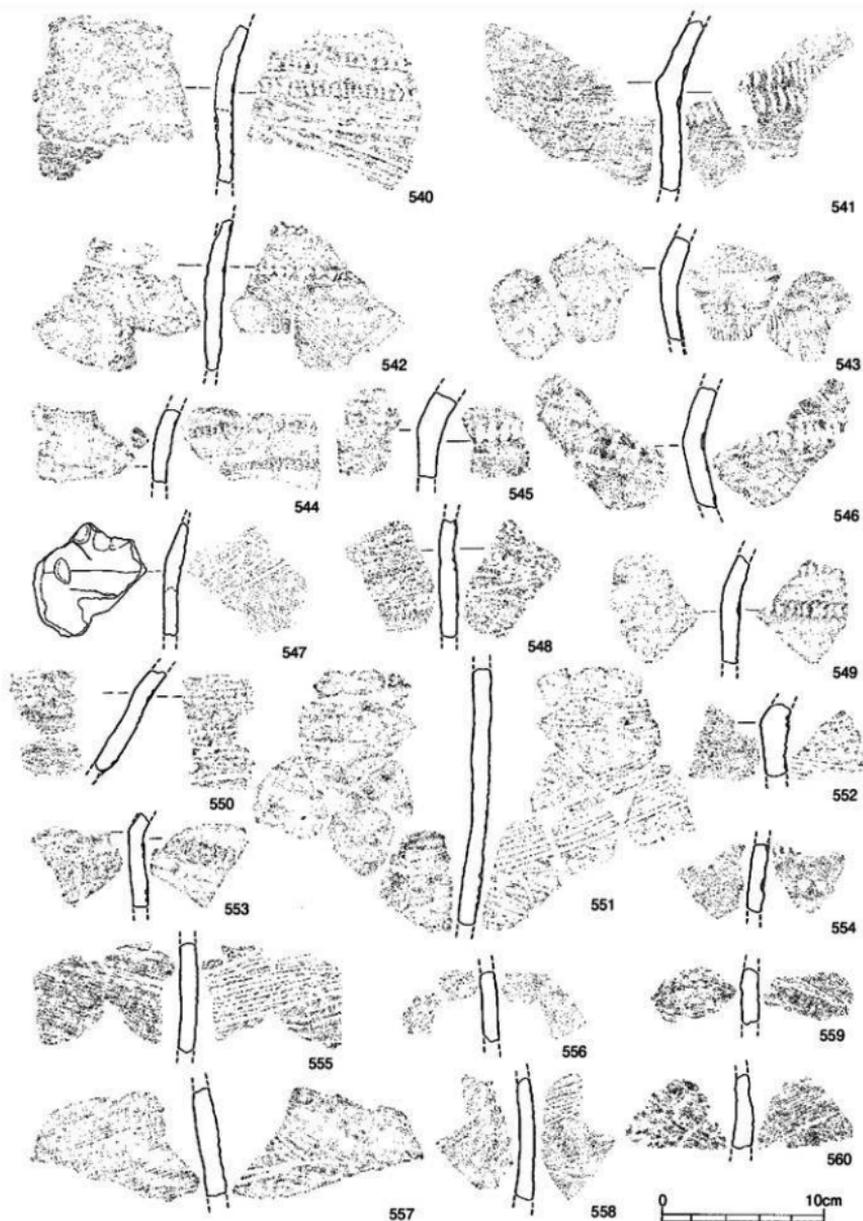
525



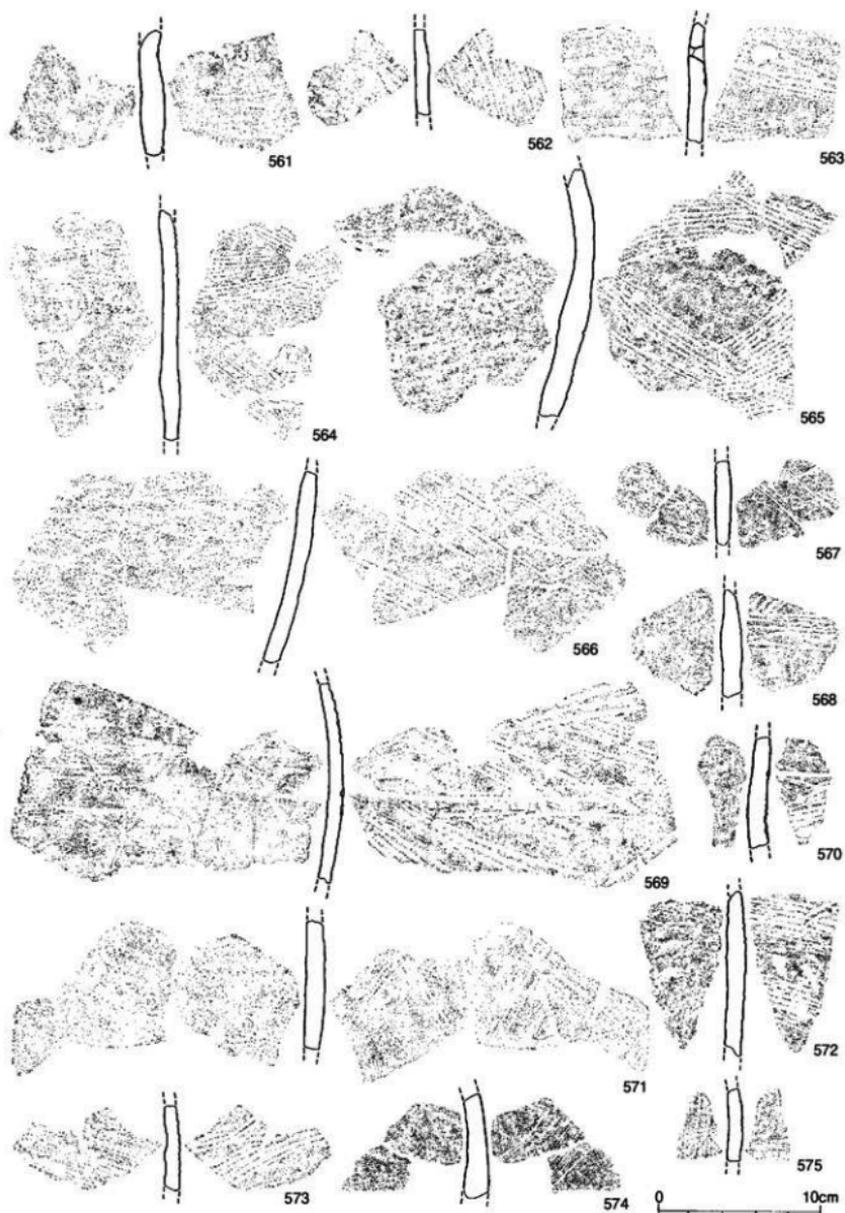
第63図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図② (S=1/3)



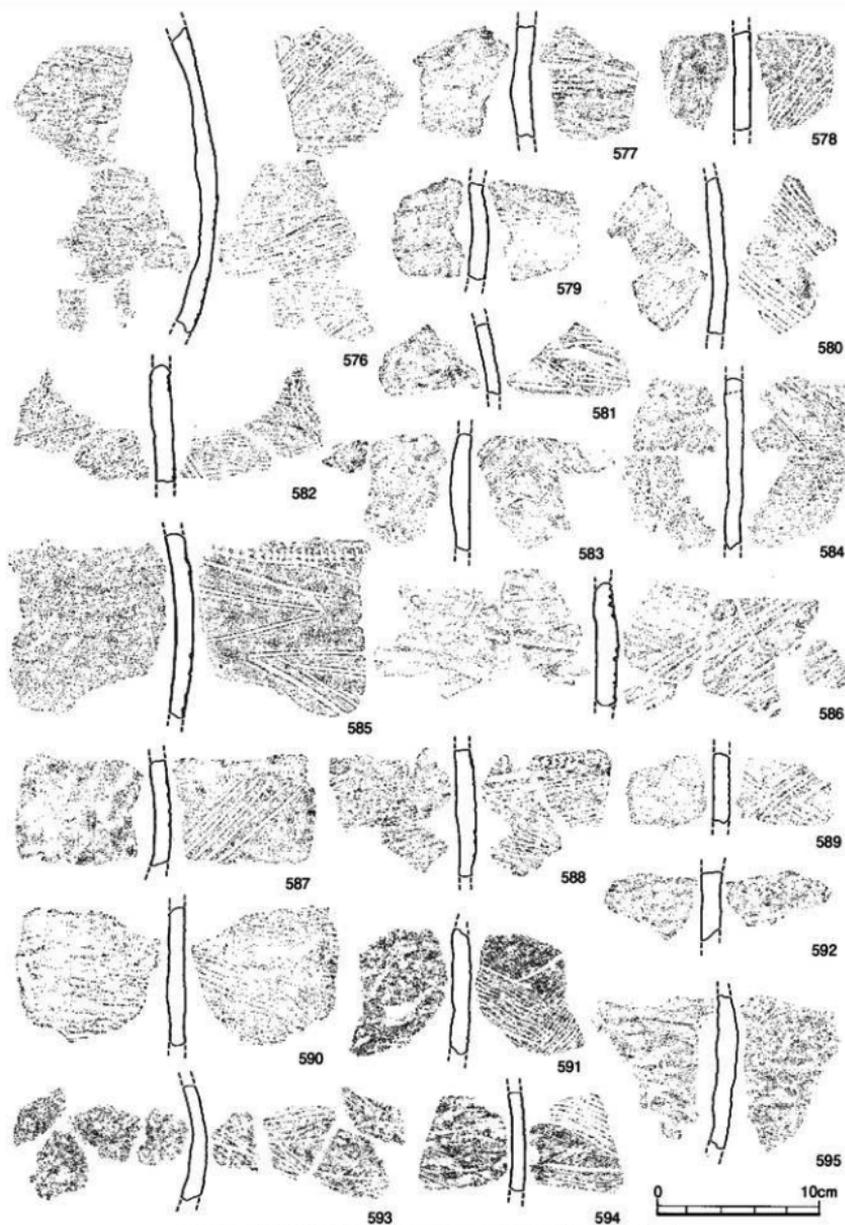
第64図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図② (S=1/3)



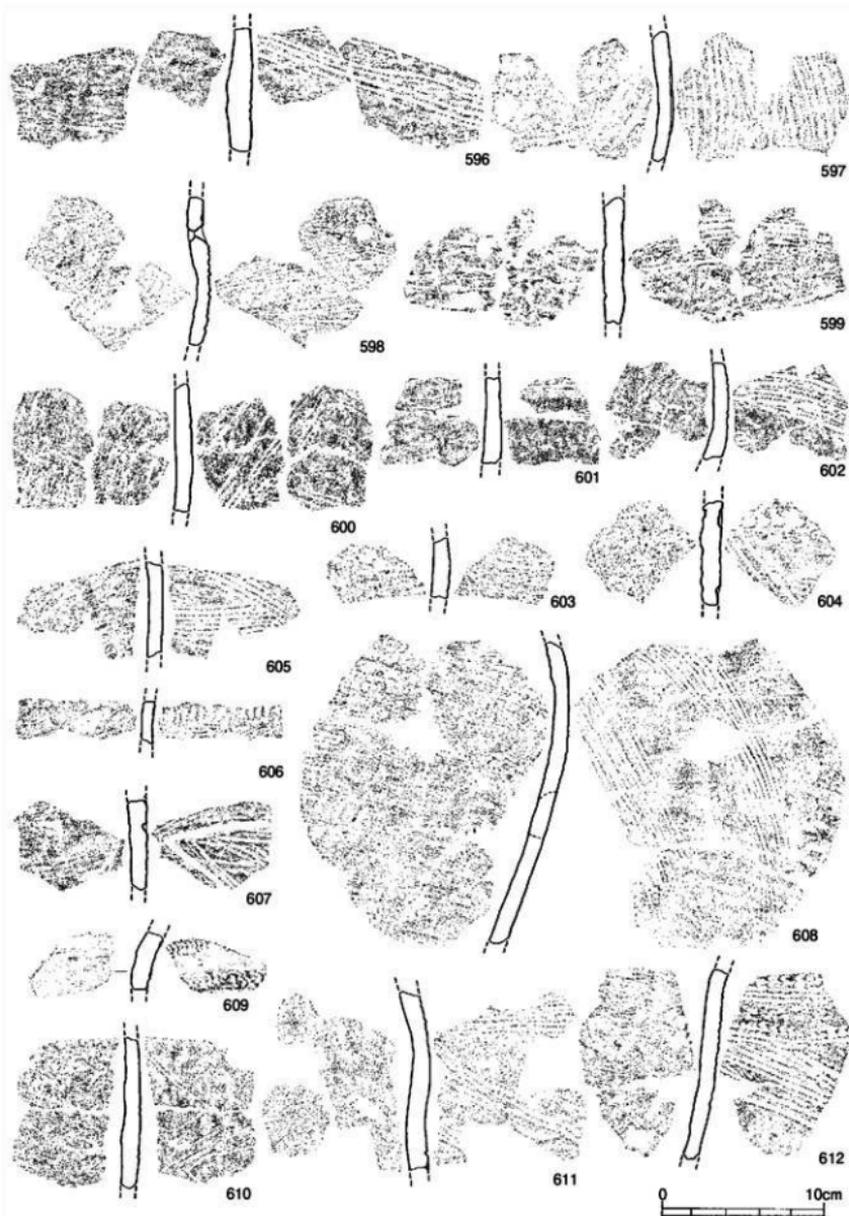
第65図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図23 (S=1/3)



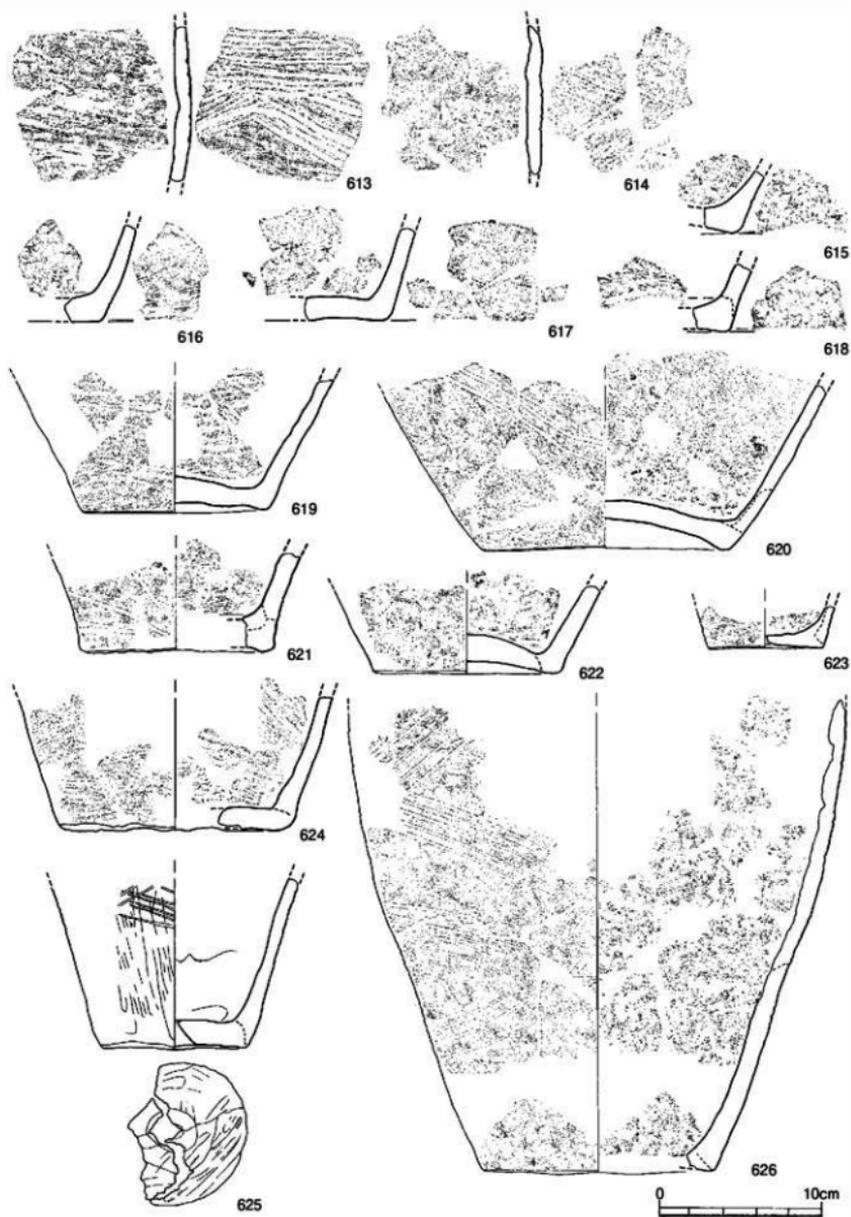
第66図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図② (S=1/3)



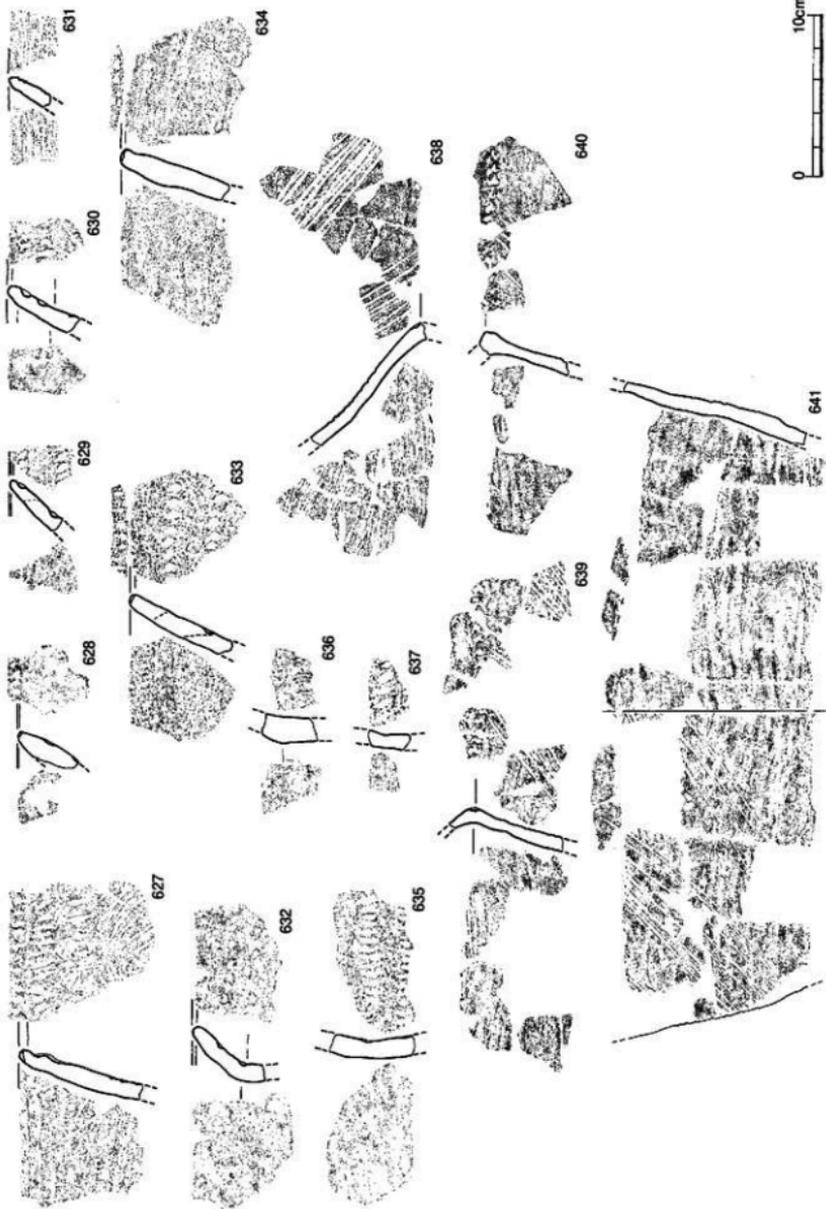
第67図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図25 (S=1/3)



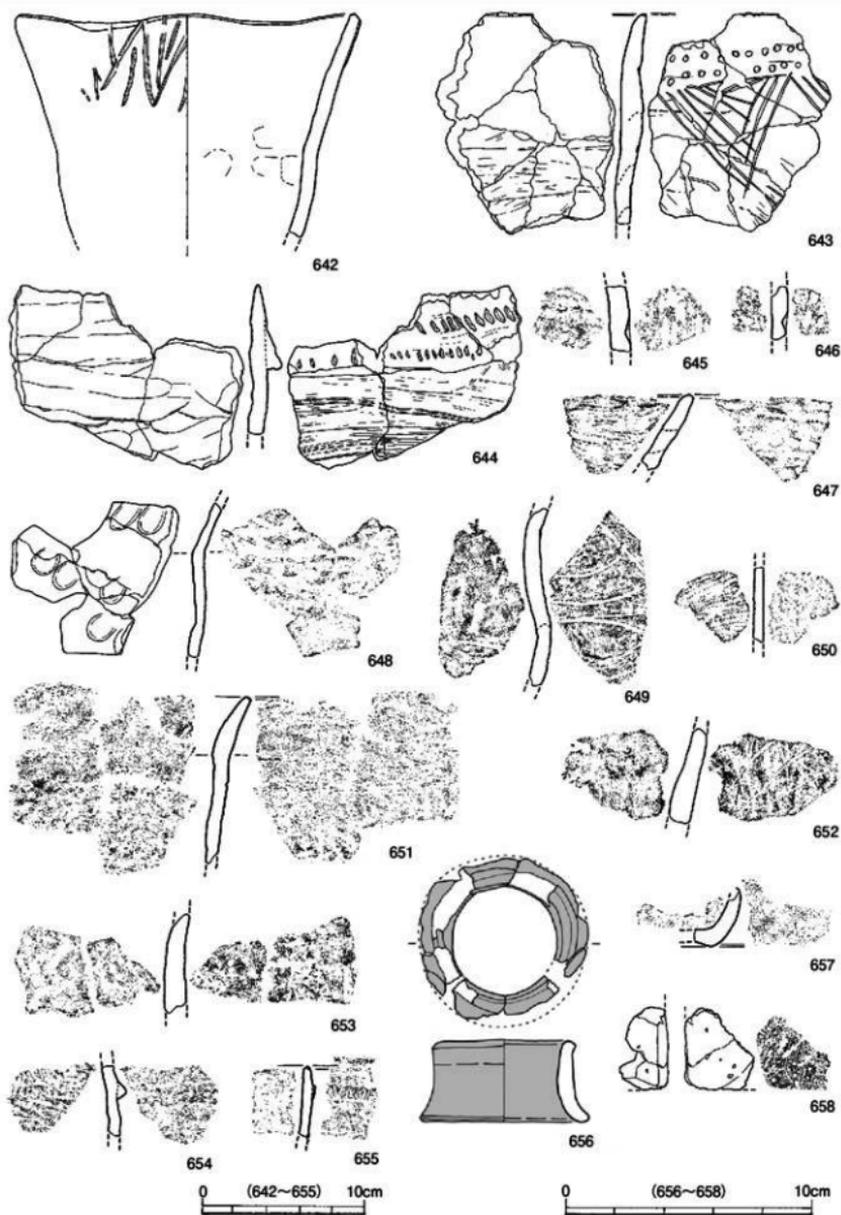
第68図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図② (S=1/3)



第69図 縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図27 (S=1/3)



第70図 縄文時代早期遺物包含層出土土器裏面図⑧ (S=1/3)



第71図 縄文時代早期遺物包含層出土土器及び土製品実測図㊸ (S=1/3・1/2)

第5表 縄文時代早期遺物包含層出土土器観察表①

報告書 番号	出土 層位	部位	文様及び調整		色 調		胎 土				備 考	実測 地		
			外 面	内 面	外 面	内 面	黒	白	灰	半透明・ 褐色			全 全 母	
1	S21	完形	ナデ、燃糸、沈線	ナデ、指押痕	7.5YR4/3(褐)	7.5YR5/3(にがい青褐)	○	○					口唇部にキザミ目	1
2	S22	完形	ナデ	ナデ	7.5YR6/4(にがい青)	10YR4/2(灰青褐)	○							2
19	S11	胴部	ナデ、沈線	ナデ	10YR5/3(にがい青褐)	10YR6/2(灰青褐)	○							1092
20	S11	胴部	ナデ	ナデ	7.5YR5/1(褐灰)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○	○	○				1107
21	S16	胴部	燃糸、ナデ	ナデ	7.5YR5/3(にがい青)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○		○				1111
22	S17	胴部	ナデ、後隆帯	ナデ	7.5YR5/3(にがい青)	7.5YR5/3(にがい青)	○	○		○				1106
23	S17	胴部	燃糸、ナデ	ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	5YR5/3(にがい赤褐)	○	○	○	○				1088
24	S10	頸部	ナデ、沈線	ナデ	5YR5/4(にがい青)	7.5YR5/3(にがい青)	○	○		○				1104
25	S10	胴部	ナデ、沈線	条痕の後ナデ	5YR5/4(にがい赤褐)	5YR5/4(にがい赤褐)	○	○		○				1094
26	S10	胴部	ナデ、沈線内貝条痕	ナデ	7.5YR5/3(にがい青)	7.5YR5/3(にがい青)	○	○		○				1074
27	S10	胴部	ナデ、沈線内貝条痕	ナデ	7.5YR5/3(にがい青)	10YR5/3(にがい青褐)	○	○		○				1084
28	S10	胴部	ナデ、燃糸	ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	7.5YR5/3(にがい青)	○	○		○				1109
30	S111	口縁部	貝刺突、貝条痕	ミガキ	7.5YR5/2(灰褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○					口唇部にミガキ、ス ス付着	1083
31	S111	口縁部	ナデ、沈線	ナデ	10YR5/2(灰青褐)	10YR6/3(にがい青褐)	○	○		○				1096
32	S111	口縁部	条痕	ナデ	10YR5/2(灰青褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○		○				1093
33	S111	胴部	ナデ、沈線	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	5YR5/3(にがい赤褐)	○	○		○				1086
34	S111	胴部	ナデ、沈線	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○		○				1089
36	S112	胴部	沈線、条痕の後ナデ	条痕の後ナデ	7.5YR6/4(にがい青)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○		○				1090
37	S113・ 14	胴部	条痕	ナデ	10YR5/3(にがい青褐)	10YR5/2(灰青褐)	○	○						1120
38	S113・ 14	胴部	条痕	ナデ	10YR5/3(にがい青褐)	10YR6/3(にがい青褐)	○	○						1119
39	S113・ 14	胴部	条痕	ナデ	10YR6/4(にがい青褐)	10YR5/3(にがい青褐)	○							1118
40	S113・ 14	胴部	クシガキ	ナデ	10YR6/3(にがい青褐)	2.5Y5/1(黄灰)	○							1121
41	S113・ 14	胴部	横円押型	横円押型	5YR4/2(灰褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○		○				1122
42	S121	口縁部	条痕の後ナデ、沈線、 貝刺突	条痕の後ナデ	5YR5/2(灰褐)	7.5YR7/1(明褐灰)	○	○		○			口唇部に貝キザミ 目	1091
44	S126	胴部	条痕	ナデ	7.5YR5/3(にがい青)	5YR5/3(にがい赤褐)	○	○		○				1087
45	S126	胴部	条痕、ナデ	条痕	7.5YR4/1(褐灰)	7.5YR5/3(にがい青)	○	○		○				1097
47	S123	口縁部	ナデ	ナデ	10YR6/3(にがい青褐)	10YR5/3(にがい青褐)	○	○		○			口唇部に羽状キザ ミ目	1080
48	S123	胴部	ナデ、沈線	条痕の後ナデ	5YR5/3(にがい赤褐)	7.5YR5/3(にがい青)	○	○		○				1064
49	S123	胴部	ナデ、条痕	条痕の後ナデ	7.5YR6/3(にがい青)	7.5YR5/3(にがい青)	○	○		○				1065
50	S123	胴部	貝刺突、ナデ、条痕	条痕の後ナデ	5YR5/4(にがい赤褐)	7.5YR5/3(にがい青)	○	○		○				1060
51	S123	胴部	沈線、ナデ	ナデ	10YR6/3(にがい青褐)	10YR6/3(にがい青褐)	○	○		○				1062
52	S123	胴部	燃糸、沈線	ナデ	10YR8/1(灰白)	7.5YR6/3(にがい青)	○	○		○				1061
55	S129	胴部	ナデ、沈線	ナデ	7.5YR6/3(にがい青)	10YR6/3(にがい青)	○	○		○				1110
56	S129	胴部	ナデ、刺突	ナデ	10YR6/3(にがい青)	2.5Y5/1(黄灰)	○	○		○				1113
57	S131	口縁部	ナデ、貝刺突、貝条痕	ナデ、ミガキ	10YR6/3(にがい青)	5YR4/1(褐灰)	○	○		○			穿孔有り	990
58	S131	口縁部	ナデ、刺突	ナデ	10YR5/3(にがい青)	10YR6/2(灰青褐)	○	○		○				1103
59	S131	胴部	貝条痕	ナデ	10YR6/3(にがい青)	10YR5/2(灰青褐)	○	○		○				1095
61	S132	胴部	ナデ、沈線	ナデ	7.5YR6/4(にがい青)	7.5YR4/1(褐灰)	○	○		○				1108
62	S132	胴部	ナデ、燃糸	条痕の後ナデ	10YR6/3(にがい青)	2.5Y5/1(黄灰)	○	○		○				1105
63	SC4	口縁部	ナデ、沈線、刺突	ナデ	10YR5/2(灰青褐)	7.5YR5/3(にがい青)	○	○		○				1112
64	SC4	口縁部	貝条痕、刺突	ナデ	7.5YR6/4(にがい青)	10YR5/2(灰青褐)	○	○		○			口唇部にキザミ目	1077
65	SC4	胴部	貝条痕	ナデ	10YR6/4(にがい青)	2.5Y5/1(黄灰)	○	○		○				1079
66	SC4	胴部	貝条痕	ミガキ	10YR6/4(にがい青)	7.5YR5/3(にがい青)	○	○		○				1072
68	SC22	胴部	貝条痕	ナデ	10YR6/3(にがい青)	10YR6/3(にがい青)	○	○		○			スス付着	1075
69	SC26	胴部	貝条痕	ナデ	10YR6/3(にがい青)	10YR4/1(褐灰)	○	○		○				1085
70	SC26	胴部	条痕	ナデ	10YR7/3(にがい青)	10YR6/3(にがい青)	○	○		○				1101
71	SC33	底部	ナデ	工具ナデ	10YR6/2(灰青褐)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○		○				1076
72	SC34	胴部	貝条痕	不明跡	10YR5/2(灰青褐)	10YR5/2(灰青褐)	○	○		○				1073
73	SC7	胴部	ナデ、沈線	ナデ	7.5YR6/4(にがい青)	10YR5/2(灰青褐)	○	○		○				1071
74	SC9	口縁部	山形押型、ナデ	山形押型	2.5YR5/3(にがい赤褐)	2.5YR5/4(にがい赤褐)	○	○		○				1100
75	SC9	胴部	ナデ	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○		○				1098

第6表 縄文時代早期遺物包含層出土土器観察表②

観 察 番 号	出 土 層 位	部 位	文様及び調整		色 調		胎 土					備 考	実 測 No	
			外 面	内 面	外 面	内 面	黒	白	灰	褐色	赤土			
											赤土 含有率			赤土 含有率
76	SC9	胴部	ナデ, 沈線, 器系	ナデ	10YR5/2(灰青褐)	10YR6/3(にがい黄褐)	○	○	○	○	○			1102
77	SC9	胴部	糸痕	ナデ	10YR6/3(にがい黄褐)	10YR6/3(にがい黄褐)	○	○	○	○	○			1099
78	SC28	胴部	貝糸痕	不明瞭	10YR5/3(にがい黄褐)	5YR5/4(にがい赤褐)	○	○	○	○	○			1078
79	6	口縁部	貝糸痕, 貝刺突	ナデ	7.5YR6/4(にがい橙)	7.5YR5/4(にがい橙)	○	○	○	○	○		口唇部に刺突	308
80	6	口縁部	貝刺突, 貝糸痕	ナデ	10YR6/3(にがい黄褐)	7.5YR6/4(にがい橙)	○	○	○	○	○		口唇部に刺突	303
81	6	口縁部	工具刺突, 貝糸痕, ナデ	糸痕の後ナデ	7.5YR5/3(にがい橙)	7.5YR5/4(にがい橙)	○	○	○	○	○		穿孔有り	301
82	6	口縁部	貝糸痕	貝糸痕, ナデ	7.5YR5/4(にがい橙)	7.5YR5/4(にがい橙)	○	○	○	○	○		口唇部に刺突	17
83	5	胴部	貝糸痕	糸痕	5YR5/4(にがい赤褐)	5YR5/4(にがい赤褐)	○	○	○	○	○			305
84	5	胴部	工具刺突	ナデ	10YR4/2(灰青褐)	10YR4/1(褐灰)	○	○	○	○	○			444
85	5-6	胴部	貝糸痕	糸痕の後ナデ	7.5YR5/4(にがい橙)	7.5YR5/3(にがい橙)	○	○	○	○	○			307
86	6	胴部	貝糸痕, 貝刺突	ナデ	7.5YR5/3(にがい橙)	7.5YR5/4(にがい橙)	○	○	○	○	○			463
87	5	底部	キザミ	ナデ	5YR5/4(にがい赤褐)	5YR5/4(にがい赤褐)	○	○	○	○	○			464
88	5	口縁部	ナデ, 貝糸痕, 貝刺突, 模形貼付	丁寧なナデ	5YR5/3(にがい赤褐)	5YR5/4(にがい赤褐)	○	○	○	○	○		口唇部にキザミ目	465
89	5	口縁部	貝刺突, 模形貼付	ナデ	7.5YR4/3(橙)	5YR5/4(にがい赤褐)	○	○	○	○	○		口唇部にキザミ目	7
90	6	口縁部	貝刺突, 貝糸痕の後ナデ, 模形貼付	丁寧なナデ	7.5YR4/2(灰褐)	5YR5/4(にがい赤褐)	○	○	○	○	○		口唇部にキザミ目	449
91	6	口縁部	貝糸痕, 貝刺突, 模形貼付	丁寧なナデ	7.5YR4/2(灰褐)	5YR5/3(にがい赤褐)	○	○	○	○	○		口唇部にキザミ目	451
92	5	口縁部	貝刺突, 模形貼付	ナデ	10YR4/2(灰青褐)	5YR5/4(にがい赤褐)	○	○	○	○	○		口唇部にキザミ目	450
93	6	口縁部	貝刺突, 模形貼付	ナデ	2.5YR5/3(にがい赤褐)	5YR5/4(にがい赤褐)	○	○	○	○	○		口唇部にキザミ目	448
94	6	胴部	貝糸痕, 模形貼付	ナデ	7.5YR5/3(にがい橙)	2.5YR5/4(にがい赤褐)	○	○	○	○	○			456
95	5	胴部	貝糸痕, 模形貼付	ナデ	7.5YR5/4(にがい橙)	7.5YR5/4(にがい橙)	○	○	○	○	○			455
96	6	胴部	貝糸痕, 模形貼付	ケズリ後ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	2.5YR4/3(にがい赤褐)	○	○	○	○	○			454
97	6	胴部	貝糸痕, 貝刺突, 模形貼付	ナデ	7.5YR5/3(にがい橙)	5YR5/3(にがい赤褐)	○	○	○	○	○			457
98	5	胴部	貝刺突, 模形貼付	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	5YR5/3(にがい赤褐)	○	○	○	○	○			460
99	5	胴部	貝刺突	ナデ	5YR5/4(にがい赤褐)	2.5YR4/4(にがい赤褐)	○	○	○	○	○			446
100	6	胴部	貝刺突, 工具刺突	ナデ	2.5YR4/1(赤灰)	5YR5/4(にがい赤褐)	○	○	○	○	○			445
101	6	胴部	貝刺突	ナデ	7.5YR5/3(にがい橙)	7.5YR5/3(にがい橙)	○	○	○	○	○			461
102	5	胴部	貝刺突	ナデ	7.5YR5/3(にがい橙)	5YR4/2(灰褐)	○	○	○	○	○			459
103	6	胴部	貝刺突, キザミ	ナデ	7.5YR5/3(にがい橙)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○	○	○	○		ス付着	458
104	6	底部	貝糸痕の後貝刺突	ナデ	7.5YR5/4(にがい橙)	7.5YR5/4(にがい橙)	○	○	○	○	○			18
105	5	胴～底部	キザミ, ナデ	ナデ	7.5YR5/3(にがい橙)	7.5YR5/3(にがい橙)	○	○	○	○	○			453
106	6	胴～底部	キザミ, ナデ	ナデ	7.5YR5/3(にがい橙)	5YR5/4(にがい赤褐)	○	○	○	○	○			452
107	5-6	胴部	貝糸痕	丁寧なナデ	7.5YR5/3(にがい橙)	7.5YR5/3(にがい橙)	○	○	○	○	○			462
108	6	口縁～胴部	工具押引, 貝糸痕	丁寧なナデ	7.5YR5/3(にがい橙)	7.5YR6/3(にがい橙)	○	○	○	○	○			306
109	6	口縁部	工具押引, 貝糸痕	丁寧なナデ	7.5YR4/1(灰褐)	10YR6/3(にがい黄褐)	○	○	○	○	○			304
110	6	口縁部	工具押引, 糸痕	ナデ	10YR6/3(にがい黄褐)	2.5YR2(暗灰黄)	○	○	○	○	○			331
111	5	口縁～胴部	工具押引, 貝糸痕	ミガキ	10YR5/3(にがい黄褐)	10YR5/3(にがい黄褐)	○	○	○	○	○			330
112	6	口縁部	貝糸痕	ナデ	7.5YR5/4(にがい橙)	7.5YR6/4(にがい橙)	○	○	○	○	○			329
113	5-6	口縁～胴部	工具押引, 糸痕	ナデ	7.5YR5/3(にがい橙)	7.5YR6/4(にがい橙)	○	○	○	○	○			328
114	8	口縁部	工具押引, 貝糸痕	ナデ	10YR6/4(にがい黄褐)	10YR6/3(にがい黄褐)	○	○	○	○	○			302
115	6	胴部	貝糸痕	ミガキ	10YR6/3(にがい黄褐)	10YR5/2(灰青褐)	○	○	○	○	○			333
116	6	胴部	貝糸痕	ナデ	10YR6/3(にがい黄褐)	2.5YR5/1(黄灰)	○	○	○	○	○			332
117	6	胴部	貝糸痕	丁寧なナデ	10YR6/3(にがい黄褐)	10YR6/3(にがい黄褐)	○	○	○	○	○			389
118	6	胴部	貝糸痕	丁寧なナデ	7.5YR6/4(にがい橙)	10YR5/2(灰青褐)	○	○	○	○	○			394
119	6	胴部	貝糸痕	ナデ	2.5YR6/2(灰黄)	10YR5/2(灰青褐)	○	○	○	○	○			339
120	6	胴部	貝糸痕	ナデ	10YR6/3(にがい黄褐)	10YR6/3(にがい黄褐)	○	○	○	○	○		ス付着	391
121	6	胴部	貝糸痕	ナデ	7.5YR6/4(にがい橙)	10YR5/2(灰青褐)	○	○	○	○	○			335
122	6	胴部	貝糸痕	ミガキ	7.5YR6/4(にがい橙)	7.5YR5/4(にがい橙)	○	○	○	○	○			337
123	6	胴部	貝糸痕	ナデ	7.5YR6/4(にがい橙)	10YR6/3(にがい黄褐)	○	○	○	○	○			334
124	6	胴部	貝糸痕	ナデ	7.5YR6/4(にがい橙)	10YR6/3(にがい黄褐)	○	○	○	○	○			388
125	6	胴部	貝糸痕	丁寧なナデ	7.5YR6/4(にがい橙)	10YR5/2(灰青褐)	○	○	○	○	○			395
126	6	胴部	貝糸痕	ミガキ	10YR6/4(にがい黄褐)	7.5YR6/4(にがい橙)	○	○	○	○	○			390
127	6	胴部	貝糸痕	丁寧なナデ	7.5YR6/4(にがい橙)	10YR6/3(にがい黄褐)	○	○	○	○	○			392

第7表 縄文時代早期遺物包含層出土土器観察表③

報告書 No	出土 層位	部位	文様及び調整		色 調		胎 土			備 考	実測 地					
			外 面	内 面	外 面	内 面	黒	白	灰			赤 褐色	半 透明・ 褐色	全 金 色 母		
128	6	胴部	貝条痕	丁寧なナデ	10YR6/4(にがい黄褐色)	7.5YR5/3(にがい赤褐色)										340
129	5	胴～底部	ナデ	ナデ	10YR6/3(にがい黄褐色)	10YR5/2(灰黄褐色)										822
130	6	底部	ナデ	ナデ	10YR6/4(にがい黄褐色)	10YR5/2(灰黄褐色)										823
131	6	口縁部	工具刺突	貝条痕の後丁寧なナデ	10YR5/3(にがい黄褐色)	2.5YR4/1(赤灰)									指押さえ有り	12
132	6	口縁部	貝刺突	ナデ	5YR5/3(にがい赤褐色)	7.5YR5/3(にがい赤褐色)										309
133	6	胴部	貝刺突	ナデ	2.5Y5/2(暗灰黄)	2.5Y5/2(暗灰黄)										314
134	6	胴部	貝刺突、ナデ	ナデ	7.5YR5/3(にがい黄褐色)	7.5YR5/2(灰黄褐色)										313
135	6	胴部	貝刺突	ナデ	2.5Y5/1(黄灰)	10YR4/2(灰黄褐色)										312
136	6	胴部	貝刺突	ナデ	10YR5/2(灰黄褐色)	2.5YR4/1(黄灰)										311
137	6	胴部	貝刺突	ナデ	7.5YR5/3(にがい黄褐色)	10YR5/2(灰黄褐色)										310
138	5	口縁～胴部	刺突、貝条痕	ナデ	10YR4/2(灰黄褐色)	10YR4/2(灰黄褐色)										10
139	6	口縁部	工具羽状	ナデ	7.5YR5/3(にがい黄褐色)	7.5YR5/3(にがい黄褐色)										327
140	6	口縁部	工具羽状	ナデ	2.5YR4/1(赤灰)	5YR5/3(にがい赤褐色)										315
141	5	胴部	工具羽状	ミガキ	7.5YR5/2(灰黄褐色)	7.5YR4/1(黄灰)										321
142	6	胴部	貝羽状	ミガキ	7.5YR5/3(にがい黄褐色)	7.5YR4/2(灰黄褐色)										319
143	6	胴部	短沈線	ナデ	7.5YR5/3(にがい黄褐色)	7.5YR5/3(にがい黄褐色)										320
144	5	胴部	短貝条痕	丁寧なナデ	5YR5/4(にがい赤褐色)	7.5YR5/3(にがい赤褐色)										323
145	5-6	胴部	短沈線、ナデ	ミガキ、 丁寧なナデ	5YR5/3(にがい赤褐色)	7.5YR4/1(黄灰)										929
146	6	胴部	工具羽状	ナデ	7.5YR5/3(にがい黄褐色)	7.5YR6/4(にがい赤褐色)										316
147	5	胴部	工具羽状	丁寧なナデ	5YR5/4(にがい赤褐色)	7.5YR5/3(にがい黄褐色)										318
148	6	胴部	工具流水	ナデ	7.5YR5/3(にがい黄褐色)	7.5YR5/2(灰黄褐色)										325
149	6	胴部	工具羽状	丁寧なナデ	5YR5/4(にがい赤褐色)	2.5Y4/1(黄灰)										326
150	6	胴部	短沈線	ナデ	7.5YR5/3(にがい黄褐色)	5YR5/4(にがい赤褐色)										317
151	6	胴～底部	短沈線、ナデ	ナデ	5YR5/3(にがい赤褐色)	7.5YR4/1(黄灰)										14
152	6	口縁部	橋内押型	ナデ	5YR5/3(にがい赤褐色)	7.5YR5/3(にがい赤褐色)									152～158間一 個体	425
153	5	口縁部	橋内押型	ナデ	5YR4/2(灰黄褐色)	7.5YR4/2(灰黄褐色)									穿孔有り	426
154	6	胴部	橋内押型	ナデ	7.5YR4/1(黄灰)	7.5YR4/2(灰黄褐色)									スス付着	431
155	6	胴部	橋内押型	ナデ	5YR5/3(にがい赤褐色)	7.5YR4/2(灰黄褐色)									スス付着	429
156	6	胴部	橋内押型	ナデ	5YR5/3(にがい赤褐色)	7.5YR4/2(灰黄褐色)									スス付着	432
157	5	胴部	橋内押型	ナデ	5YR5/3(にがい赤褐色)	7.5YR4/2(灰黄褐色)										434
158	5	胴部	橋内押型	ナデ	5YR5/4(にがい赤褐色)	10YR5/2(灰黄褐色)										433
159	5	口縁部	橋内押型	ナデ	10YR4/2(灰黄褐色)	10YR6/4(にがい黄褐色)										13
160	6	胴部	橋内押型	ナデ	7.5YR6/4(にがい赤褐色)	10YR6/3(にがい赤褐色)										436
161	6	胴部	橋内押型	ナデ	10YR6/3(にがい黄褐色)	10YR5/3(にがい黄褐色)										440
162	6	胴部	橋内押型	ナデ	7.5YR6/4(にがい赤褐色)	7.5YR6/4(にがい赤褐色)										442
163	5	胴部	橋内押型	ナデ	10YR7/4(にがい黄褐色)	10YR6/3(にがい黄褐色)										439
164	6	胴部	橋内押型	ナデ、橋内押型	7.5YR5/4(にがい赤褐色)	7.5YR5/3(にがい赤褐色)										441
165	5	底部	橋内押型	ナデ	10YR6/3(にがい黄褐色)	7.5YR6/3(にがい赤褐色)										428
166	6	口縁部	山形押型、 原体条痕		10YR6/4(にがい黄褐色)	10YR5/3(にがい黄褐色)										424
167	6	口縁部	山形押型、 原体条痕		10YR5/2(灰黄褐色)	2.5Y5/2(暗灰黄)										443
168	5	口縁部	山形押型、 原体条痕		10YR6/3(にがい黄褐色)	10YR6/3(にがい黄褐色)										402
169	8	口縁部	山形押型、 原体条痕		7.5YR5/4(にがい赤褐色)	10YR6/4(にがい黄褐色)										401
170	5	口縁部	山形押型	ナデ	10YR5/2(灰黄褐色)	10YR6/3(にがい黄褐色)										403
171	6	胴部	山形押型	ナデ	5YR5/3(にがい赤褐色)	5YR5/4(にがい赤褐色)										406
172	6	胴部	山形押型	ナデ	2.5Y5/1(黄灰)	10YR6/3(にがい黄褐色)										410
173	6	口縁部	山形押型	山形押型、 象痕の後ナデ	7.5YR5/3(にがい赤褐色)	10YR6/3(にがい黄褐色)										404
174	不明	胴部	山形押型	ナデ	7.5YR5/3(にがい黄褐色)	10YR4/1(黄灰)										412
175	6	胴部	山形押型	ナデ	10YR6/4(にがい黄褐色)	2.5YR5/2(灰赤)										420
176	5	胴部	山形押型	ナデ	7.5YR5/3(にがい黄褐色)	10YR4/1(黄灰)										416
177	6	胴部	山形押型	ナデ	10YR4/2(灰黄褐色)	10YR4/1(黄灰)									スス付着	411
178	6	胴部	山形押型	ナデ	7.5YR5/3(にがい黄褐色)	5YR5/4(にがい赤褐色)										408

第8表 縄文時代早期遺物包含層出土土器観察表④

観測番号	出土層位	部位	文様及び調整		色 調		胎 土				備 考	実測値
			外 面	内 面	外 面	内 面	黒	白	灰	褐色 赤褐色 赤 黒		
179	5	胴部	山形押型	ナデ	10YR6/3(にぶい・黄橙)	10YR6/3(にぶい・黄橙)	○	○	○	○		419
180	6	胴部	山形押型	ナデ	5YR5/4(にぶい・赤褐)	2.5Y4/1(黄灰)	○	○	○	○		414
181	5	胴部	山形押型	ナデ	7.5YR5/3(にぶい・褐)	7.5YR5/2(灰黄)	○	○	○	○		417
182	6	胴部	山形押型	ナデ	10YR6/3(にぶい・黄橙)	10YR6/3(にぶい・黄橙)	○	○	○	○		422
183	6	胴部	山形押型	ナデ	7.5YR5/4(灰黄)	10YR4/2(灰黄褐)	○	○	○	○		413
184	6	胴部	山形押型	ナデ	10YR6/3(にぶい・黄橙)	10YR6/3(にぶい・黄橙)	○	○	○	○		423
185	5	口縁部	山形押型	山形押型, ナデ	10YR6/3(にぶい・黄橙)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	○	○		423
186	6	胴部	山形押型	ナデ	7.5YR5/3(にぶい・褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	○	○		418
187	6	底部	山形押型	粗いナデ	10YR5/3(にぶい・黄橙)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	○	○		927
188	6	胴部	短柱回転	条痕	10YR5/2(灰黄褐)	10YR4/2(灰黄褐)	○	○	○	○		399
189	6	胴部	短柱回転	ナデ	5YR5/4(にぶい・赤褐)	10YR5/3(にぶい・黄橙)	○	○	○	○		400
190	5-6	口縁部	ナデ, 沈線, 微隆帯	ナデ	7.5YR6/4(にぶい・褐)	7.5YR6/3(にぶい・褐)	○	○	○	○		1047
191	5-6	口縁部	ナデ, 沈線, 微隆帯	ナデ	7.5YR5/3(にぶい・褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	○	○	口唇部にキザミ目	1049
192	5-6	口縁部	ナデ, 微隆帯	ナデ	10YR6/3(にぶい・黄橙)	7.5YR6/4(にぶい・褐)	○	○	○	○	口唇部にキザミ目	987
193	5-6	口縁部	沈線, ナデ, 微隆帯	ナデ	5YR5/4(にぶい・赤褐)	7.5YR5/4(にぶい・褐)	○	○	○	○	口唇部に2列キザミ目	981
194	5	口縁部	刺突, 連点, 沈線, ナデ	ナデ	10YR6/3(にぶい・黄橙)	10YR5/3(にぶい・黄橙)	○	○	○	○		577
195	5	口縁部	沈線, 連点, キザミ	ナデ	10YR6/3(にぶい・黄橙)	7.5YR5/3(にぶい・褐)	○	○	○	○		508
196	6	口縁部	沈線, ナデ	ナデ	7.5YR5/3(にぶい・褐)	7.5YR5/3(にぶい・褐)	○	○	○	○	口唇部にキザミ目	479
197	6	頸部	ナデ, 微隆帯	ナデ	5YR5/4(にぶい・赤褐)	7.5YR5/3(にぶい・褐)	○	○	○	○		1045
198	5-6	口縁部	刺突, 沈線	丁寧なナデ	10YR5/2(灰黄褐)	2.5Y5/1(黄灰)	○	○	○	○	口唇部にキザミ目	616
199	6	口縁部	刺突, 沈線, ナデ	ナデ	7.5YR5/2(灰黄)	7.5YR4/2(灰黄)	○	○	○	○	口唇部にキザミ目	488
200	6	口縁部	沈線, 連点, ナデ	丁寧なナデ	7.5YR5/2(灰黄)	2.5Y4/1(黄灰)	○	○	○	○		469
201	6	口縁部	爪形, 沈線の内側糸, ナデ	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR6/2(灰黄褐)	○	○	○	○	口唇部にキザミ目	795
202	5	口縁部	沈線, 連点, ナデ	ナデ	10YR6/3(にぶい・黄橙)	10YR6/3(にぶい・黄橙)	○	○	○	○		502
203	6	口縁部	沈線, 連点, ナデ	ナデ	10YR6/4(にぶい・黄橙)	10YR6/3(にぶい・黄橙)	○	○	○	○		503
204	6	口縁部	沈線, 連点, ナデ	条痕の後ナデ	10YR6/4(にぶい・黄橙)	10YR5/3(にぶい・黄橙)	○	○	○	○		504
205	5	口縁-頸部	ナデ, 沈線, 刺突	ナデ	10YR6/2(黄灰)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	○	○	口唇部にキザミ目	818
206	5	口縁部	ナデ, 連点, 沈線	ナデ	5YR4/3(にぶい・赤褐)	7.5YR5/3(にぶい・褐)	○	○	○	○	口唇部にキザミ目	490
207	5	胴部	沈線, 連点, ナデ	条痕の後ナデ	10YR6/3(にぶい・黄橙)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	○	○		527
208	5-6	頸部	沈線, 連点	ナデ	10YR6/3(にぶい・黄橙)	10YR6/3(にぶい・黄橙)	○	○	○	○		629
209	6	口縁部	沈線, ナデ	ナデ	7.5YR6/4(にぶい・褐)	10YR6/3(にぶい・黄橙)	○	○	○	○	口唇部に羽状キザミ目	491
210	5	口縁部	沈線, ナデ	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/3(にぶい・黄橙)	○	○	○	○	口唇部に羽状キザミ目	480
211	5	口縁-頸部	沈線, ナデ	条痕の後ナデ, ナデ	7.5YR5/3(にぶい・褐)	5YR5/4(にぶい・赤褐)	○	○	○	○	口唇部に羽状キザミ目	496
212	6	口縁部	沈線, ナデ	ナデ	10YR6/3(にぶい・黄橙)	10YR5/3(にぶい・黄橙)	○	○	○	○	口唇部に羽状キザミ目	492
213	5	口縁部	沈線, ナデ	ナデ, 沈線, 条痕の後ナデ	10YR5/3(にぶい・黄橙)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	○	○		477
214	6	口縁-頸部	ナデ, 幾何学的文様の沈線	ナデ	5YR5/4(にぶい・赤褐)	10YR5/3(にぶい・黄橙)	○	○	○	○	口唇部にキザミ目	481
215	6	口縁-頸部	沈線, ナデ	条痕の後ナデ	10YR8/1(灰白)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	○	○	口唇部にキザミ目	494
216	6	口縁部	沈線, ナデ	条痕の後ナデ	10YR6/3(にぶい・黄橙)	7.5YR6/4(にぶい・褐)	○	○	○	○	口唇部にキザミ目	493
217	6	口縁部	沈線, ナデ	ナデ	10YR6/3(にぶい・黄橙)	10YR6/3(にぶい・黄橙)	○	○	○	○	口唇部に羽状キザミ目	475
218	8	口縁部	沈線, ナデ	ナデ	7.5YR5/3(にぶい・褐)	7.5YR5/3(にぶい・褐)	○	○	○	○	口唇部にキザミ目	471
219	6	口縁部	沈線, ナデ	ナデ	7.5YR5/3(にぶい・褐)	5YR5/4(にぶい・赤褐)	○	○	○	○		632
220	6	口縁部	ナデ, 沈線	ナデ	7.5YR6/4(にぶい・褐)	7.5YR5/3(にぶい・褐)	○	○	○	○	口唇部にキザミ目	619
221	5	口縁部	断糸, 沈線, ナデ	ナデ	7.5YR4/2(灰黄)	7.5YR4/1(黄灰)	○	○	○	○	口唇部にキザミ目	470
222	5	口縁部	ナデ, 沈線	条痕の後ナデ	10YR5/3(にぶい・黄橙)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	○	○	口唇部にキザミ目	621
223	6	口縁部	沈線	ナデ	10YR6/3(にぶい・黄橙)	7.5YR5/3(にぶい・褐)	○	○	○	○	口唇部に羽状キザミ目	566
224	6	口縁部	沈線, ナデ	ナデ	7.5YR5/3(にぶい・褐)	7.5YR5/3(にぶい・褐)	○	○	○	○	口唇部にキザミ目	468
225	6	口縁部	沈線, ナデ	ナデ	10YR6/3(にぶい・黄橙)	10YR6/3(にぶい・黄橙)	○	○	○	○	口唇部にキザミ目	476
226	6	口縁部	沈線, ナデ, 条痕	丁寧なナデ	7.5YR4/1(黄灰)	2.5YR5/3(にぶい・赤褐)	○	○	○	○	口唇部にキザミ目	500
227	6	口縁部	ナデ, 沈線	ナデ	5YR5/3(にぶい・赤褐)	5YR5/3(にぶい・赤褐)	○	○	○	○	口唇部にキザミ目	472

第9表 縄文時代早期遺物包含層出土土器観察表⑤

報告書 No	出土 層位	部位	文様及び調整		色 調		胎 土					備 考	実測 地	
			外 面	内 面	外 面	内 面	黒	白	灰	褐色 半透明・ 褐色	全 金 母 母			
228	6	口縁部	ナデ, 沈線	ナデ	7.5YR5/3(にがい青)	10YR5/2(灰黄青)							口唇部に羽状キザミ目	961
229	6	口縁部	沈線, ナデ	ナデ	10YR5/2(灰黄青)	10YR5/3(にがい黄青)							口唇部にキザミ目	478
230	5	口縁部	沈線	ナデ	10YR6/3(にがい黄青)	10YR5/1(補灰)							口唇部に羽状キザミ目	567
231	5	口縁部	沈線, ナデ	ナデ	10YR6/4(にがい黄青)	10YR5/3(にがい黄青)							口唇部にキザミ目	620
232	5-6	口縁部	沈線, ナデ	条痕の後ナデ	10YR6/3(にがい黄青)	10YR6/3(にがい黄青)							口唇部にキザミ目	623
233	5	口縁部	沈線, ナデ	ナデ	5YR5/3(にがい赤青)	7.5YR5/3(にがい青)							口唇部にキザミ目	473
234	6	口縁～頸部	沈線, ナデ	丁寧なナデ	10YR5/3(にがい黄青)	10YR5/3(にがい黄青)							口唇部に羽状キザミ目	505
235	5-6	口縁部	沈線, ナデ	ナデ	7.5YR6/4(にがい青)	7.5YR6/4(にがい青)							口唇部にキザミ目	618
236	5	口縁～頸部	沈線, ナデ	ナデ	10YR6/3(にがい黄青)	10YR5/3(にがい黄青)							口唇部にキザミ目	622
237	6	口縁～頸部	沈線, ナデ	条痕の後ナデ	5YR4/2(灰青)	2.5YR5/4(にがい赤青)							口唇部にキザミ目	625
238	6	口縁部	ナデ, 沈線, 沈線内縁文	ナデ	10YR5/3(にがい黄青)	10YR6/3(にがい黄青)								967
239	5	口縁～頸部	沈線, ナデ	ナデ	7.5YR6/4(にがい青)	7.5YR6/4(にがい青)								506
240	5	口縁～頸部	沈線, ナデ	ナデ	7.5YR5/2(灰青)	10YR5/3(にがい黄青)								495
241	6	口縁部	ナデ	丁寧なナデ	5YR4/1(補灰)	5YR4/2(灰青)							口唇部にキザミ目	501
242	6	口縁～頸部	沈線, 燃糸, ナデ	ナデ	10YR5/3(にがい黄青)	10YR5/3(にがい黄青)							口唇部にキザミ目	626
243	6	口縁～頸部	沈線, ナデ	ナデ	10YR5/2(灰黄青)	10YR5/2(灰黄青)							口唇部に羽状キザミ目	499
244	5	口縁～頸部	沈線, ナデ	条痕の後ナデ	7.5YR5/3(にがい青)	10YR5/2(灰黄青)							口唇部に羽状キザミ目	520
245	6	口縁～胴部	ナデ	ナデ	7.5YR6/4(にがい青)	7.5YR6/4(にがい青)								1001
246	6	口縁～胴部	ナデ, 沈線	ナデ, 条痕の後 ナデ	7.5YR4/2(灰青)	7.5YR5/3(にがい黄青)							口唇部にキザミ目	963
247	6	口縁～頸部	ナデ, 沈線	ナデ	7.5YR6/4(にがい青)	7.5YR6/3(にがい黄青)								8
248	6	口縁～頸部	ナデ, 沈線	ナデ	2.5Y5/1(黄灰)	10YR5/2(灰黄青)								474
249	6	口縁～頸部	ナデ	ナデ	10YR4/1(補灰)	7.5YR5/1(補灰)								498
250	6	口縁部	ナデ	条痕の後ナデ	10YR4/1(補灰)	2.5Y5/1(黄灰)								469
251	6	口縁～頸部	沈線, ナデ	ナデ, 条痕の後 ナデ	7.5YR4/1(補灰)	10YR5/2(灰黄青)							口唇部に羽状キザミ目	483
252	6	口縁部	沈線, ナデ	ナデ	7.5YR5/3(にがい青)	10YR5/3(にがい黄青)							口唇部に羽状キザミ目	497
253	5-6	口縁～頸部	燃糸, 沈線, ナデ	ナデ	10YR5/2(灰黄青)	10YR5/3(にがい黄青)							口唇部に羽状キザミ目	627
254	5	口縁～頸部	沈線, ナデ	ナデ, 条痕の後 ナデ	10YR5/2(灰黄青)	10YR5/3(にがい黄青)							口唇部にキザミ目	482
255	6	口縁～頸部	沈線, ナデ	ナデ	7.5YR5/2(灰青)	2.5Y5/2(補灰青)							口唇部に羽状キザミ目	484
256	6	口縁部	沈線, ナデ	ナデ	10YR5/2(灰黄青)	10YR5/2(灰黄青)							口唇部にキザミ目	487
257	6	口縁～頸部	燃糸, 沈線, ナデ	ナデ	10YR5/3(にがい黄青)	7.5YR5/2(灰青)							口唇部に羽状キザミ目	485
258	5-6	口縁～頸部	沈線, ナデ	条痕の後ナデ	7.5YR5/2(灰青)	10YR5/2(灰黄青)								624
259	5	口縁～頸部	燃糸, 沈線, ナデ	ナデ	5YR4/2(灰青)	7.5YR5/3(にがい黄青)							口唇部にキザミ目	467
260	5	口縁～頸部	沈線, ナデ, 燃糸	ナデ	7.5YR5/2(灰青)	10YR5/2(灰黄青)							口唇部に羽状キザミ目	486
261	5-6	頸部	沈線, ナデ	条痕, 条痕の後 ナデ	10YR6/3(にがい黄青)	10YR5/2(灰黄青)								633
262	5	頸部	沈線, ナデ	ナデ	5YR5/3(にがい赤青)	7.5YR5/3(にがい黄青)								628
263	5	頸部	燃糸, 沈線	条痕の後ナデ	7.5YR4/1(補灰)	10YR4/3(にがい黄青)								521
264	5-6	頸～胴部	燃糸, 沈線	条痕の後ナデ	2.5Y4/1(黄灰)	2.5Y5/2(補灰青)								606
265	6	頸～胴部	燃糸, 沈線	ナデ	10YR5/2(灰黄青)	10YR6/3(にがい黄青)								565
266	5	頸部	刺突, 沈線, ナデ	ナデ	2.5Y6/3(にがい黄)	10YR7/4(にがい黄青)								802
267	6	頸部	沈線, 連点, ナデ	丁寧なナデ	10YR6/3(にがい黄青)	10YR6/3(にがい黄青)								507
268	6	頸部	燃糸, 沈線, ナデ	ナデ	10YR5/3(にがい黄青)	10YR6/3(にがい黄青)								564
269	5-6	頸～胴部	燃糸, 刺突, 沈線	条痕の後ナデ	7.5YR5/3(にがい青)	10YR5/3(にがい黄青)							269-270同一個体	637
270	5-6	胴部	燃糸, 刺突, 沈線	ナデ	7.5YR4/2(灰青)	7.5YR5/3(にがい黄青)								639
271	5	胴部	燃糸, 沈線, ナデ	条痕の後ナデ	10YR6/3(にがい黄青)	10YR6/3(にがい黄青)							穿孔有り	540
272	5	胴部	沈線内燃糸, 連点	ナデ	5YR5/4(にがい赤青)	5YR5/4(にがい赤青)								574

第10表 縄文時代早期遺物包含層出土土器観察表⑥

観 察 番 号	出 土 層 位	部 位	文様及び調整		色 調				胎 土				備 考	実 測 No
			外 面	内 面	外 面	内 面	黒	白	灰 色	赤 色	茶 色 透 明	金 色 出		
273	6	胴部	黒糸、沈線	ナデ	7.5YR6/4(にみい橙)	10YR5/4(にみい黄橙)	○	○	○	○	○	○		589
274	5	胴部	黒糸、沈線	ナデ	7.5YR6/4(にみい橙)	10YR6/3(にみい黄橙)	○	○	○	○	○	○		58
275	6	胴部	黒糸、沈線	ナデ	10YR5/3(にみい黄橙)	10YR6/4(にみい黄橙)	○	○	○	○	○	○		239
276	6	胴部	黒糸、沈線	糸痕の後ナデ	5YR5/3(にみい赤橙)	7.5YR5/3(にみい黄)	○	○	○	○	○	○		581
277	5	胴部	黒糸、沈線、ナデ	ナデ	10YR6/3(にみい黄橙)	10YR6/3(にみい黄橙)	○	○	○	○	○	○		538
278	5	胴部	沈線内照糸	糸痕の後ナデ	10YR6/3(にみい黄橙)	7.5YR5/2(灰)	○	○	○	○	○	○		578
279	6	胴部	黒糸、沈線、連点	ナデ	10YR6/3(にみい黄橙)	7.5YR5/3(にみい黄)	○	○	○	○	○	○		526
280	6	胴部	黒糸、沈線	糸痕の後ナデ	10YR5/2(灰黄)	10YR6/2(灰黄)	○	○	○	○	○	○		529
281	5-6	胴部	黒糸、沈線	ナデ	10YR6/3(にみい黄橙)	10YR6/3(にみい黄橙)	○	○	○	○	○	○		579
282	5-6	胴部	黒糸、沈線	糸痕の後ナデ	5YR5/3(にみい赤橙)	5YR5/3(にみい赤橙)	○	○	○	○	○	○		583
283	6	胴部	黒糸、沈線	ナデ	10YR6/3(にみい黄橙)	10YR6/3(にみい黄橙)	○	○	○	○	○	○		575
284	6	胴部	黒糸、沈線	糸痕の後ナデ	7.5YR4/2(灰)	7.5YR4/2(灰)	○	○	○	○	○	○		523
285	5	胴部	黒糸、沈線	ナデ	10YR6/3(にみい黄橙)	10YR6/3(にみい黄橙)	○	○	○	○	○	○		590
286	5-6	胴部	黒糸、沈線	糸痕の後ナデ	10YR6/3(にみい黄橙)	2.5Y5/2(暗灰)	○	○	○	○	○	○		595
287	5-6	胴部	黒糸、沈線	ナデ	7.5YR6/4(にみい橙)	10YR6/3(にみい黄橙)	○	○	○	○	○	○		591
288	6	胴部	黒糸、沈線、ナデ	糸痕の後ナデ	10YR5/2(灰黄)	10YR6/2(灰黄)	○	○	○	○	○	○		542
289	6	胴部	黒糸、ナデ	糸痕の後ナデ	7.5YR6/4(にみい橙)	7.5YR6/4(にみい橙)	○	○	○	○	○	○		536
290	6	胴部	黒糸、沈線	糸痕の後ナデ	10YR5/2(灰黄)	7.5YR4/2(灰)	○	○	○	○	○	○		531
291	5	胴部	黒糸、沈線	ナデ	7.5YR5/2(灰)	7.5YR5/2(灰)	○	○	○	○	○	○		556
292	6	胴部	黒糸、沈線、ナデ	ナデ	7.5YR5/3(にみい黄)	10YR5/2(灰黄)	○	○	○	○	○	○		857
293	6	胴部	黒糸、沈線	糸痕の後ナデ	7.5YR5/3(にみい黄)	7.5YR5/3(にみい黄)	○	○	○	○	○	○		559
294	6	胴部	黒糸、沈線	糸痕の後ナデ	7.5YR5/3(にみい黄)	7.5YR4/1(褐灰)	○	○	○	○	○	○		530
295	5	胴部	黒糸、沈線、ナデ	ナデ	10YR6/3(にみい黄橙)	7.5YR5/3(にみい黄)	○	○	○	○	○	○		522
296	6	胴部	黒糸、沈線、ナデ	糸痕の後ナデ	7.5YR5/2(灰)	7.5YR5/2(灰)	○	○	○	○	○	○	炭化物有り	552
297	6	胴部	黒糸、沈線、ナデ	ナデ	7.5YR5/4(にみい黄)	10YR5/2(灰黄)	○	○	○	○	○	○		534
298	6	胴部	黒糸、沈線	糸痕の後ナデ	7.5YR4/1(褐灰)	5YR4/2(灰)	○	○	○	○	○	○		609
299	6	胴部	黒糸、沈線、ナデ	糸痕の後ナデ	10YR6/3(にみい黄橙)	7.5YR5/2(灰)	○	○	○	○	○	○		546
300	6	胴部	黒糸、沈線	糸痕の後ナデ	10YR5/2(灰黄)	10YR5/3(にみい黄)	○	○	○	○	○	○		602
301	6	胴部	黒糸、沈線、ナデ	糸痕の後ナデ	10YR5/2(灰黄)	10YR5/3(にみい黄)	○	○	○	○	○	○	炭化物有り	549
302	6	胴部	黒糸、沈線	糸痕の後ナデ	7.5YR4/2(灰)	5YR5/3(にみい赤橙)	○	○	○	○	○	○	ス付着	543
303	5	胴部	黒糸、ナデ	ナデ	7.5YR4/2(灰)	10YR5/2(灰黄)	○	○	○	○	○	○		533
304	6	胴部	黒糸、沈線、ナデ	ナデ	2.5Y4/1(黄灰)	7.5YR7/1(明褐灰)	○	○	○	○	○	○		561
305	6	胴部	黒糸、沈線、ナデ	糸痕	7.5YR6/4(にみい橙)	10YR6/3(にみい黄橙)	○	○	○	○	○	○		537
306	5-6	胴部	黒糸、沈線	糸痕	2.5Y4/1(黄灰)	7.5YR5/3(にみい黄)	○	○	○	○	○	○		605
307	6	胴部	黒糸、沈線	糸痕の後ナデ	7.5YR5/2(灰)	7.5YR4/2(灰)	○	○	○	○	○	○	ス付着	560
308	6	胴部	黒糸、沈線	糸痕の後ナデ	7.5YR5/2(灰)	2.5YR5/4(にみい赤)	○	○	○	○	○	○		584
309	5-6	胴部	黒糸、沈線	糸痕の後ナデ	5YR4/2(灰)	2.5YR5/4(にみい赤)	○	○	○	○	○	○		586
310	5	胴部	黒糸、沈線、ナデ	糸痕の後ナデ	7.5YR4/1(褐灰)	10YR5/3(にみい黄)	○	○	○	○	○	○		615
311	5-6	胴部	黒糸、沈線、ナデ	糸痕の後ナデ	7.5YR5/3(にみい黄)	7.5YR5/3(にみい黄)	○	○	○	○	○	○		588
312	5	胴部	黒糸	糸痕の後ナデ	10YR4/1(褐灰)	10YR5/2(灰黄)	○	○	○	○	○	○		611
313	5	胴部	黒糸、沈線、ナデ	糸痕の後ナデ	10YR6/3(にみい黄橙)	10YR5/3(にみい黄)	○	○	○	○	○	○		548
314	5-6	胴部	黒糸、沈線	糸痕の後ナデ	7.5YR4/2(灰)	5YR4/2(灰)	○	○	○	○	○	○		607
315	5-6	胴部	黒糸、沈線	糸痕の後ナデ	7.5YR6/4(にみい橙)	7.5YR5/2(灰)	○	○	○	○	○	○		593
316	5-6	胴部	黒糸、沈線	ナデ	10YR5/2(灰黄)	10YR6/3(にみい黄橙)	○	○	○	○	○	○		603
317	6	胴部	黒糸、沈線	糸痕の後ナデ	7.5YR5/2(灰)	7.5YR4/1(褐灰)	○	○	○	○	○	○		614
318	5	胴部	黒糸、沈線、ナデ	糸痕の後ナデ	5YR5/4(にみい赤)	10YR5/3(にみい黄)	○	○	○	○	○	○		524
319	5-6	胴~底部	黒糸、沈線	ナデ、糸痕の後ナデ	7.5YR5/3(にみい黄)	7.5YR5/3(にみい黄)	○	○	○	○	○	○	ス付着	569
320	5	胴~底部	黒糸、沈線	ナデ	10YR5/3(にみい黄)	10YR5/3(にみい黄)	○	○	○	○	○	○		513
321	5	胴~底部	黒糸、沈線	ナデ	7.5YR5/3(にみい黄)	10YR3/1(黒)	○	○	○	○	○	○		515
322	6	胴~底部	黒糸	糸痕、ナデ	10YR6/3(にみい黄橙)	2.5Y5/1(黄灰)	○	○	○	○	○	○		517
323	6	胴~底部	黒糸、沈線	丁寧なナデ	7.5YR7/1(明褐灰)	10YR4/1(褐灰)	○	○	○	○	○	○		514
324	6	胴~底部	沈線、ナデ	ナデ	7.5YR6/4(にみい橙)	10YR5/3(にみい黄)	○	○	○	○	○	○		511
325	6	胴~底部	沈線、ナデ	糸痕の後ナデ	10YR6/3(にみい黄橙)	10YR5/2(灰黄)	○	○	○	○	○	○		512
326	6	胴~底部	黒糸	ナデ	10YR6/3(にみい黄橙)	7.5YR4/1(褐灰)	○	○	○	○	○	○		516
327	5-6	胴~底部	黒糸、沈線、ナデ	糸痕の後ナデ	7.5YR6/3(にみい黄)	10YR5/3(にみい黄)	○	○	○	○	○	○		587

第11表 縄文時代早期遺物包含層出土土器観察表⑦

報告書 No	出土 層位	部位	文様及び調整		色 調		胎 土				備 考	実測 地	
			外 面	内 面	外 面	内 面	黒	白	灰	褐色 半透明・ 褐色			全 透明・ 全 白
328	5	胴～底部	燃糸	ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○	○	○			519
329	5	胴～底部	燃糸、沈線	象痕の後ナデ	2.5Y5/4(黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	○	○			568
330	6	胴～底部	燃糸	象痕の後ナデ	2.5Y5/2(暗灰黄)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○	○	○			518
331	6	胴～底部	燃糸、ナデ	象痕の後ナデ	10YR5/3(にがい赤褐)	10YR5/3(にがい赤褐)	○	○	○	○			570
332	5-6	胴～底部	燃糸、ナデ	象痕の後ナデ	5YR5/3(にがい赤褐)	5YR5/4(にがい赤褐)	○	○	○	○			572
333	5-6	胴～底部	燃糸、沈線	象痕の後ナデ	5YR5/3(にがい赤褐)	10YR5/3(にがい赤褐)	○	○	○	○			573
334	6	底部	ナデ	ナデ	7.5YR5/4(にがい赤褐)	7.5YR5/3(にがい赤褐)	○	○				スス付着	1007
335	6	口縁部	燃糸、沈線	ナデ	7.5YR5/3(にがい赤褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○		○	○		口唇部にキザミ目	466
336	6	胴部	燃糸、沈線	ナデ	10YR8/1(灰白)	7.5YR5/3(にがい赤褐)	○	○	○	○			545
337	5	胴部	燃糸、沈線	象痕の後ナデ	2.5Y5/1(黄灰)	10YR4/2(灰黄褐)	○	○	○	○			9
338	8	胴部	沈線、ナデ	象痕の後ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	10YR5/1(褐灰)	○	○	○	○			563
339	6	胴部	燃糸、沈線	ナデ	7.5YR6/4(にがい赤褐)	7.5YR5/3(にがい赤褐)	○	○					1000
340	5	胴部	沈線	ナデ	10YR6/3(にがい赤褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	○	○			525
341	6	口縁部	沈線、ナデ	ナデ	5YR6/4(にがい赤褐)	7.5YR6/3(にがい赤褐)	○	○	○	○		口唇部にキザミ目	969
342	6	口縁部	沈線	ナデ	7.5YR6/3(にがい赤褐)	10YR6/3(にがい赤褐)	○	○					988
343	5	胴部	ナデ、微隆帯	ナデ	10YR6/3(にがい赤褐)	10YR6/2(灰黄褐)	○	○					1051
344	6	胴部	ナデ、微隆帯	ナデ	10YR6/3(にがい赤褐)	10YR6/3(にがい赤褐)	○	○	○	○			1053
345	6	胴部	ナデ、微隆帯	象痕の後ナデ	7.5YR6/4(にがい赤褐)	7.5YR5/3(にがい赤褐)	○	○	○	○			1044
346	5	胴部	ナデ、微隆帯	ナデ	5YR5/4(にがい赤褐)	5YR5/3(にがい赤褐)	○	○	○	○			1043
347	5	胴部	ナデ、微隆帯	ナデ	10YR6/3(にがい赤褐)	7.5YR5/2(灰黄褐)	○	○	○	○			1042
348	6	口縁部	ナデ、沈線	象痕の後ナデ	5YR5/4(にがい赤褐)	10YR6/3(にがい赤褐)	○	○	○	○			21
349	6	口縁部	ナデ、沈線	ナデ	10YR6/3(にがい赤褐)	7.5YR5/3(にがい赤褐)	○	○	○	○			1052
350	6	口縁部	ナデ、沈線	象痕の後ナデ	10YR6/3(にがい赤褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○					1046
351	6	口縁部	ナデ	ナデ	7.5YR5/3(にがい赤褐)	7.5YR6/3(にがい赤褐)	○	○	○	○			1048
352	6	口縁部	ナデ	ナデ	7.5YR5/3(にがい赤褐)	5YR5/4(にがい赤褐)	○	○	○	○		指押さえ有り	1054
353	8	口縁部	ナデ	ナデ	10YR6/3(にがい赤褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	○	○			1050
354	5	胴部	沈線、ナデ、波状条線	象痕の後ナデ	5YR5/4(にがい赤褐)	5YR5/3(にがい赤褐)	○	○					986
355	5	胴部	ナデ、沈線、 弧状の沈線	ナデ	7.5YR6/3(にがい赤褐)	7.5YR5/3(にがい赤褐)	○	○	○	○			994
356	5	頸～胴部	沈線	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○					962
357	6	胴部	ナデ、沈線	ナデ	7.5YR6/4(にがい赤褐)	10YR6/3(にがい赤褐)	○	○					996
358	6	胴部	ナデ、沈線	ナデ	10YR6/3(にがい赤褐)	7.5YR5/3(にがい赤褐)	○	○					992
359	6	胴～底部	沈線、連点、ナデ	ナデ	10YR6/3(にがい赤褐)	10YR5/1(褐灰)	○	○	○	○			510
360	5-6- Si2- SC14	口縁～胴部	ナデ、沈線内燃糸、 工具剥突	ナデ、 象痕の後ナデ	5YR5/4(にがい赤褐)	5YR5/4(にがい赤褐)	○	○	○	○		口唇部にキザミ目	851
361	5-6	口縁部	沈線内燃糸	象痕	7.5YR4/2(灰褐)	5YR5/3(にがい赤褐)	○	○	○	○		口唇部にキザミ目	640
362	6	頸～胴部	沈線内燃糸、微隆帯	象痕の後ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	7.5YR5/3(にがい赤褐)	○	○	○	○			642
363	6	胴部	沈線内燃糸、ナデ	象痕の後ナデ	7.5YR5/3(にがい赤褐)	5YR5/4(にがい赤褐)	○	○	○	○			647
364	5	胴部	燃糸、沈線、連点	ナデ	7.5YR5/3(にがい赤褐)	7.5YR5/3(にがい赤褐)	○	○	○	○			673
365	5-6	胴部	沈線内燃糸	象痕の後ナデ	10YR6/3(にがい赤褐)	10YR6/3(にがい赤褐)	○	○					654
366	8	胴部	沈線内燃糸、ナデ	ナデ	10YR5/3(にがい赤褐)	7.5YR5/3(にがい赤褐)	○	○	○	○			676
367	5	胴部	沈線内燃糸、ナデ	象痕の後ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	5YR5/3(にがい赤褐)	○	○	○	○			663
368	5	胴部	沈線内燃糸、ナデ	ナデ	5YR5/3(にがい赤褐)	7.5YR5/3(にがい赤褐)	○	○	○	○			684
369	6	胴部	沈線内燃糸、ナデ	象痕の後ナデ	7.5YR5/4(にがい赤褐)	10YR5/3(にがい赤褐)	○	○	○	○			761
370	6	胴部	沈線内燃糸、ナデ	象痕	5YR5/3(にがい赤褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○					679
371	6	胴部	沈線内燃糸、ナデ	象痕の後ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	5YR5/3(にがい赤褐)	○	○	○	○		スス付着	677
372	6	胴部	沈線内燃糸、ナデ	象痕の後ナデ	10YR6/3(にがい赤褐)	2.5Y4/1(黄灰)	○	○	○	○			682
373	5	胴部	沈線内燃糸、ナデ	象痕の後ナデ	5YR4/2(灰褐)	5YR4/2(灰褐)	○	○	○	○			643
374	5-6	胴部	沈線内燃糸、ナデ	象痕の後ナデ	10YR6/4(にがい赤褐)	10YR6/3(にがい赤褐)	○	○	○	○			646
375	5-6	胴部	沈線内燃糸	象痕の後ナデ	7.5YR5/3(にがい赤褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	○	○			649
376	6	胴部	沈線内燃糸、ナデ	象痕の後ナデ	5YR5/4(にがい赤褐)	7.5YR5/3(にがい赤褐)	○	○	○	○			686
377	6	胴部	沈線内燃糸、ナデ	象痕の後ナデ	7.5YR5/3(にがい赤褐)	7.5YR5/3(にがい赤褐)	○	○	○	○			692
378	5	胴部	沈線内燃糸、沈線	象痕の後ナデ	7.5YR5/4(にがい赤褐)	10YR6/4(にがい赤褐)	○	○	○	○			660
379	6	胴部	沈線内燃糸、ナデ	ナデ	2.5YR4/1(赤灰)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○	○	○			652
380	6	胴部	沈線内燃糸、ナデ	象痕の後ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	○	○			661
381	8	胴部	沈線内燃糸、ナデ	象痕の後ナデ	5YR5/3(にがい赤褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○	○	○			680

第12表 縄文時代早期遺物包含層出土土器観察表⑧

観 察 番 号	出 土 層 位	部 位	文様及び調整		色 調		胎 土				備 考	実 測 No		
			外 面	内 面	外 面	内 面	黒	白	灰	褐色			赤褐色 不明	金 色 土
382	5	胴部	沈線内照糸、ナデ	糸痕の後ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	○	○			667	
383	5	胴部	沈線内照糸、ナデ、 ヘラ掻き	糸痕の後ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○	○	○	○			688	
384	5	胴部	沈線内照糸	糸痕の後ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	5YR4/3(にぶい赤褐)	○	○	○	○			673	
385	5	胴部	沈線内照糸、ナデ	貝糸痕、ミガキ	7.5YR5/4(にぶい褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○	○	○	○			685	
386	5	胴部	沈線内照糸	糸痕の後ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	5YR5/3(にぶい赤褐)	○	○	○	○			666	
387	6	胴部	沈線内照糸、刺突	糸痕の後ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR6/4(にぶい橙)	○	○	○	○			650	
388	6	胴部	沈線内照糸、ナデ	糸痕の後ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	5YR5/3(にぶい赤褐)	○	○	○	○			691	
389	6	胴部	沈線内照糸	糸痕の後ナデ	10YR6/4(にぶい黄橙)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○	○	○			694	
390	5	胴部	沈線内照糸、ナデ	糸痕の後ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	○	○			665	
391	5-6	胴部	沈線内照糸、ナデ	糸痕	5YR5/3(にぶい赤褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○	○	○			645	
392	5	底部	沈線内照糸、ナデ	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○	○	○			658	
393	5-6	胴-底部	沈線内照糸、ナデ	糸痕の後ナデ	10YR5/3(にぶい黄橙)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○	○	○			641	
394	5	頸部	沈線内照糸	糸痕の後ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○	○	○			746	
395	5	胴部	沈線内照糸、ナデ	糸痕の後ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○	○	○			644	
396	5	胴部	沈線内照糸、ナデ	糸痕の後ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	7.5YR5/3(にぶい赤褐)	○	○	○	○			759	
397	5	胴部	沈線内照糸、ナデ	糸痕	5YR5/3(にぶい赤褐)	10YR4/1(褐灰)	○	○	○	○			693	
398	6	胴部	沈線内照糸、ナデ	糸痕の後ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	○	○			780	
399	6	胴部	沈線内照糸、ナデ	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	5YR5/3(にぶい赤褐)	○	○	○	○			748	
400	6	胴部	沈線内照糸、ナデ	糸痕の後ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	7.5YR4/1(褐灰)	○	○	○	○			687	
401	5	胴部	沈線内照糸	糸痕の後ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○	○	○			770	
402	6	胴部	沈線内照糸	糸痕の後ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○	○	○			690	
403	5	胴部	沈線内照糸	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	○	○			781	
404	5	胴部	沈線内照糸	糸痕の後ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○	○	○		炭化物有り	671	
405	6	胴部	沈線内照糸	糸痕の後ナデ	7.5YR6/4(にぶい橙)	7.5YR6/4(にぶい橙)	○	○	○	○			779	
406	5	胴部	沈線内照糸、ナデ	糸痕の後ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○	○	○			782	
407	6	胴部	沈線内照糸、ナデ	糸痕の後ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○	○	○			773	
408	6	胴部	沈線内照糸、ナデ	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○	○	○			776	
409	5	口縁部	沈線内照文	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○	○	○		口唇部にキザミ目	745	
410	5	頸部	沈線、刺突、 沈線内照文	ナデ	7.5YR6/4(にぶい橙)	7.5YR5/3(にぶい赤褐)	○	○	○	○			27	
411	5	頸-胴部	ナデ、沈線内照文、 貝刺突	糸痕の後ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○	○	○			946	
412	5-6	頸-胴部	ナデ、沈線内照文、 沈線、貝刺突	糸痕の後ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○	○	○		穿孔有り、スス付 着	960	
413	5-6	頸-胴部	貝刺突、沈線内照文	貝糸痕の後ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○	○	○			841	
414	5	胴部	ナデ、貝刺突、 沈線内照文	ナデ	7.5YR6/4(にぶい橙)	7.5YR6/4(にぶい橙)	○	○	○	○			959	
415	5	胴部	沈線内照文、 貼付突帯	ナデ	10YR4/2(灰黄褐)	10YR3/1(黒褐)	○	○	○	○			747	
416	5	胴部	ナデ、沈線内照文、 貝刺突	糸痕の後ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○	○	○		炭化物有り	947	
417	6	胴部	ナデ、沈線内照文、 工具刺突	糸痕の後ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○	○	○			953	
418	6	胴部	ナデ、沈線内照文	糸痕	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○	○	○			754	
419	5	胴部	ナデ、沈線内照文	糸痕の後ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	7.5YR4/1(褐灰)	○	○	○	○			771	
420	5	胴部	ナデ、沈線内照文	貝糸痕の後ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○	○	○			769	
421	5	胴部	ナデ、沈線内照文、 貝刺突	ナデ	5YR5/2(灰褐)	5YR5/3(にぶい赤褐)	○	○	○	○			952	
422	6	胴部	縄文、沈線	糸痕の後ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○	○	○			711	
423	6	胴部	ナデ、沈線内照文、 貝刺突	糸痕の後ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○	○	○			949	
424	6	胴部	ナデ、沈線内照文	糸痕の後ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○	○	○	○			755	
425	6- SE2	胴部	沈線内照文、ナデ	貝糸痕、 貝糸痕の後ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○	○	○			696	
426	6	胴部	ナデ、沈線内照文	貝糸痕	7.5YR6/4(にぶい橙)	7.5YR5/4(にぶい赤褐)	○	○	○	○			11	
427	6	胴部	ナデ、沈線内照文	糸痕の後ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	7.5YR6/4(にぶい橙)	○	○	○	○			758	
428	5	胴部	ナデ、沈線内照文	糸痕の後ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR6/3(にぶい黄橙)	○	○	○	○			713	
429	6	胴部	ナデ、沈線内照文	糸痕の後ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○	○	○			750	
430	5-6	胴部	ナデ、沈線内照文	糸痕の後ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○	○	○			708	

第13表 縄文時代早期遺物包含層出土土器観察表⑨

報告書 番号	出土 層位	部位	文様及び調整		色 調		胎 土				備 考	実測 地	
			外 面	内 面	外 面	内 面	黒	白	灰	褐色 ・ 赤褐色 ・ 黄褐色			全 金 母
431	5	胴部	ナデ、沈線内織文	条痕の後ナデ	5YR5/4(にみい赤褐)	7.5YR5/3(にみい黄褐)	○	○	○	○			710
432	6	胴部	ナデ、沈線内織文	条痕の後ナデ	10YR5/3(にみい黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	○	○			762
433	6	胴部	ナデ、沈線内織文	条痕の後ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	○	○			778
434	6	胴部	ナデ、沈線内織文	条痕の後ナデ	10YR5/3(にみい黄褐)	7.5YR6/4(にみい橙)	○	○	○	○			751
435	5-6	胴部	ナデ、沈線内織文	貝条痕の後ナデ	7.5YR7/1(明褐灰)	7.5YR5/3(にみい黄褐)	○	○	○	○			705
436	5	胴部	ナデ、沈線内織文	条痕の後ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	2.5Y5/1(黄灰)	○	○	○	○			765
437	6	胴部	ナデ、沈線内織文、 貝刺突	ナデ	5YR5/3(にみい赤褐)	7.5YR5/3(にみい黄褐)	○	○	○	○			951
438	5-6	胴部	ナデ、沈線内織文	ナデ	10YR6/3(にみい黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	○	○			787
439	5-6	胴部	ナデ、沈線内織文	条痕の後ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	7.5YR5/3(にみい黄褐)	○	○	○	○			695
440	不明	胴部	ナデ、沈線内織文	条痕の後ナデ	10YR5/3(にみい黄褐)	7.5YR5/3(にみい黄褐)	○	○	○	○			753
441	5	胴部	ナデ、沈線内織文	条痕の後ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	10YR4/1(褐灰)	○	○	○	○			701
442	5-6- SE2	胴部	縄文、沈線、ナデ	貝条痕の後ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○	○	○			697
443	6	胴部	ナデ、沈線内織文	条痕の後ナデ	7.5YR5/4(にみい黄)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	○	○			767
444	5-6	胴部	ナデ、沈線内織文	貝条痕の後ナデ	7.5YR5/3(にみい黄)	7.5YR4/1(褐灰)	○	○	○	○			699
445	5-6	胴部	ナデ、沈線内織文	貝条痕	10YR5/2(灰黄褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○	○	○			698
446	6	胴部	ナデ、沈線内織文	ナデ	7.5YR6/4(にみい橙)	7.5YR5/3(にみい黄)	○	○	○	○			756
447	6	胴部	ナデ、沈線内織文	条痕の後ナデ	10YR6/3(にみい黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	○	○			757
448	6	胴部	ナデ、沈線内織文	貝条痕の後ナデ	7.5YR5/3(にみい黄)	5YR5/3(にみい赤褐)	○	○	○	○			709
449	5-6	胴部	ナデ、沈線内織文	条痕の後ナデ	10YR6/3(にみい黄褐)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○	○	○			752
450	5	胴部	ナデ、沈線内織文	条痕の後ナデ	7.5YR5/4(にみい黄)	10YR4/3(にみい黄褐)	○	○	○	○			768
451	5	胴部	ナデ、沈線内織文	条痕の後ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	7.5YR4/1(褐灰)	○	○	○	○			783
452	6	胴部	ナデ、沈線内織文	貝条痕の後ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/3(にみい黄褐)	○	○	○	○			702
453	6	胴部	沈線内織文	条痕の後ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR4/1(褐灰)	○	○	○	○			766
454	6	底部	ナデ、沈線内織文	ナデ	5YR5/3(にみい赤褐)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○	○	○			936
455	6	胴部	沈線内短柱回転	条痕の後ナデ	5YR5/3(にみい赤褐)	5YR5/4(にみい赤褐)	○	○	○	○			659
456	5	胴部	沈線内短柱回転	条痕の後ナデ	10YR6/3(にみい黄褐)	10YR4/1(褐灰)	○	○	○	○			764
457	5	胴部	刺突、沈線、ナデ	ナデ	7.5YR5/2(灰黄褐)	7.5YR5/3(にみい黄)	○	○	○	○			804
458	5	口縁部	貝刺突、ナデ	ナデ	7.5YR6/3(にみい黄)	10YR6/3(にみい黄褐)	○	○	○	○			913
459	5	口縁部	貝刺突、ナデ	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	7.5YR6/4(にみい橙)	○	○	○	○			1013
460	8	口縁部	貝刺突、 条痕の後ナデ	条痕の後ナデ	5YR5/3(にみい赤褐)	7.5YR5/3(にみい黄)	○	○	○	○		○口唇部に貝キザミ目	910
461	6	口縁部	貝刺突、ナデ	ナデ	7.5YR5/2(灰黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	○	○		○口唇部に貝キザミ目	1027
462	5	口縁部	貝刺突、 条痕の後ナデ	条痕の後ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	7.5YR6/4(にみい橙)	○	○	○	○			899
463	6	口縁部	沈線、貝刺突、 条痕の後ナデ	条痕の後ナデ	5YR7/1(明褐灰)	5YR4/2(灰黄褐)	○	○	○	○			1032
464	6	口縁部	貝刺突、 条痕の後ナデ	ナデ	10YR4/1(褐灰)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	○	○		○口唇部に貝キザミ目	1016
465	5-6	口縁部	ナデ、貝刺突	貝条痕の後ナデ	10YR5/3(にみい黄褐)	7.5YR5/3(にみい黄)	○	○	○	○			828
466	6	口縁部	貝刺突、ナデ、貝押引	ナデ	7.5YR5/2(灰黄褐)	7.5YR5/2(灰黄褐)	○	○	○	○			904
467	6	口縁部	貝刺突、ナデ	貝条痕の後ナデ	10YR4/1(褐灰)	10YR4/1(褐灰)	○	○	○	○			831
468	5	口縁部	貝刺突、 条痕の後ナデ	条痕の後ナデ	7.5YR5/2(灰黄褐)	10YR5/3(にみい黄)	○	○	○	○			1012
469	6	口縁部	貝刺突、ナデ	条痕の後ナデ	7.5YR5/3(にみい黄)	7.5YR5/2(灰黄褐)	○	○	○	○			891
470	5	口縁部	貝刺突、ナデ	ナデ	7.5YR6/4(にみい橙)	7.5YR5/3(にみい黄)	○	○	○	○		○口唇部に貝キザミ目	1026
471	6	口縁部	貝刺突、ナデ	ナデ	7.5YR4/1(褐灰)	2.5Y4/1(黄灰)	○	○	○	○		○口唇部に貝キザミ目	830
472	6	口縁部	貝刺突、ナデ	条痕の後ナデ	7.5YR4/2(灰黄褐)	7.5YR5/2(灰黄褐)	○	○	○	○			805
473	5	口縁部	貝押引、 条痕の後ナデ	条痕の後ナデ	7.5YR5/2(灰黄褐)	7.5YR5/3(にみい黄)	○	○	○	○			1040
474	6	口縁部	貝押引、ナデ	ナデ	5YR6/1(灰白)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	○	○		○口唇部に貝キザミ目	914
475	6	口縁部	貝押引、ナデ	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	○	○			906
476	6	口縁部	貝刺突、貝押引、 条痕の後ナデ	条痕の後ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	5YR5/3(にみい赤褐)	○	○	○	○		○口唇部に貝キザミ目	1017
477	5	口縁部	貝刺突、 条痕の後ナデ	条痕の後ナデ	7.5YR5/3(にみい黄)	5YR5/3(にみい赤褐)	○	○	○	○		○口唇部に貝キザミ目	1015

第14表 縄文時代早期遺物包含層出土土器観察表⑩

報告書 No.	出土 層位	部位	文様及び調整		色 調		胎 土				備 考	実測 No.	
			外 面	内 面	外 面	内 面	黒	白	灰	褐色			
478	6	口縁部	貝刺突、 糸痕の後ナデ	糸痕の後ナデ	10YR6/3(にがい黄橙)	10YR4/1(褐灰)	○	○	○	○	○	口唇部に貝キザミ	1018
479	5	口縁部	ナデ、貝押し	ナデ、糸痕の後 ナデ	7.5YR5/3(にがい橘)	7.5YR5/3(にがい橘)	○	○	○	○	○	口唇部に貝キザミ	856
480	6	口縁部	ナデ、貝押し	糸痕の後ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○	○	○	○	口唇部に貝キザミ	912
481	6	口縁部	貝押し、ナデ	糸痕の後ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/3(にがい黄橙)	○	○	○	○	○	口唇部に貝キザミ	1011
482	5	口縁部	貝押し、ナデ	糸痕の後ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	7.5YR5/3(にがい橘)	○	○	○	○	○	口唇部に貝キザミ	907
483	6	口縁部	貝押し、 糸痕の後ナデ	糸痕の後ナデ	5YR5/3(にがい赤褐)	7.5YR5/3(にがい橘)	○	○	○	○	○	口唇部に貝キザミ	909
484	5	口縁部	貝刺突、ナデ	糸痕の後ナデ	10YR4/1(褐灰)	10YR4/3(にがい黄橙)	○	○	○	○	○	口唇部に貝キザミ	829
485	5	口縁部	貝刺突、 糸痕の後ナデ	糸痕の後ナデ	5YR4/1(褐灰)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	○	○	○	口唇部に貝キザミ	938
486	5	口縁～頸部	貝押し、 糸痕の後ナデ	糸痕の後ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	7.5YR6/3(にがい橘)	○	○	○	○	○	口唇部に貝押し	838
487	6	口縁部	貝押し、 糸痕の後ナデ	糸痕の後ナデ	7.5YR5/3(にがい橘)	7.5YR5/3(にがい橘)	○	○	○	○	○	口唇部に貝キザミ	911
488	5	口縁～頸部	貝刺突、 糸痕の後ナデ	糸痕	7.5YR5/3(にがい橘)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○	○	○	○	口唇部に貝キザミ	937
489	6	口縁～頸部	ナデ、貝押し	ナデ	2.5YR4/1(赤灰)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	○	○	○	口唇部に貝押し	827
490	5	口縁～頸部	貝刺突、 糸痕の後ナデ	糸痕の後ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	○	○	○		16
491	5	口縁部	貝刺突、貝糸痕	貝糸痕	10YR5/4(にがい黄橙)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○	○	○	○		840
492	6	口縁～頸部	微隆帯、貝刺突	ナデ	10YR4/2(灰黄褐)	7.5YR7/1(明褐灰)	○	○	○	○	○		842
493	5-6	口縁～頸部	貝押し、 糸痕の後ナデ	糸痕の後ナデ	10YR5/1(褐灰)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	○	○	○	口唇部に貝キザミ	883
494	5-6	口縁～頸部	ナデ、貝刺突	ナデ、糸痕	7.5YR5/4(にがい橘)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○	○	○	○		844
495	5	口縁部	ナデ、貝刺突	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	5YR7/1(明褐灰)	○	○	○	○	○	口唇部に貝キザミ 目、スス付着	1014
496	5	口縁～頸部	貝押し、 貝糸痕の後ナデ	ナデ、貝糸痕	10YR4/2(灰黄褐)	10YR4/2(灰黄褐)	○	○	○	○	○	口唇部に貝キザミ	20
497	5	口縁部	貝押し、 貝糸痕の後ナデ	糸痕の後ナデ	5YR4/3(にがい赤褐)	10YR4/2(灰黄褐)	○	○	○	○	○	口唇部に貝キザミ	833
498	5	口縁～頸部	糸痕の後ナデ、 貝押し	糸痕の後ナデ	7.5YR4/1(褐灰)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○	○	○	○		894
499	5	頸部	貝刺突、ナデ	糸痕の後ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	5YR5/4(にがい赤褐)	○	○	○	○	○		848
500	6	頸部	貝押し、ナデ	糸痕	7.5YR5/2(灰褐)	5YR5/4(にがい赤褐)	○	○	○	○	○		1031
501	5	頸～胴部	貝刺突、 糸痕の後ナデ	糸痕の後ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	7.5YR5/3(にがい橘)	○	○	○	○	○		1038
502	6	頸～胴部	ナデ、貝刺突	ナデ	7.5YR5/3(にがい橘)	7.5YR5/3(にがい橘)	○	○	○	○	○		1057
503	5	口縁～頸部	貝刺突、 糸痕の後ナデ	糸痕の後ナデ	7.5YR6/4(にがい橙)	7.5YR6/4(にがい橙)	○	○	○	○	○		896
504	6	頸部	貝刺突、ナデ	糸痕の後ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	7.5YR5/4(にがい橘)	○	○	○	○	○		1039
505	6	頸部	貝刺突、 糸痕の後ナデ	糸痕の後ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/3(にがい黄橙)	○	○	○	○	○	スス付着	801
506	5	頸部	ナデ、貝刺突	糸痕	7.5YR5/3(にがい橘)	10YR5/3(にがい黄橙)	○	○	○	○	○		843
507	5	頸部	貝押し、ナデ	糸痕の後ナデ	10R4/1(暗赤灰)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○	○	○	○		1019
508	6	胴部	貝押し、ナデ	ナデ	7.5YR5/3(にがい橘)	7.5YR5/4(にがい橘)	○	○	○	○	○		1035
509	5	胴部	糸痕の後ナデ、 貝刺突	糸痕の後ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○	○	○	○		1058
510	5-6	頸部	ナデ、貝刺突	糸痕の後ナデ	5YR5/4(にがい赤褐)	5YR5/3(にがい赤褐)	○	○	○	○	○		847
511	6	胴部	ナデ、 貝刺突の後ナデ、 糸痕の後ナデ	糸痕の後ナデ	7.5YR5/3(にがい橘)	7.5YR5/3(にがい橘)	○	○	○	○	○		878
512	5	頸～胴部	刺突、ナデ	ナデ	10YR6/3(にがい黄橙)	10YR6/3(にがい黄橙)	○	○	○	○	○		815
513	6	頸部	貝刺突、 糸痕の後ナデ	糸痕の後ナデ	7.5YR6/4(にがい橙)	7.5YR6/4(にがい橙)	○	○	○	○	○		1067
514	8	口縁～胴部	ナデ、貝刺突	不明瞭	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	○	○	○	514-515同一個 体	5
	8	胴～底部	ナデ、沈線	糸痕の後ナデ	10YR6/3(にがい黄橙)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	○	○	○		6
515	8	胴部	糸痕の後ナデ	糸痕の後ナデ、 沈線	7.5YR5/3(にがい橘)	10YR4/2(灰黄褐)	○	○	○	○	○		792
516	5	口縁部	ナデ、沈線	ナデ、糸痕の後 ナデ	2.5YR5/4(にがい赤褐)	2.5YR5/4(にがい赤褐)	○	○	○	○	○	口唇部にキザミ	922

第15表 縄文時代早期遺物包含層出土土器観察表①

報告書 No	出土 層位	部位	文様及び調整		色 調		胎 土					備 考	実測 地			
			外 面	内 面	外 面	内 面	黒	白	灰	半 透明・ 褐色	全 透明					
517	6	口縁～頸部	条痕の後ナデ、 貝刺突、沈線	条痕、条痕の後 ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	5YR5/3(にがい赤褐)								口唇部にキザミ目	892	
518	5-6	口縁～頸部	条痕、沈線	条痕	10YR5/2(灰黄褐)	7.5YR5/3(にがい赤褐)								口唇部に貝刺突	714	
519	5	口縁部	ナデ、沈線内貝条痕	条痕の後ナデ	7.5YR5/3(にがい赤褐)	5YR5/4(にがい赤褐)								口唇部に貝キザミ目	972	
520	5-6	口縁～頸部	沈線、貝刺突、ナデ、 条痕の後ナデ	条痕の後ナデ、 貝条痕	7.5YR4/3(褐)	5YR5/3(にがい赤褐)								口唇部に貝キザミ目	846	
521	5	口縁部	ナデ、沈線	条痕の後ナデ	10YR6/2(灰黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)								口唇部に貝キザミ目	973	
522	5	口縁部	工具沈線、ナデ	ケスリの後ナデ	7.5YR5/3(にがい赤褐)	7.5YR4/3(褐)								口唇部にキザミ目	15	
523	6	口縁部	条痕の後ナデ、 沈線	条痕の後ナデ	2.5Y6/2(灰黄)	10YR6/2(灰黄褐)								口唇部にキザミ目	811	
524	5-6	口縁～胴部	沈線、貝刺突	ナデ、条痕	7.5YR5/2(灰褐)	10YR5/2(灰黄褐)								口唇部に貝キザミ目	789	
525	5-6	口縁～胴部	ナデ、貝押し、沈線	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	7.5YR4/3(褐)								口唇部に貝キザミ目、 指押スえ有り	29	
526	5-6	口縁部	ナデ、沈線、貝刺突	貝条痕	10YR4/1(褐灰)	10YR5/2(灰黄褐)								口唇部に貝キザミ目	884	
527	5	胴部	ナデ、沈線、貝刺突	貝条痕	10YR6/2(灰黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)								526・527同一個体	881	
528	5-6	口縁部	沈線内貝押し	ナデ、条痕の後 ナデ	7.5YR5/3(にがい赤褐)	7.5YR6/4(にがい橙)								口唇部に貝キザミ目	850	
529	5	頸～胴部	貝条痕、貝刺突	条痕の後ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	7.5YR4/2(灰褐)									868	
530	6	頸～胴部	貝刺突、沈線、 ナデ、沈線内貝条痕	条痕の後ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	7.5YR4/1(褐灰)									814	
531	5-6	頸～胴部	ナデ、条痕、貝刺突	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)									919	
532	5-6	頸～胴部	ナデ、貝刺突、 沈線、貝条痕	条痕の後ナデ	7.5YR5/3(にがい赤褐)	10YR4/2(灰黄褐)									826	
533	5	頸～胴部	貝刺突、貝条痕、 条痕の後ナデ	条痕の後ナデ	10YR5/3(にがい赤褐)	10YR5/2(灰黄褐)									860	
534	6- SE2	頸部	ナデ、貝条痕、貝押し	条痕の後ナデ	2.5Y5/1(黄灰)	10YR5/2(灰黄褐)									835	
535	6	頸～胴部	ナデ、沈線	条痕の後ナデ	10YR6/3(にがい赤褐)	7.5YR5/3(にがい赤褐)									ス付蓋	993
536	5	胴部	貝刺突、沈線、 条痕の後ナデ	条痕の後ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	5YR5/3(にがい赤褐)									836	
537	6	頸～胴部	貝刺突、貝条痕、 ナデ	条痕の後ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	7.5YR4/2(灰褐)									832	
538	5	頸～胴部	貝刺突、沈線、ナデ	条痕の後ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	7.5YR5/2(灰褐)									869	
539	5	胴部	条痕、貝刺突、 条痕の後ナデ	条痕	5YR5/3(にがい赤褐)	5YR4/3(にがい赤褐)									839	
540	6	頸～胴部	貝刺突、沈線、ナデ	条痕	7.5YR4/2(灰褐)	5YR5/3(にがい赤褐)									898	
541	5-6	頸部	爪形、沈線、ナデ	条痕の後ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)									800	
542	5	頸～胴部	貝刺突、沈線、 条痕の後ナデ	条痕の後ナデ	7.5YR5/3(にがい赤褐)	5YR5/3(にがい赤褐)									1069	
543	5-6	頸部	ナデ、沈線	ナデ	10YR5/3(にがい赤褐)	7.5YR5/3(にがい赤褐)									933	
544	5	頸部	貝刺突、沈線、ナデ	条痕の後ナデ	5YR4/2(灰褐)	5YR4/3(にがい赤褐)									1068	
545	5	口縁～頸部	貝刺突、 条痕の後ナデ、沈線	条痕の後ナデ	7.5YR5/3(にがい赤褐)	7.5YR5/2(灰褐)									1041	
546	6- S11	頸～胴部	沈線、刺突、ナデ	ナデ	7.5YR6/3(にがい赤褐)	10YR5/2(灰黄褐)									871	
547	5	頸～胴部	ナデ、沈線	工具ナデ	7.5YR6/3(にがい赤褐)	7.5YR4/2(灰褐)									指押スえ有り	940
548	5	胴部	貝刺突、ナデ、沈線	条痕の後ナデ	5YR5/3(にがい赤褐)	7.5YR5/2(灰褐)									864	
549	6	頸部	貝刺突、沈線、ナデ	条痕の後ナデ	5YR5/4(にがい赤褐)	7.5YR4/1(褐灰)									1066	
550	5	口縁～頸部	貝押し、沈線、ナデ	条痕の後ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	7.5YR6/3(にがい赤褐)									550-551同一個体	845
551	5-6	胴部	ナデ、沈線	条痕の後ナデ、 ナデ	5YR5/4(にがい赤褐)	7.5YR5/3(にがい赤褐)									932	
552	6	頸部	ナデ、貝押し、貝条痕	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)									855	
553	5	頸～胴部	貝刺突、沈線、 条痕の後ナデ	条痕の後ナデ	5YR4/1(褐灰)	7.5YR4/2(灰褐)									1030	
554	6	胴部	貝刺突、沈線、ナデ	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	7.5YR5/2(灰褐)									870	
555	5	胴部	沈線内条痕、ナデ	条痕	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)									721	
556	6	胴部	ナデ、沈線	ナデ	7.5YR5/3(にがい赤褐)	5YR5/4(にがい赤褐)									924	
557	6	胴部	ナデ、沈線	条痕の後ナデ	10YR5/3(にがい赤褐)	7.5YR6/3(にがい赤褐)									896	
558	5-6	胴部	ナデ、沈線内条痕	条痕の後ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	7.5YR5/2(灰褐)									975	

第16表 縄文時代早期遺物包含層出土土器観察表②

報告書 No.	出土 層位	部位	文様及び調整		色 調		胎 土				備 考	実測 No.	
			外 面	内 面	外 面	内 面	黒	白	灰	赤			
559	6	胴部	沈線内貝条痕、ナデ	貝条痕の後ナデ	7.5YR5/3(にがい褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○	○	○	○	559-560同一個 体	728
560	5-6	胴部	沈線内貝条痕、ナデ	貝条痕の後ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○	○	○	○		739
561	5	頸~胴部	ナデ、沈線内条痕、 沈線、貝刺突	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	○	○	○		813
562	5	胴部	沈線	条痕の後ナデ	10YR5/3(にがい黄褐)	10YR5/3(にがい黄褐)	○	○	○	○	○		882
563	5	胴部	ナデ、沈線	条痕の後ナデ	7.5YR4/1(褐灰)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○	○	○	○	穿孔有り	923
564	8	胴部	丁寧なナデ、沈線	条痕の後ナデ	5YR5/4(にがい赤褐)	5YR5/3(にがい赤褐)	○	○	○	○	○		920
565	6	胴部	沈線内貝条痕、ナデ	条痕の後ナデ	7.5YR5/4(にがい褐)	7.5YR5/3(にがい褐)	○	○	○	○	○		715
566	5	胴部	ナデ、沈線	条痕の後ナデ	7.5YR6/4(にがい橙)	10YR6/3(にがい黄褐)	○	○	○	○	○		939
567	5	胴部	ナデ、沈線内条痕	条痕の後ナデ	5YR5/2(灰褐)	5YR7/1(明褐灰)	○	○	○	○	○		674
568	5	胴部	沈線内条痕、 ナデ	条痕の後ナデ	7.5YR6/3(にがい褐)	5YR5/3(にがい赤褐)	○	○	○	○	○		985
569	5	胴部	ナデ、沈線	条痕の後ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○	○	○	○		888
570	5	胴部	ナデ、沈線内貝条痕	ナデ	7.5YR6/4(にがい橙)	7.5YR5/3(にがい褐)	○	○	○	○	○		741
571	6	胴部	ナデ、沈線	条痕の後ナデ	7.5YR6/4(にがい橙)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○	○	○	○		974
572	6	胴部	沈線内条痕、ナデ	条痕の後ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○	○	○	○		727
573	6	胴部	ナデ、沈線	条痕	7.5YR4/1(褐灰)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○	○	○	○		980
574	5	胴部	沈線内貝条痕	ナデ	10YR8/1(灰白)	10YR6/3(にがい黄褐)	○	○	○	○	○		740
575	5	胴部	貝刺突、条痕、 条痕の後ナデ	条痕の後ナデ	10YR6/3(にがい黄橙)	7.5YR6/3(にがい褐)	○	○	○	○	○		877
576	5-6	胴部	ナデ、沈線	条痕の後ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○	○	○	○		917
577	6	胴部	ナデ、沈線	条痕の後ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	○	○	○		893
578	5	胴部	貝条痕、沈線	ナデ	7.5YR5/4(にがい褐)	10YR4/1(褐灰)	○	○	○	○	○		447
579	6	胴部	貝刺突、沈線、ナデ	条痕の後ナデ	2.5Y4/2(暗灰黄)	7.5YR5/3(にがい褐)	○	○	○	○	○	ス付着	1070
580	5	胴部	沈線、ナデ	条痕の後ナデ	7.5YR5/3(にがい褐)	7.5YR7/1(明褐灰)	○	○	○	○	○		979
581	6	胴部	ナデ、沈線	ナデ	7.5YR5/3(にがい褐)	7.5YR5/3(にがい褐)	○	○	○	○	○		903
582	6	胴部	貝刺突、沈線、 条痕の後ナデ	条痕の後ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR7/1(灰白)	○	○	○	○	○		854
583	5-6	胴部	ナデ、沈線	ナデ	7.5YR6/4(にがい橙)	7.5YR4/2(灰黄褐)	○	○	○	○	○		935
584	5-6	胴部	ナデ、沈線、条痕	ナデ	10YR4/2(灰黄褐)	5YR5/4(にがい赤褐)	○	○	○	○	○		905
585	5	胴部	ナデ、貝刺突、沈線	条痕の後ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/3(にがい黄褐)	○	○	○	○	○		794
586	6- SE2	胴部	ナデ、沈線	条痕の後ナデ	7.5YR5/3(にがい褐)	7.5YR5/3(にがい褐)	○	○	○	○	○		970
587	6	胴部	ナデ、沈線	ナデ	7.5YR5/3(にがい褐)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○	○	○	○		890
588	5-6	胴部	貝刺突、沈線、ナデ	条痕	5YR4/2(灰褐)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○	○	○	○		899
589	8	胴部	ナデ、沈線	条痕の後ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	○	○	○		900
590	6	胴部	ナデ、沈線内貝条痕	条痕の後ナデ	7.5YR6/4(にがい橙)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	○	○	○		975
591	5	胴部	沈線内貝条痕、ナデ	条痕の後ナデ	5YR5/4(にがい赤褐)	10YR5/3(にがい黄褐)	○	○	○	○	○		743
592	5	胴部	貝刺突、沈線、 条痕の後ナデ	条痕の後ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	7.5YR6/3(にがい褐)	○	○	○	○	○		1036
593	6	胴部	沈線内条痕、ナデ	ナデ	10YR6/3(にがい黄橙)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	○	○	○		722
594	6	胴部	貝条痕、沈線、 条痕の後ナデ	条痕の後ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	7.5YR5/3(にがい褐)	○	○	○	○	○		744
595	6	胴部	ナデ、沈線	ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○	○	○	○	指押さえ有り	943
596	5	胴部	沈線内貝条痕、ナデ	ナデ、条痕の後 ナデ	5YR5/4(にがい赤褐)	7.5YR5/3(にがい褐)	○	○	○	○	○		716
597	5-6	胴部	貝条痕	条痕の後ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	5YR4/3(にがい赤褐)	○	○	○	○	○		977
598	5-6	胴部	沈線、ナデ、貝刺突	条痕の後ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○	○	○	○	穿孔有り	1056
599	5	胴部	沈線内貝条痕、ナデ	条痕の後ナデ	7.5YR5/3(にがい黄褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○	○	○	○		717
600	5-6	胴部	沈線内貝条痕、ナデ	ナデ	10YR6/3(にがい黄橙)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○	○	○	○		738
601	5	胴部	ナデ、沈線内貝条痕	丁寧なナデ	5YR5/4(にがい赤褐)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○	○	○	○		736
602	6	胴部	ナデ、沈線内貝条痕	ナデ	7.5YR5/4(にがい褐)	10YR5/3(にがい黄褐)	○	○	○	○	○		735
603	6	胴部	ナデ、沈線	ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○	○	○	○		945
604	5	胴部	沈線、貝刺突、 条痕の後ナデ	条痕の後ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	5YR5/3(にがい赤褐)	○	○	○	○	○		817
605	5	胴部	ナデ、貝条痕	条痕	7.5YR4/1(褐灰)	5YR5/3(にがい赤褐)	○	○	○	○	○	ス付着	1010
606	5	胴部	ナデ、貝刺突、沈線	条痕の後ナデ	5YR5/3(にがい赤褐)	7.5YR5/4(にがい褐)	○	○	○	○	○		866
607	5	胴部	沈線内条痕、ナデ	条痕の後ナデ	5YR5/4(にがい赤褐)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○	○	○	○		723
608	5-6	頸~胴部	ナデ、貝条痕	条痕の後ナデ	7.5YR5/3(にがい褐)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○	○	○	○	ス付着	1009

第17表 縄文時代早期遺物包含層出土土器観察表⑬

報告書 No	出土 層位	部位	文様及び調整		色 調		胎 土					備 考	実測 地			
			外 面	内 面	外 面	内 面	黒	白	灰	半透明・ 褐色	全透明・ 赤褐色					
														○	○	○
609	5	胴部	貝刺突、ナデ、沈線	条痕の後ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	7.5YR6/3(にがい黄褐)	○	○							1059	
610	5-6	胴部	沈線内条痕、ナデ	条痕	7.5YR6/4(にがい黄)	7.5YR5/3(にがい黄褐)	○	○							720	
611	5	胴部	条痕の後ナデ、沈線	条痕の後ナデ	5YR5/4(にがい赤褐)	5YR7/1(明褐色)	○	○							925	
612	6	胴部	ナデ、沈線内条痕、 貝注引	条痕の後ナデ	7.5YR7/1(明褐色)	5YR4/3(にがい赤褐)	○	○	○	○					964	
613	5	胴部	沈線内貝条痕、ナデ	条痕	7.5YR5/2(灰褐)	7.5YR4/1(褐色)	○	○							719	
614	5	胴部	ナデ、沈線内条痕	ナデ	7.5YR5/3(にがい黄)	7.5YR5/3(にがい黄)	○	○	○	○					902	
615	5	胴～底部	ナデ、沈線	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○							906	
616	5	底部	ナデ、沈線	ナデ	10YR6/3(にがい黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○							934	
617	5-6-8	胴～底部	ナデ	ナデ	7.5YR5/3(にがい黄)	7.5YR6/4(にがい黄)	○	○	○	○					1006	
618	5	底部	ナデ	ナデ	7.5YR7/1(明褐色)	10YR4/1(褐色)	○	○	○	○					999	
619	5-6	胴～底部	条痕	条痕	5YR5/4(にがい赤褐)	7.5YR5/4(にがい黄)	○	○	○	○					837	
620	5-6- SX2	胴～底部	ナデ、沈線	条痕の後ナデ	10YR5/3(にがい黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	○	○					820	
621	6	胴～底部	条痕の後ナデ、沈線	条痕の後ナデ	7.5YR5/3(にがい黄)	7.5YR3/1(にがい黄)	○	○	○	○					819	
622	5-6	胴～底部	ナデ	ナデ	7.5YR5/3(にがい黄)	7.5YR5/3(にがい黄)	○	○	○	○					821	
623	6	胴～底部	ナデ、沈線	条痕の後ナデ	7.5YR5/3(にがい黄)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○							921	
624	5	胴～底部	貝条痕	貝条痕の後ナデ	7.5YR5/3(にがい黄)	2.5Y4/1(黄灰)	○	○							824	
625	5	胴～底部	ケスリの後ナデ、沈線	ナデ、指押さ入	7.5YR6/3(にがい黄)	7.5YR4/1(褐色)	○	○	○	○					25	
626	5-6	胴～底部	丁寧ケナデ、沈線	不明瞭	5YR5/4(にがい赤褐)	5YR5/3(にがい赤褐)	○	○	○	○					スス付着	926
627	5-6	口縁部	爪形、ナデ、沈線	条痕	7.5YR5/3(にがい黄)	7.5YR5/3(にがい黄)	○	○							口唇部にキザミ目	799
628	5	口縁部	ナデ、爪形	ナデ	10YR6/3(にがい黄褐)	10YR4/1(褐色)	○	○							口唇部にキザミ目	797
629	5	口縁部	爪形、条痕の後ナデ	条痕の後ナデ	2.5Y4/2(暗灰黄)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○	○	○						790
630	6	口縁部	爪形、沈線、ナデ	ナデ	10YR6/2(灰黄褐)	2.5Y4/1(黄灰)	○	○							スス付着	796
631	6	口縁部	貝条痕、貝刺突	条痕の後ナデ	5YR5/4(にがい赤褐)	7.5YR5/3(にがい黄)	○	○								812
632	5	口縁～胴部	刺突、条痕の後ナデ	条痕の後ナデ	10YR4/2(灰黄褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○							スス付着	798
633	5	口縁部	ナデ、爪形	条痕の後ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○							口唇部にキザミ目	853
634	6	口縁部	条痕の後ナデ、沈線	条痕の後ナデ	5YR5/4(にがい赤褐)	5YR5/3(にがい赤褐)	○	○							口唇部に貝キザミ目	810
635	8	胴部	爪形、ナデ	条痕の後ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	10YR4/1(褐色)	○	○								806
636	5	頸～胴部	縄文、爪形	条痕の後ナデ	7.5YR5/3(にがい黄)	10YR4/3(にがい黄褐)	○	○								880
637	6	胴部	刺突、ナデ	条痕の後ナデ	2.5YR5/1(赤灰)	5R5/1(赤灰)	○	○								879
638	5-6	胴部	ナデ、沈線、貝刺突	条痕の後ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	7.5YR5/3(にがい黄)	○	○							スス付着 638～641同一 個体	941
639	5-6	胴部	ナデ、沈線、貝刺突	条痕の後ナデ	10YR5/3(にがい黄褐)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○								1116
640	6	胴部	ナデ、沈線、貝刺突	条痕の後ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○								1115
641	5-6	胴部	ナデ、沈線	条痕の後ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○								1117
642	5	口縁～胴部	沈線、ナデ	ナデ	7.5YR5/3(にがい黄)	7.5YR5/3(にがい黄)	○	○							指押さえ有り	23
643	5-6	口縁～胴部	沈線、刺突	ナデ、貝条痕の後ナデ	7.5YR4/3(褐)	7.5YR4/3(褐)	○	○							口唇部にキザミ目	19
644	6	口縁部	貝条痕の後ナデ	ナデ、ケスリの後ナデ	7.5YR5/3(にがい黄)	10YR5/3(にがい黄褐)	○	○							貼り付け突帯に爪形刺突	26
645	5	胴部	刺突、ナデ	条痕の後ナデ	5YR5/3(にがい赤褐)	2.5YR4/1(赤灰)	○	○								885
646	6	胴部	刺突、ナデ	ナデ	10R5/3(赤褐)	7.5YR4/1(褐色)	○	○								886
647	6	口縁部	ナデ	ナデ	7.5YR5/3(にがい黄)	5YR4/2(灰褐)	○	○								1004
648	5-6	頸～胴部	ナデ	ナデ	2.5YR5/4(にがい赤褐)	7.5YR5/3(にがい黄)	○	○							指押さえ有り	1005
649	6	胴部	ナデ、沈線	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○								966
650	5-6	胴部	ナデ	貝条痕	5YR6/4(にがい黄)	10YR6/3(にがい黄褐)	○	○								1003
651	6	口縁～胴部	ナデ	ナデ、条痕の後ナデ	7.5YR5/3(にがい黄)	7.5YR4/1(褐色)	○	○							指押さえ有り	998
652	6	胴部	ナデ、工具沈線	ナデ	7.5YR6/4(にがい黄)	7.5YR5/4(にがい黄)	○	○								916
653	5-6	胴部	ナデ	ナデ	10YR6/3(にがい黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○								997
654	6	胴部	ナデ	工具ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	5YR5/2(灰褐)	○	○							貼り付け突帯有り	1123
655	6	口縁部	ナデ、後隆帯	ナデ	10YR6/3(にがい黄褐)	10YR5/3(にがい黄)	○	○							口唇部にキザミ目	1065
656	6		ナデ	ナデ			○	○							耳栓、丹塗有り	3-4
657	5	口縁～底部	ナデ	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR3/1(黄褐)	○	○								1081
658	5		ナデ		5YR5/4(にがい赤褐)		○	○							土製品	1124

#### 横位の貝殻連続刺突文が施されている塞ノ神式土器の口縁～頸部片 (458～513)

前述のとおり、貝殻連続刺突文だけが施されている口縁～頸部の破片であり、区画内に縄文を施すものか、沈線文を施すものか判別できない破片資料をここにまとめている。口唇部にも貝殻刺突文を施すものと施さないものに細分することができる。

490の口径は25.5cmで、493の口径は30.6cmを測る。

#### 横位の貝殻刺突文と沈線文や貝殻条痕文等を施す塞ノ神式土器 (514～626)

全体の器形は前述した塞ノ神式土器と同じような傾向だが、頸部の屈曲は一番弱い状況となっており、内面に後線が観察されなかったりするものやほぼ直口するようなものもある。口縁部には貝殻連続刺突文や押し文を施しており、胴部には数条の沈線文によって文様帯を作り出すものや、貝殻条痕文を施してそれを沈線で囲むことで幾何学的な枠中に条痕文が施されているように見せているものも含まれる。

514は図面上ではほぼ完形に復元できる資料で、515と共に口縁部を下にした状態で出土した。当初土器埋設遺構の可能性も考えたが、環状遺棄遺構内で出土した点や完形になるほどの破片が出土しなかったことから土器埋設遺構ではないと判断した。口径は31.8cm、底径は14.7cm、器高は45.7cmを測る。516～528は口縁部片である。517は貝殻刺突文の上に沈線文が施されている。524の口径は35.6cmを測る。525は貝殻押し文のみが施されており、その他は貝殻連続刺突文や押し文のほかには沈線文や条痕文も口縁部に施文している。526・527は同一個体である。529～553は頸部片である。頸部の屈曲部には貝殻刺突文や工具による刺突文等が確認される。554～614は胴部片である。屈曲が弱い頸部片なども含まれている可能性がある。598は円形の穿孔が確認される。615～626は底部片である。底部は上げ底状を呈するものが多い。底径が復元できるものは619が11.4cm、620が14.7cm、621が10.6cm、622が11cm、623が7.6cm、624が12.4cm、626が13.6cmを測る。625は底部の中央部付近に円形の穿孔が確認される。また底径は8.8cmを測る。

#### 前述の4種類の塞ノ神式土器とはちがう特徴を持つもの (627～641)

前述の塞ノ神式土器とは文様や器形が異なるものをここにまとめる。627～630・633・635～637は爪形の刺突文を施すものである。627は刺突文のほかに貝殻状の文様が確認される。636は特に細身の文様を施している。634は無文である。638～641は同一個体のもので、638～640の資料に見られる屈曲が特徴的である。この屈曲部に横位の貝殻連続刺突文を施し、その他の部分には沈線文を施している。破片はこのほかにも多いが接合できず全体の器形が復元できなかった。屈曲部の位置から考察すると壺型土器のようになる可能性が考えられる。

#### 既存の分類に当てはまらない資料 (642～654)

今まで分類した土器型式に当てはまらないものをここにまとめる。642は緩やかに屈曲する頸部を持つもので、底部以外は復元でき、口径は20.4cmを測る。口縁部付近に沈線文が施されている。643は直口する口縁部片で、円形の刺突文とその下に沈線文の施されている資料である。644は口縁部下を肥厚させ、その上に爪形の刺突文を施すものである。645・646は同一個体の可能性があるもので縦長の刺突文が施されている。648は薄手の無文の頸部片であるが、内面には強いナデ調整が施されておりその痕跡が確認される。649は屈曲が見られる頸部から胴部片で外面には曲線を描く沈線文が施文されている。650は外面には模様は施されていないが、内面に細かい貝殻条痕文が施されている資料である。652は外面に縦方向の鈍い後線が確認される資料で、沈線文が施されている。654はおそらく口縁部片であり、644のように肥厚させているが特に文様は施していない。

#### 隆帯土器 (655)

1点のみ口縁部片が出土している。口縁部付近に一条の隆帯を巡らせ、その上にキザミを施すもので、縄文草創期に該当する資料であるが、ここで報告を行う。

#### 土製品 (656～658)

656は耳栓である。概要報告の段階では2個体の耳栓と報告していたものであるが、本報告の接合作業によって同一個体であることが判明した。内外面に赤色顔料を塗布しており、部分的には鮮やかな赤色を観察することができる。上部径は5.8cm、下部径は6.85cm、高さは3.35cmを測る。657は欠損が著しいため判別が難しいが、皿状のミニチュア土器と考えられる資料である。658は不明土製品で、残存する範囲では直方体のような形状が想像される。表面には小さな穴が全部で5箇所確認される。

## 2. 石器

縄文時代早期の遺物包含層中より総数2899点の石器が出土した。その分布状況は土器と同じように調査区の北西部に集中している。

ここでは製品類を中心に報告を行うが、個別資料の詳細については計測分類表を作成しているのでそちらを参照し

ていただきたい。なお、本報告における石器の整理作業に当たっては従来使用されている器種についての分類基準を設定し、器種分類を行ったが、この器種分類は本遺跡から出土した石器に対しての分類作業であり、他の遺跡と共通するものではない。また使用石材の分類は肉眼観察を主体としている。

#### 石鏃

剥片を素材として、両面調整や半両面調整により鋭い先端部を作り出し、全体の形状を概ね三角形や五角形を想定させるもの。平面の形状や加工状況から12類に細分することができた。総数で300点出土しており、そのうちの167点を図化している。様々な石材が使用されているが特に黒曜石・チャートの使用が目立つ。

- 1類 (659~666) : 基部の挟りがない平基鏃に分類されるもので総数13点出土している。
  - 2類 (667~690) : 基部の挟りがない凹基鏃の中で規模が1.5cm四方に納まるもの。総数26点出土している。
  - 3類 (691~704) : 形態的には2類に似ているが、規模が1.5cm四方を超えるもの。総数18点出土している。
  - 4類 (705~716) : 特徴的な挟り・脚部を有する鏃形鏃に分類されるもの。総数18点出土している。
  - 5類 (717) : 挟りが浅く、胴下半部に最大幅を持ち、そこから屈曲して基部にいたる帖地型石鏃に分類されるもの。1点のみ出土しており、屈曲部の下に挟りが付いている点が特徴的である。
  - 6類 (718) : 表面に研磨痕の観察されるもの。局部磨製石鏃に分類される。1点のみ出土しており、底部の中央部にわずかに研磨痕が確認される。頁岩を使用している。
  - 7類 (719・720) : 刃部が鋸歯状を示すもの。総数で5点出土している。
  - 8類 (721~728) : 先端部付近で屈曲し、全体の形状が概ね五角形を呈するもの。総数8点出土している。
  - 9類 (729~771) : 形状を整えるための片面・両面の加工が周辺部にとどまっているために、素材剥片の形状を大きく残しているもの。総数で60点出土している。一部には石鏃や未製品が含まれている可能性が考えられる。姫島産黒曜石の使用が目立つ。
  - 10類 (772~776) : 先端部から脚部に差し掛かるまでは直線的だが、脚部に屈曲が見られるもの。総数5点出土している。
  - 11類 (777~780) : 上記の分類に当てはまらず、規模が1.5cm四方に収まるもの。総数7点出土している。
  - 12類 (781~811) : 上記の分類に当てはまらず、規模が1.5cm四方を超えるもの。総数46点出土している。
- 欠損品 (812~826) : 欠損が著しく、上記分類に当てはめることができなかったもの。総数92点出土している。このような欠損品が非常に多いことが本調査区の石鏃の特徴の一つとして挙げられる。

#### 石鏃未製品 (827~862)

剥片を素材として、石鏃とはほぼ同規模で両面調整や半両面調整によって平面形が三角形や楕円形を呈するもの。石鏃に比べると加工が未熟であり、先端部が穿いものや厚いものを未製品としてまとめた。一部には石鏃や9類の石鏃が含まれている可能性が考えられる。総数47点出土しており、36点を図示している。

#### 尖頭器 (863)

剥片を素材として、両面調整によって先端部を作り出すもので、1点出土している。加工が周辺部にとどまっているため、未製品又は石鏃の可能性も考えられる。本資料は近代の溝の埋土中から出土したもののだが、本来は縄文早期に帰属するものと考えられるため、ここで報告を行った。

#### 尖頭状石器 (864~871)

剥片を素材として両面調整または半両面調整によって鈍い先端部と挟りのない基部を持つもの。石鏃より規模は概ね大きい。加工が未熟なものもあるため、未製品や石鏃の未製品、石鏃が含まれている可能性もある。総数で8点出土しており、全て図示している。

#### 異形石器 (872~885)

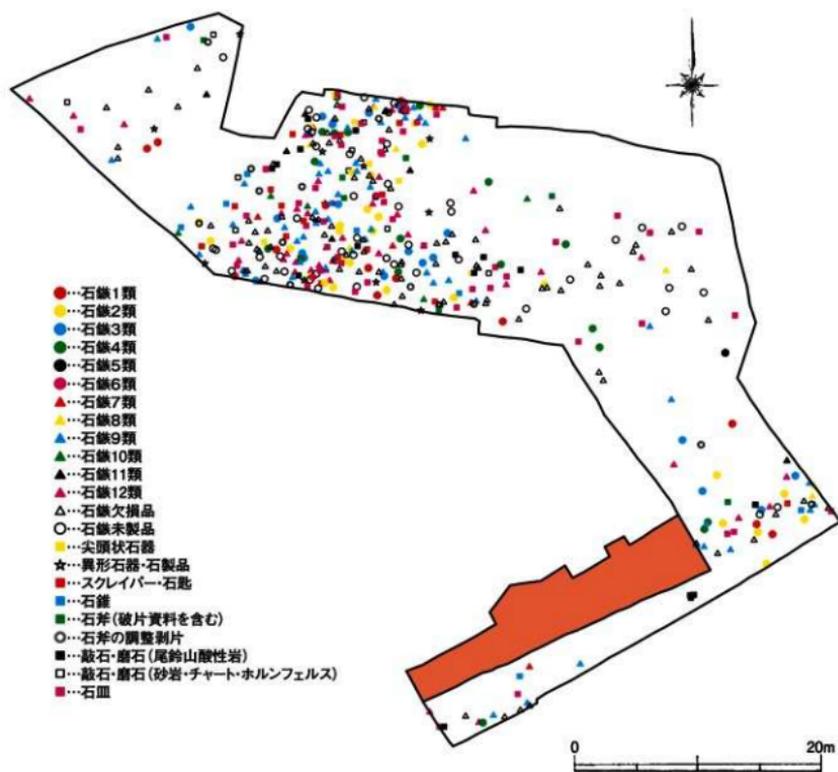
剥片を素材とする石器の中で、定型な石器とは異なる形状で機能を類推することができないもの。14点出土している。872はトロトロ石器の基部である。そのほかは体部に挟りを持つもので3号石器埋納遺構から出土したものと似ている資料が多い。中には表面に光沢の見られるもの (873) や剥離面の稜線が鈍くなっているもの (874・877) も確認される。

#### 石製品 (886)

礫を素材とする石器の中で、定型な石器と分類されないもの。1点出土している。赤化した砂岩の直角礫を素材としている。片面には小さくはみか確認される。くぼみの内側には筋状の痕跡が見られる。

#### 石鏃 (887~893)

剥片を素材として両面調整・半両面調整または素材剥片の一部に調整を施して先端部(鏃部)を作り出したもの。一部に石鏃の未製品を含む可能性が考えられる。総数7点出土している。



第72図 縄文時代早期遺物包含層出土主要石器分布図 (器種別：S=1/400)

#### 石匙 (894・895)

剥片を素材として両面調整または半両面調整によって全体の形状を整えると共につまみ部分と刃部を作り出しているもの。小型品の2点が出土している。

#### スクレイパー (896～905)

剥片を素材として縁辺に連続的な調整を施して刃部を作り出したもの。総数14点出土しており、10点図示している。896・897は挟りが入っており、上部がつまみ状を呈しているが下部を欠損していることと調整が全体的に未熟で周辺部にとどまることから石匙とは分類しなかった。

#### 磨製石斧及び石斧片 (906～912)

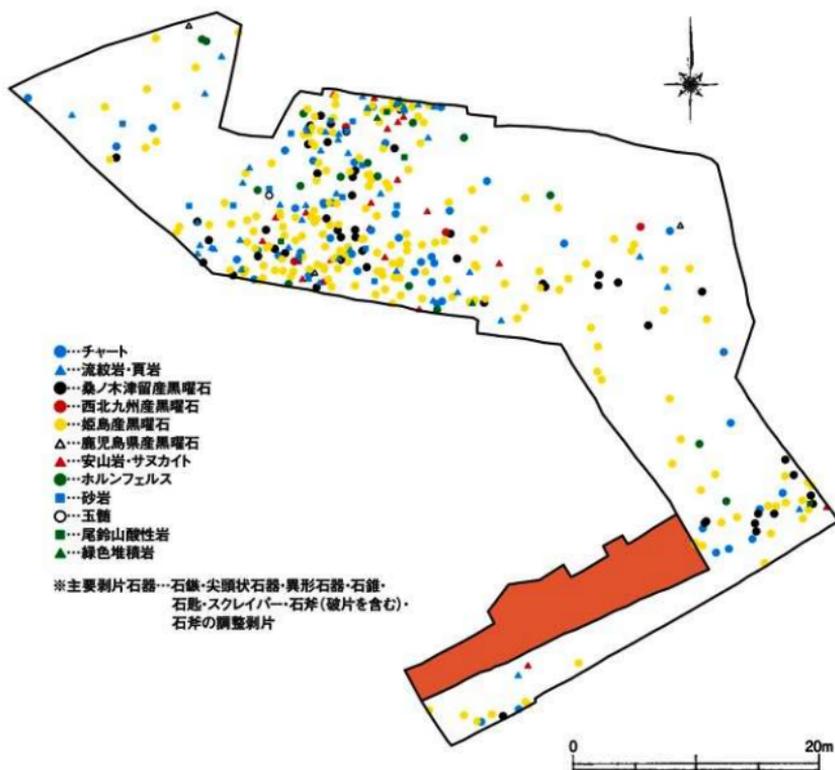
剥片または縦長の礫を素材としてその短辺に刃部を形成するもの。研磨の痕跡が確認され、平面形は四角形や五角形を呈している。破片もあわせて総数7点出土している。912は尾鈴山酸性岩製で特徴的である。

#### 石斧の製作に関する剥片 (913～926)

研磨の痕跡が見られるものや主要剥離面の位置が不明瞭である剥片を石斧製作に関する剥片としてまとめた。総数14点出土している。研磨の痕跡が見られるものは再加工に係わるものと考えられる。

#### 剥片・破片・石核 (927・928)

剥片は剥片を素材としており、意図が不明瞭な二次加工が施されているものや全く加工が施されていないものをまとめた。破片は1cm四方に収まるものをまとめた。石核は礫または剥片を素材とするが、形態を整えるためとはみな



第73図 縄文時代早期遺物包含層出土主要剥片石器分布図(石材別:S=1/400)

しがたいネガティブな剥離面を持つものを分類している。

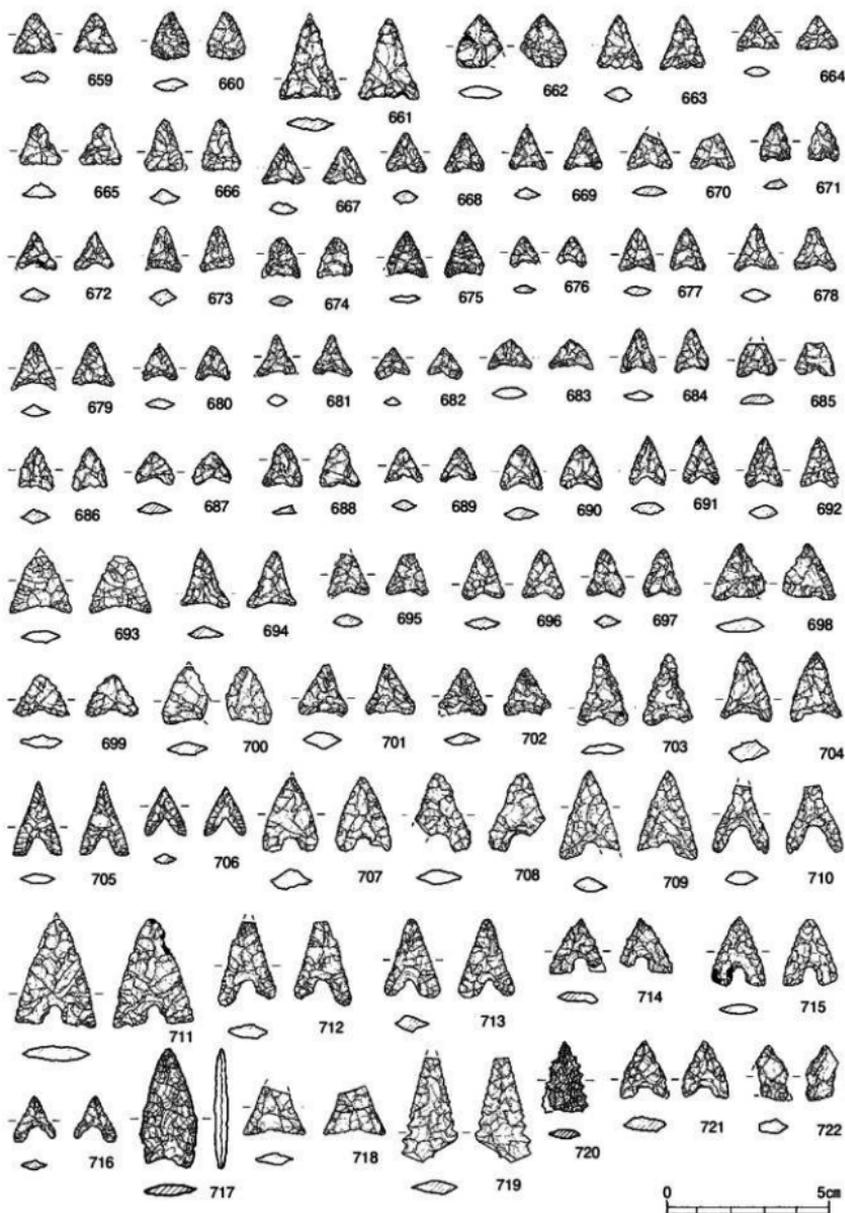
遺物包含層中から出土した剥片・砕片・石核をあわせた数量を石材ごとに記載する。頁岩・流紋岩105点・135g、チャート388点・240.7g、砂岩28点・156.7g、黒曜石(桑ノ木津留産260点・148.2g、姫島産154点・515.4g、西北九州産20点・16.1g、鹿児島県産16点・19.1g)、安山岩・サヌカイト51点・30.9g、玉髓2点・3.7g、ホルンフェルス12点・19.3g、その他6点・16.2g。

#### 敲石・磨石(929～941)

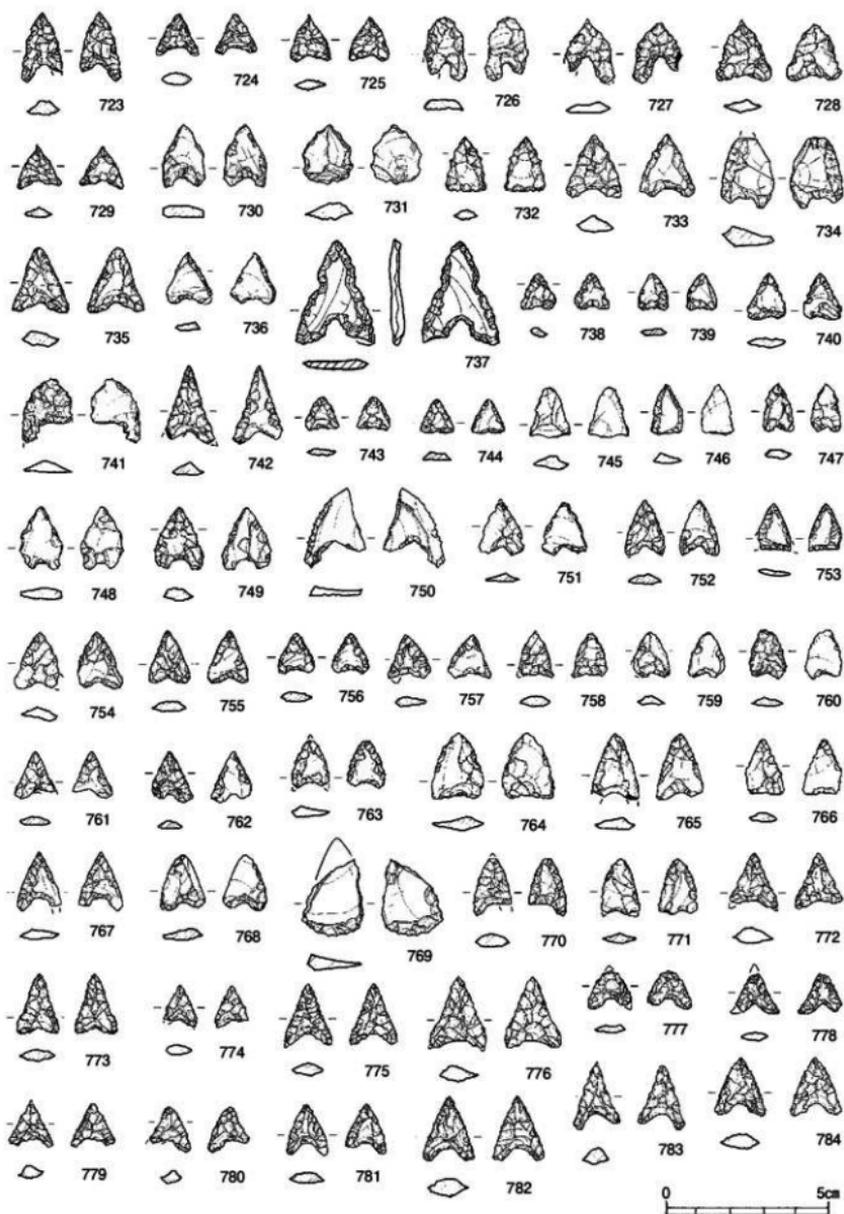
敲石は鏢・鏢片を素材として、その一端・両端・平らな面に敲打の結果と考えられる敲打痕、敲打によるものと推定されるくぼみを持つものを分類した。磨石は円鏢の平らな面の片面または両面に平滑面を持つものを分類した。総数で66点出土しており、13点を図示している。933はチャート製で特徴的である。ほとんどが砂岩製か尾鈴山酸性岩製である。

#### 台石・石皿(942・943)

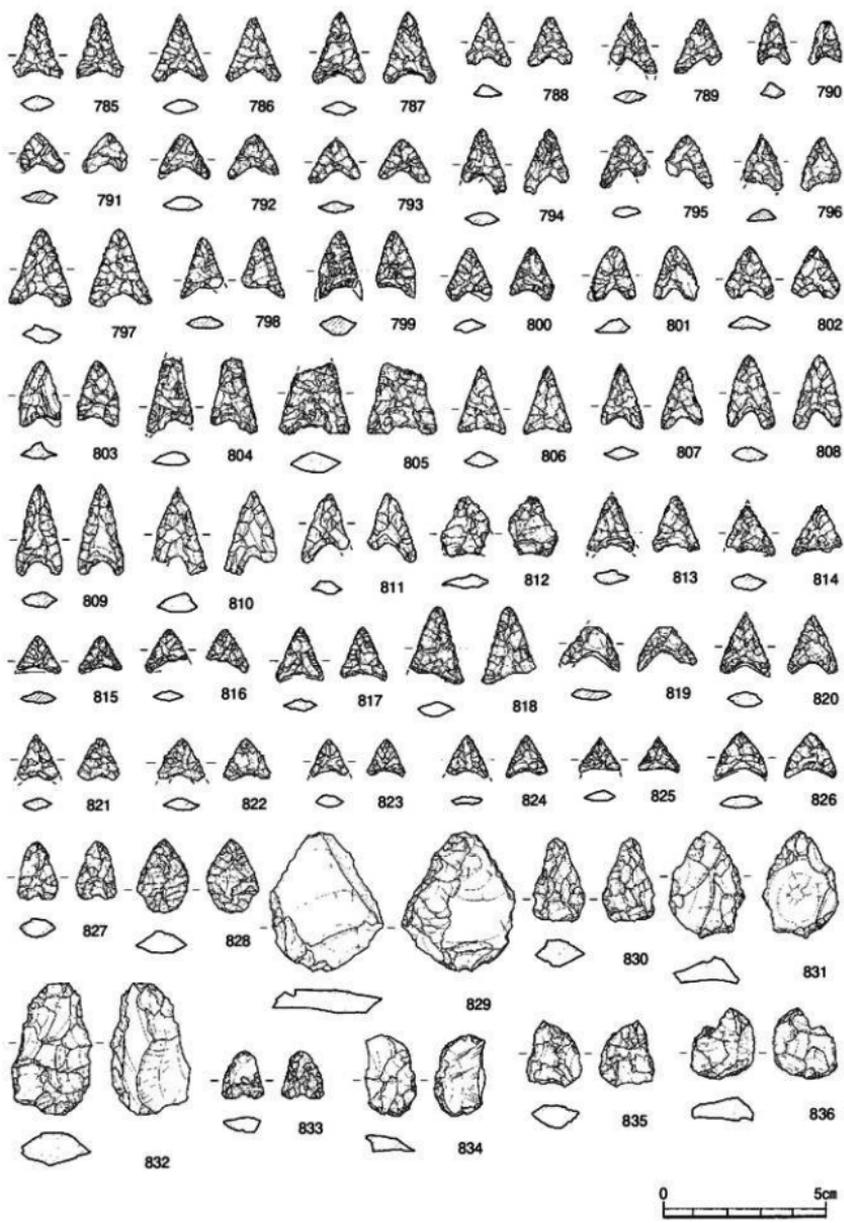
大型の鏢を素材として、その平坦面に平滑な面やくぼんだ滑らかな面を持つもの。総数で11点出土しており、2点図示している。全てが砂岩製である。



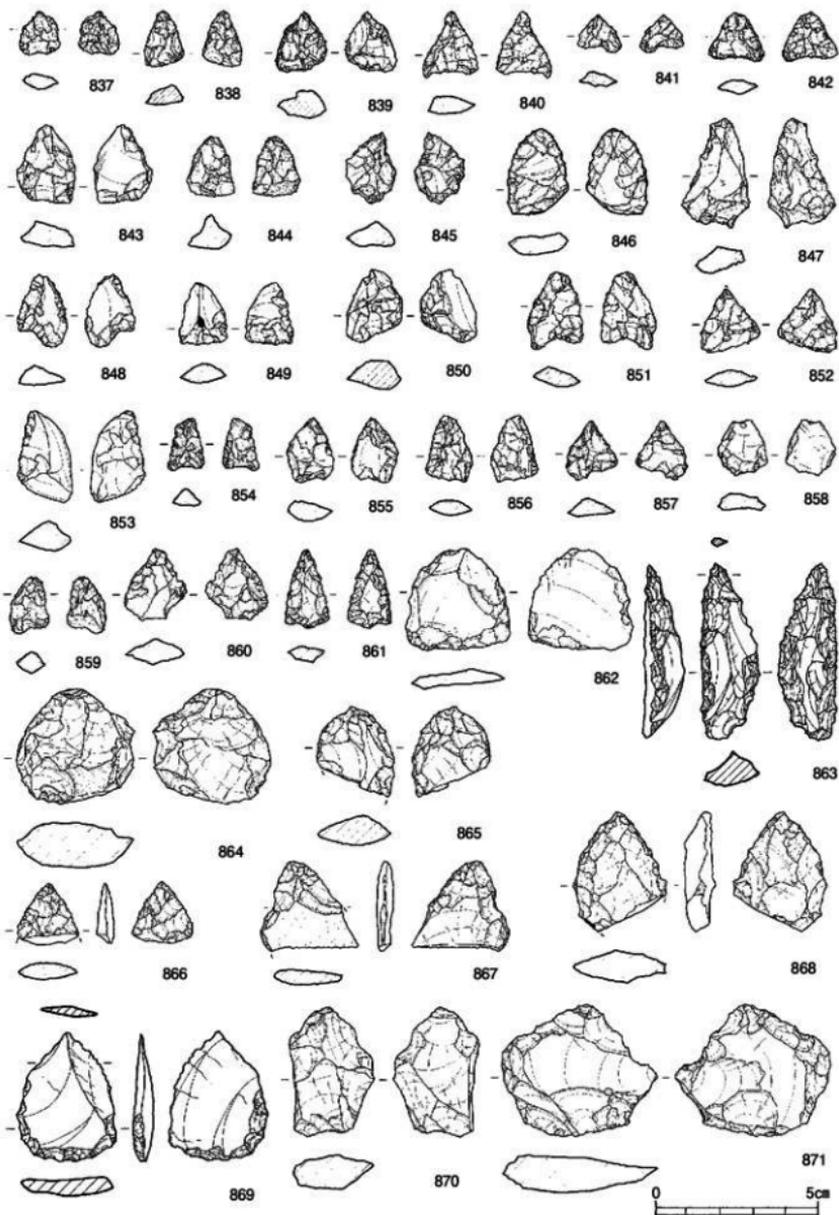
第74図 縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図① (S=2/3)



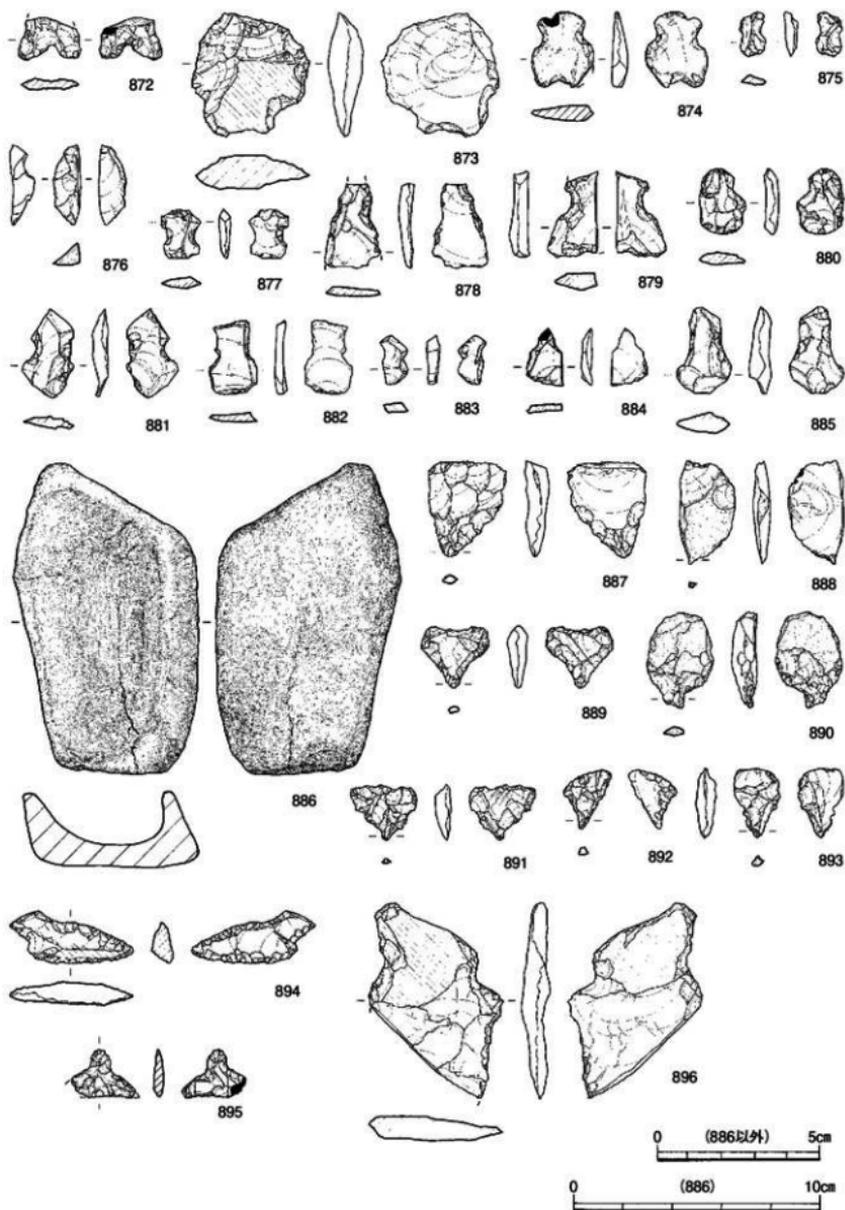
第75図 縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図② (S=2/3)



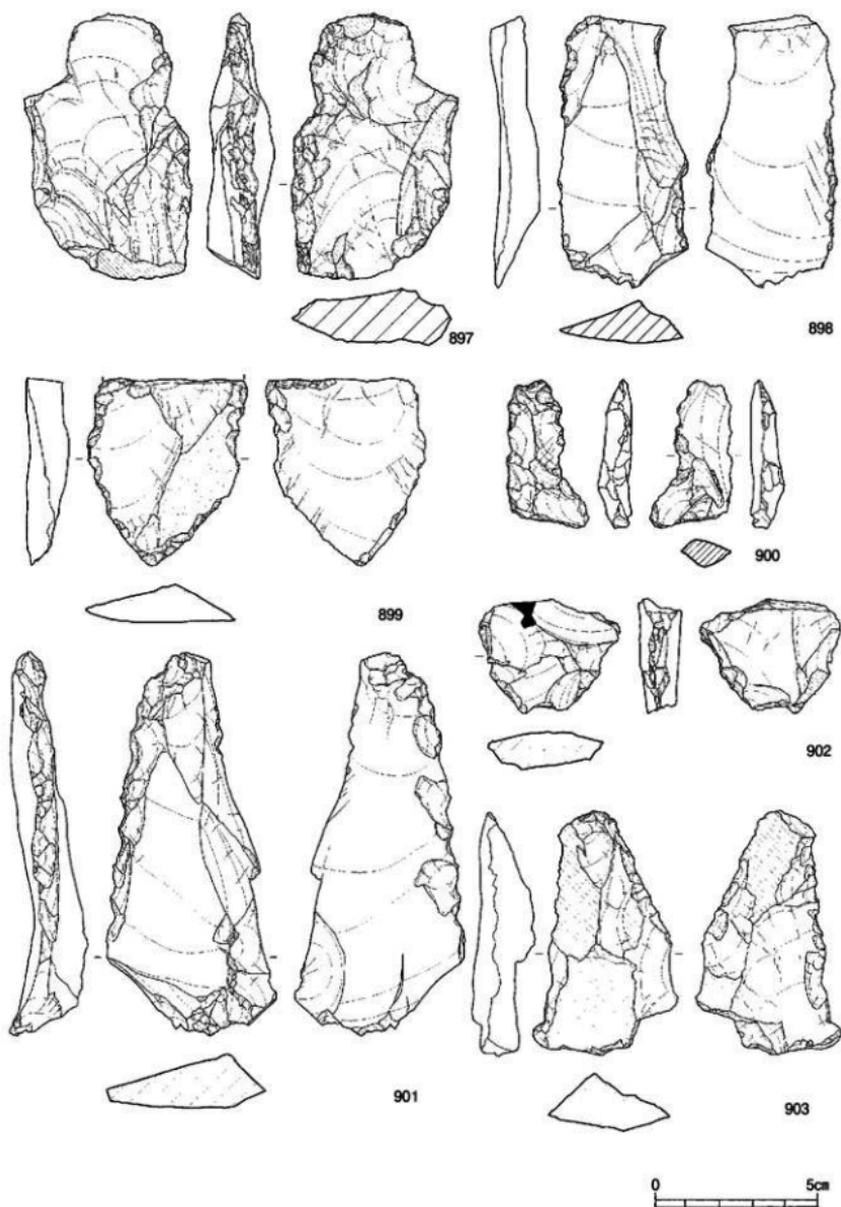
第76図 縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図③ (S=2/3)



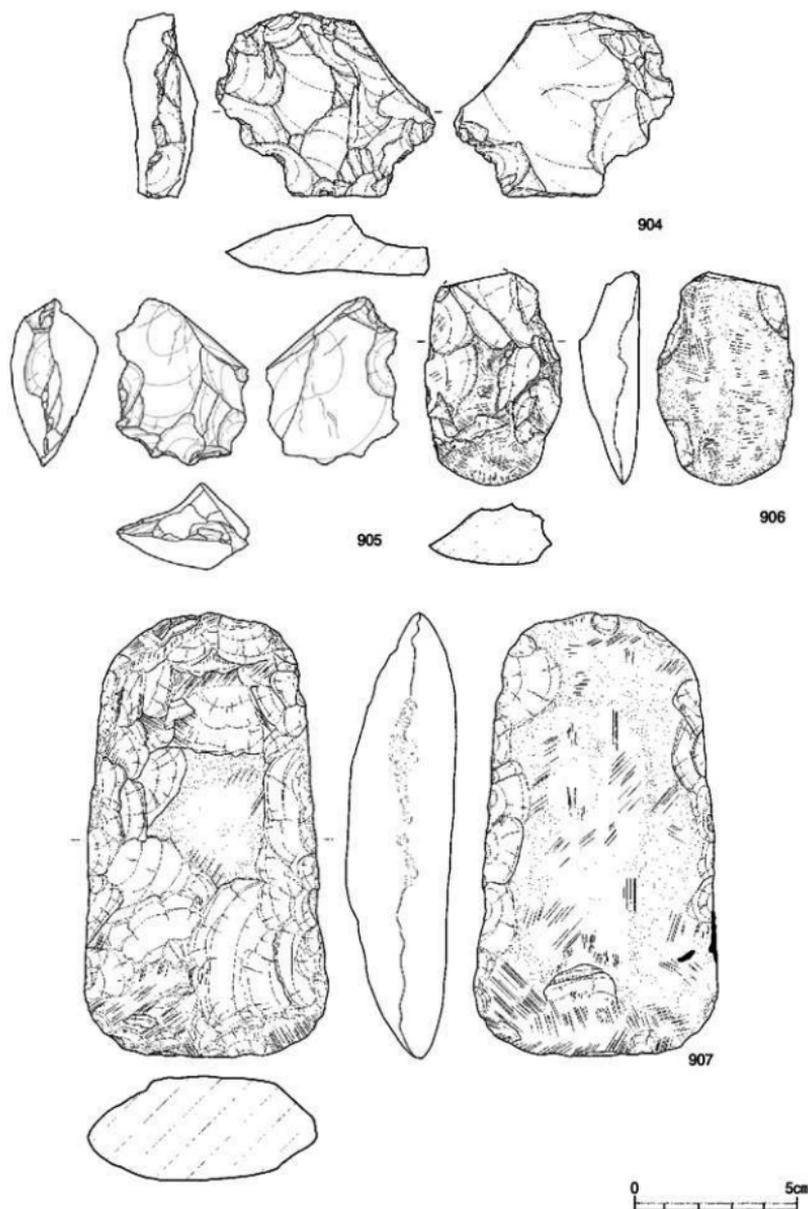
第77図 縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図④ (S=2/3)



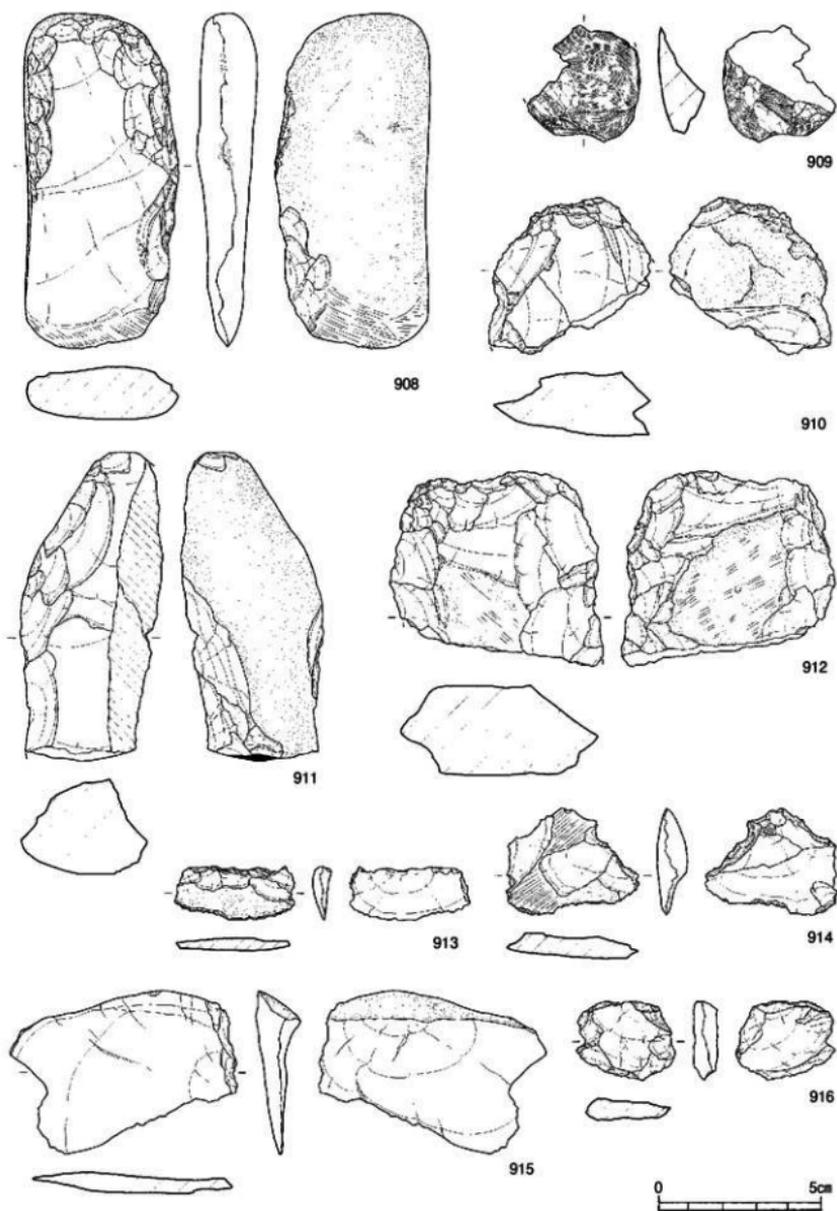
第78図 縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑤ (S=1/2・2/3)



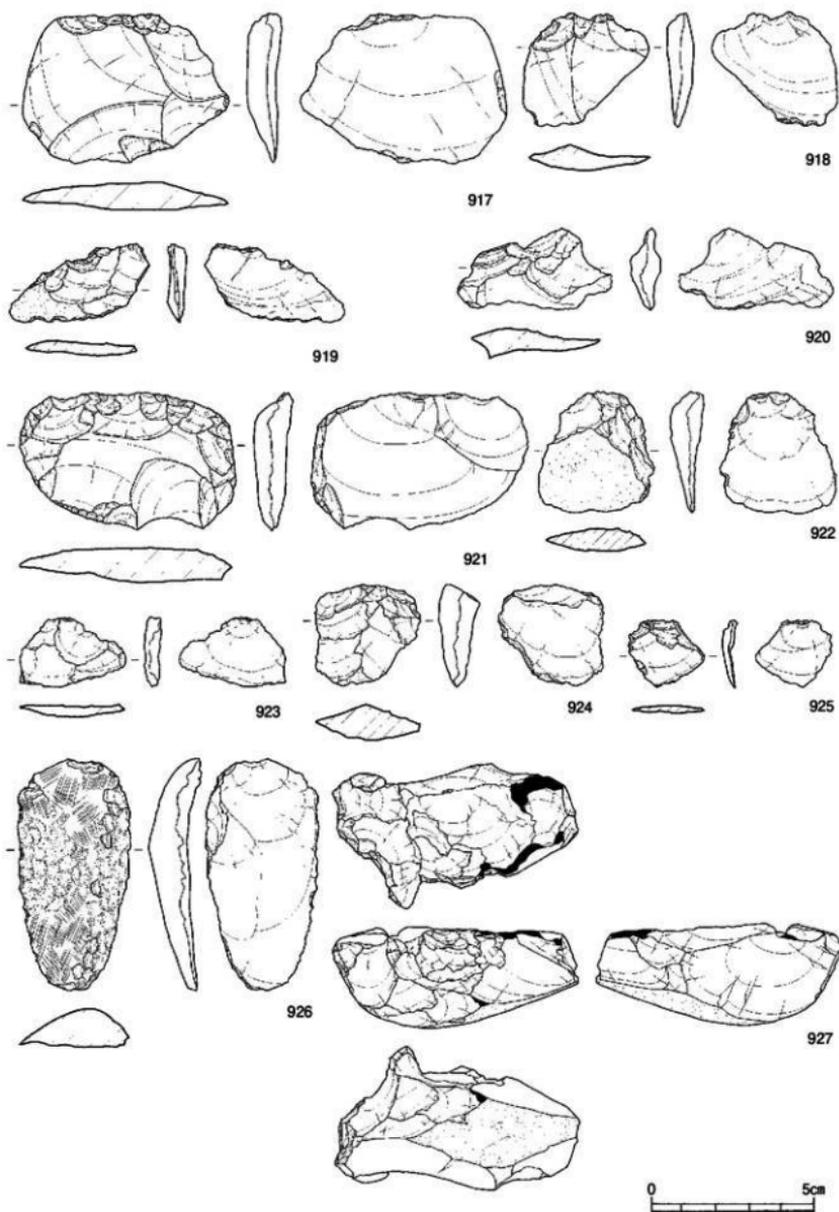
第79図 縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑥ (S=2/3)



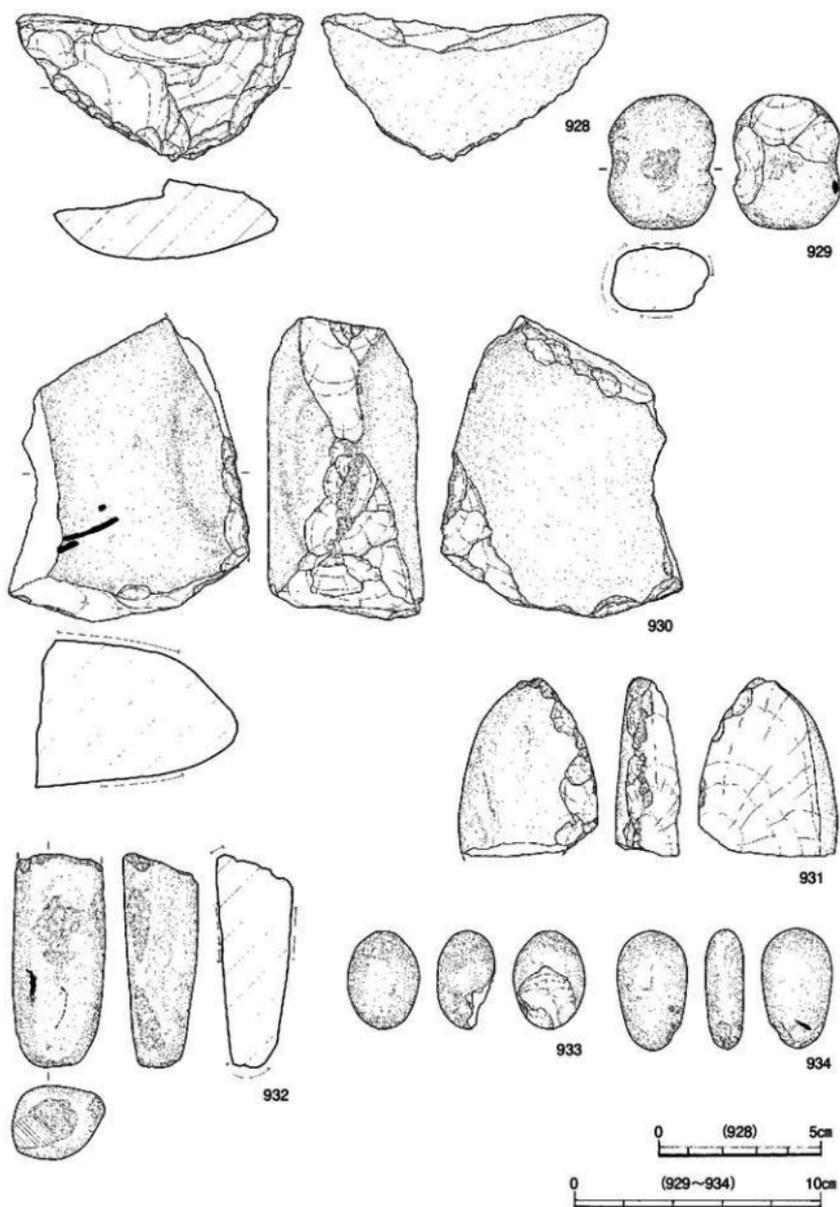
第80図 縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑦ (S=2/3)



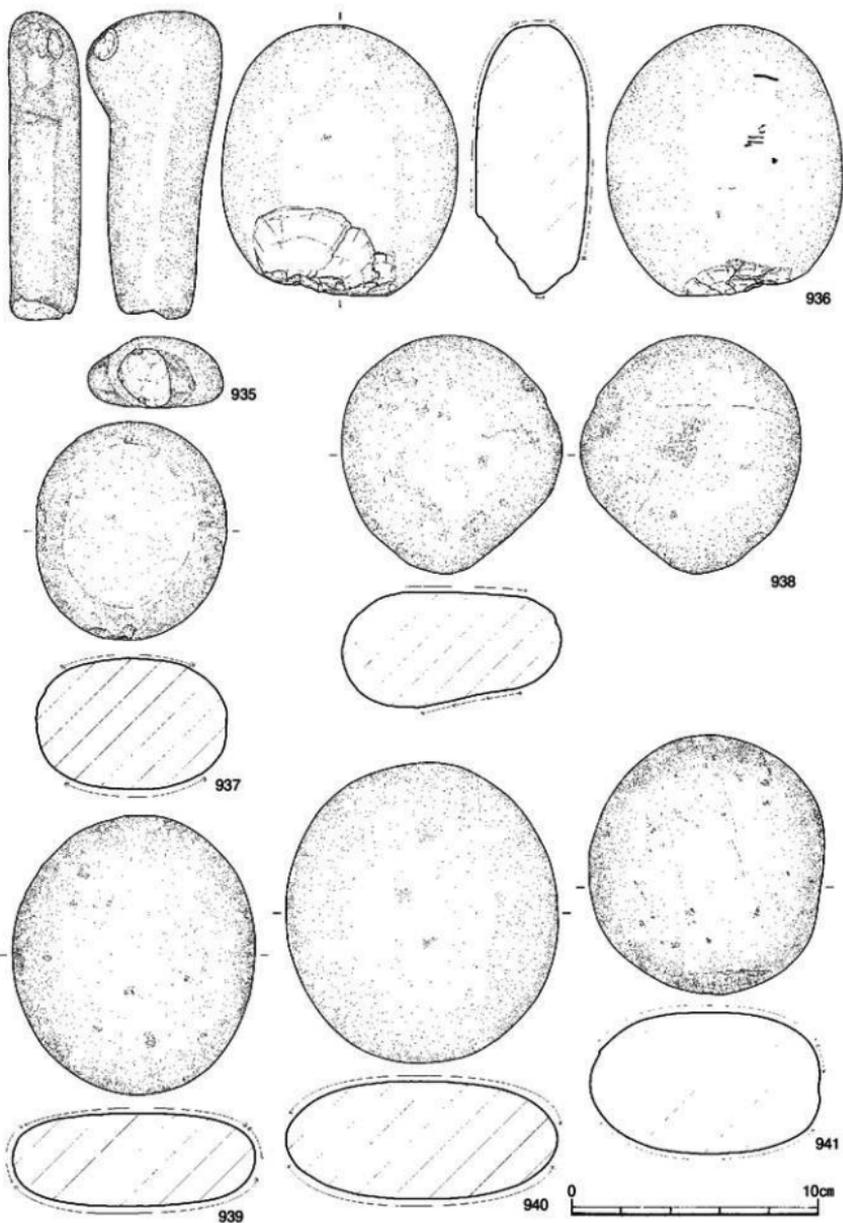
第81図 縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑧ (S=2/3)



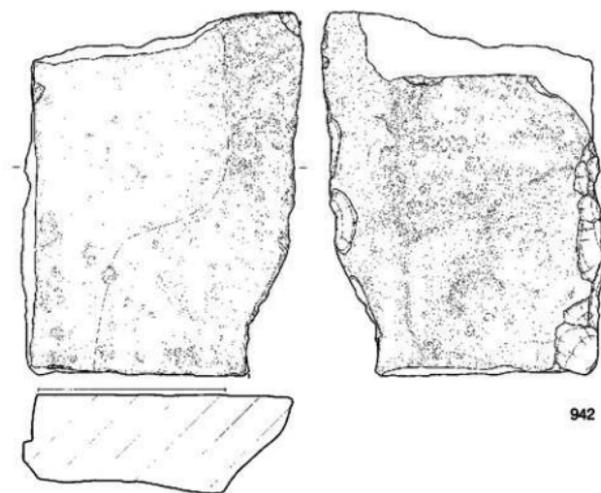
第82図 縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑨ (S=2/3)



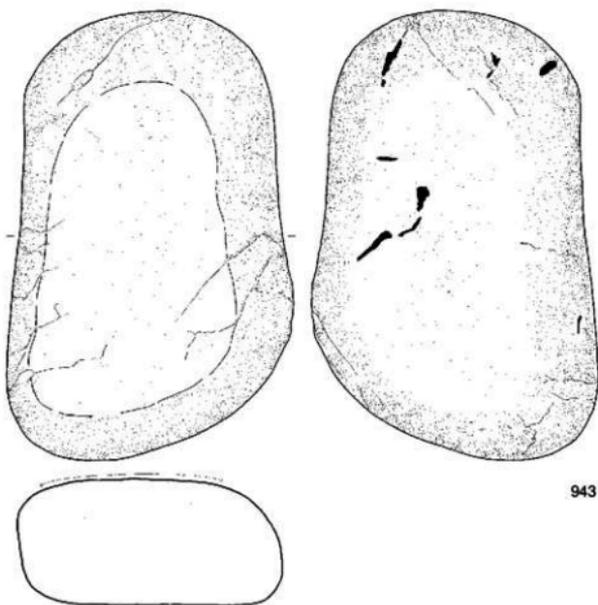
第83図 縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑩ (S=1/2・2/3)



第84図 縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図① (S=1/2)



942



943



第85図 縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑫ (S=1/2)

第18表 縄文時代早期遺物包含層出土石器計測分類表①

遺物No.	整理No.	器種	層位	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備考
3	1181	異形石器	SZ3	玉髓	1.9	1.2	0.55	0.9	
4	1177	異形石器	SZ3	玉髓	2.05	0.9	0.6	0.8	
5	1180	異形石器	SZ3	玉髓	2.05	1.2	0.7	1	
6	1178	異形石器	SZ3	玉髓	1.55	0.85	0.3	0.2	
7	1179	異形石器	SZ3	玉髓	2.1	1.1	0.6	1.2	
8	1168	異形石器	SZ3	チャート	2.2	1.5	0.6	1.9	
9	1170	異形石器	SZ3	チャート	1.9	1.3	0.65	1.6	
10	1169	異形石器	SZ3	チャート	2	1.2	0.5	1.1	
11	1165	異形石器	SZ3	チャート	2.05	1.3	0.5	1.2	
12	1166	異形石器	SZ3	チャート	1.8	1.25	0.5	1.1	
13	1172	異形石器	SZ3	頁岩	2.2	1.9	0.7	1.6	
14	1171	異形石器	SZ3	頁岩	1.9	1.2	0.5	1.2	
15	1175	異形石器	SZ3	安山岩	1.6	1.1	0.4	0.7	
16	1174	異形石器	SZ3	安山岩	1.35	0.9	0.4	0.4	
17	1176	異形石器	SZ3	安山岩	1.5	1.3	0.5	0.6	
18	1173	異形石器	SZ3	安山岩	2.05	1.15	0.4	0.4	
29	39	打製石鏃	SI10	黒曜石(桑ノ木津留)	(1.7)	(1.1)	0.4	(0.5)	脚部欠損
35	36	打製石鏃	SI11	黒曜石(姫島)	1.8	1.1	0.5	0.8	
43	233	打製石鏃	SI21	黒曜石(姫島)	1.5	1.2	0.2	0.3	
46	245	石匙	SI26	黒曜石(姫島)	1.9	2.4	0.65	1.6	
53	40	打製石鏃	SI23	黒曜石(姫島)	1.7	1.3	0.3	0.4	
54	1125	敲石	SI23	砂岩	9.5	9	5.1	472.9	
60	289	敲石	SI31	砂岩	9.3	8	0.5	502	
67	38	局部磨製石鏃	SC4	頁岩	1.5	1.4	0.2	0.3	
659	48	打製石鏃	6	チャート	1.2	1.3	0.4	(0.4)	1類 基部欠損
660	169	打製石鏃	5	チャート	1.5	1.2	0.4	0.6	1類
661	108	打製石鏃	6	頁岩	(2.5)	1.9	0.4	(1)	1類 先端・脚部欠損
662	175	打製石鏃	5	黒曜石(桑ノ木津留)	1.6	(1.4)	0.4	(0.7)	1類 基部欠損
663	122	打製石鏃	6	黒曜石(桑ノ木津留)	1.7	1.4	0.4	0.6	1類
664	128	打製石鏃	6	黒曜石(姫島)	1	1.3	0.3	(0.2)	1類 脚部欠損
665	59	打製石鏃	5	黒曜石(姫島)	1.3	1.3	0.45	0.4	1類
666	42	打製石鏃	6	黒曜石(姫島)	1.6	(1.2)	0.5	(0.5)	1類 基部欠損
667	73	打製石鏃	5	チャート	(1.1)	1.3	0.35	(0.4)	2類 先端部欠損
668	114	打製石鏃	6	チャート	1.2	1.2	0.4	0.4	2類
669	82	打製石鏃	5	チャート	(1.3)	1.1	0.35	(0.3)	2類 先端部欠損
670	232	打製石鏃	6	頁岩	(1.1)	1.3	0.3	(0.4)	2類 先端・脚部欠損
671	174	打製石鏃	5	黒曜石(桑ノ木津留)	1.2	0.9	0.3	0.3	2類
672	75	打製石鏃	6	黒曜石(桑ノ木津留)	1.2	(1.2)	0.4	(0.3)	2類 脚部欠損
673	84	打製石鏃	5	黒曜石(桑ノ木津留)	1.4	(1)	0.5	(0.4)	2類 脚部欠損
674	104	打製石鏃	5	黒曜石(桑ノ木津留)	1.2	(1)	0.3	(0.3)	2類 脚部欠損
675	186	打製石鏃	5	黒曜石(桑ノ木津留)	(1.4)	(1.2)	0.2	(0.2)	2類 脚部欠損
676	72	打製石鏃	SC14	黒曜石(姫島)	1.2	(1.2)	0.3	(0.3)	2類 脚部欠損
677	81	打製石鏃	6	黒曜石(姫島)	1.3	(1.1)	0.3	(0.3)	2類 脚部欠損
678	103	打製石鏃	5	黒曜石(姫島)	(1.3)	(1.3)	0.4	(0.3)	2類 先端・脚部欠損
679	49	打製石鏃	6	黒曜石(姫島)	(1.3)	(1.3)	0.4	(0.4)	2類 脚部欠損
680	88	打製石鏃	6	黒曜石(姫島)	(1)	1	0.3	(0.2)	2類 先端部欠損
681	183	打製石鏃	6	黒曜石(姫島)	1.3	(1.2)	0.35	(0.3)	2類 脚部欠損
682	191	打製石鏃	6	黒曜石(姫島)	1	1.2	0.3	0.2	2類
683	170	打製石鏃	5	黒曜石(姫島)	0.9	1.3	0.3	0.4	2類
684	51	打製石鏃	6	黒曜石(姫島)	1.3	(1)	0.3	(0.3)	2類 脚部欠損
685	203	打製石鏃	5	黒曜石(姫島)	(1)	1.3	0.3	(0.3)	2類 先端部欠損
686	113	打製石鏃	6	黒曜石(姫島)	1.3	(1.1)	0.4	(0.4)	2類 脚部欠損

■ 原産地推定結果あり ( ) の値は残存値を示す

第19表 縄文時代早期遺物包含層出土石器計測分類表②

遺物 No.	整理 No.	器種	層位	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	備考
687	211	打製石鏃	5	黒曜石 (姫島)	1	1.1	0.35	0.3	2類
688	85	打製石鏃	5	黒曜石 (姫島)	1.3	1.2	0.3	0.3	2類
689	86	打製石鏃	5	黒曜石 (姫島)	1	(1.1)	0.3	(0.2)	2類 脚部欠損
690	79	打製石鏃	6	安山岩	1.4	(1.3)	0.4	(0.4)	2類 脚部欠損
691	53	打製石鏃	6	チャート	1.5	(1.1)	0.35	(0.4)	3類 脚部欠損
692	60	打製石鏃	5	チャート	1.5	1.1	0.4	0.4	3類
693	197	打製石鏃	5	チャート	(1.8)	1.9	0.4	(0.9)	3類 先端部欠損
694	124	打製石鏃	6	チャート	(1.7)	1.5	0.4	(0.5)	3類 先端部欠損
695	225	打製石鏃	5	チャート	(1.3)	(1.2)	0.3	(0.5)	3類 先端・脚部欠損
696	89	打製石鏃	6	黒曜石 (桑ノ木津留)	1.5	1.3	0.4	0.5	3類
697	76	打製石鏃	6	黒曜石 (桑ノ木津留)	1.5	1.1	0.35	0.4	3類
698	195	打製石鏃	6	黒曜石 (桑ノ木津留)	1.8	(1.7)	0.4	(0.8)	3類 脚部欠損
699	99	打製石鏃	5	黒曜石 (姫島)	1.3	(1.6)	0.4	(0.6)	3類 脚部欠損
700	234	打製石鏃	5	黒曜石 (姫島)	(1.8)	(1.4)	0.35	(0.8)	3類 先端・脚部欠損
701	205	打製石鏃	5	黒曜石 (姫島)	(1.6)	1.5	0.5	(0.8)	3類 脚部欠損
702	215	打製石鏃	5	黒曜石 (西北九州)	1.4	(1.5)	0.35	(0.5)	3類 脚部欠損
703	126	打製石鏃	6	黒曜石 (鹿児島県産)	2.2	(1.5)	0.3	(0.7)	3類 脚部欠損
704	102	打製石鏃	5	サヌカイト	2.1	1.5	0.65	1.3	3類
705	61	打製石鏃	6	チャート	2.3	1.5	0.3	0.6	4類
706	69	打製石鏃	8	チャート	1.5	1.3	0.3	0.3	4類
707	210	打製石鏃	5	チャート	(2.3)	1.7	0.65	(1.5)	4類 先端・脚部欠損
708	206	打製石鏃	6	チャート	2.4	(1.7)	0.5	(1.2)	4類 脚部欠損
709	243	打製石鏃	6	流紋岩	2.7	(1.8)	0.4	(1.5)	4類 脚部欠損
710	194	打製石鏃	5	頁岩	(2.1)	1.7	0.4	(0.9)	4類 先端部欠損
711	115	打製石鏃	5	黒曜石 (桑ノ木津留)	(3.3)	2.4	0.5	(2.4)	4類 先端部欠損
712	172	打製石鏃	5	黒曜石 (姫島)	(2.6)	1.7	0.45	(1.2)	4類 先端部欠損
713	118	打製石鏃	5	黒曜石 (姫島)	2.4	1.8	0.45	1	4類
714	229	打製石鏃	5	黒曜石 (姫島)	1.7	(1.6)	0.4	(0.5)	4類 脚部欠損
715	129	打製石鏃	5	安山岩	(2)	1.6	0.3	(0.8)	4類 先端部欠損
716	112	打製石鏃	6	玉髄	1.4	1.3	0.3	0.2	4類
717	31	打製石鏃	6	チャート	3.65	1.7	0.35	2	5類
718	207	局部磨製石鏃	6	流紋岩	(1.5)	1.9	0.35	(0.6)	6類 先端部欠損
719	237	打製石鏃	5	安山岩	(3.2)	(1.7)	0.4	(1.7)	7類 先端・脚部欠損
720	1114	打製石鏃	5	チャート	2.2	(1.3)	0.25	(0.7)	7類 脚部欠損
721	111	打製石鏃	6	チャート	1.8	(1.4)	0.5	(0.9)	8類 脚部欠損
722	41	打製石鏃	SC14	黒曜石 (桑ノ木津留)	(1.7)	(1)	(0.4)	(0.6)	8類 脚部欠損
723	64	打製石鏃	5	黒曜石 (桑ノ木津留)	2.1	(1.2)	0.45	(0.7)	8類 脚部欠損
724	182	打製石鏃	6	黒曜石 (桑ノ木津留)	1.3	(1.3)	0.4	(0.4)	8類 脚部欠損
725	78	打製石鏃	6	黒曜石 (桑ノ木津留)	(1.3)	1.2	0.3	(0.3)	8類 先端部欠損
726	242	打製石鏃	5	黒曜石 (姫島)	1.9	(1.4)	0.3	(0.6)	8類 脚部欠損
727	181	打製石鏃	6	黒曜石 (姫島)	(1.8)	(1.5)	0.3	(0.6)	8類 先端・脚部欠損
728	116	打製石鏃	5	黒曜石 (姫島)	(1.7)	1.7	0.4	(0.8)	8類 先端部欠損
729	93	打製石鏃	6	チャート	(1.4)	1.3	0.3	(0.3)	9類 先端部欠損
730	222	打製石鏃	6	チャート	1.9	1.3	0.4	0.9	9類
731	199	打製石鏃	5	チャート	1.8	1.5	0.5	1	9類
732	92	打製石鏃	6	流紋岩	1.7	1.2	0.3	0.5	9類
733	202	打製石鏃	6	流紋岩	1.6	(1.7)	0.5	(1.2)	9類 脚部欠損
734	230	打製石鏃	5	流紋岩	(2.2)	1.6	0.6	(2.1)	9類 先端部欠損
735	105	打製石鏃	6	頁岩	2	1.7	0.5	1.3	9類
736	55	打製石鏃	6	頁岩	1.6	(1.4)	0.25	(0.5)	9類 脚部欠損
737	30	打製石鏃	5	頁岩	3.2	(2.4)	0.45	(1.8)	9類 脚部欠損
738	120	打製石鏃	5	黒曜石 (桑ノ木津留)	1.1	1	0.25	0.2	9類

■ 原産地推定結果あり ( ) の値は残存値を示す

第20表 縄文時代早期遺物包含層出土石器計測分類表③

遺物 No.	整理 No.	器種	層位	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	備考
739	117	打製石鏃	5	黒曜石 (桑ノ木津留)	1.1	0.9	0.2	0.2	9類
740	66	打製石鏃	5	黒曜石 (桑ノ木津留)	1.4	1.2	0.3	0.3	9類
741	176	打製石鏃	6	黒曜石 (桑ノ木津留)	(2)	(1.5)	0.4	(0.7)	9類 下部欠損
742	218	打製石鏃	6	黒曜石 (針尾)	(2.4)	(1.5)	0.4	(0.8)	9類 脚部欠損
743	58	打製石鏃	5	黒曜石 (姫島)	1	1	0.2	0.1	9類
744	47	打製石鏃	6	黒曜石 (姫島)	1	1	0.3	0.2	9類
745	71	打製石鏃	5	黒曜石 (姫島)	1.5	1.2	0.4	0.4	9類
746	158	打製石鏃	5	黒曜石 (姫島)	1.5	1	0.3	0.4	9類
747	65	打製石鏃	6	黒曜石 (姫島)	1.4	(0.9)	0.3	(0.3)	9類 脚部欠損
748	63	打製石鏃	5	黒曜石 (姫島)	1.9	1.3	0.35	0.6	9類
749	83	打製石鏃	5	黒曜石 (姫島)	1.9	1.5	0.4	0.9	9類
750	52	打製石鏃	6	黒曜石 (姫島)	2.4	1.8	0.3	0.7	9類
751	68	打製石鏃	6	黒曜石 (姫島)	(1.6)	1.4	0.25	(0.3)	9類 先端部欠損
752	100	打製石鏃	6	黒曜石 (姫島)	(1.7)	1.2	0.3	(0.5)	9類 脚部欠損
753	213	打製石鏃	6	黒曜石 (姫島)	(1.5)	(1)	0.2	(0.2)	9類 脚部欠損
754	200	打製石鏃	6	黒曜石 (姫島)	1.7	(1.4)	0.35	(0.6)	9類 脚部欠損
755	67	打製石鏃	6	黒曜石 (姫島)	1.6	1.2	0.3	0.5	9類
756	80	打製石鏃	6	黒曜石 (姫島)	1.2	(1.1)	0.3	(0.2)	9類 脚部欠損
757	226	打製石鏃	5	黒曜石 (姫島)	(1.5)	(1.3)	0.3	(0.3)	9類 脚部欠損
758	224	打製石鏃	5	黒曜石 (姫島)	(1.4)	(1.1)	0.3	(0.3)	9類 先端・脚部欠損
759	46	打製石鏃	6	黒曜石 (姫島)	1.4	(1.1)	0.3	(0.3)	9類 脚部欠損
760	177	打製石鏃	6	黒曜石 (姫島)	1.5	1.1	0.3	0.4	9類
761	228	打製石鏃	5	黒曜石 (姫島)	1.4	(1.2)	0.3	(0.3)	9類 脚部欠損
762	227	打製石鏃	5	黒曜石 (姫島)	1.6	1.3	0.2	0.4	9類
763	43	打製石鏃	6	黒曜石 (姫島)	(1.4)	(1.2)	0.4	(0.5)	9類 先端・脚部欠損
764	70	打製石鏃	6	安山岩	2	1.6	0.4	0.8	9類
765	209	打製石鏃	5	安山岩	(2)	(1.4)	0.35	(0.8)	9類 脚部欠損
766	214	打製石鏃	6	安山岩	1.7	1.1	0.25	0.4	9類
767	192	打製石鏃	6	サヌカイト	1.9	(1.4)	0.3	(0.5)	9類 脚部欠損
768	110	打製石鏃	6	サヌカイト	1.8	(1.3)	0.35	(0.6)	9類 脚部欠損
769	166	打製石鏃	6	砂岩	(2.5)	1.9	0.5	(2.1)	9類 上部欠損
770	219	打製石鏃	6	砂岩	(1.7)	(1.2)	0.4	(0.7)	9類 先端・脚部欠損
771	106	打製石鏃	6	ホルンフェルス	(1.7)	(1.2)	0.3	(0.5)	9類 脚部欠損
772	201	打製石鏃	5	流紋岩	(1.8)	(1.5)	0.5	(0.8)	10類 脚部欠損
773	97	打製石鏃	6	黒曜石 (姫島)	1.8	1.3	0.35	0.5	10類
774	188	打製石鏃	5	黒曜石 (姫島)	(1.3)	(1)	0.3	(0.3)	10類 脚部欠損
775	57	打製石鏃	6	黒曜石 (姫島)	(1.9)	(1.4)	0.4	(0.5)	10類 脚部欠損
776	121	打製石鏃	5	玉髄	(2.2)	(1.7)	0.5	(1)	10類 脚部欠損
777	119	打製石鏃	5	チャート	(1.2)	(1.3)	0.25	(0.3)	11類 先端・脚部欠損
778	184	打製石鏃	6	黒曜石 (桑ノ木津留)	(1.2)	(1.3)	0.25	(0.3)	11類 先端・脚部欠損
779	91	打製石鏃	6	黒曜石 (姫島)	(1.3)	1.3	0.4	(0.4)	11類 先端部欠損
780	87	打製石鏃	6	ホルンフェルス	1.4	(1.2)	0.4	(0.5)	11類 脚部欠損
781	241	打製石鏃	5	チャート	1.5	(1.2)	0.3	(0.6)	12類 脚部欠損
782	74	打製石鏃	6	チャート	2	1.5	0.55	1.1	12類
783	54	打製石鏃	6	チャート	(2)	1.4	0.5	(0.8)	12類 先端部欠損
784	125	打製石鏃	5	流紋岩	1.7	1.5	0.4	0.8	12類
785	131	打製石鏃	6	流紋岩	2	(1.4)	0.4	(0.7)	12類 脚部欠損
786	130	打製石鏃	6	頁岩	(1.9)	1.7	0.4	(0.7)	12類 先端部欠損
787	56	打製石鏃	6	黒曜石 (桑ノ木津留)	2.2	1.6	0.4	(0.9)	12類 脚部欠損
788	50	打製石鏃	6	黒曜石 (姫島)	(1.5)	1.3	0.35	(0.4)	12類 先端部欠損
789	239	打製石鏃	6	黒曜石 (姫島)	(1.6)	(1.5)	0.4	(0.5)	12類 先端・脚部欠損
790	95	打製石鏃	5	黒曜石 (姫島)	(1.3)	(1)	0.5	(0.4)	12類 先端・脚部欠損

■ 原地推定結果あり ( ) の値は残存値を示す

第21表 縄文時代早期遺物包含層出土石器計測分類表④

遺物 No.	整理 No.	器種	層位	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	備考
791	217	打製石鏃	6	黒曜石 (姫島)	1.2	(1.3)	0.35	(0.4)	12類 脚部欠損
792	178	打製石鏃	6	黒曜石 (姫島)	1.4	(1.6)	0.4	(0.6)	12類 脚部欠損
793	101	打製石鏃	6	黒曜石 (姫島)	(1.3)	1.6	0.35	(0.4)	12類 先端部欠損
794	220	打製石鏃	5	黒曜石 (姫島)	2	(1.4)	0.4	(0.6)	12類 脚部欠損
795	196	打製石鏃	5	黒曜石 (姫島)	(1.6)	(1.4)	0.3	(0.4)	12類 脚部欠損
796	231	打製石鏃	5	黒曜石 (姫島)	(1.6)	(1.2)	0.3	(0.5)	12類 先端・脚部欠損
797	123	打製石鏃	6	黒曜石 (姫島)	2.4	1.9	0.55	1.4	12類
798	223	打製石鏃	SC31	黒曜石 (姫島)	1.8	(1.3)	0.4	(0.5)	12類 脚部欠損
799	221	打製石鏃	6	黒曜石	(2.5)	(1.2)	0.6	(0.8)	12類 脚部欠損
800	179	打製石鏃	6	黒曜石 (姫島)	(1.6)	(1.4)	0.4	(0.6)	12類 脚部欠損
801	45	打製石鏃	6	黒曜石 (姫島)	(1.7)	(1.4)	0.4	(0.7)	12類 脚部欠損
802	98	打製石鏃	6	黒曜石 (姫島)	1.6	(1.5)	0.4	(0.6)	12類 脚部欠損
803	96	打製石鏃	5	黒曜石 (姫島)	2	(1.3)	0.5	(0.8)	12類 脚部欠損
804	212	打製石鏃	5	黒曜石 (姫島)	(2.3)	(1.4)	0.4	(1)	12類 先端・脚部欠損
805	171	打製石鏃	5	黒曜石 (姫島)	(2.2)	2.1	0.65	(2.4)	12類 先端部欠損
806	37	打製石鏃	SI2	黒曜石 (姫島)	2.1	1.5	0.5	0.7	12類
807	44	打製石鏃	6	安山岩	(1.9)	1.3	0.4	(0.6)	12類 先端部欠損
808	94	打製石鏃	6	サヌカイト	2.2	1.5	0.35	1	12類
809	107	打製石鏃	6	砂岩	2.8	1.4	0.5	1.4	12類
810	193	打製石鏃	6	砂岩	(2.6)	(1.6)	0.6	(1.6)	12類 先端・脚部欠損
811	198	打製石鏃	6	ホルンフェルス	2.1	(1.5)	0.4	(0.7)	12類 脚部欠損風化著しい
812	173	打製石鏃	5	チャート	1.8	(1.5)	0.4	(1)	脚部欠損
813	77	打製石鏃	6	頁岩	(1.7)	(1.4)	0.35	(0.7)	先端・脚部欠損
814	216	打製石鏃	6	黒曜石 (桑ノ木津留)	(1.6)	(1.5)	0.45	(0.7)	先端・脚部欠損
815	109	打製石鏃	6	黒曜石 (桑ノ木津留)	1.1	(1.3)	0.35	(0.3)	脚部欠損
816	187	打製石鏃	5	黒曜石 (姫島)	1.3	(1.3)	0.3	(0.3)	脚部欠損
817	62	打製石鏃	6	黒曜石 (姫島)	(1.6)	(1.4)	0.4	(0.5)	脚部欠損
818	185	打製石鏃	6	黒曜石 (姫島)	2.4	(1.6)	0.45	(1)	脚部欠損
819	238	打製石鏃	5	黒曜石 (姫島)	(1.4)	(1.8)	0.3	(0.5)	先端・脚部欠損
820	236	打製石鏃	5	黒曜石 (姫島)	(1.8)	(1.5)	0.5	(0.7)	先端・脚部欠損
821	132	打製石鏃	5	黒曜石 (姫島)	(1.3)	(1.2)	0.35	(0.4)	先端・脚部欠損
822	189	打製石鏃	6	黒曜石 (姫島)	(0.9)	(1.1)	0.3	(0.2)	脚部欠損
823	127	打製石鏃	6	黒曜石 (姫島)	(1.1)	(1.1)	0.35	(0.3)	下部欠損
824	90	打製石鏃	6	黒曜石 (姫島)	(1.3)	(1.3)	0.25	(0.3)	基部欠損
825	180	打製石鏃	6	黒曜石 (姫島)	(1.1)	(1.3)	0.3	(0.3)	下部欠損
826	190	打製石鏃	6	サヌカイト	(1.4)	(1.6)	0.35	(0.6)	脚部欠損
827	147	打製石鏃未製品	5	チャート	1.8	1.2	0.6	1.1	
828	149	打製石鏃未製品	5	チャート	2.3	1.6	0.7	2.3	
829	137	打製石鏃未製品	5	流紋岩	4.3	3.4	0.75	12.4	
830	134	打製石鏃未製品	6	流紋岩	2.5	1.5	0.8	2.5	
831	141	打製石鏃未製品	5	頁岩	3.3	2.3	0.8	4.4	
832	152	打製石鏃未製品	5	頁岩	4	2.4	1	7.9	
833	135	打製石鏃未製品	6	黒曜石 (桑ノ木津留)	1.5	1.3	0.45	0.6	
834	145	打製石鏃未製品	5	黒曜石 (桑ノ木津留)	2.5	1.5	0.5	1.9	
835	146	打製石鏃未製品	5	黒曜石 (桑ノ木津留)	2	1.7	0.7	1.8	
836	140	打製石鏃未製品	6	黒曜石 (桑ノ木津留)	2.2	1.9	0.7	2.3	
837	144	打製石鏃未製品	6	黒曜石 (桑ノ木津留)	1.3	1.2	0.5	0.7	
838	240	打製石鏃未製品	6	黒曜石 (桑ノ木津留)	1.7	1.2	0.6	0.8	
839	164	打製石鏃未製品	6	黒曜石 (桑ノ木津留)	1.8	1.6	0.8	1.8	
840	167	打製石鏃未製品	6	黒曜石 (姫島)	2	1.7	0.6	1.2	
841	204	打製石鏃未製品	5	黒曜石 (姫島)	1.2	1.3	0.35	0.4	
842	168	打製石鏃未製品	5	黒曜石 (姫島)	1.5	1.7	0.4	0.9	

■ 原産地推定結果あり ( ) の値は残存値を示す

第22表 縄文時代早期遺物包含層出土石器計測分類表⑤

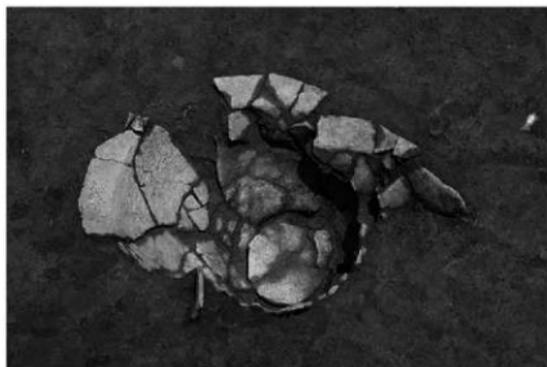
遺物No.	整理No.	器種	層位	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備考
843	150	打製石鏃未製品	6	黒曜石(姫島)	2.4	1.8	0.8	2.6	
844	159	打製石鏃未製品	6	黒曜石(姫島)	1.9	1.4	1	1.3	
845	162	打製石鏃未製品	5	黒曜石(姫島)	2.2	1.5	0.8	1.9	
846	156	打製石鏃未製品	6	黒曜石(姫島)	2.6	1.9	0.7	3.3	
847	142	打製石鏃未製品	5	黒曜石(姫島)	3.4	2	0.8	4	
848	139	打製石鏃未製品	5	黒曜石(姫島)	2.2	1.5	0.6	1.4	
849	133	打製石鏃未製品	5	黒曜石(姫島)	1.9	1.5	0.6	1.2	
850	153	打製石鏃未製品	5	黒曜石(姫島)	2.2	1.7	0.9	2.7	
851	154	打製石鏃未製品	5	黒曜石(姫島)	2.4	1.7	0.6	1.9	
852	235	打製石鏃未製品	5	黒曜石(姫島)	1.8	1.8	0.5	1.2	
853	157	打製石鏃未製品	6	黒曜石(姫島)	2.8	1.7	0.9	3	
854	161	打製石鏃未製品	5	黒曜石(姫島)	1.6	1.1	0.5	0.7	
855	160	打製石鏃未製品	6	黒曜石(姫島)	2	1.4	0.6	1.4	
856	155	打製石鏃未製品	5	黒曜石(姫島)	2	1.4	0.5	1.1	
857	163	打製石鏃未製品	5	黒曜石(姫島)	1.8	1.6	0.55	1	
858	138	打製石鏃未製品	5	黒曜石(鹿児島県産)	1.7	1.5	0.5	1.2	
859	151	打製石鏃未製品	6	黒曜石(鹿児島県産)	1.7	1.2	0.6	1.2	
860	143	打製石鏃未製品	6	黒曜石(西北九州)	2.2	1.9	0.8	2	
861	165	打製石鏃未製品	5	サヌカイト	2.4	1.3	0.5	1.7	
862	148	打製石鏃未製品	5	砂岩	3.2	3.2	0.6	6.7	
863	32	尖頭器	SE2	頁岩	5.3	1.8	1.1	8.5	
864	257	尖頭状石器	5	流紋岩	3.5	3.6	1.4	17.1	
865	255	尖頭状石器	6	頁岩	(2.7)	(2.4)	0.9	(6.3)	下部欠損
866	253	尖頭状石器	6	サヌカイト	(1.9)	(1.8)	0.55	(1.4)	
867	252	尖頭状石器	6	安山岩	(2.7)	(3)	0.5	(3.6)	下部欠損
868	254	尖頭状石器	5	安山岩	(3.6)	(2.9)	0.95	(8.3)	下部欠損
869	33	尖頭状石器	6	砂岩	3.9	3	0.65	5.6	
870	256	尖頭状石器	6	ホルンフェルス	3.9	2.6	1.1	10.9	
871	258	尖頭状石器	6	ホルンフェルス	4	4.7	1.1	21.4	
872	274	異形石器	5	チャート	(1.3)	(1.9)	0.4	(0.8)	上部欠損
873	275	異形石器	6	流紋岩	3.8	3.6	1.05	12.9	
874	273	異形石器	6	砂岩	2.3	(1.9)	0.5	(2.1)	脚部欠損
875	272	異形石器	6	チャート	1.4	0.8	0.3	0.4	
876	277	異形石器	SX2	頁岩	2.4	0.8	0.8	1.3	
877	276	異形石器	SX2	頁岩	1.5	1.2	0.35	0.6	
878	269	異形石器	5	頁岩	(2.6)	(1.7)	0.5	(1.6)	上・下部欠損
879	278	異形石器	SX2	頁岩	(2.6)	(1.6)	(0.5)	(2.2)	右半部欠損
880	267	異形石器	6	黒曜石(桑ノ木津留)	2	1.4	0.45	1.3	
881	268	異形石器	5	黒曜石(姫島)	2.7	1.6	0.5	1.2	
882	270	異形石器	6	黒曜石(姫島)	2.3	1.4	0.4	1	
883	271	異形石器	6	安山岩	1.5	0.9	0.45	0.5	
884	265	異形石器	5	安山岩	1.7	1.1	0.35	0.5	
885	266	異形石器	5	安山岩	2.1	1.7	0.7	2.1	
886	24	石製品	5	砂岩	12.7	7.15	3.1	310.3	
887	251	石鏃	5	流紋岩	2.9	2.4	0.7	4.2	
888	247	石鏃	6	頁岩	3.2	1.7	0.5	3.3	
889	248	石鏃	5	頁岩	1.9	2.1	0.2	1.9	
890	250	石鏃	5	黒曜石(桑ノ木津留)	2.9	2	0.8	4.4	
891	249	石鏃	5	黒曜石(姫島)	1.7	2	0.45	0.9	
892	136	石鏃	5	黒曜石(姫島)	1.8	1.5	0.2	0.7	
893	246	石鏃	6	黒曜石(姫島)	2.1	1.4	0.6	1.2	
894	244	石匙	6	頁岩	1.6	3.8	0.7	3	

( ) の値は残存値を示す

第23表 縄文時代早期遺物包含層出土石器計測分類表⑥

遺物 No.	整理 No.	器種	層位	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	備考
895	208	石匙	5	黒曜石 (姫島)	(1.5)	(1.9)	0.3	(0.7)	刃部欠損
896	283	スクレイパー	5	流紋岩	(5.9)	(4.1)	0.9	(15.4)	下部欠損
897	282	スクレイパー	5	流紋岩	8.15	5.1	2	72	
898	285	スクレイパー	5	流紋岩	8.3	4	1.5	32.3	
899	281	スクレイパー	6	頁岩	(5.7)	(4.9)	1.3	(30.6)	上部欠損
900	280	スクレイパー	5	黒曜石 (姫島)	4.5	2.5	1	7.3	
901	284	スクレイパー	6	頁岩	11.7	5.2	2.35	93.5	
902	288	スクレイパー	6	サヌカイト	3.5	4.3	1.3	18.6	
903	279	スクレイパー	5	砂岩	7.5	4.4	1.85	40.6	
904	286	スクレイパー	5	砂岩	5.7	6.7	2.25	66.8	
905	287	スクレイパー	6	砂岩	4	5.1	2.15	38.5	
906	259	石斧	6	ホルンフェルス	6.5	4.3	1.8	52.4	
907	357	石斧	6	ホルンフェルス	13.7	7.4	3.2	419	
908	260	石斧	5	砂岩	10.3	4.7	1.85	118.4	
909	262	石斧片	6	ホルンフェルス	(3.6)	(3.5)	1.4	(12)	
910	263	石斧片	5	ホルンフェルス	(4.8)	(4.9)	1.95	(44.3)	
911	264	石斧片	6	ホルンフェルス	(9.5)	(4.3)	2.9	(125.9)	
912	261	石斧片	5	尾鈴山酸性岩	(6)	(6.5)	2.75	(135.4)	
913	394	剥片	5	頁岩	1.6	3.7	0.55	2.8	
914	344	剥片	6	頁岩	3.3	4	0.95	8.9	石斧の欠損時の剥片
915	347	剥片	5	ホルンフェルス	5	6.9	1.4	25.8	
916	354	剥片	6	ホルンフェルス	2.4	3	0.7	5.6	
917	343	剥片	6	ホルンフェルス	4.6	6.3	1.05	29.3	
918	345	剥片	5	ホルンフェルス	3.5	3.8	0.8	7.3	
919	350	剥片	6	ホルンフェルス	2.4	4.3	0.6	4	
920	342	剥片	6	ホルンフェルス	2.5	4.7	0.9	6	
921	341	剥片	6	ホルンフェルス	4.2	5.6	1.2	35.4	
922	353	剥片	5	尾鈴山酸性岩	3.7	3.5	1	9.4	
923	352	剥片	5	尾鈴山酸性岩	2.1	3.2	0.55	2.7	
924	351	剥片	5	尾鈴山酸性岩	3.1	3.2	1.25	10	
925	346	剥片	6	緑色堆積岩	2	2.3	0.2	1.2	
926	348	剥片	6	緑色堆積岩	7.1	3.4	1.6	30.1	
927	355	石核	5	ホルンフェルス	3.1	7.5	4.45	71.9	
928	356	石核	5	ホルンフェルス	4.5	8.7	2.4	92.3	
929	295	敲石	5	ホルンフェルス	5.5	4.3	2.6	82.9	
930	358	敲石	6	砂岩	12.4	9.7	6.35	950	
931	293	敲石	6	砂岩	(7.3)	(5.6)	(2.6)	(109.1)	下部欠損
932	294	敲石	6	砂岩	(8.7)	(3.7)	(3.05)	(151.4)	上部欠損
933	290	敲石	5	チャート	4	3.9	2.3	35.3	
934	291	敲石	6	砂岩	4.9	2.8	1.6	27.6	
935	292	敲石	6	砂岩	12.6	5.5	2.9	259	
936	359	敲石	5	尾鈴山酸性岩	11	9.5	4.6	726	
937	298	磨石	6	砂岩	8.9	7.7	5.3	512	
938	300	磨石	5	砂岩	9.7	8.9	4.75	524	
939	296	磨石	6	尾鈴山酸性岩	11.4	9.8	3.8	678	
940	299	磨石	6	尾鈴山酸性岩	12.3	11	4.8	966	
941	297	磨石	6	尾鈴山酸性岩	10.6	9.6	5.75	876	
942	360	石皿	6	砂岩	(19.9)	(11.3)	(4.05)	(918)	欠損品
943	361	石皿	6	砂岩	18.3	11.7	5.1	1800	

( ) の値は残存値を示す



1号土器埋設遺構



2号土器埋設遺構



3号石器埋納遺構①



SI-11



SI-11 半截



SI-11・15



SI-13・14



SI-13・14 敷石



SI-17



SI-26・27



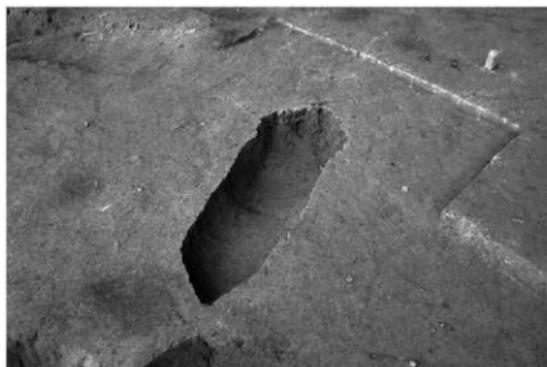
SI-26・27 半截



SI-26・27 敷石



SC-4



SC-22



SC-33



SC-16



SC-16 半截



SC-23



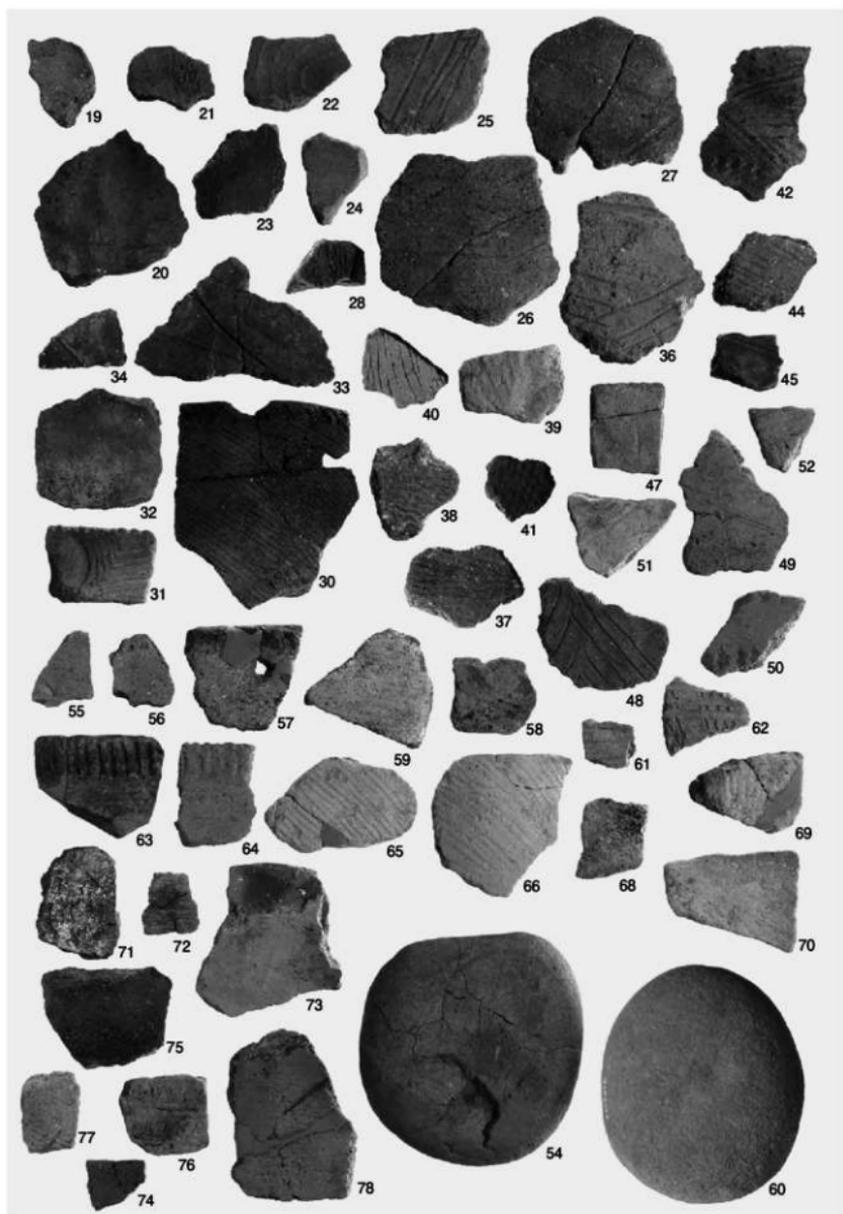
SC-12



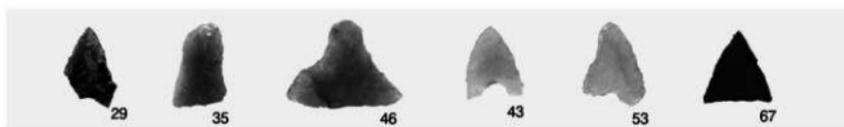
SC-28



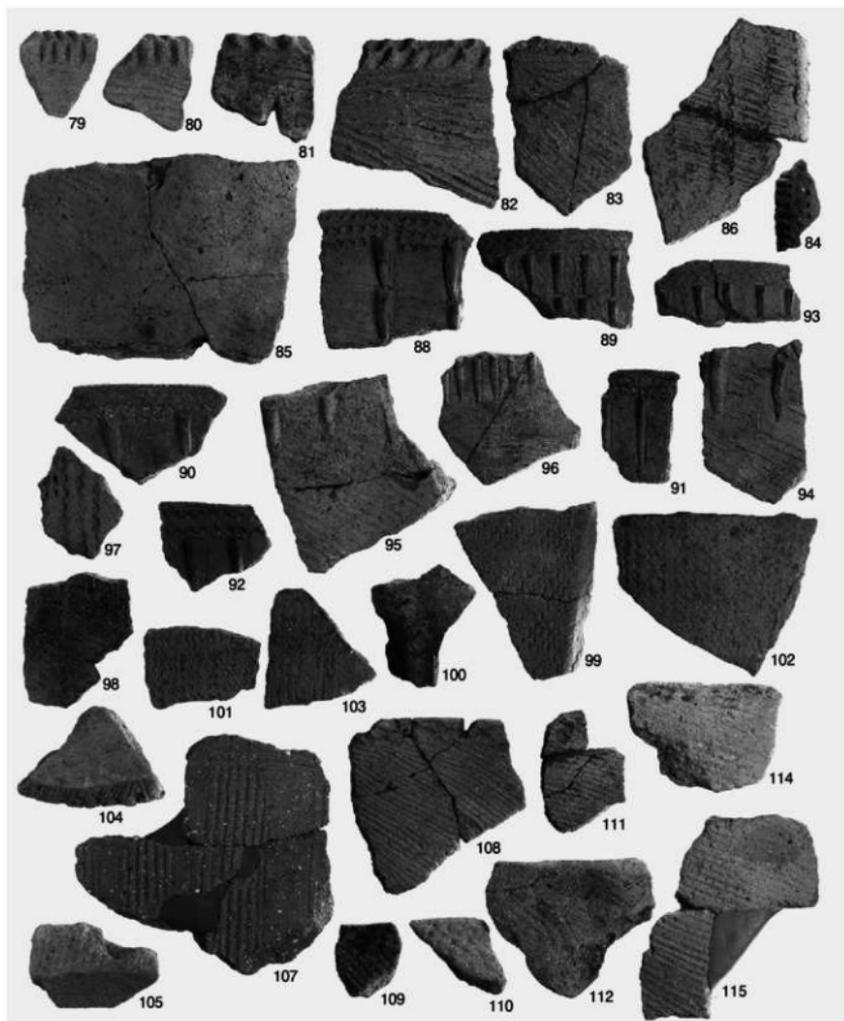
遺物No514・515出土状況



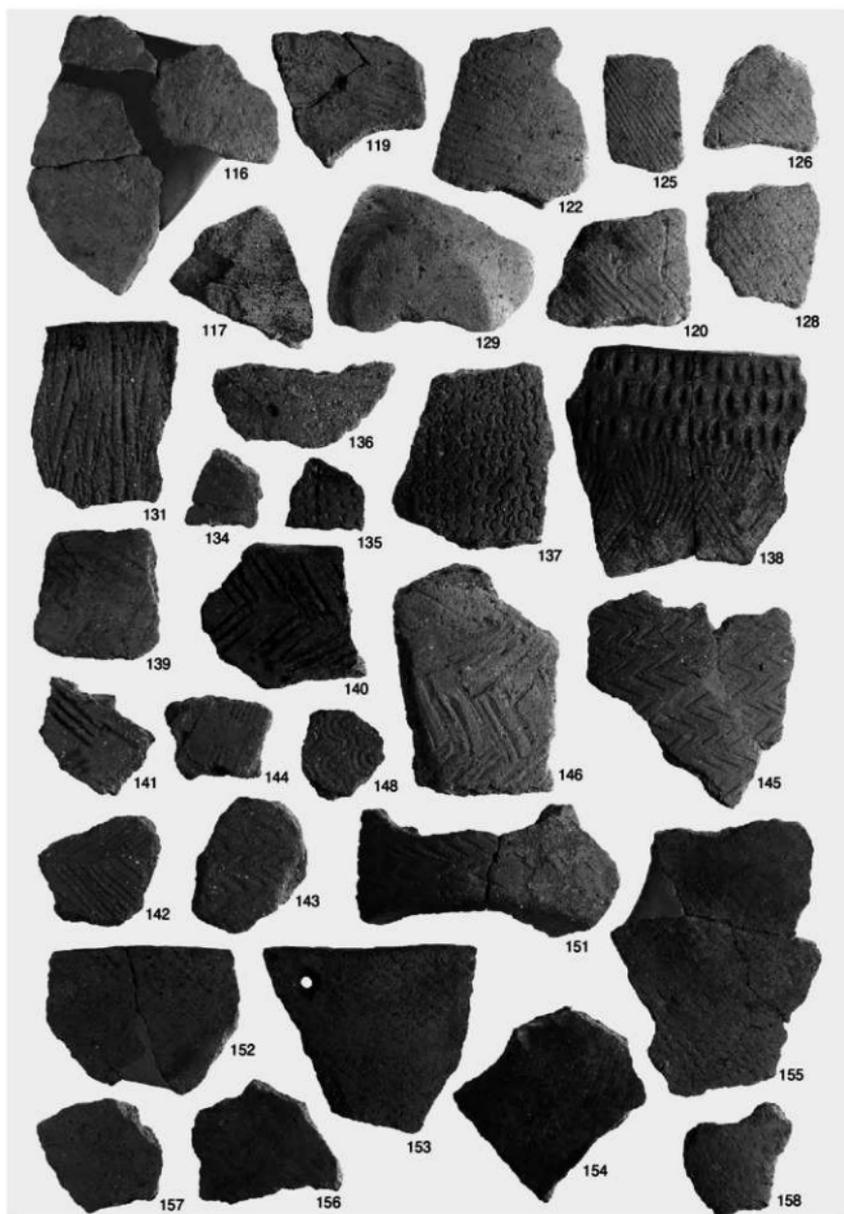
写真図版15 縄文時代早期遺構内出土遺物①



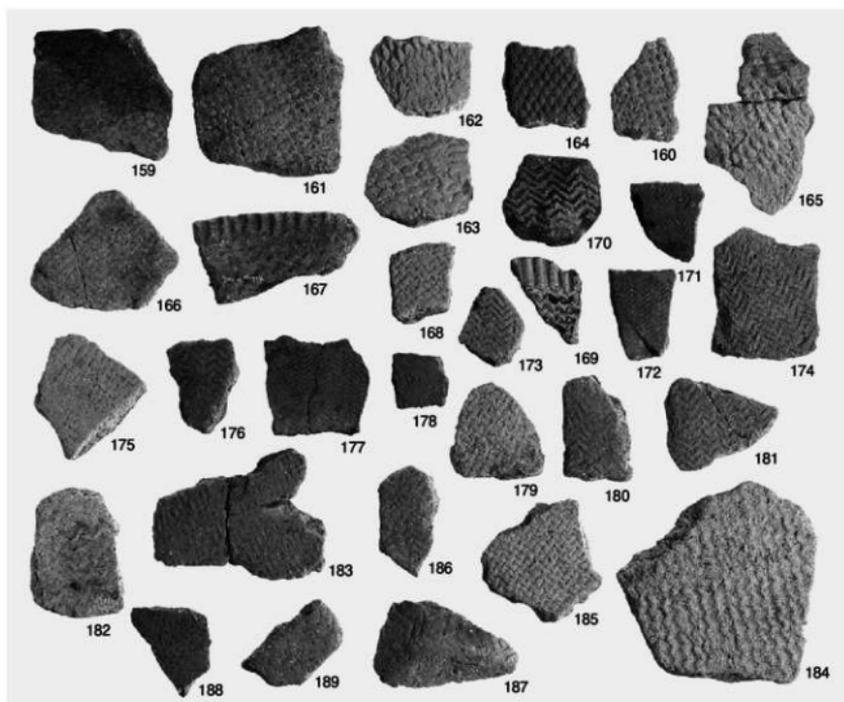
写真図版16 縄文時代早期遺構内出土遺物②



写真図版17 縄文時代早期遺物包含層出土土器①



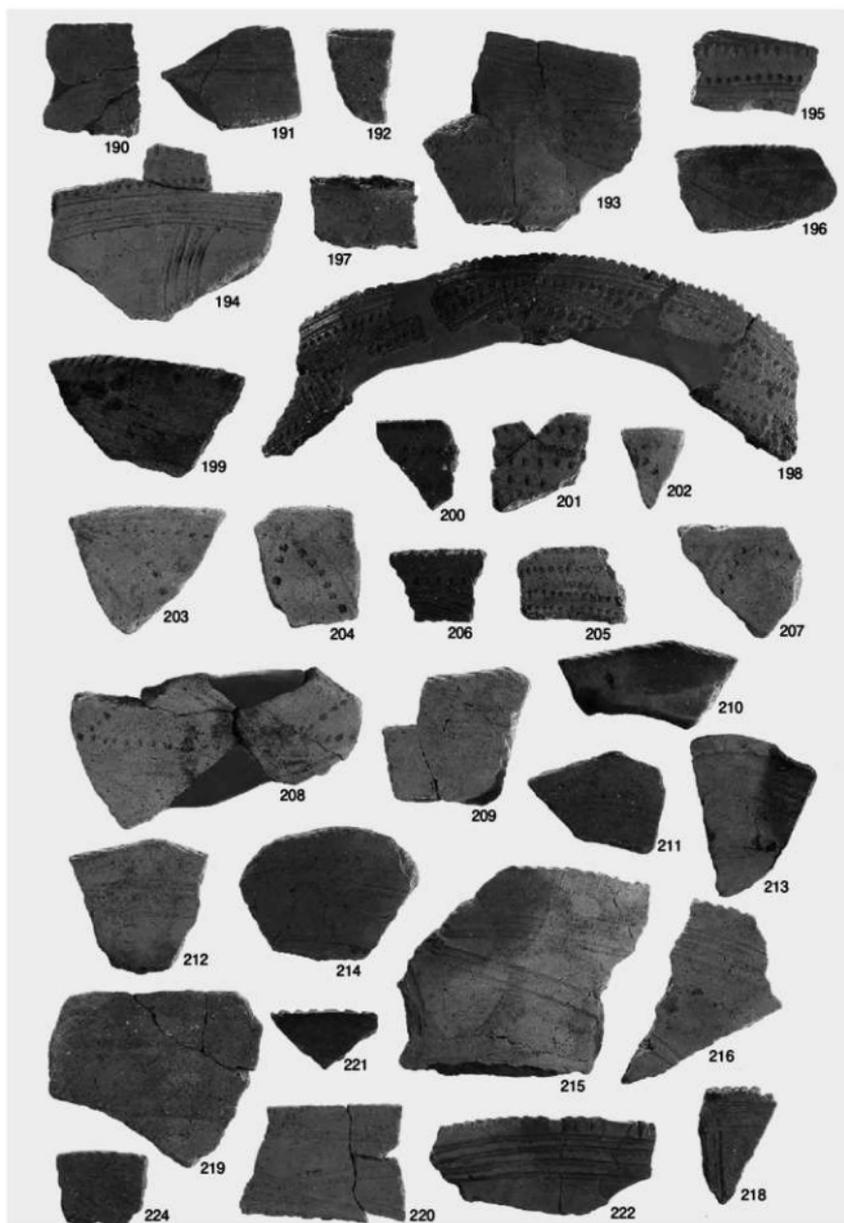
写真図版18 縄文時代早期遺物包含層出土土器②



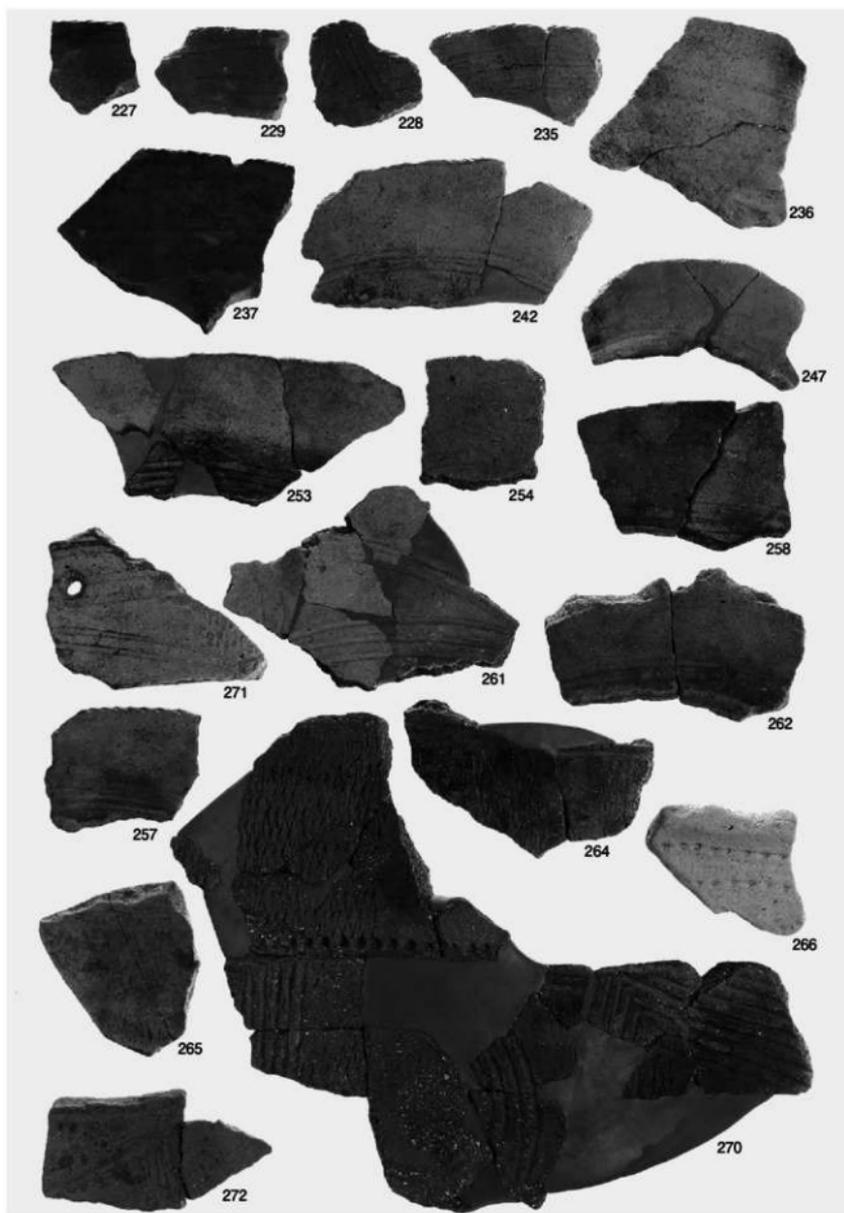
写真図版19 縄文時代早期遺物包含層出土土器③



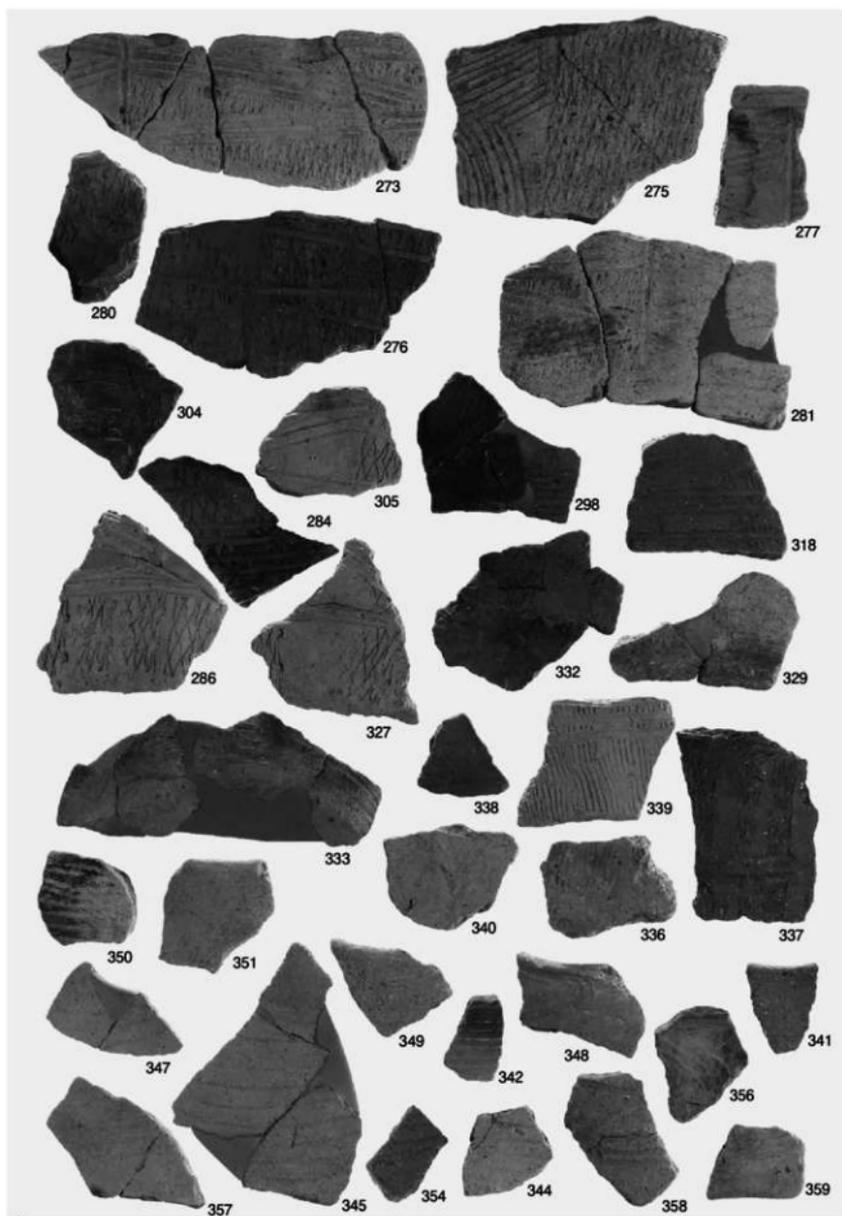
写真図版20 土器埋設遺構出土土器・耳栓・石製品



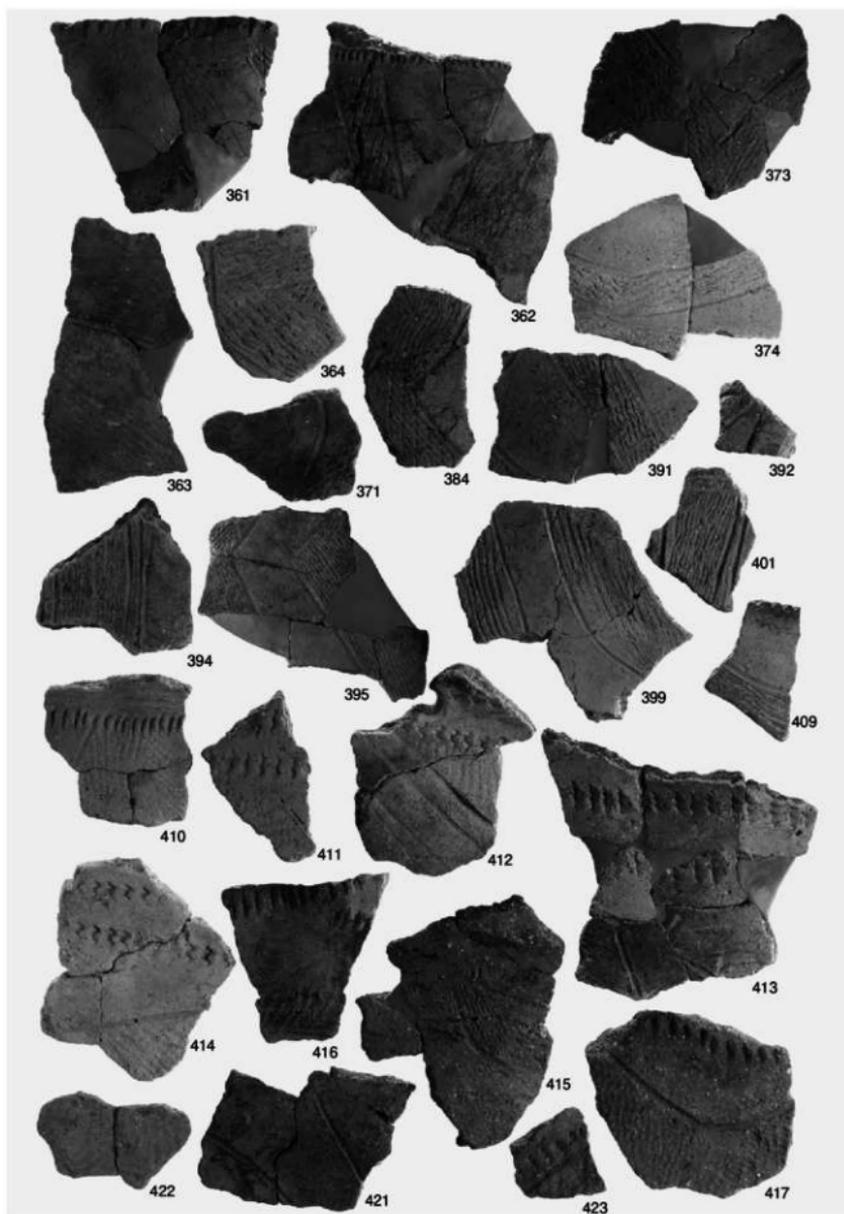
写真図版21 縄文時代早期遺物包含層出土土器④



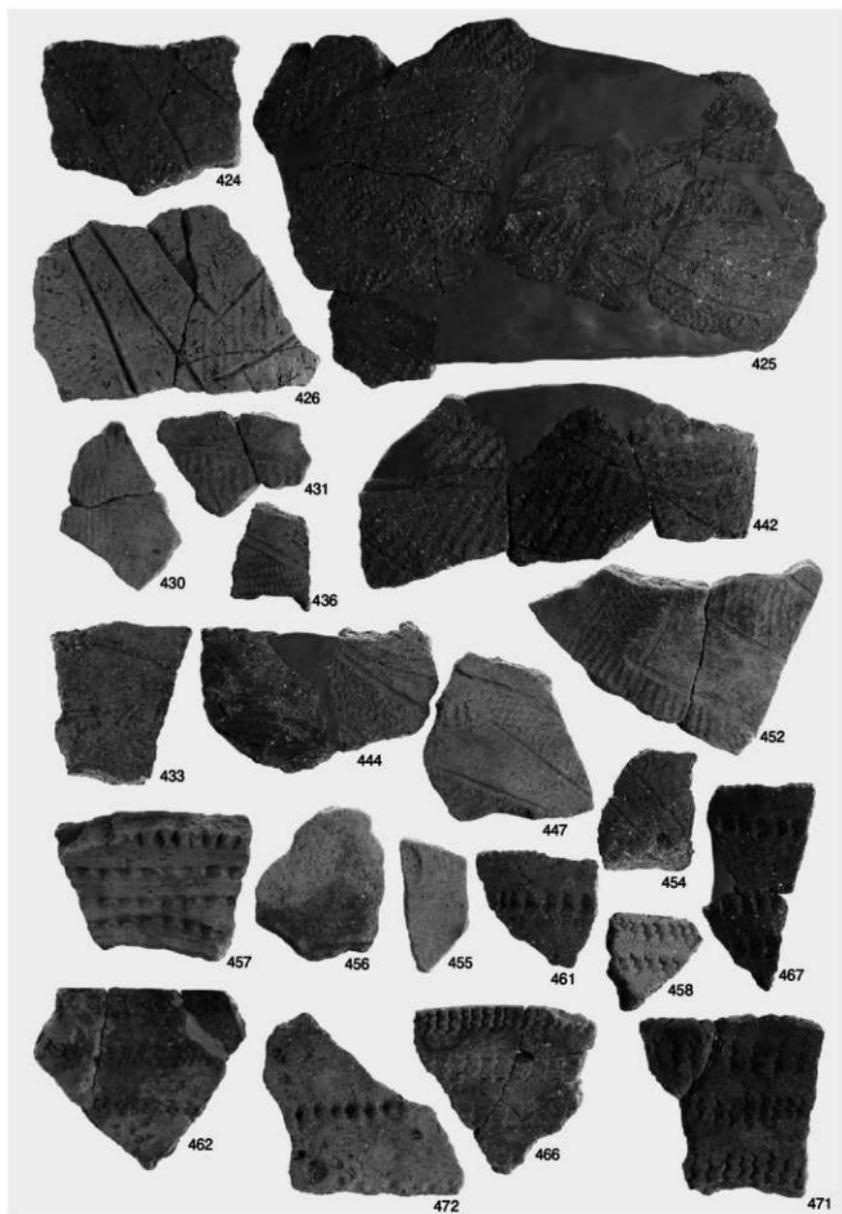
写真図版22 縄文時代早期遺物包含層出土土器⑤



写真図版23 縄文時代早期遺物包含層出土土器⑥



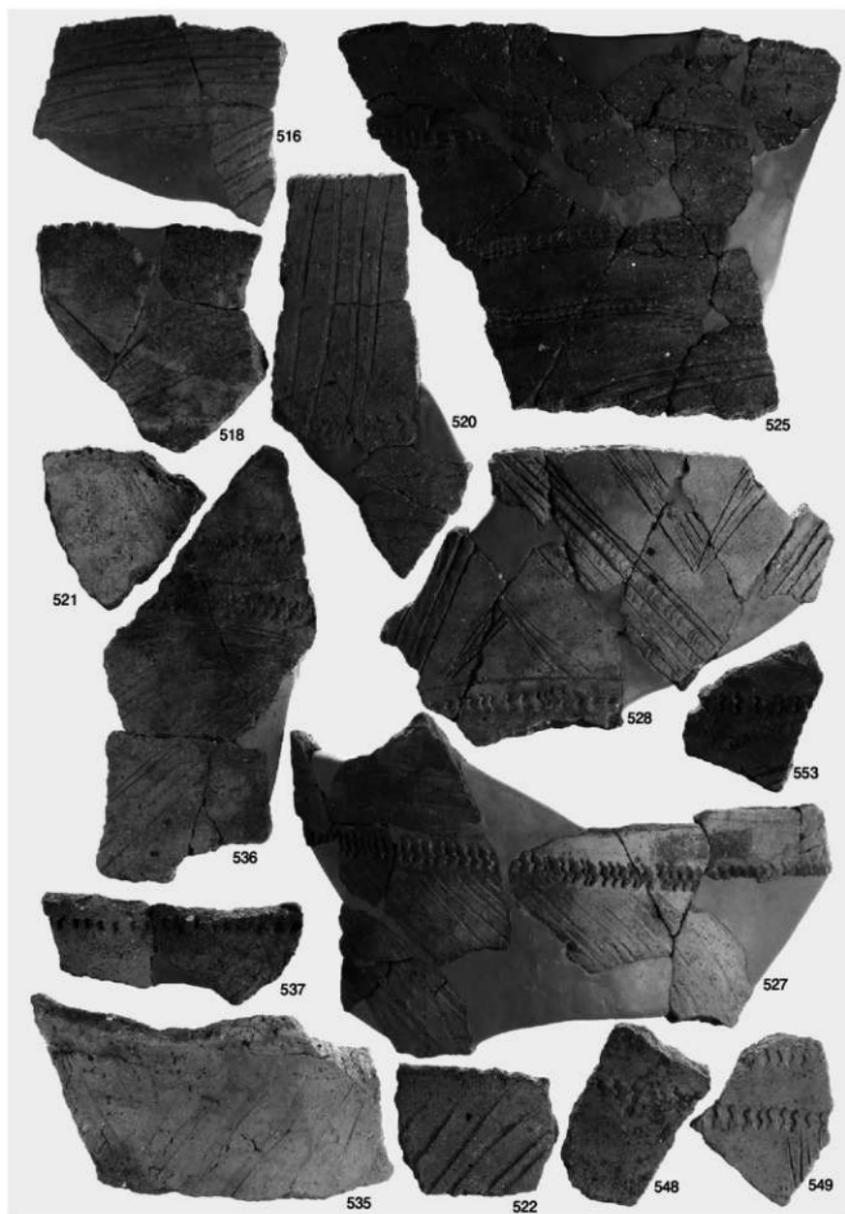
写真図版24 縄文時代早期遺物包含層出土土器⑦



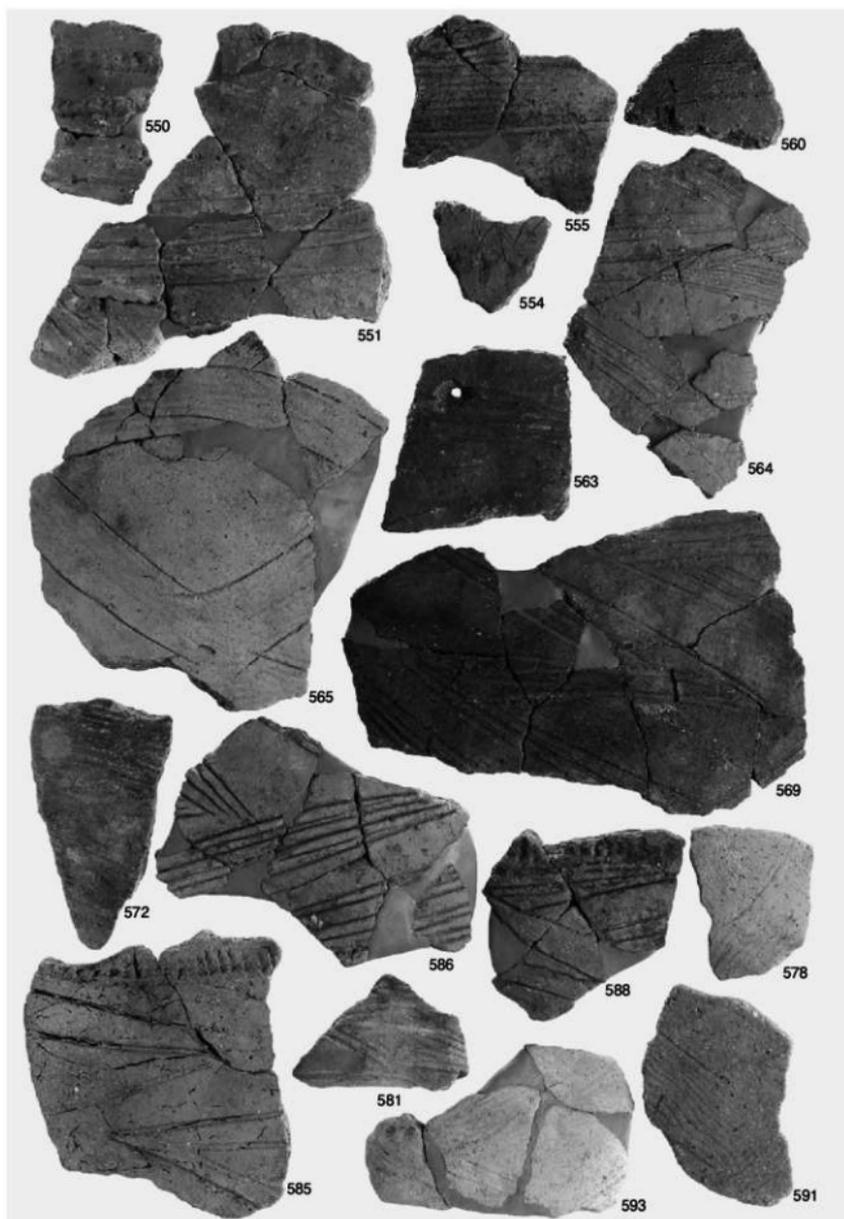
写真図版25 縄文時代早期遺物包含層出土土器⑧



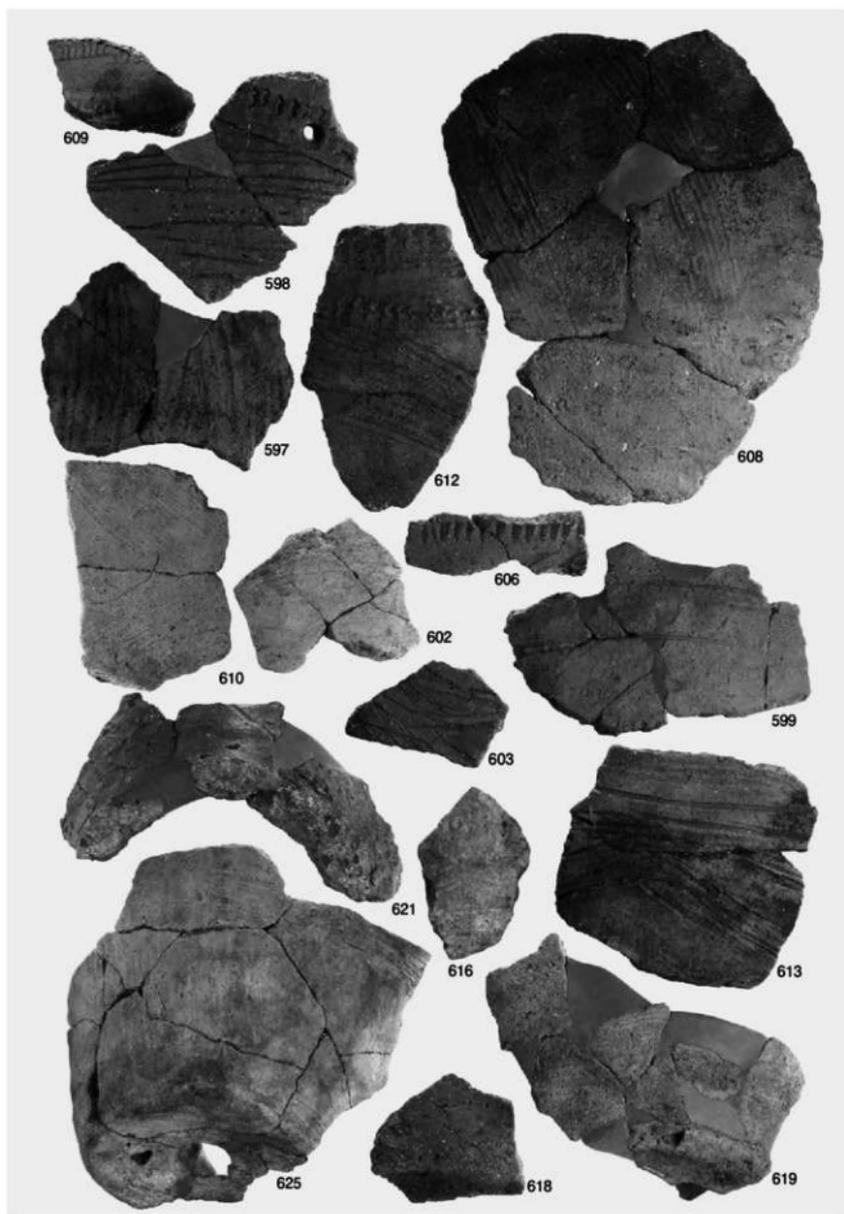
写真図版26 縄文時代早期遺物包含層出土土器⑨



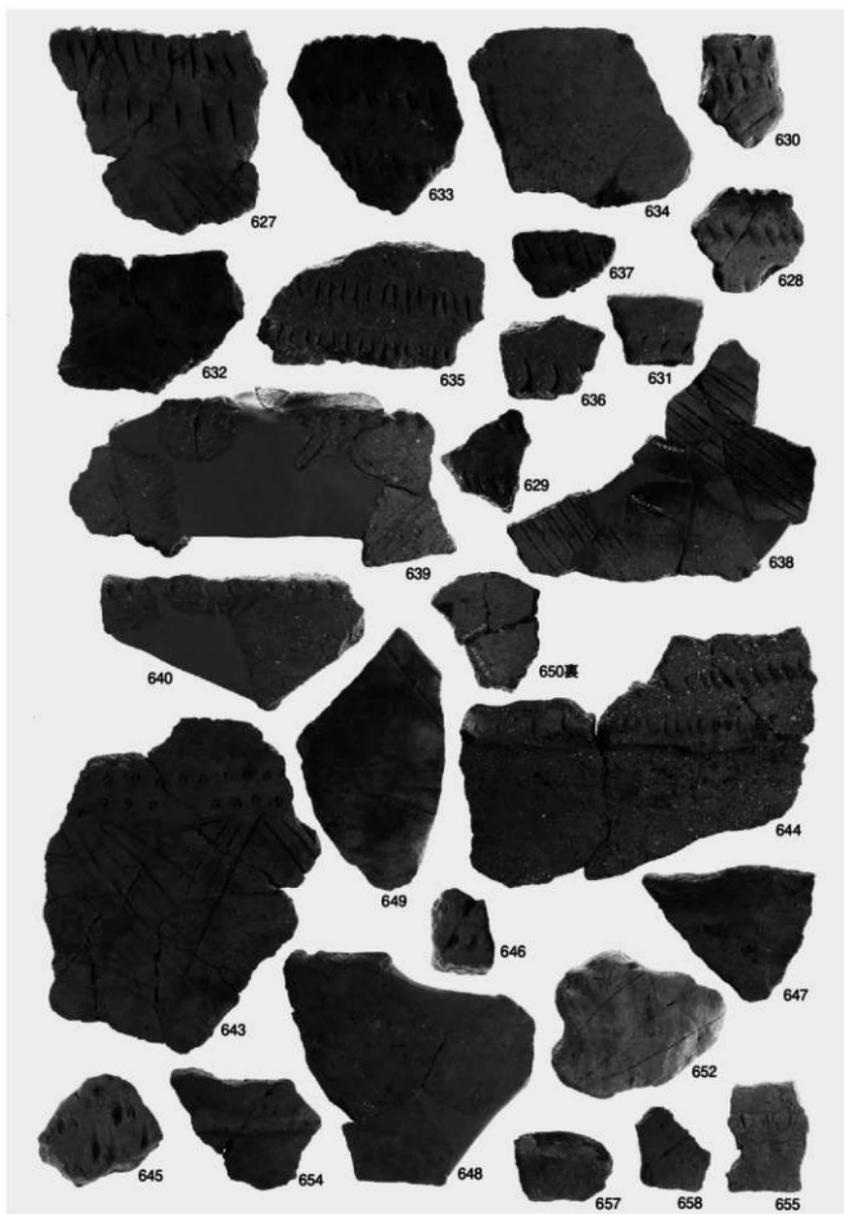
写真図版27 縄文時代早期遺物包含層出土土器⑩



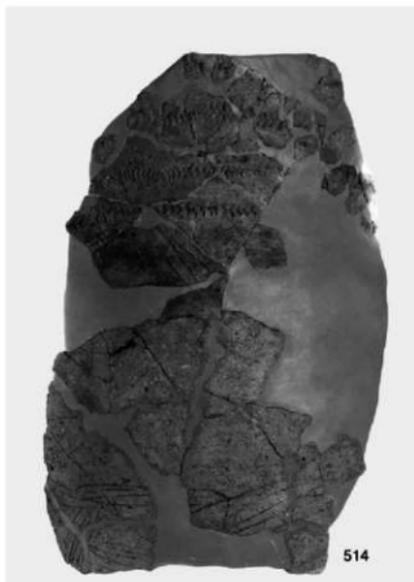
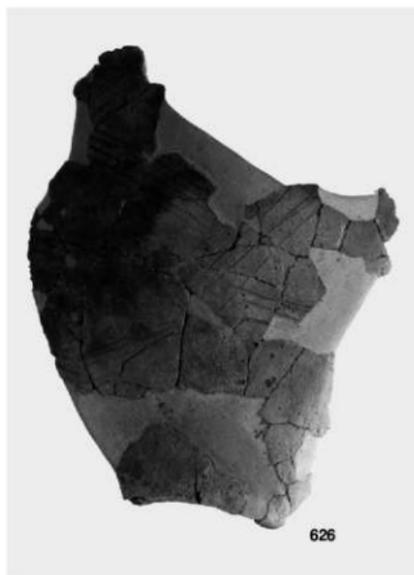
写真図版28 縄文時代早期遺物包含層出土土器①



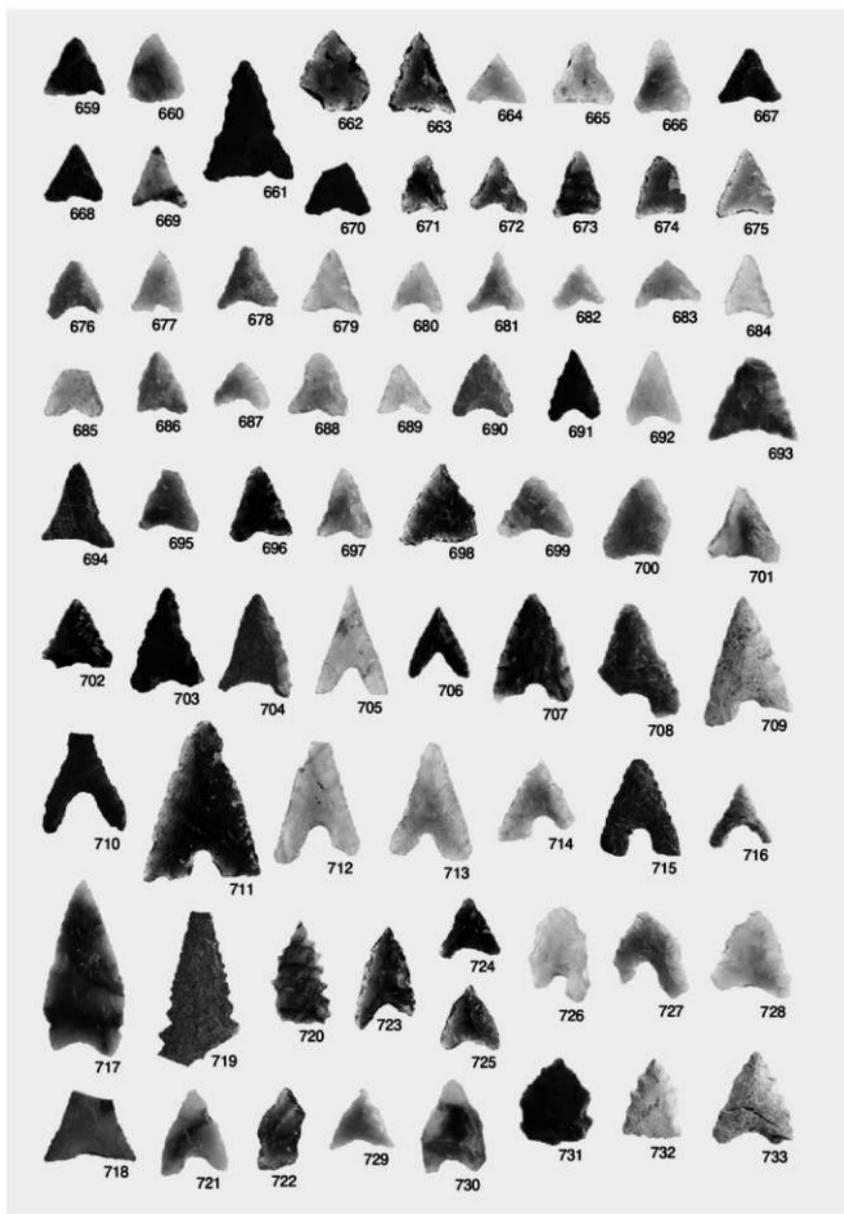
写真図版29 縄文時代早期遺物包含層出土土器⑫



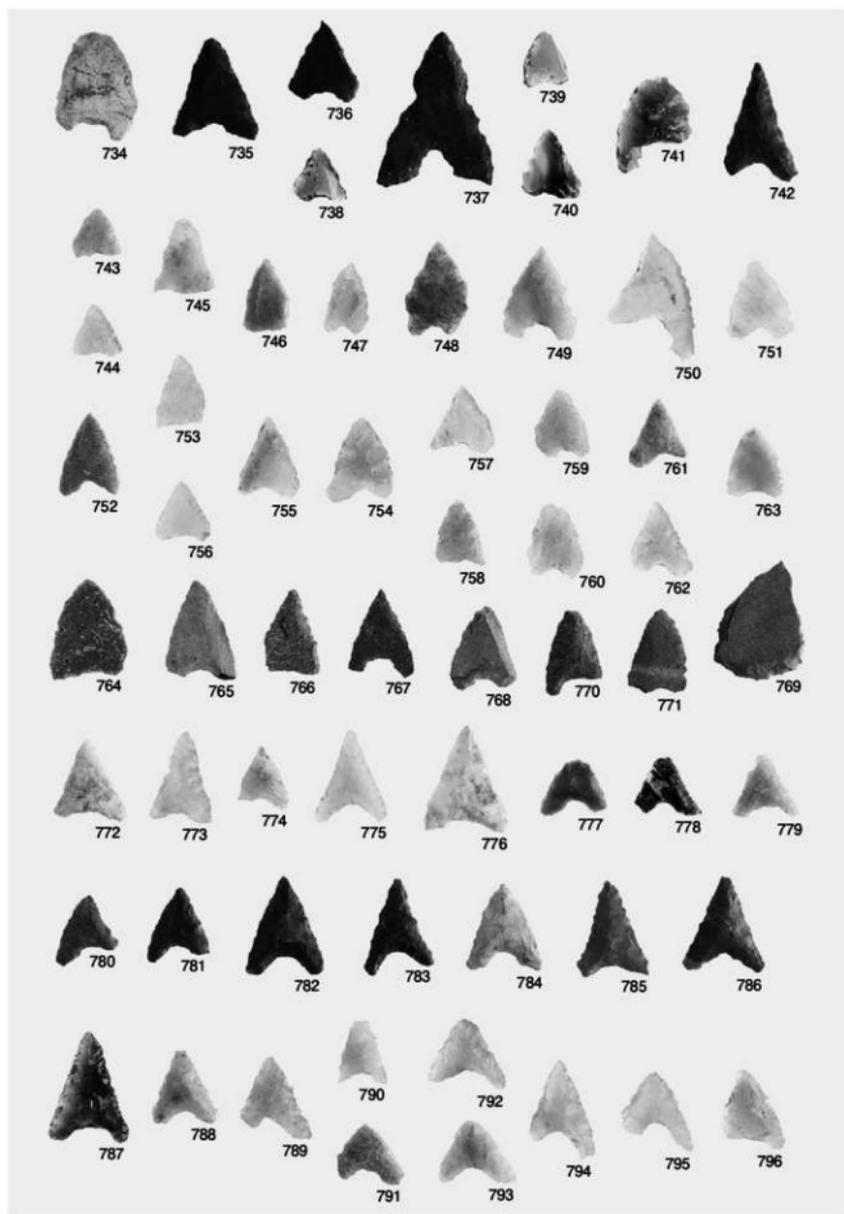
写真図版30 縄文時代早期遺物包含層出土土器③



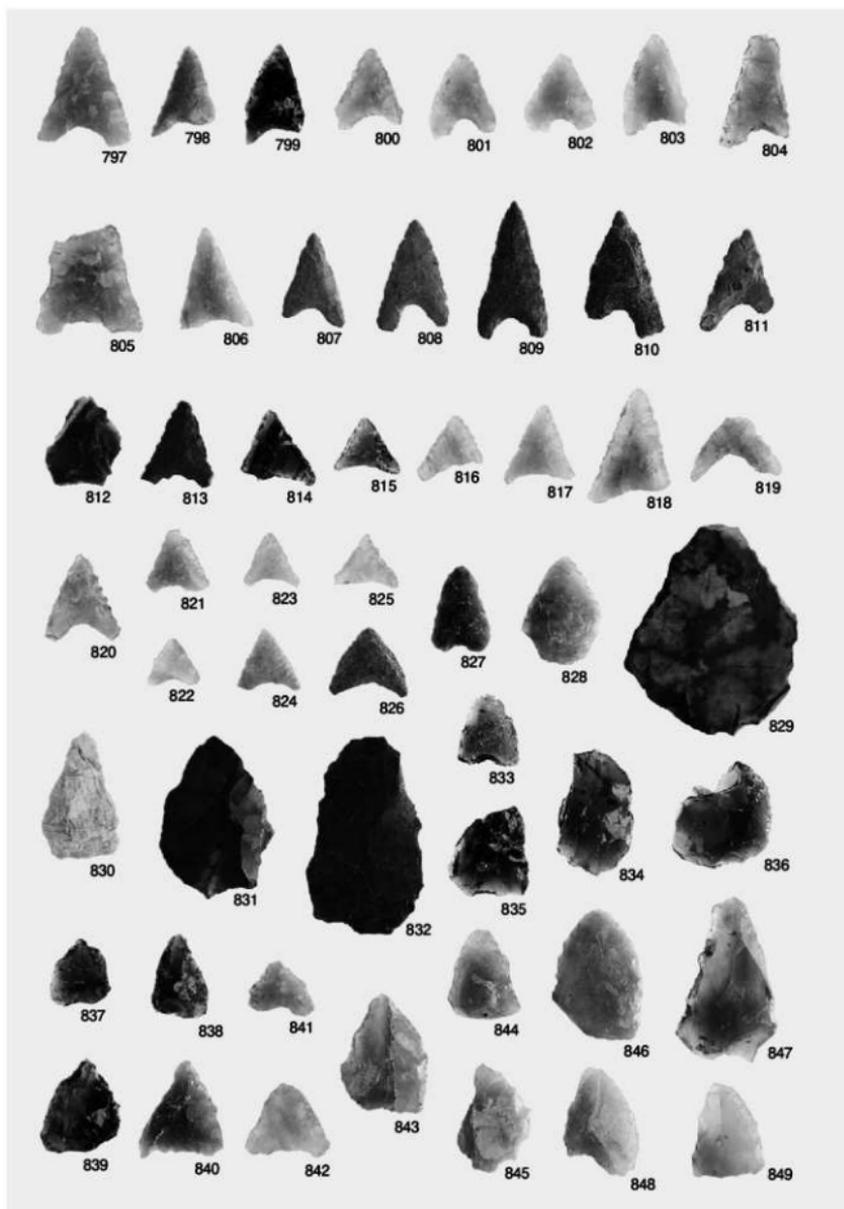
写真図版31 縄文時代早期遺物包含層出土土器⑭



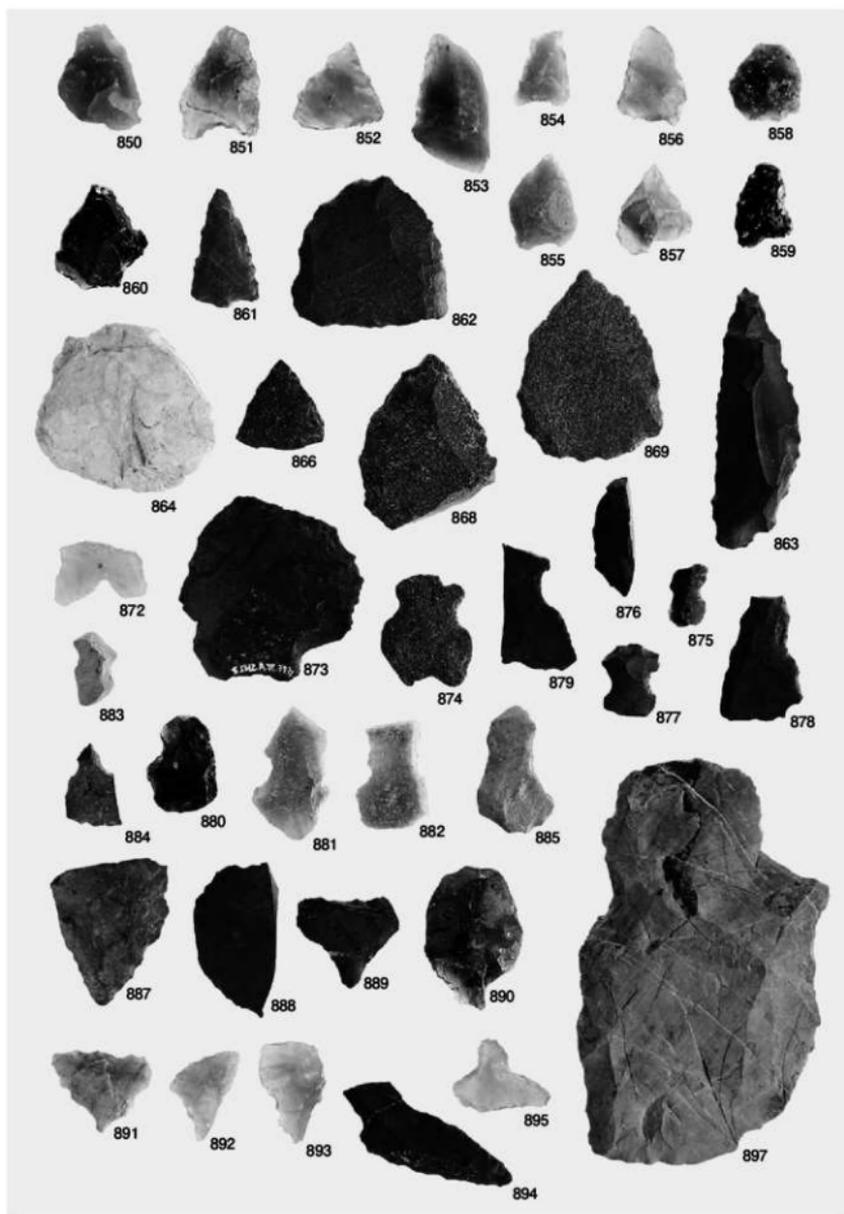
写真図版32 縄文時代早期遺物包含層出土石器①



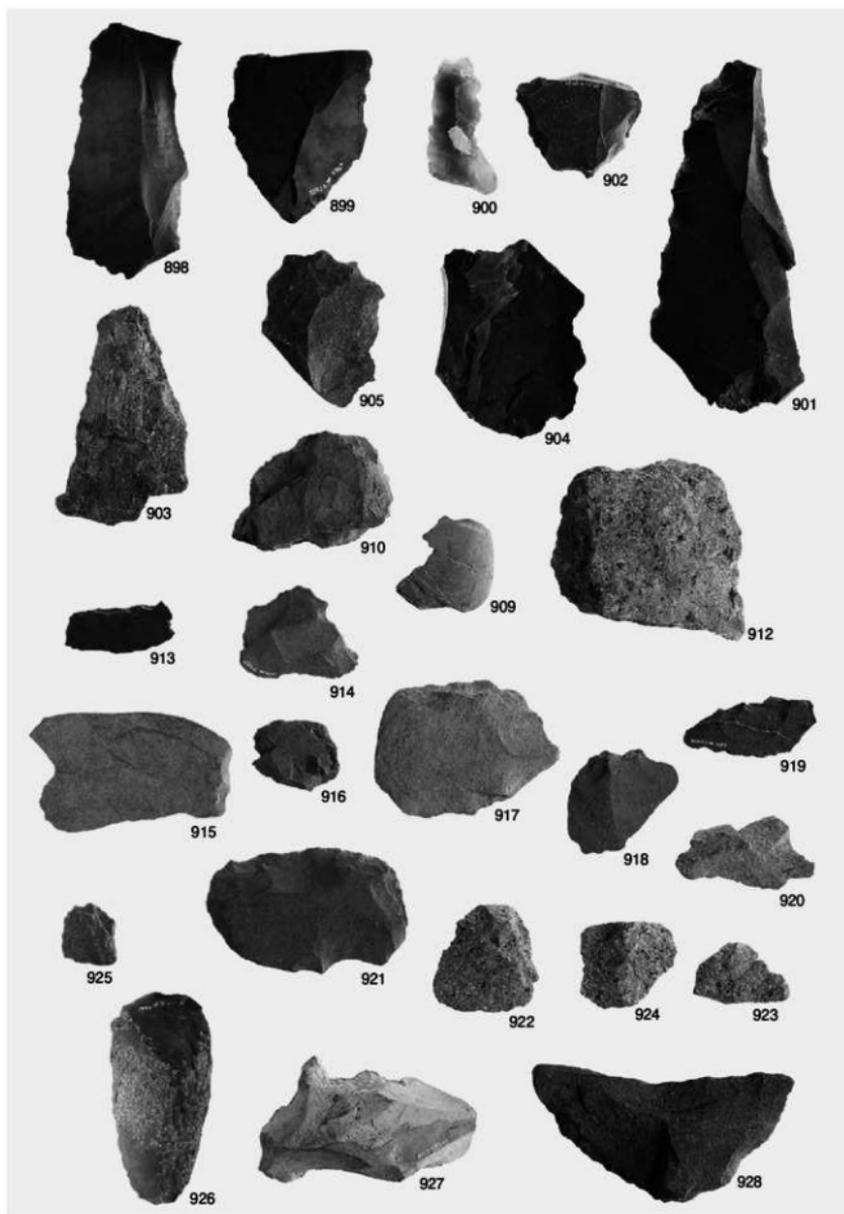
写真図版33 縄文時代早期遺物包含層出土石器②



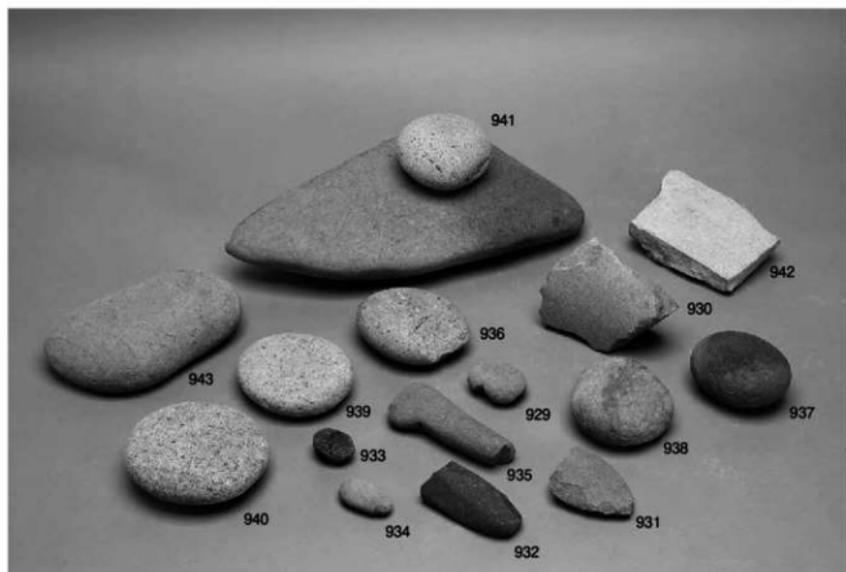
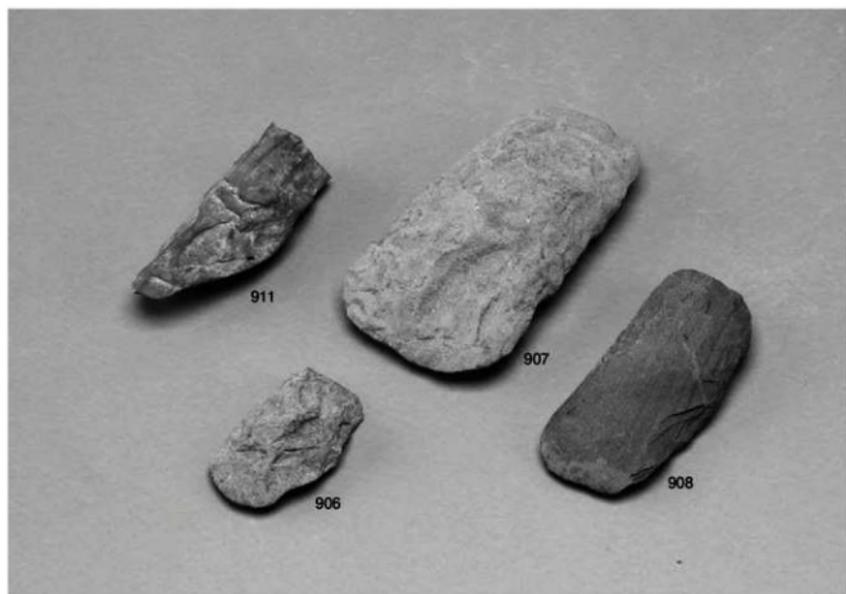
写真図版34 縄文時代早期遺物包含層出土石器③



写真図版35 縄文時代早期遺物包含層出土石器④



写真図版36 縄文時代早期遺物包含層出土石器⑤



写真図版37 縄文時代早期遺物包含層出土石器⑥

## 第4章 アカホヤ火山灰層上面の調査

### 第1節 弥生時代の遺構と遺物について

#### 1. 竪穴住居跡

調査区の南側の端で1基(SA-2)だけ検出されている。近世～近代の溝や擾乱によって大きく削平を受けており、北側の立ち上がり部分は完全に消失していた。SA-2は残存状況から推測すると4.6m×2.8+αmの不整形な方形プランを呈しており、検出面から床面までの深さは0.32mを測る。床面には直径0.5m～0.2mの大小6基の柱穴が検出されている。そのうち床面中央部に見られる2基の柱穴は深さが0.72m～0.6mもあり、本住居跡の主柱穴であると考えられる。

出土遺物は埋土中より多量の縄文早期の土器片や剥片類とともに固化に耐えなかったが、弥生中期後半頃の壺の破片が出土しており、これが時期決定の根拠となっている。そのほかこげ石製の石包丁、磨製石器片(2～4)が出土している。2は軽石製の石包丁である。表面は磨られたように平坦である。3は頁岩製の石包丁である。両端に挟りが見られる小型品で刃部の残存状況が悪いことから再加工作品である可能性が高い。4は磨製石器の破片である。薄手でもとの器種は不明だが、表面の擦痕は明瞭である。

#### 2. 掘立柱建物跡

SB-1はSA-2の約4m北東側に位置する1間×2間の建物跡である。規模は2.9m×2.75mであるが、南側は2.3m程に窄まる。柱穴は直径0.45m～0.25mで深さは0.45m～0.35mを測る。SE-5に切られ、北側の柱穴は擾乱を受けている。柱穴の埋土中より弥生土器の小片が出土している。

### 第2節 古代以降の遺構について

古代の遺構としてSE-7が検出されている。SE-7は調査区の北側で検出された北東方向から南西方向に伸びる溝状遺構である。埋土中に高原スコリアが混入していることから古代の遺構と認定された。検出された状態で規模は長さ16m、幅0.6m～0.4m、深さは0.25m～0.17mを測る。埋土中に遺物の混入は確認されなかった。

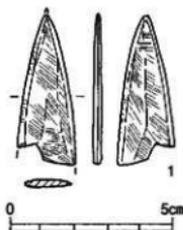
中世の遺構としてはSE-5が検出されている。SE-5は調査区南側で検出され、SB-1を切っているが、南側は近世～近代の溝や擾乱によって削平を受けている。埋土中に文明軽石のブロックが混入していることから中世の遺構と認定された。検出された状態での長さは8.4m、幅は1.18m～0.76m、深さは0.47m～0.17mを測る。SE-5が伸びる方向をみると調査区中央部にて検出される可能性が考えられたが、結局検出されなかったので本遺構は調査区中央部付近に至る前に終了しているか、削平を受けている可能性が考えられる。埋土中には多くの縄文早期の遺物、少量の弥生土器片が混入していたが、遺構に本来伴うと考えられる遺物は確認されなかった。

近世～近代の遺構として溝状遺構2条と道路状遺構2条が検出されている。溝状遺構は調査区の南側に見られ、北東～南西方向に伸びるものと北西～南東方向に伸びるものがある。埋土中には縄文早期の遺物が多く混入していたが、近世～近代の陶磁器片等が混入しており、時期決定の根拠となっている。道路状遺構は調査区北側と東側で検出された。溝状遺構と埋土状況は似ているが、硬化面が存在する点、床面に凹凸がある点などの特徴から道路状遺構と認定した。

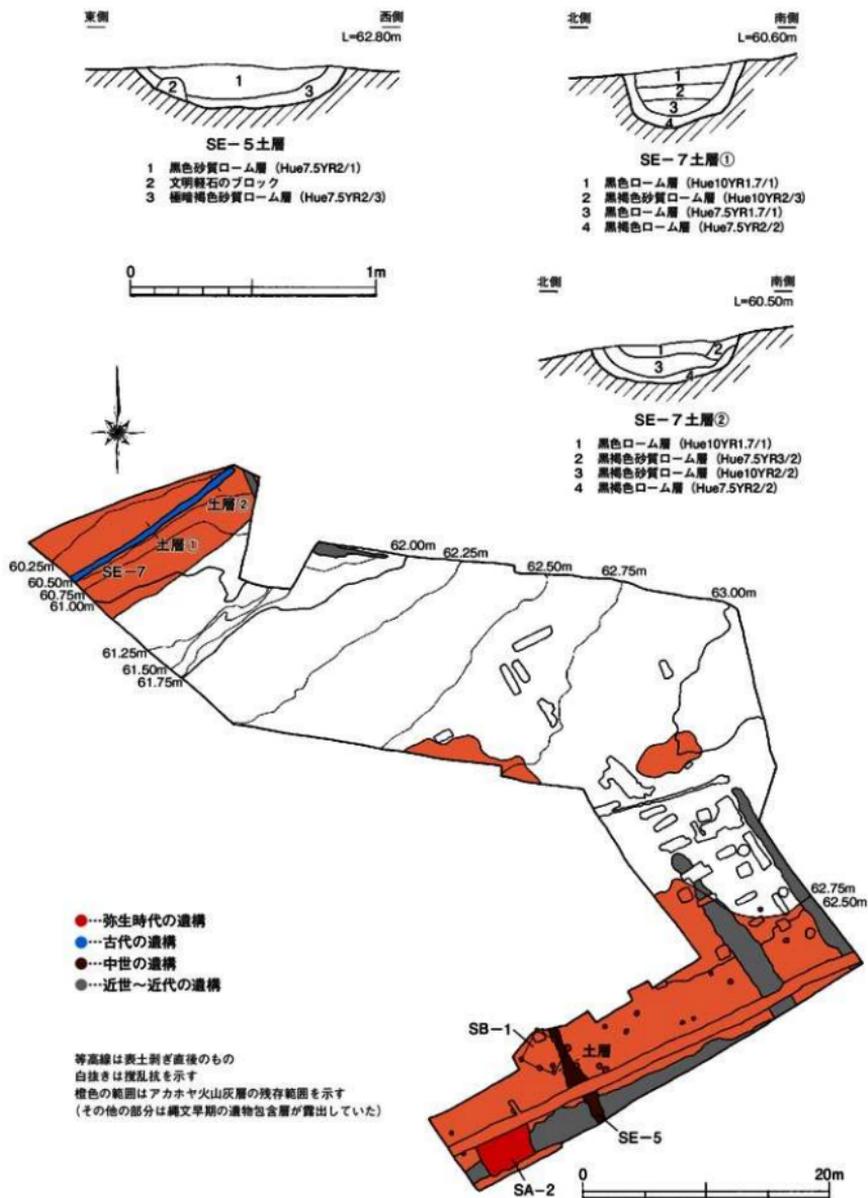
### 第3節 3層出土遺物について

調査区の南側においてアカホヤ火山灰の二次堆積に当たる基本層序3層中にて遺構検出を行っているときに磨製石鏃片、弥生土器片、土師器片などがわずかに出土している。

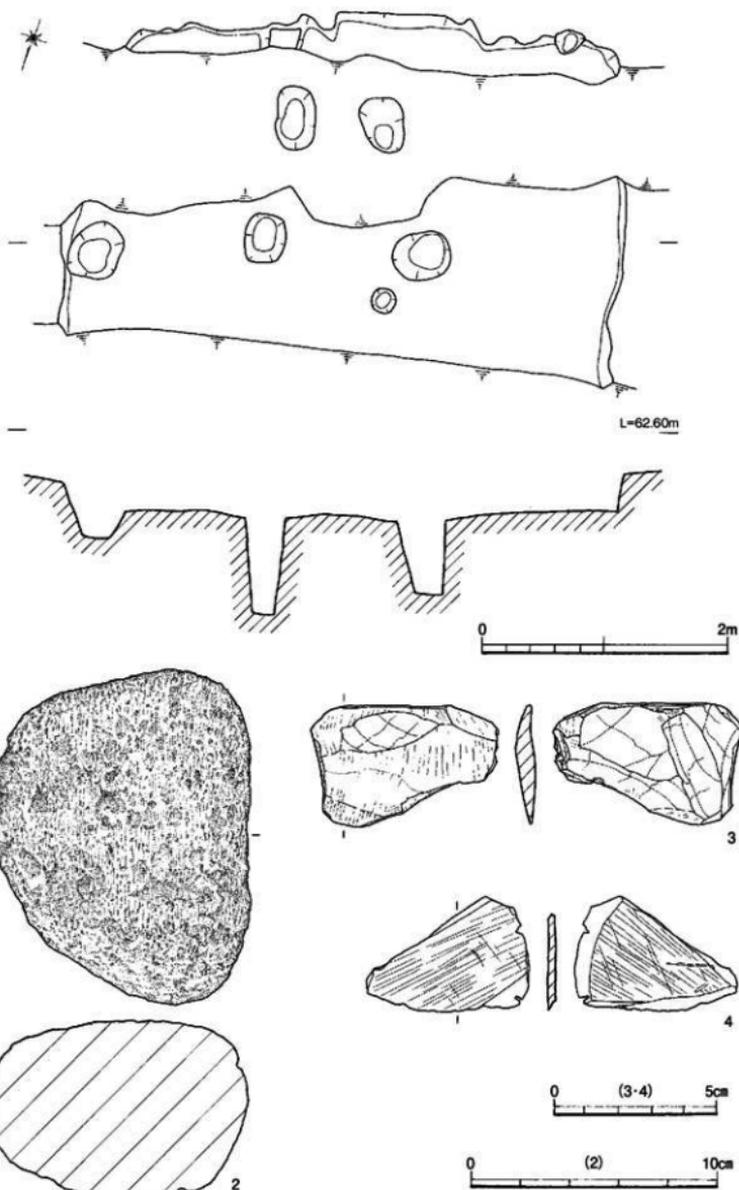
1は磨製石鏃の先端部片である。黄褐色の頁岩を使用しており、表面に無数の擦痕が確認される。鏃は明瞭には確認されない。



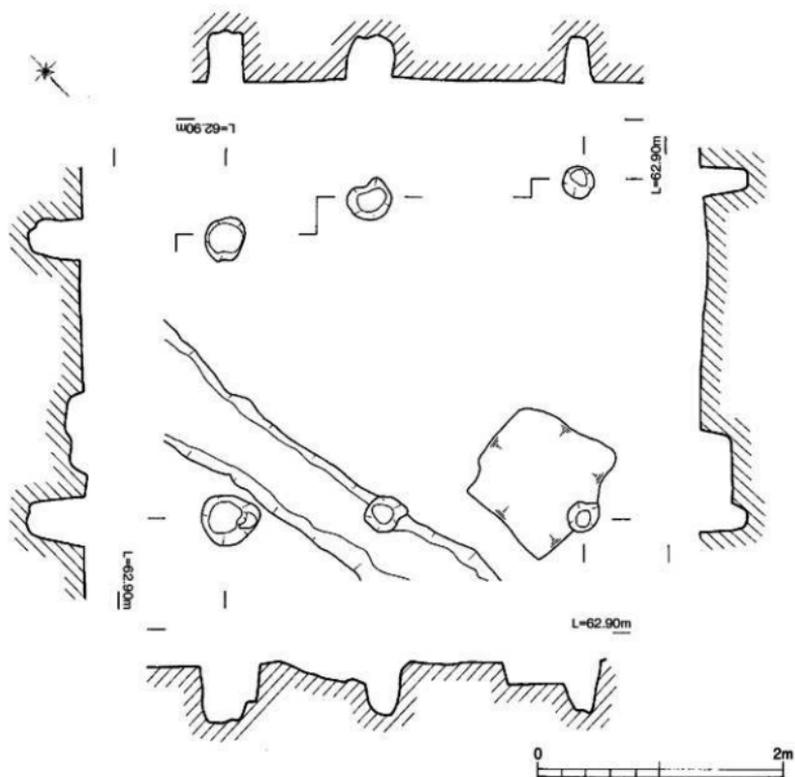
第86図 3層出土石器実測図(S=2/3)



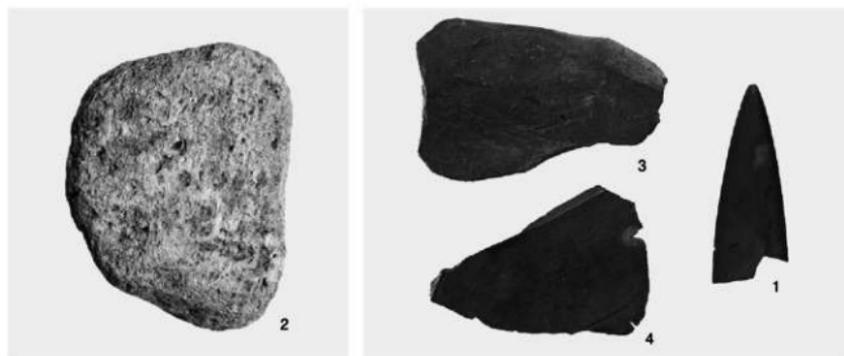
第87図 アカホヤ火山灰層上面遺構配置図 (S=1/400) 及び溝状遺構土層断面図 (S=1/20)



第88図 SA-2 (S=1/40) 及びSA-2出土遺物実測図 (S=1/2・2/3)



第89図 SB-1実測図 (S=1/40)



写真図版38 SA-2出土遺物及び3層出土遺物



SB-1



SA-2



SE-7

写真図版39 アカホヤ火山灰層上面検出遺構

## 第5章 下猪ノ原遺跡第二地区における自然科学分析

### 1. 下猪ノ原遺跡第二地区における放射性炭素年代測定 (株式会社 古環境研究所)

#### 1. 試料と方法

試料名	地点	遺構	種類	前処理・調整	測定法
No. 1	SIH2	SC-4	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄, 石墨調整	AMS
No. 2	SIH2	SC-26・27	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄, 石墨調整	AMS
No. 3	SIH2	SC-29	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄, 石墨調整	AMS
No. 4	SIH2	SC-33	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄, 石墨調整	AMS
No. 5	SIH2	1号土器埋設遺構出土土器付着	炭化物	酸洗浄, 石墨調整	AMS
No. 6	SIH2	SI-10	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄, 石墨調整	AMS
No. 7	SIH2	SI-11	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄, 石墨調整	AMS
No. 8	SIH2	SI-12	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄, 石墨調整	AMS
No. 9	SIH2	SI-13・14	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄, 石墨調整	AMS
No.10	SIH2	SI-15	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄, 石墨調整	AMS
No.11	SIH2	SI-16	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄, 石墨調整	AMS
No.12	SIH2	SI-19	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄, 石墨調整	AMS
No.13	SIH2	SI-20	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄, 石墨調整	AMS
No.14	SIH2	SI-21	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄, 石墨調整	AMS
No.15	SIH2	SI-23	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄, 石墨調整	AMS
No.16	SIH2	SI-26	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄, 石墨調整	AMS
No.17	SIH2	SI-29	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄, 石墨調整	AMS
No.18	SIH2	SI-32	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄, 石墨調整	AMS
No.19	SIH2	SC-9	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄, 石墨調整	AMS

AMS: 加速器質量分析法 (Accelerator Mass Spectrometry)

#### 2. 測定結果

試料名	測定No. (Beta-)	<sup>14</sup> C年代 (年BP)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	補正 <sup>14</sup> C年代 (年BP)	暦年代 (西暦) (1 $\sigma$ : 68% 確率, 2 $\sigma$ : 95% 確率)
No. 1	202913	9200 ± 40	-27.1	9170 ± 40	交点: cal BC 8310 1 $\sigma$ : cal BC 8430-8360, 8340-8290 2 $\sigma$ : cal BC 8470-8280
No. 2	202914	9220 ± 40	-25.4	9210 ± 40	交点: cal BC 8430, 8360, 8340 1 $\sigma$ : cal BC 8470-8310 2 $\sigma$ : cal BC 8550-8290
No. 3	202915	9200 ± 40	-26.5	9180 ± 40	交点: cal BC 8310 1 $\sigma$ : cal BC 8440-8290 2 $\sigma$ : cal BC 8480-8290
No. 4	202916	9170 ± 40	-27.1	9140 ± 40	交点: cal BC 8290 1 $\sigma$ : cal BC 8310-8280 2 $\sigma$ : cal BC 8440-8270

試料名	測定No. (Beta-)	<sup>14</sup> C年代 (年BP)	δ <sup>13</sup> C (‰)	補正 <sup>14</sup> C年代 (年BP)	暦年代 (西暦)	
					(1σ : 68% 確率, 2σ : 95% 確率)	
No. 5	202917	7760 ± 40	-26.2	7740 ± 40	交点 : cal BC 6560	
					1σ : cal BC 6610-6490	
					2σ : cal BC 6650-6470	
No. 6	243825	7790 ± 50	-26.1	7770 ± 50	交点 : cal BC 6600	
					1σ : cal BC 6640-6570	
					2σ : cal BC 6680-6480	
No. 7	243826	8940 ± 50	-22.3	8980 ± 50	交点 : cal BC 8240	
					1σ : cal BC 8270-8220	
					2σ : cal BC 8280-8170, 8120-7980	
No. 8	243827	8590 ± 50	-25.8	8580 ± 50	交点 : cal BC 7590	
					1σ : cal BC 7600-7580	
					2σ : cal BC 7640-7540	
No. 9	243828	8470 ± 50	-26.4	8450 ± 50	交点 : cal BC 7530	
					1σ : cal BC 7570-7500	
					2σ : cal BC 7580-7460	
No.10	243829	8780 ± 50	-27.1	8750 ± 50	交点 : cal BC 7750	
					1σ : cal BC 7930-7890, 7840-7680	
					2σ : cal BC 7960-7600	
No.11	243830	7700 ± 50	-24.2	7710 ± 50	交点 : cal BC 6560, 6550, 6520	
					1σ : cal BC 6600-6470	
					2σ : cal BC 6640-6450	
No.12	243831	9290 ± 50	-26.9	9260 ± 50	交点 : cal BC 8540, 8510, 8480	
					1σ : cal BC 8560-8440, 8370-8360	
					2σ : cal BC 8630-8310	
No.13	243832	7530 ± 50	-25.4	7520 ± 50	交点 : cal BC 6410	
					1σ : cal BC 6440-6380	
					2σ : cal BC 6460-6330, 6320-6250	
No.14	243833	8620 ± 50	-25.7	8610 ± 50	交点 : cal BC 7600	
					1σ : cal BC 7610-7580	
					2σ : cal BC 7720-7570	
No.15	243834	7410 ± 50	-26.2	7390 ± 50	交点 : cal BC 6240	
					1σ : cal BC 6350-6300, 6270-6220	
					2σ : cal BC 6390-6200, 6140-6110	
No.16	243835	8520 ± 50	-25.9	8510 ± 50	交点 : cal BC 7570	
					1σ : cal BC 7580-7530	
					2σ : cal BC 7600-7510	
No.17	243836	8420 ± 50	-25.8	8410 ± 50	交点 : cal BC 7510	
					1σ : cal BC 7530-7470	
					2σ : cal BC 7570-7360	
No.18	243837	7960 ± 50	-26.6	7930 ± 50	交点 : cal BC 6780	
					1σ : cal BC 7020-6930, 6920-6880, 6840-6690	
					2σ : cal BC 7040-6650	

試料名	測定No. (Beta-)	<sup>14</sup> C年代 (年BP)	δ <sup>13</sup> C (‰)	補正 <sup>14</sup> C年代 (年BP)	暦年代 (西暦)		
					(1σ: 68% 確率, 2σ: 95% 確率)		
No.19	243838	7410 ± 50	-23.9	7430 ± 50	交点: cal BC 6340, 6310, 6260		
					1σ: cal BC 6380-6240		
					2σ: cal BC 6420-6220		

BP: Before Physics (Present), Cal: Calibrated, BC: 紀元前, AD: 紀元後

#### (1) <sup>14</sup>C年代測定値

試料の<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C比から、単純に現在 (AD1950年) から何年前かを計算した値。<sup>14</sup>Cの半減期は、国際的慣例により Libbyの5,568年を用いた。

#### (2) δ<sup>13</sup>C測定値

試料の測定<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C比を補正するための炭素安定同位体比 (<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C)。この値は標準物質 (PDB) の同位体比からの千分偏差 (‰) で表す。

#### (3) 補正<sup>14</sup>C年代値

δ<sup>13</sup>C測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>Cの測定値に補正値を加えた上で算出した年代。試料のδ<sup>13</sup>C値を-25 (‰) に標準化することによって得られる年代である。

#### (4) 暦年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中<sup>14</sup>C濃度の変動を較正することにより算出した年代 (西暦)。calは calibrationした年代値であることを示す。較正には、年代既知の樹木年輪の<sup>14</sup>Cの詳細な測定値、およびサンゴの U-Th年代と<sup>14</sup>C年代の比較により作成された較正曲線を使用した。INTCAL98では、約19,000年BPまでの換算が可能となっている。ただし、10,000年BP以前のデータはまだ不完全であり、今後も改善される可能性がある。

暦年代の交点とは、補正<sup>14</sup>C年代値と較正曲線との交点の暦年代値を意味する。1σ (68% 確率) と2σ (95% 確率) は、補正<sup>14</sup>C年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した暦年代の幅を示す。したがって、複数の交点が表記される場合や、複数の1σ・2σ値が表記される場合もある。

## 文献

Stuiver et al. (1998). INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration, Radiocarbon, 40, p.1041-1083.

中村俊夫 (1999) 放射性炭素法。考古学のための年代測定学入門。古今書院。p.1-36.

## II. 下猪ノ原遺跡第二地区における樹種同定 (株式会社 古環境研究所)

### 1. はじめに

木材は、セルロースを骨格とする本部細胞の集合体であり、解剖学的形質の特徴から樹種の同定が可能である。木材は花粉などの微化石と比較して移動性が少ないことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

### 2. 試料

試料は、下猪ノ原遺跡第二地区の縄文時代早期の集石遺構などから採取された炭化材13点である。

### 3. 方法

試料を割折して炭化材の新鮮な横断面 (木口と同義)、放射断面 (柘目)、接線断面 (板目) の基本三断面の切片を作製し、落射顕微鏡によって50~1000倍で観察した。同定は、解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

#### 4. 結果

番号	遺構番号	同定結果 (学名/和名)
1	SI-10	ring-porous wood / 環孔材
2	SI-11	Torreya nucifera Sieb. et Zucc. / カヤ
3	SI-12	ring-porous wood / 環孔材
4	SI-13・14	unknown / 不明
5	SI-15	Castanea crenata Sieb. et Zucc. -Quercus sect. Prinus / クリーコナラ属コナラ節
6	SI-16	broad-leaved tree / 広葉樹
7	SI-21	broad-leaved tree / 広葉樹
8	SI-23	Castanea crenata Sieb. et Zucc. -Quercus sect. Prinus / クリーコナラ属コナラ節
9	SI-26	Castanea crenata Sieb. et Zucc. -Quercus sect. Prinus / クリーコナラ属コナラ節
10	SI-29	Quercus sect. Prinus / コナラ属コナラ節
11	SI-32	Prunus / サクラ属
12	SC-9	Ulmus / ニレ属

#### 5. 所見

分析の結果、クリーコナラ属コナラ節4点、カヤ1点、コナラ属コナラ節1点、ニレ属1点、サクラ属1点、環孔材2点、広葉樹2点、不明1点が同定された。

コナラ属コナラ節は、温帯を中心に広く分布する落葉広葉樹で、日当たりの良い山野に生息し、ナラガシワや二次林要素でもあるコナラなどが含まれる。クリーコナラ属コナラ節と同定された試料もコナラ属コナラ節の可能性が考えられる。カヤは温帯下部暖温帯の谷沿いなどやや湿潤なところに分布する常緑針葉樹であり、ニレ属、サクラ属は温帯域に生息する。

#### 文献

島地謙・佐伯浩・原田浩・塩倉高義・石田茂雄・重松新生・須藤彰司 (1985) 木材の構造。文永堂出版。290p.

島地謙・伊東隆夫 (1988) 日本の遺跡出土木製品総覧。雄山閣。296p.

山田昌久 (1993) 日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成—用材から見た人間・植物関係史。植生史研究特別1号。植生史研究会。242p.

#### Ⅲ. 下渚ノ原遺跡第二地区出土黒曜石製遺物の原産地推定

(明治大学文化財研究施設運営委員 杉原重夫 明治大学文化財研究施設 金成太郎 明治大学文学部RA 入江晶・荻巻賢介 明治大学学術フロンティア推進事業RA 佐藤裕亮・金木利憲)

##### 1. はじめに

考古学研究では、遺物が遺跡へと至るまでの来歴を辿ることによって、個々の時代における人々の行動様式や流通関係に迫ることが可能となる。特に狩猟・採集によって生計を立てていたと考えられている石器時代においては、石器に使用する石材の原産地推定が、空間的な人の動きに迫るための有効な分析方法となる。なかでも、火山の噴出物として生成された黒曜石は、結晶構造をもたず、珪晶の含有量が少ないことから元素組成が安定しており、このような黒曜石の岩石学的特質に着目して、今日まで様々な理化学的分析方法を用いた原産地推定が行われている。特に蛍光X線分析装置を用いた分析は、装置の操作や測定の前処理が容易である点や、特に資料を非破壊で測定できるなどといったメリットにより、考古資料の扱いに適している。また、比較的短い時間で測定できるという点で、分析対象が出土遺物全般におよぶ石器研究においては非常に有効な測定手段といえる。以上のような経緯で、今回も蛍光X線分析装置を用いた原産地推定を行った。

##### 2. 測定方法

蛍光X線法を用いて黒曜石の正確な元素分析値を得るには、内部が均質で表面形態が一様な試料を作成し、検量線法などによって定量的に分析を行うのが一般的である。そのためには、試料を粉砕してプレスしたブリケットを作成

するか、もしくは溶融してガラスビードを作成する必要がある。しかしながら、遺跡から出土した遺物は、通常、非破壊での測定が要求されるため、上記の方法をとることは困難である。そのため、遺物に直接X線を照射する定性（半定量）分析が行われている。このような直接照射によって発生する蛍光X線の強度そのものは、試料の状態や装置の経年変化によって変動する可能性が高いが、特定元素の強度同士の比を採った場合はその影響は小さいと考えられている。今回は測定強度比をパラメータとして原産地推定を行った。

### 3. 試料の前処理

比較用の産出地採取原石については、必要に応じて新鮮な破断面または研磨面を作製し、超音波洗浄器によるクリーニングを行った。遺跡出土石器は、多くの場合新鮮で平滑な剥離面があるため、試料表面をメラミンスポンジとアルコールで洗浄してから測定を行った。特に汚れがひどい遺物のみ超音波洗浄器を用いた。

### 4. 装置・測定条件

蛍光X線の測定にはエネルギー分散型蛍光X線分析装置JSX-3100s（日本電子株式会社）を用いた。X線管球は、ターゲットがRh（ロジウム）のエンドウインドウ型を使用した。管電圧は30kV、電流は抵抗が一定となるよう自動設定とした。X線検出器はSi（ケイ素）/Li（リチウム）半導体検出器を使用した。試料室内の状態は真空雰囲気下とし、X線照射面径は15mmとした。測定時間は、240secである。測定元素は、主成分元素はケイ素（Si）、チタン（Ti）、アルミニウム（Al）、鉄（Fe）、マンガン（Mn）、マグネシウム（Mg）、カルシウム（Ca）、ナトリウム（Na）、カリウム（K）の計9元素、微量元素はルビジウム（Rb）、ストロンチウム（Sr）、イットリウム（Y）、ジルコニウム（Zr）の計4元素の合計13元素とした。また、X線データ解析ソフトには、明治大学文化財研究施設製：JsxExtを使用した。

### 5. 原産地推定の方法

黒曜石はケイ酸、アルミナ等を主成分とするガラス質火山岩であるが、その構成成分は産出地による差異が認められる。とりわけ微量元素のRb、Sr、Y、Zrでは産出地ごとの組成差がより顕著となっている。望月は、この産地間の組成差から黒曜石の産地推定が可能であると考え、上記の4元素にK、Fe、Mnの3元素を加えた計7元素の強度比を組み合わせることで産地分析を行っている（望月ほか 1994、望月 1997）。これら7元素による原産地分析の有効性は、ガラスビードを用いた定量分析によっても裏付けられている（嶋野ほか 2004）。ここでも、上記の判別方法に準拠することとし、原産地推定のパラメータにRb分率  $[Rb強度 \times 100 / (A = Rb強度 + Sr強度 + Y強度 + Zr強度)]$ 、Sr分率  $(Sr強度 \times 100 / A)$ 、Mn強度  $\times 100 / Fe強度$ 、 $\log (Fe強度 / K強度)$  を用いて判別図を作製し、判別分析はZr分率  $(Zr強度 \times 100 / A)$  を加えて行った。

### 6. 黒曜石原産地の判別

#### 6-1. 判別図

判別図は、視覚的に分類基準が見えらるる点、および判定基準が分かりやすいというメリットがある。また、測定結果の提示に際し、読者に理解しやすいという点も有効であろう。まず、各産出地採取試料（基準試料）の測定データを基に2種類の散布図  $[Rb分率 vs Mn \times 100 / Fe]$  と  $Sr分率 vs \log (Fe / K)$  を作製し、各原産地を推定するための判別域を決定した。次に遺物の測定結果を重ね合わせて大まかな判別を行った。基準試料の測定強度比の平均値を表25に示す。

#### 6-2. 判別分析

判別図や測定値の比較による原産地の推定は、測定者ごとの恣意的な判断を完全に排除することは難しい。そこで、多変量解析の一つである判別分析を行った。判別分析では、判別図作製に用いたパラメータを基にマハラノビス距離を割り出し、各原産地に帰属する確率を求めた。距離と確率は反比例の関係にあり、資料と各原産地の重点間の距離が最も短い原産地が第一の候補となる。なお、分析用ソフトには明治大学文化財研究施設製：MDR1.02を使用した。また、判別結果の参考資料として、各原産地（重点）間のマハラノビス距離を提示した（表26）。

### 7. 黒曜石原産地の名称と地理的な位置づけ

今回の黒曜石の原産地推定にあたっては、日本の黒曜石産出地データベース（杉原・小林 2004・2006）を使用し、この中から、既存の文献・資料を参考にして現地調査を行い、石器石材に利用可能と思われる黒曜石の産出地を選択した。ただし、ここでは黒曜石の原産地候補を隠岐・九州地方に限定して考察しており、北海道・東北・関東・中部、北陸地方の各産出地については、検討していない。

黒曜石原産地 (obsidian source) の判別にあたっては、各産出地を火山体、島嶼、河川流域、岩石区等の地形・地質的条件によって枠組みを行い、これを「地区:area」と名づけ、現在、黒曜石を産出する地点(露頭・散布地など)を「産出地区域(単に産出地とする):district」とした。今回の原産地推定に使用した「系:series」は、「地区」内の「産出地」のうち、蛍光X線分析の結果に地形・地質情報を参考にして判別された地理的に隣接する「産出地」群で、岩石化学的原産地を指す。それぞれの「系」内の黒曜石産出地については、火道や貫入岩の位置、噴出物の産状や分布状態、黒曜石の岩石学的特徴(含有する斑晶鉱物、球顆の有無、色調、透明度など)についても検討を行い、この原産地設定が山地質学的に有意義であることを確認している。ただし、同一の「系」内の産出地でも、複数の判別域が存在する場合や、異なる「系」どうして判別が困難な例も存在する。また、黒曜石産出地には、噴出源に近い1次産出地のほか、河川や海流によって遠方に運ばれた2次産出地があり、ここで判別域は、必ずしも考古学的原産地(石器時代における採取地)を示すのではないことは言うまでもない。

隠岐・九州地方の黒曜石原産地を17地区に分類した。九州地方には、このほかにも、すでに知られている黒曜石の細礫やパライトの産出地があるが、石器石材としては不適で使用されている可能性が少ないので除外した。

第24表 隠岐・九州地方の黒曜石原産地の区分

地区 (area)	系 (series)	産出地 (district)
隠岐地区	隠岐系	久見、鳥越トンネル、代港、男池、愛宕山、箕浦
壱岐地区	壱岐系	印通寺浦、平人触
姫島地区	姫島系	観音崎、北浦
北松浦地区	星鹿半島系	牟田免、大崎免
腰岳地区	腰岳系	腰岳
佐世保地区	針尾島系	針尾中町(針尾送信所)、古里海岸
	牛ノ岳系	牛ノ岳
	淀姫系	淀姫神社
西彼杵地区	亀浦系	上岳郷野淵
	上土井行系	上土井行
大崎半島地区	大崎半島系	大崎半島
嬉野地区	嬉野系	椎葉川
西小国地区	西小国系	山甲川、貫見(高倉山)、上滴水川
阿蘇地区	阿蘇山系	象ヶ鼻、長谷峠、杖木原、東上野、滝室坂、高野尾羽根滑岩、的石原野、鞍岡、竹田市
球磨村地区	白浜系	宮の尾橋、白浜林道、那良川
大口地区	日東系	日東、狸々、小川内、荒平、五女木
	桑木津留系	桑木津留、上青木、間根ヶ平林道、大塚林道
串木野東地区	上牛鼻系	上牛鼻、平木場
三船地区	三船系	老人ホーム裏、三船海岸
垂水地区	小浜系	小浜
大根占地区	長谷系	長谷

注)「地区」内には、黒曜石の産出する地域が1つの「系」しか存在しない場合もある。また1つの「系」内に複数の種類の黒曜石が産出することがある。その場合、岩石学的・地域的に細分が出来る場合は「グループ:Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ…」とする。なお同一「系」内の地域において岩石学的に有意に元素比が異なる原石が混在して産出する場合は、「A、B、C…」の様に表示する。

※本分析は「宮崎県宮崎市清武町清武上猪ノ原遺跡出土黒曜石製造物の原産地推定」(明治大学文化財研究施設)の一部を抜粋したものであり、上記の分析については清武上猪ノ原遺跡第5地区の報告書に掲載する予定である。



## 第6章 まとめ

本調査区は1200㎡という小規模な調査区ながらも旧石器時代から近現代までの様々な遺構と多くの遺物が検出された。その主な調査成果についていくつか考察を行い、まとめとする。

### 旧石器時代の石器群について（第Ⅰ文化層と第Ⅱ文化層の年代）

前述のとおり、旧石器時代の遺物包含層から出土した遺物については石器群の様相の違いと礫群の出土位置から2つの文化層が存在したものと考えられる。ここではその両文化層の時間的な位置づれについて考察する。

第Ⅰ文化層の石器群の出土層位は主に基本層序11～12層であり、シラスの直上の層に当たる。主要石器の内訳は切り出し型のナイフ形石器1点、直線的な刃部と細長い基部を持つ台形礫石器3点、不定形な割片を素材とするスクレイパー1点、敲石7点である。

同地上で同様の石器群が検出されている遺跡として清武上猪ノ原遺跡第5地区においてシラスの直上の層から礫群と共に狸谷型ナイフ形石器や切り出し型のナイフ形石器と台形礫石器・スクレイパーが出土している。本調査区からは狸谷型ナイフ形石器は出土していないものの、第Ⅰ文化層の遺物の出土層位と台形礫石器が出土するという共通点から、同様の時期の石器群と理解することができる。またこれらの石器群は宮崎県10段階編年においては第5段階に位置するものと考えられている。

第Ⅱ文化層の石器群については出土層位が不明瞭であるが、確実な資料としては縦長割片を素材とする部分加工・基部加工のナイフ形石器が2点出土している。このナイフ形石器も清武上猪ノ原遺跡第5地区で霧島小林軽石層の下位から台形石器と共に出土している。これらのナイフ形石器については宮崎県10段階編年において第7段階に位置するものと考えられている。

### 遺構内から出土した遺物と放射性炭素年代測定の成果について

本調査区で検出された1号土器埋設遺構出土土器1点、炉穴4基、集石遺構13基、土坑1基について放射性炭素年代測定を行っている。その測定成果についてここでまとめる。なお、ここに挙げる年代の数値は全て補正年代を参照したものである。

4基の炉穴の年代は $9220 \pm 40$ BP ～  $9170 \pm 40$ BPに収まっており、本調査区の炉穴はどれも9200BP前後の時期に使用されたものと考えられることができる。炉穴の埋土中から出土した土器に目を向けるとSC-33からは貝殻の塞ノ神式土器と考えられる破片が1点出土している以外は、別府原式土器片と前平式土器片ばかりであり、遺物の面からも早期の前葉の時期にまともまっているということがわかる。

一方、集石遺構の年代は $9260 \pm 50$ BP ～  $7390 \pm 50$ BPと幅の広い数値となっている。分析した13基の内訳は9000BPをさかのぼるものが1基、9000BPから8500BPのものが5基、8500BPから8000BPのものが2基、8000BPを下るものが5基となっている。近年指摘されている9000BP ～ 8000BPの時期に集石遺構が多く作られた可能性があるという指摘と数字的には合致する傾向が見られる。

1号土器埋設遺構から出土した燃糸文の塞ノ神式土器に付着した炭化物からは $7740 \pm 40$ BPという数字が得られ、船引地区の坂元遺跡で年代測定を行った燃糸文の塞ノ神式土器2点の測定結果（ $7880 \pm 40$ BP・ $7640 \pm 40$ BP）と大きく外れない。このような船引地区遺跡群の測定結果から概ね燃糸文の塞ノ神式土器を7700BP前後と考え、本調査区の集石遺構内の出土土器に目を向けて考察してみる。

塞ノ神式土器しか出土していない集石遺構は11基あり、そのうち放射線炭素年代測定法で年代が得られている集石遺構は6基（SI-10・12・21・26・29・32）ある。しかし、その中で塞ノ神式土器の年代として大きく外れないのはSI-10（ $7770 \pm 50$ BP）だけで、他の5基の集石遺構は $8750 \pm 50$ BP ～  $8410 \pm 50$ BPの年代が得られており、燃糸文の塞ノ神式土器との年代観と大きくズレがある。このような時間的なズレは本調査区の遺物包含層中に多く含まれていた塞ノ神式土器が、何らかの要因でその時期に該当しない集石遺構に混入してしまったという結果であろう。

また集石遺構から出土する土器は複数の土器形式が混じっているケースも多く見られており、本調査区においては5基（SI-1・11・13・23・31）存在する。このような集石遺構の遺物の出土状況や分析結果からは集石遺構の時期決定を単純に出土遺物から考察することには問題があると考えられるだろう。集石遺構の出土遺物については確実にその遺構に伴っているような出土状況（礫がぎっしりと詰まった集石遺構の上部礫に挟まれてある程度大きさの土器の破片が出土するような状況や、底石の中に挟まった状態である程度大きさの土器の破片が出土するような状況等）が確認されたものでなければ時期決定に出土遺物を使用できないであろう。

### 土器埋設遺構と環状遺棄遺構について

本調査区の遺物包含層からは塞ノ神式土器が非常に多く出土しており、調査区の制限のために全体像がはっきりしないものの鹿兒島県上野原遺跡のような遺物の環状遺棄遺構の可能性があると報告した。塞ノ神式土器片の接合状況を見ても多くの接合資料が確認されるとともに、調査区の北西部から出土したものが南東部から出土したものと接合するというような状況も見受けられることから、比較的短期間に廃棄された土器片が多い可能性が考えられる。また前述のとおり、土器埋設遺構や石器の埋納遺構の検出と共に耳栓や異形石器などの精神性に関わる遺物が出土している点からも遺物包含層から出土した塞ノ神式土器やそれと時期を同じくする資料についてはやはり遺物の環状遺棄遺構の検出事例と考えてよいだろう。

土器埋設遺構の検出事例は近年、県内でも散見されるようになったが、共通する特徴としては地形的に高い所から検出される点、遺物の集中する地点からは外れて検出される点、土器の出土状況には土器が立っているように出土するものと口縁部を下にして土器が逆立ちしているように出土するものと両方のケースがあるという点、塞ノ神式土器の検出事例が多い点などが挙げられる。

県内では今のところ遺物包含層から出土した遺物を環状遺棄遺構として報告した事例はないようであるが、土器埋設遺構が検出された場合にはそれぞれと時期を同じくする資料に注目して本遺跡のような遺物の出土状況を呈する可能性を考えて調査及び整理作業に当たる必要がある。この環状遺棄遺構は設定された調査区が狭い場合は、そのような意識を持たなければ見過ごしてしまう可能性が高いものである。

塞ノ神式土器が主体となる環状遺棄遺構と平面分布の重なる集石遺構の多くが同時期に存在しない可能性が高いことは前述したが、環状遺棄遺構が短い期間に形成されたもので集石遺構をあまり伴わない空間利用であったならば、本調査区の縄文早期における空間利用は検出された遺構から穴→集石遺構→環状遺棄遺構という流れで使用されたということが出来る。また本調査区からは塞ノ神式土器に後出すると考えられている条痕文土器が1点も出土しておらず、縄文早期前葉から継続して使用し続けたこの場所の利用を環状遺棄遺構が形成された後の早期末葉にはやめてしまったものということが出来る。

### 縄文時代早期の姫島産黒曜石製の石器について

本調査区の縄文早期の調査成果の特徴の一つとして姫島産黒曜石製の石器が多いということがあげられる。前述のとおり姫島産黒曜石製の石器は石鏃では63.3% (190点)、剥片類の中でも39.5% (重量比) を占めており、本調査区の剥片石器において最も多く利用された石材である。一方、包含層出土土器に目を向けると本調査区からは塞ノ神式土器が90%以上を占めている。このことから包含層中の塞ノ神式土器と姫島産黒曜石製の石器には相関関係があるように考察される。しかし、同じ台地上に立地する清武上猪ノ原遺跡第1・2地区の包含層中から最も多く出土している土器は摺糸文系の塞ノ神式土器であるが、姫島産黒曜石製の石器の出土量は少ない。また下猪ノ原遺跡第一地区においても同じような状況がみとれる。このことから姫島産黒曜石製の石器と摺糸文系の塞ノ神式土器との間に相関関係はなく、本調査区で多量に出土している貝殻文系の塞ノ神式土器との間に相関関係が見られるという仮説を立てることができる。貝殻文系の塞ノ神式土器が多く出土した滑川第2遺跡でもやはり姫島産黒曜石製の石器が多く出土しており、この仮説の補強材料となる調査成果が得られている。

次に包含層から出土した打製石鏃に目を向けると姫島産黒曜石を使用するものは本調査区の石鏃9類が最も多い。滑川第2遺跡でも同様の石鏃が出土しており、やはり姫島産黒曜石が多く使用されている。滑川第2遺跡と本調査区における包含層中の土器の出土状況の違いをみると滑川第2遺跡で多く出土した早期末に該当すると考えられている条痕文土器が本調査区では1点も出土していないということが挙げられる。そこで滑川第2遺跡でも最も多く出土した姫島産黒曜石製の石鏃に目を向けると口縁部を鋭角状にしている石鏃 (滑川第2遺跡の石鏃IX型) が本調査区ではほとんど出土していないという点が相違点である。このことから滑川第2遺跡の石鏃IX型は主に条痕文土器に伴うものであり、本調査区の石鏃9類は貝殻文系の塞ノ神式土器に伴うものであるという仮説が立てられる。

船引地区遺跡群における姫島産黒曜石の使用については貝殻文系の塞ノ神式土器の頃に活発化し、条痕文土器の時期にも同じ様に使用されていたと考えることができるだろう。

## 調査抄録

フリガナ	シモイノハルイセキ				
書名	下猪ノ原遺跡第二地区				
副書名	県営農免農道整備事業にかかる埋蔵文化財調査報告書				
巻次	第1集				
シリーズ名	宮崎市埋蔵文化財調査報告書				
シリーズ番号	第83集				
編集者名	秋成雅博				
発行機関	宮崎市教育委員会				
所在地	宮崎県宮崎市橋通東1丁目14番地20号 TEL (0985)25-2111				
発行年月日	2011年3月				
所在遺跡名	所在地	市町村：遺跡番号	北緯	東経	調査期間
下猪ノ原遺跡 (第二地区)	宮崎市 清武町船引字 下猪ノ原	宮崎市清武町 ：204	31° 52' 05" (日本測地形)	131° 22' 22" (日本測地形)	2004. 4.26 ~ 2005. 2.17
調査面積	調査原因	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
1200㎡	農業関連	集落	旧石器 縄文(早期) 弥生 古代 近世	礫群 埋設土器 集石遺構 陥し穴 竪穴住居 溝 など	石器 縄文土器 弥生土器 など
特記事項					
旧石器時代の土坑及び縄文時代早期の土器埋設遺構・石器埋納遺構・環状遺棄遺構の検出事例					



---

宮崎市埋蔵文化財調査報告書第83集

## 下猪ノ原遺跡第二地区

県営農地保全整備事業船引工区にかかる埋蔵文化財調査報告書

発行年月日 平成23年3月31日  
編集発行 宮崎市教育委員会

印刷 合資会社 愛文社印刷所  
〒880-0852 宮崎県宮崎市高洲町222番地  
TEL 0985-28-8111 FAX 0985-24-3856

---